

(4)_(京都ノートルダム女子大学)_変更後のシラバス

講義コード CSA3400N1J
 科目名 情報科学A
 ND6 DP4：思考・解決力
 授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 吉田 智子（よしだ ともこ）

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3年次、4年次

開講学期 前期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきた。本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 情報のデジタル化によるデータ表現について学ぶ
2. コンピュータの内部でのしくみについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がついていない	情報のデジタル化とその仕組みを理解し、内部構造を理解できる	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしていない	プログラムを動かすための言語があることを理解する	簡単なプログラミングができる	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする	レベル 3に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える	レベル 3に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

③④授業計画

第 1 回目

授業の概要紹介、情報とデータ アナログとデジタル、コンピュータの種類

第 2 回目

コンピュータ内部での情報の表現(1) コンピュータと 2 進数、複数組の 2 値状態

第 3 回目

コンピュータ内部での情報の表現(2) 2 進数と 1 0 進数、変換する方法

第 4 回目

コンピュータ内部での情報の表現(3) コンピュータ内部での文字の扱い、文字コード

第 5 回目

コンピュータ内部での情報の表現(4) コンピュータ画像の仕組み、RGB 値

第 6 回目

「コンピュータ内部での情報表現」のまとめ 小テスト 1 回目と解説

第 7 回目

コンピュータの仕組み(1) littleBits を用いてコンピュータの論理回路の基礎を学ぶ

第 8 回目

コンピュータの仕組み(2) littleBits を用いて足し算する回路をグループで制作する

第 9 回目

コンピュータの仕組み(3) プログラミング言語を通してコンピュータの動作を学ぶ

第 10 回目

「コンピュータの仕組み」のまとめ 小テスト 2 回目と解説

第 11 回目

情報モラルと情報セキュリティ(1) ネット上の情報の信頼性と信憑性について

第 12 回目

情報モラルと情報セキュリティ(2) 知的財産権の保護、著作権や工業所有権について

第 13 回目

情報モラルと情報セキュリティ(3) 情報を守るセキュリティの仕組み (ファイアウォール、暗号化、SSL など)

第 14 回目

「情報モラルと情報セキュリティ」のまとめ 小テスト 3 回目と解説

第 15 回目

全体のまとめ、自己評価 これまでの授業の振り返りと自己評価

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

manaba を用いて各回の講義内容、教材を配信する予定である。また、respon を用いて講義ごとに振り返りを行い、授業内でフィードバックを行う。小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとよい。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業で扱う内容に関連するテキスト記述を、事前に読んでくる。さらに、テキストにある練習問題を宿題とした場合は、宿題をやってくる。また、参考文献は図書館の指定図書のコーナーに配架している。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

30 点満点の小テストを 3 回実施し、それに 10 点分の授業への参加度、毎回の respon へのコメントや自己評価を加算し、100 点満点で評価を行う。3 回の小テストで合計点が 60 点に満たない場合は、追試験を実施する。

留意事項 (Other Information)

特になし

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『情報の表現とコンピュータの仕組み(第 5 版)』/ムイスリ出版/2014/978-4896412307/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『ルビィのぼうけん こんにちは! プログラミング』/リンダ・リウカス/翔泳社/2016/978-4798143491

『ルビィのぼうけん コンピューターの国のルビィ』/リンダ・リウカス/翔泳社/2017/978-4798138770

『なるほどわかった コンピューターとプログラミング』/ロージー・ディキンズ/ひさかたチャイルド/2017/978-4865490886

『コンピュータを使わない情報処理、アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進 監訳/イーテキスト研究所/2007/978-4904013007

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CHS3400N0J
科目名	情報科学B
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月 紀輔（こうづき のりすけ）
科目区分	現代人間学部 > 現代人間学部共通科目
学年	3年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・5限

①科目の教育目標（Course Description）

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきた。本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. コンピュータの構造について学ぶ
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がついていない	情報のデジタル化についてその仕組みを理解し、内部構造を理解できる。	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしなない。	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる。
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル 4 に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う。	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える。	レベル 4 に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

③④授業計画

第 1 回目

授業の概要紹介

第2回目

情報理論とデジタル・アナログ

第3回目

ハードウェアとソフトウェア

第4回目

コンピュータの仕組みと OS

第5回目

コンピュータの誕生とその背景

第6回目

コンピュータの発展 小テスト 1 回目と解説

第7回目

情報のデジタル化 数・文字

第8回目

情報のデジタル化 音声・画像

第9回目

問題解決とアルゴリズム

第10回目

プログラミング 小テスト 2 回目と解説

第11回目

情報の信頼性と信憑性

第12回目

知的財産権の保護

第13回目

情報を守るセキュリティの仕組み

第14回目

情報モラルの考え方 小テスト 3 回目と解説

第15回目

全体のまとめ、自己評価

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

この講義は、全講義をオンライン学習によって行う。

manaba コースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。

講義の流れ

- 1 manaba コースのコースニュースに予定を配信する
- 2 授業時間開始時に、manaba コースのコンテンツに教材を配信する。
- 3 コンテンツの指示に従って学習を進める
- 4 respon で毎回のコメントを提出し、自分の理解度を把握しておく
- 5 1に戻る
- 6 月に1回のペースで小テストを行い、自分で学習の進捗を確かめる

respon を用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・感想などの記入を求め、授業内でフィードバックを行う。

小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとうい。

コンテンツの資料は全講義が終了するまで、復習や抜けた講義のために、いつでも閲覧できるようにしておく。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

これまでの GPA による準備学習方法

(下記の GPA はあくまでも参考で、自分のレベルにあった準備をしてください)

GPA < 1.5 の場合 情報演習 I の内容を復習しておいてください

GPA が 1.5 から 3 までの場合 上記に加えて、身の回りにある情報機器に興味を持ってください。

GPA > 3.0 の場合 上記に加えて、高等学校での教科情報の復習を行い、身近なデジタル技術について情報を収集しておいてください。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

30 点満点の小テストを 3 回実施し、授業への参加度 (ディスカッションを含む)・毎回の respon への授業コメントおよび自己評価を加えた 10 点を加算し 100 点満点で評価を行う。

3 回的小テストで合計点が 60 点に満たない場合は、補講期間に追試を実施する。

留意事項 (Other Information)

オンラインによる学習のため、動画をみたり、respon の提出ができるように、PC やスマホの準備をしておく。

質問は manaba コースのスレッドで受け付ける。

初回に受講の仕方を説明する。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

配布資料を中心に解説するので教科書は指定しない。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『情報とコンピューティング』/河村一樹/オーム社/2011/9.78427421086E12

『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進/イーテキスト研究所
/2007/9.784904013007E12

『アルゴリズムの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2003/9.784798104522E12

『パソコンの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2010/9.784798122526E12

『OS の仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2011/9.784798124629E12

上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。

また、これらの参考文献以外にも講義時に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL1400A0J～GBL1400H0J・GBL1400J0J・GBL1400K0J
科目名	情報演習ⅠA～H・J・K
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	必修 クラス指定
曜日時限	月曜・5限

①科目の教育目標（Course Description）

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のための E-Mail の利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフト	表計算ソフトを使	授業で扱う例題どおり	例題で紹介された操作	データの分析と考察のために必要

トの操作	った文書を作成できない	の表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	を応用させて、基本的な文書(基本的な関数、グラフの利用も含)を作成することができる	となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書(アニメーションの設定も含)を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Web による情報収集と蔵書検索システムの利用	Web による情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Web による情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Web による情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

③④授業計画

第1回目

ガイダンス ガイダンス、入力的基础、印刷の管理、manaba について

第2回目

大学のコンピュータ環境の利用 E-Mail の利用、ファイル管理、基本的な情報検索【課題1：タイピング課題】

第3回目

大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用 本学の図書館の活用(OPAC の利用・文献探索・データベース活用方法など)

第4回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(1) 基本的な文書を作成する方法

第5回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(2) 効果的に表を作成する方法【課題2：Word 文書】

第6回目

表計算ソフトの基本操作(1) 基本操作、数式の入力、表の作成方法

第7回目

表計算ソフトの基本操作(2) 基本的な関数、グラフ作成

第8回目

表計算ソフトの基本操作(3) データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題3：Excel 文書】

第9回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(1) レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など

第10回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 課題の説明など

第11回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(3) プレゼンテーション課題の制作【課題4：PowerPoint 文書】

第12回目

日本語文書作成ソフトの応用操作(1) 画像や図形などを使った表現力をアップする機能

第13回目

日本語文書作成ソフトの応用操作(2) レポートや論文の作成に役立つ機能など

第14回目

日本語文書作成ソフトの総復習 タイピングと総復習【課題5：タイピング課題】

第 15 回目

実技確認テストとまとめ 実技確認テスト【Word 文書作成】の実施、終了後に講評
定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

情報演習室において実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと（テーマは事前に授業内で提示する）。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・授業態度 (実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

第 3 回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P 検 (ICT プロフィシエンシー検定) の 3 級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の 2 科目以上 (Word ともう 1 科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して 3 年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない)。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
なし。資料は PDF で提供されるので、各自で印刷して授業に持参すること (印刷方法は授業の中で指示します)。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016 対応)』/FOM/FOM 出版/2016/978-4-86510-347-2

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2400A0J～GBL2400C0J
科目名	情報演習Ⅱ A～C
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	定員 35 人 「情報演習Ⅱ」を履修していることが望ましい
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされる IT 応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト（Microsoft Office2016 製品）の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力を養い、資格取得のための一助とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

以下の操作の応用スキル（研究活動、社会人として活用できるレベル）を習得する。

- ・日本語文書ソフト ・表計算ソフト（表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析）
- ・プレゼンテーションソフト ・ソフトとソフト間の相互利用

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2016 で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2016 で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPoint で実現可能な文書が自由自在に作成できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス、表計算ソフトの基本操作(1) 表の作成や編集、基本的な関数

第 2 回目

日本語文書作成ソフトの応用操作 レポートや論文作成に役立つ機能

第 3 回目

日本語文書作成ソフト総復習と MOS の紹介 総復習と Microsoft Office Specialist【MOS】Word 2016 の概要と模擬試験の紹介【課題 1：Word 文書】

第4回目

プレゼンテーションソフトの応用操作 役立つ機能などの応用的な使い方<1>

第5回目

プレゼンテーションソフトの総復習 役立つ機能などの応用的な使い方<2>【課題2：PowerPoint 文書】

第6回目

表計算ソフトの基本操作(2) 表の作成や編集、基本的な関数、印刷設定など

第7回目

表計算ソフトの応用操作(1) 表の編集、グラフ作成など

第8回目

表計算ソフトの応用操作(2) 関数<1>、データベースの操作など

第9回目

表計算ソフトの応用操作(3) 関数<2>、条件付き書式、ユーザー定義の表示形式など

第10回目

表計算ソフトの応用操作(4) 複数シート操作、データベースの操作、データベースの活用、これまでの復習

第11回目

表計算ソフトの応用操作(5) 複合グラフ作成、Word と Excel の連携など【課題3：Excel 文書】

第12回目

表計算ソフトを利用したデータ分析(1) データサイエンスの活用<1> 統計の基礎、分析、活用方法とは

第13回目

表計算ソフトを利用したデータ分析(2) データサイエンスの活用<2> 総合演習【課題4：Excel 文書】

第14回目

表計算ソフトの総復習と MOS の紹介 総復習と Microsoft Office Specialist【MOS】Excel 2016 の概要と模擬試験の紹介など

第15回目

実技確認テストとまとめ 実技確認テストの実施、終了後に講評

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

パソコン演習室において実習を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストやセンターモニターに表示された資料を通じて理解する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

準備学習の具体的な方法として、復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施する「実技確認テスト」を必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を必ず行うこと（テーマは事前に授業内で提示する）。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・授業態度(実習データの提出、授業への取り組み姿勢を含む) (40%)、提出課題 (20%)、実技確認テスト (40%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

MOS (Microsoft Office Specialist) の3科目以上 (Word/Excel/PowerPoint/Access のうちの3科目以上) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない）。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

授業内で、「情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10・Office 2016 対応)」（定価：本体 1800 円）を購入価格：1500 円程度で販売する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2450A0J・GBL2450B0J
科目名	情報処理A・B
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤 泰子（いとう やすこ）
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	定員 26 人
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールと Web ページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしいが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Web ページの制作では、HTML タグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・大学で利用するパソコンの OS（Windows と Linux）
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・Web ページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つ Web サーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング実習（体験）
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性
- ・HTML と CSS による Web ページ制作実習

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス

第 2 回目

コンピュータの基礎知識

第 3 回目

インターネット上の機能（電子メール、Web ページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解

第 4 回目

ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解

OS（Windows と Unix 系 OS）の理解、起動と切り替え

第 5 回目

画像ファイルを含むバイナリデータ、テキストデータのファイル形式と役割

第 6 回目

Web ページを利用した情報検索、批判的閲覧

第 7 回目

HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性

第 8 回目

Web ページ制作実習(1) HTML 基本

第 9 回目

Web ページ制作実習(2) HTML 応用

第 10 回目

Web ページ制作実習(3) CSS 基本

第 11 回目

Web ページ制作実習(4) CSS 応用

第 12 回目

プログラミング実習

第 13 回目

Web ページ課題作成(1) サイト企画

第 14 回目

Web ページ課題作成(2) コンテンツ、デザイン作成

第 15 回目

ファイル転送による Web ページの学内公開、まとめテスト、解答・解説

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、レポート・課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

本科目を履修するにあたっては、「情報演習 I」を履修済みか、その内容をすでに習得していること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子 他著/北大路書房/2014//学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

<http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html>

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード GBL2450C0J

科目名 情報処理 C

ND6 DP4 : 思考・解決力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 吉田 智子 (よしだ ともこ)

科目区分 共通教育科目

学年 2 年次

開講学期

前期

⑤単位

2

備考

定員 26 人

曜日時限

金曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールと web ページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義・演習に加えて実習も行い、web ページ制作などを通じて情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ・大学で利用するパソコンの OS (Windows と Linux)
- ・インターネットの機能としくみ
- ・電子メールのコミュニケーション特性
- ・web ページを利用した情報検索
- ・情報発信の役割を持つ web サーバーや全文検索システムのしくみの理解
- ・プログラミング入門
- ・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
- ・HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムの OS の名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシーに興味がない	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみの理解が必要などを知っている	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人にも説明できる
Web ページによる情報発信の方法と可能性の理解	Web ページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりの Web ページであれば HTML を記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容の Web ページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名の Web ページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス、コンピュータの基礎知識、コンピュータの五大要素（入力、制御、演算、記憶、出力）」と OS について

第 2 回目

インターネット上の機能（電子メール、web ページなど）の理解と利用、電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解

第 3 回目

web ページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解(1)

第 4 回目

web ページを利用した情報検索、批判的閲覧、インターネットのしくみの理解(2)

第 5 回目

OS の理解 (Windows および Linux)、ディレクトリ (フォルダ) の階層構造の理解、web サーバーを使った web ページの学内公開に関する知識

第 6 回目

プログラミング入門(1) ～逐次処理～

第 7 回目

プログラミング入門(2)～条件分岐～

第 8 回目

プログラミング入門(3)～繰り返し処理～

第 9 回目

プログラミング入門(4)～プログラミングの活用～

第 10 回目

HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性 (HTML 文書とタグについて)

第 11 回目

web ページ制作実習(1) ～HTML で文書構造を指定～

第 12 回目

web ページ制作実習(2) ～HTML で画像を表現～

第 13 回目

web ページ制作実習(3)～CSS でデザインと色を指定～

第 14 回目

ファイル転送による web ページの学内公開

第 15 回目

筆記によるまとめテストの実施と総括 (解答例や講評は manaba にて公開)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義・演習と実習を交えながら授業を行なう。適宜、レポート課題も課す。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加 (30%)、レポート・課題 (20%)、まとめテスト (50%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『改訂新版 インターネット講座』/吉田智子、他著/北大路書房/2014/978476282830/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GEN1451A0J・GEN1451B0J
科目名	情報科学入門A・B
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	定員 26 人
曜日時限	金曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

この授業では我々が毎日使うコンピュータ（PC、スマホ、タブレットなど）の基盤になっている情報科学の理論や原理の第一歩を、コンピュータの部品（LED、スイッチ、マイコン等）を使った実験を通して具体的に学ぶことを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. コンピュータの入出力の理解
2. コンピュータの内部でのデータの表現方法の理解
3. littleBits などを使った実験によるコンピュータの仕組みの理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータの入出力の理解	コンピュータが日常生活で利用されていることを知らない	コンピュータの一つがスマホや PC であることは知っている	コンピュータはすべて入力、処理、出力で構成されていることを理解している	各種のコンピュータの入力、処理、出力に興味を持っている
コンピュータの内部でのデータの表現方法の理解	コンピュータの内部でのデータの表現方法を知らない	コンピュータの内部のデータが、二進数で扱われることは知っている	コンピュータの内部のデータ（数値、文字、画像など）のそれぞれの表現方法を理解している	コンピュータの内部のデータの表現方法に関して、興味を持っている
コンピュータの仕組みの理解	コンピュータのハードウェアとソフトウェアの概念を知らない	コンピュータがハードウェアとソフトウェアから構成されていることは知っている	コンピュータがハードウェアとソフトウェアから構成され、下位がビットと電気信号、上位がアプリケーションであるという階層構造を理解している	ハードウェアとソフトウェアから構成されるコンピュータの仕組みに、興味を持っている

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス コンピュータの種類、コンピュータを構成するハードウェアとソフトウェアの概念、ビット（LED の点灯実験）

第 2 回目

コンピュータと日常生活 コンピュータの発明、コンピュータの小型化、入力情報と処理内容、コンピュータの種類、ビットと電気信号（LED の点灯実験）

第 3 回目

コンピュータのデータ表現(1)コンピュータでの数値の表現、コンピュータと 2 進数、ビットとバイト（LED の装飾）

第 4 回目

コンピュータのデータ表現(2)2 進数での 2 値表現、複数の LED を使った数値データの表現、2 進数と 10 進数の変換

第 5 回目

コンピュータのデータ表現(3) コンピュータでの文字の表現、文字コードとは、ASCII コードとは、LED の on/off で文字データを送信しよう

第 6 回目

コンピュータのデータ表現(4) マイコンを利用して on/off が制御されている LED からの ASCII コードの読み取り、バリ

ティビットとパリティ検査

第7回目

コンピュータのデータ表現(4) コンピュータの画像の表現、画像の2値化、画像データのサイズ、色の表現 (RGB 値)、フルカラーLED 実験

第8回目

コンピュータの仕組み(1) コンピュータ内部の階層構造 ～最下位が「ビットと電気信号」、最上位がアプリケーション～、littleBits の実験で学ぶ入出力

第9回目

コンピュータの仕組み(2) 論理回路入門、littleBits の実験で学ぶ論理回路

第10回目

コンピュータの仕組み(3) 加算回路入門、littleBits の実験で学ぶ加算回路 (半加算回路)

第11回目

コンピュータの仕組み(4) コンピュータの動作 (5大装置、プログラム内蔵方式、CPU)

第12回目

コンピュータの仕組み(5) コンピュータの記憶装置、入出力装置

第13回目

インタラクティブ作品制作(1) littleBits などを用いてインタラクティブ作品を制作。工作や手芸材料も利用することで、技術とアートの融合した作品に仕上げる。

第14回目

インタラクティブ作品制作(2) インタラクティブ作品の発表としくみの議論

第15回目

まとめ まとめテストの実施と解説 (テストの終了後に講評をすると同時に、manaba に解答例を公開)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義に加えて演習としての実験も取り入れて学習する。コンピュータのしくみを、コンピュータの部品などを使った実験を通して学ぶ。この実験を通して、なぜコンピュータがプログラム通りの動作しかできないのかについても理解する。実習として、かわいくした LED の光らせ方で文字を送信したり、littleBits という「電子回路を磁石でつないで確認できるキット」を使った実習などの各種の実験を通して情報科学の基礎を学ぶ。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業で扱う内容に関連するテキスト記述を、事前に読んでくる。特に、実験をする場合はテキストを読むことで、実験の意義が理解できる。また、授業で実施した実験内容を記録として書き込んでおくことで、次回の授業の準備学習となる。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、提出課題 (20%)、テスト (50%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

毎回の授業が継続した実習や演習になっているので、欠席すると授業が理解できなくなる可能性がある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『情報の表現とコンピュータの仕組み[第5版]』/青木征男/ムイスリ/2014/9784896412307/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『ルビィのぼうけん[コンピューターの国のルビィ]』/リンダ・リウカス/翔泳社/2017/

『ルビィのぼうけん[こんにちば! プログラミング]』/リンダ・リウカス/ 翔泳社/2016/

『littleBits ではじめる電子工作』/田中正吾/ 工学社/2016/

『ティンカリングをはじめよう～アート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ～』/Karen Wilkinson 他/オライリー・ジャパン/2015/

『コンピュータを使わない情報教育 アンブラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進 監訳/イーテキスト研究所/2007/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDC3400N1J
科目名	情報教育
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月 紀輔（こうづき のりすけ）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
学年	3年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・4限

①科目の教育目標（Course Description）

情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し、今後の生活に役立てるとともに、地域で指導できる人材の育成を目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

情報活用能力の3つの構成要素、

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的理解
- ・情報社会に参画する態度の育成

に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	情報教育の目標を理解できない	情報活用能力を理解している	各観点における、教育や問題点を理解している	各教科や保育での除法教育の在り方が完全に理解でき、人に教えることができる。
言語力	情報教育における用語を理解できない	情報教育に関する用語を理解できる	情報教育に関する外国語の用語の意味を理解できる	ディスカッションで、用語を確実に使うことができ、英語などを用いて自分の考えを話すことができる
思考・解決力	様々な情報を問題解決に活用しない	情報を活用した、問題解決を考えることができる	なぜその情報はそこにあるのか熟考し、活用を考えることができる。	子供の実態に応じた、情報の活用を考えることができ、発達年齢に配慮しながら、情報活用の力をつけようとする
共生・協働する力	自分の考えでのみ動いてしまう	人と話し合い、問題を解決しようとする	教員で話し合い、チームとして子供の指導に当たることができる	Web やネットの特性も理解したうえで、遠隔会議や e-Learning にも積極的に参加し、他者と協働して成果を上げようとする
創造・発信力	情報教育の目標に合う授業を考えることができない	情報活用の実践力を育てる授業を創造できる	情報活用能力全般を育てる授業を常に意識して考えることができる。	自らの授業内容を学級通信などを通して、正確に保護者にも伝えることができる

③④授業計画

第1回目

講義オリエンテーション

第2回目

情報教育の目標および情報活用能力について

第3回目

情報教育の重要性と課題

第4回目

情報活用の実践力の現状と課題

第5回目

情報活用の実践力を育む教材

第6回目

学校現場における情報活用の実践力

第7回目

子供たちが情報活用能力を養うためのポイント

第8回目

小学校におけるプログラミング教育

第9回目

プログラミング教育の実践演習

第10回目

情報社会に参画する態度

第11回目

スマートフォンとゲーム依存およびソーシャルメディアによる問題点

第12回目

行政サイドから見た問題点（外部講師）

第13回目

これからの高度情報化社会

第14回目

理想の情報活用能力とは

第15回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

講義による解説と受講者の小グループによるディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。また、e-learningを行うことがある。内容は、小学校・幼稚園での情報教育の方法について考えることになる。

課題に関しては、授業中に相互評価を行ったうえで、教員からコメントを述べる形でフィードバックを行う。また、個別にオフィスアワーなどで質問等を受け、指導する。

毎回の講義に関しては、responを使用したコメントを収集し、その内容に関しては次の講義で紹介をし、質問項目などは全体場でフィードバックを行う。

プログラミング教育実践演習では、タブレットを用いたプログラミングの体験を基に小学生への指導方法をディスカッションで考え、教員の助言も参考に授業の組み立てができるようにする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

前回までの復習をしておくこと。

学習指導要領や教育要領をよくみておくこと。

自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。

グループでの活動に積極的に参加すること

GPA による個別学習方法（ここでの GPA はあくまでも目安です）

GPA<1.5 の場合

「教育の方法と技術」の復習を確実にしておくこと

※上記科目未履修の場合は、新しい学習指導要領をみておく。

GPA が 1.5 から 3 の場合

上記に加えて、最近の情報教育に関する情報を Web 等で確認しておく

GPA>3.0 の場合

上記に加えて、情報機器の活用および小学校プログラミング教育の現状把握を文献や Web で行っておく

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加意欲・態度 (30%)

課題やレポートに対する自己評価・相互評価 (40%)

期末レポート (30%)

留意事項 (Other Information)

この授業は教員（幼稚園も含む）を志望する学生向けの実践的科目として設定しており，教員志望者以外は，その旨理解して参加することが必要である。教員志望者以外への配慮は特別に行わないので注意すること。

教育実践について小グループによるディスカッションを行うので，講義に主体的に参加することが重要である。

外部講師を招いての授業の可能性もある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607

『高等学校学習指導要領解説情報編』/文部科学省/開隆館出版販売/2010/9.784304041655E12

参考 URL(URL for Reference)

文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫ 教員として公立学校に勤務経験あり

講義コード	EGF1100A0J～EGF1100G0J
科目名	英語英文学基礎演習ⅠA～G
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山 哲春（こやま てつはる）、大川 淳（おおかわ じゅん）、杉村 美奈（すぎむら みな）、木島 菜菜子（このしま ななこ）、東郷 多津（とうごう たづ）
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。これまでとは違う大学というシステムの中で4年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 大学における学びの仕組み（単位の取得やカリキュラム）を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。
2. 大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法（授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術）を習得する。
3. 英語英文学科の4年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。
4. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
大学レベルの学び（＝学術的認識論に基づく世界理解）の基礎能力	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について理解ができていない。	主観に頼らない、客観的な世界認識の方法とその重要性について、大凡の理解ができています。	大学レベルの学び（＝学術的認識論に基づく世界理解方法の習得）について大凡の理解はできているが、これを実践する段階には至っていない。	大学レベルの学び（＝学術的認識論に基づく世界理解方法の習得）について正しく理解し、これを実践する準備ができています。
先行文献の収集と批評的分析を行う力	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができない。	社会的・学術的な課題や自らの研究目的に合致した文献・資料を収集することができる。	収集した文献・資料を正しく読み、その内容について文章で正しく報告することができる。	収集した文献・資料を批判的に分析し、その貢献・問題点などについて文章で報告することができる。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境 / 個別セッション

第2回目

ノートの取り方

第3回目

情報の調べ方／図書館オリエンテーション

第4回目

個別セッション（情報収集に基づいたディスカッション）

第5回目

書くことの重要性／レポートや論文を書く／剽窃

第6回目

個別セッション (Report 1 の Peer Review)

第 7 回目

クリティカルシンキング／議論の立て方

第 8 回目

個別セッション (Report 2 の Peer Review と演習)

第 9 回目

議論の立て方 revisited / Supporting Materials

第 10 回目

CA Final 返却 + コメント /

書くことの重要性／レポートや論文を書く／剽窃 revisited

第 11 回目

個別セッション (Final Paper Draft の Peer Review と演習)

第 12 回目

個別セッション (Final Paper Revision の Peer Review と演習)

第 13 回目

Oral Presentation 1 (第 1 日 : 学籍番号順 前半グループ)

第 14 回目

Oral Presentation 2 (第 2 日 : 学籍番号順 中盤グループ)

第 15 回目

Oral Presentation 3 (第 3 日 : 学籍番号順 後半グループ)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

全体講義および演習と個別セッションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

留意事項 (Other Information)

クラス指定

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSB1600P0J～CSB1600T0J・CSB1600W0J
科目名	基礎演習 I P～T・W
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	平野 美保 (ひらの みほ)、石川 裕之 (いしかわ ひろゆき)、鎌田 均 (かまだ ひとし)、堀 勝博 (ほり かつひろ)、岩崎 れい (いわさき れい)、久野 将健 (くの まさたけ)
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修 クラス指定
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

大学の授業をどのように受ければよいのか、4 年間の大学生活でどんなことができるのか、卒業までにしておいたほうがよいことは何か、国際日本文化学科で何を学ぶのかなど、新入生にとって必要な心構えを身につけることをねらいとする。相互にささえあう友人を作ること、担任教員との人間関係を築くこと、学習フィールドとしての京都に親しむことも、この科目の大きな目標の一つである。また、学科として、卒業後の自分を見据え、社会の即戦力となるために必要なさまざまな資格に挑むことも推奨している。この科目によって4年間の過ごし方および卒業後の進路について、およその見通しが持てるようになることが望ましい。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 大学で何をどう学ぶかについて考える
2. 国際日本文化学科でどんなことが学べるかを理解する
3. 卒業後の進路について考え、そのために必要なさまざまな資格や課外活動に挑戦する
4. 学生どうし、また学生・教員間の人間関係を築く
5. 関心領域の本を計画的に読む

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
文章読解力	文献の内容が理解できない。	文献の内容をおおいた理解できる。	批判的視点で文献を読むことができる。	文献の内容について討論できる。
情報探索力	文献探索ができない。	簡単な探索方法を身につけている。	複数の探索方法を身につけ、使い分けることができる。	適切な探索方法を使って、必要な情報を的確に見つけることができる。
基礎学力向上に取り組む力	授業以外の時間に学習しない。	宿題を必ずする。	適切な方法を選んで、自分の得手不得手を認識して、主体的に学ぶ。	検定試験などを活用して、苦手な分野を降伏し、得意な分野を向上させる。

③④授業計画

第 1 回目

一斉授業と個別クラス オリエンテーション、学内ツアー

第 2 回目

一斉授業 キャリアチャレンジプログラムの説明など

第 3 回目

一斉授業と個別クラス 授業の受け方、ノートのとり方など

第 4 回目

一斉授業 (予定) 図書館活用・文献探索指導と演習 (実施回は変更の可能性はある)

第 5 回目

一斉授業と個別クラス 文献読解(1) 内容把握など

第 6 回目

個別クラス 個別面談 (実施回は変更の可能性はある)

第7回目

一斉授業と個別クラス 文献読解(2) 要約の方法など

第8回目

一斉授業 (予定) 日本語検定に向けての模擬試験 (予定)

第9回目

一斉授業と個別クラス レポートの書き方、文献読解

第10回目

個別クラス レポートの書き方、文献読解

第11回目

一斉授業 (予定) 招待講演Ⅰ (実施回は変更の可能性ある)

第12回目

個別クラス レポートの書き方 文献読解

第13回目

個別クラス レポートの書き方

第14回目

個別クラス レポート完成版提出

第15回目

個別クラス レポートの書き方(4) レポート返却、振り返り学習

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. カリキュラム、勉強法、情報検索法等について学ぶ
 2. 日本語の学習や読解の訓練を行う
 3. 座学だけでなく、調査発表等の方法も取り入れる
 4. 資格やボランティア活動にチャレンジするため、授業の中で系統的に指導を行う
 5. ノートのとり方やレポートの書き方について学ぶ
- ・manaba で提出されたレポートに対してコメントを本人に公開することでフィードバックとする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. テキストなど指示された資料をあらかじめ読んでおくこと
2. 指名された発表課題や役割分担については、積極的にかつ責任をもって取り組むこと

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

提出課題への取組の姿勢と成績、発表内容、小テストの結果 (70%)、学期末提出レポート (30%) によって評価する。
ただし、欠席5回以上で、単位取得は困難となる。

留意事項 (Other Information)

必要に応じてフィールドワークに出かけるため、交通費等の実費がかかることもある。

上記内容とあわせ、適宜日本語検定に関する指導も行う予定である。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

適宜配布するとともに、manaba などで閲覧できるようにする。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

適宜紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GCP3600N0J
科目名	キャリア形成
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	濱中 倫秀（はまなか りんしゅう）
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
学年	3年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	定員 40 人
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

間近に迫った就職活動・進路決定に向けて、キャリアを自ら切り拓くための実践的な知識を学ぶ。座学によるインプットだけではなく、グループ内での意見交換や発表の機会を通してアウトプット能力も身につける。さらにはロールモデルとして就職活動を終えた4年生の体験談も実施し、自身の未来について様々な選択肢と可能性を発見し、自己肯定感の向上に繋げる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・様々な業界や職種の基礎知識をゲストスピーカーの話を通して理解出来る。
- ・グループで共同して作業し、指示されたアウトプットをすることが出来る。
- ・先輩の就職活動体験談を聞き、自分に置き換えて行動目標を立てることが出来る。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

講義のオリエンテーション この講義の目標や進め方について

第2回目

自己分析① 自分に関する情報をシートを使って分類する／前半

第3回目

自己分析② 自分に関する情報をシートを使って分類する／後半

第4回目

自己分析③ グループワーク

第5回目

ロールモデルの研究 学生時代の取り組みを活かして内定した先輩に学ぶ・グループワーク

第6回目

ロールモデルの研究 インターンシップを活用して内定した先輩に学ぶ・グループワーク

第7回目

キャリアセンターの活用事例 キャリアセンターで受けられるサポート内容の紹介

第8回目

様々な業界と仕事 製造業界と具体的な仕事の特徴について紹介

第9回目

様々な業界と仕事 流通業界と具体的な仕事の特徴について紹介

第10回目

様々な業界と仕事 サービス業界と具体的な仕事の特徴について紹介

第 11 回目

自分に合った働き方を考える ワークライフバランスを中心とした企業研究とグループワーク

第 12 回目

自分に合った働き方を考える 顧客へのサービス構造を中心とした企業研究とグループワーク

第 13 回目

私の就職・進路決定戦略① 自らの目指す就職・進路の決定に向けての行動計画を考える

第 14 回目

私の就職・進路決定戦略② 自らの目指す就職・進路の決定に向けての行動計画を発表

第 15 回目

まとめ・講義内試験

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・グループワークを多く取り入れるので、積極的に発言・関与すること。
- ・グループで話し合った結果の発表の機会も講義内で設ける。
- ・ポストイットや A3 の用紙は教室に準備するのでグループワークの際に活用すること。
- ・レポートや講義内試験、ノートに関しては評価終了後全て返却する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・次の講義までの予習課題を、講義の終わりに毎回提示するので予習してくること。
- ・グループワークの妨げになるので、欠席・遅刻をしないこと

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業態度 30%

講義内試験 50%

レポート 20%

* 1 1 回 (3 分の 2) 以上の出席を持って評価対象とする。

* 欠席 6 回以上は不可。(遅刻は 2 回で欠席 1 回分とし、30 分以上の遅刻は欠席扱い)

留意事項 (Other Information)

参考図書及び講義用のノート「キャリアデザインノート」が必要になるので、各自購入し毎回持参すること。(初回の講義で説明)

補助資料やプリントは適宜配布する。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

中小企業での採用人事経験あり。

講義コード	GCP2600N0J
科目名	キャリア形成ゼミ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	須川 いずみ (すがわ いずみ)
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)
学年	2 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	定員 20 人 集中

①科目の教育目標 (Course Description)

社会で必要とされる力を「社会人基礎力」*1 と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が社会で活動するプロジェクトをゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。またこのプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。

*1 「社会人基礎力」とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素を2006年に経済産業省が定義づけしたものの。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- (1)各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。
 - (2)企画書を作成する力をつけること。
 - (3)グループでの協同力や、コミュニケーション力をつけること。
 - (4)企画を立案し、実行する力を身につけること。
- 企画を伝える力、プレゼンテーション力を身につけること。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
情報収集力	各ゼミの到達目標に対して、必要な情報を集められていない。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を、指示された通りに集めている。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を集め、時折共有している。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を能動的に集め、たびたび共有している。
企画力	目標達成に向けた策を自ら考えられてはいない。	目標達成に向けた提案を考えられている。指示した解決方法を選択できている。	目標達成に向けた策を提案している。新しい解決方法を時折考えられている。	目標達成に向けた複数の提案をし、最善の策を選択している。既存の発想にとらわれず、常に新しい解決方法を考えられている。
コミュニケーション力	意思疎通が困難。	意見を言い、他者の意見を聞き入れているときもある。教員が示すことで自分の役割を理解できている。	積極的に意見を言い、他者の意見を聞き入れている。時折チームで協力しようという意志が感じられる。	メンバーとしての役割を理解し、チームで協働しようという強い意志が感じられる。
実行力	指示されても課題に取り組まない。	指示があれば課題に取り組める。目標を明確にし、実行している。	自ら率先して課題に取り組んでいる。目標を明確にし、計画を立てて実行している。	自ら率先して課題に取り組む、他者を巻き込んで遂行できる。
プレゼンテーション力	伝えたい内容が相手に伝わらない。	伝えたい内容が伝わるよう工夫されている部分がある。	伝えたい内容が正しく伝わるよう効果的に工夫されている。	伝えたい内容が正しく伝わるよう論理的に構成され、効果的に工夫されている。

③④授業計画

第1回目

【5月実施予定の全体会】 オリエンテーション・第1回講義 (社会人の心構え、マナー研修、社会人としてのスキルの

調査、各ゼミの個別相談会)

第2回目

【各ゼミでの活動①】 各ゼミの目標などについて担当者と話し合う。各ゼミごとの「業界研究」などの活動始める

第3回目

【各ゼミでの活動②】 各ゼミで現場見学等を行う

第4回目

【各ゼミでの活動③】 現場実践等で情報収集を行う

第5回目

【各ゼミでの活動④】 企画のテーマ設定から企画立案(1) お互いの興味を知る

第6回目

【各ゼミでの活動⑤】 企画のテーマ設定から企画立案(2) テーマ設定から企画を考える

第7回目

【各ゼミでの活動⑥】 グループワーク(1) 企画に沿って、各ゼミの実際の活動を進める

第8回目

【各ゼミでの活動⑦】 グループワーク(2) 各ゼミで問題点をそれぞれ克服しながら、活動を進める

第9回目

【10月に実施予定の全体会 ～情報交換会～】 情報交換会(ゼミの活動内容と展望を明らかにし、今後の課題を見つける。他のゼミの取組の報告から所属ゼミに活かせることを見つける。プレゼン形式にはせず、グループワークを行う)

第10回目

【各ゼミでの活動⑧】 グループワーク(3) 企画の目的達成に向けて、各ゼミでの活動を進める

第11回目

【各ゼミでの活動⑨】 企画の実施(各ゼミで春からプランしてきた企画の集大成)

第12回目

【各ゼミでの活動⑩】 グループワーク(4) 内容確認会、成果発表会に向けて、プレゼンテーションの準備

第13回目

【12月に実施予定の全体会 ～内容確認会～】 内容確認会(全体での発表会。各ゼミの通年にわたる活動の成果を確認する。成果発表会に向けて、不足等ないか確認する。各ゼミの活動が単位認定(2単位)に相当するものかを確認する)

第14回目

【各ゼミでの活動⑪】 実施した企画に対する「振り返り(検証)」。さらに、その活動を「社会人基礎力・これからの就活」に結びつけるための議論

第15回目

【1月に実施の全体会 ～成果発表会～】 成果発表会と総括(各ゼミの1年間の活動とその成果を発表する。各ゼミの取組の内容・成果を伝える)

定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法(Course Methods)

- ・ゼミごとに取り込むべき課題を十分に認識し、情報収集、分析をして取り組むこと。
- ・実践演習は学外での活動が中心となるため、マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、事前指導から終了後の報告会まで積極的に参加すること。
- ・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。
- ・具体的なスケジュールはキャリアセンターの指示に従うこと。
- ・事前の指導から成果発表会まで必ず出席し、やむをえず欠席する場合は担当教員の指示に従うこと。
- ・「キャリア形成ゼミ」の活動については、授業支援システム(manaba)などを利用して報告書を作成し、提出すること。
- ・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

準備学習の具体的な方法(Class Preparation)

- ・各ゼミの目的などを理解する。
- ・自分が選んだゼミの活動内容を理解し、概要について下調べをしておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))

40

⑦評価方法・評価基準(Evaluation)

情報収集力(10%)、企画力(10%)、コミュニケーション力(10%)、実行力(10%)、プレゼンテーション力(10%)、各ゼミで設定した達成目標(40%)、最終回の全体会でのプレゼンテーションに対する評価(10%)を基本とする。

留意事項 (Other Information)

- ・2020 年度実施のゼミの種類としては、以下のものが予定されている。

旅行プランナーゼミ、ブライダル業界ゼミ、町づくりプランナーゼミ、ND タイムズ編集部、ワークショップデザインゼミ、小売店業績UPゼミなど

・それぞれのゼミの詳細については、新学期（4 月上旬）に実施される「キャリア形成ゼミの説明会」への出席、あるいはキャリアセンターに出向いて、確認すること。

- ・一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので、説明会時に確認すること。

- ・この科目は Web 登録の必要はなく、活動後に単位が認定される。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

講義コード	CSA1204N1J
科目名	国際関係論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	北澤 義之（きたざわ よしゆき）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	1年次、2年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

1. 国際関係論の基礎的な用語を理解し使うことができる。2. 身近な問題が国際社会の動きと、どう結びついているのか理解できる。3. 自分たちの抱える問題を、どのように他の人達と（場合によっては国境を越えて）協力して解決できるか、その道筋を考えることができる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

国際社会の発展についての基本的歴史を知ること。国際関係の基礎的用語を使って、世界の現状について説明することができるようになること。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	国際関係について知ろうとする。	国際関係の理論を理解しようとする。	国際関係の理論をもとに国際社会を理解しようとする。	国際社会の現実と理論の相違について議論しようとする。
知識・理解力	国際情勢に関心を持とうとする。	国際情勢の背景について理解しようとする。	国際関係の理論の発展と国際社会の関係について理解する。	冷戦後の国際社会の変化を説明できるようになる。
思考・解決力	国際社会の課題を知ろうとする。	国際社会の課題の背景を理解しようとする。	国際問題への対応の事例を学ぼうとする。	国際問題への対応の事例から、自分に可能な協力について考えるようになる。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	課題を一緒に解決しようとする。	友人とともに国際社会とのかかわり方を考えようとする。

③④授業計画

第1回目

授業の進め方とイントロダクション 国際社会の現状

事前学習：2020年の上半期で起きた最も重要な国際的事件を1つ探し、簡単に説明できるように情報をまとめる。

事後学習：授業の進め方とルールを確認する。他の受講者が紹介したニュースについて傾向を把握する。

第2回目

国際社会の成立と国際関係論

事前学習：国際社会とは何か自分なりのイメージを説明できるように簡単にまとめる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。国際社会と国際関係論の大まかな特徴を説明できるようにする。

第3回目

国際政治の歴史（戦争を中心に）

事前学習：第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の原因と特徴と影響について簡潔に説明できるようにする。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。それぞれの大きな戦争が国際社会の変化にどのような影響を及ぼしたか考える。

第4回目

国際関係に対する見方（リアリズムとリベラリズム）

事前学習：国際関係におけるリアリズム（現実主義）とは何かについて、概要を調べる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。リアリズムとリベラリズムを対比して理解する。ネオ・リベラリズム、ネオ・リアリズムの考え方の背景を確認する。

第5回目

グローバルな問題と国際社会

事前学習：国際連盟と国際連合の類似点、相違点についてまとめる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界が協力しないと解決しない問題には何があるのかを確認する。その中での国際機関の役割について確認する。

第6回目

グローバル社会の新局面

地域的統合と対立／新しい政治アクターの登場について（NGO・NPO、MNC など）

事前学習：EU 成立の背景について調べる。／国家以外で国際社会に影響のある政治主体には何があるか調べる。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界の地域的協力と対立について基本的な特徴を確認する。／NGO や NPO の国際関係における機能について確認する。

第7回目

現代世界と宗教 1

事前学習：世界の主要な宗教の分布を把握する。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世俗主義とは何か自分なりの考えをまとめる。

第8回目

現代世界と宗教 2

事前学習：イスラム教の影響下にある地域を調べ、イスラム教の基本的な特徴を確認しておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。近年の世界的なイスラムと政治への注目の背景を確認する。

第9回目

安全に関する国際協力（平和・紛争解決）

事前学習：第二次大戦後、国連が介入した紛争を調べておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。国連軍、PKO の活動の特徴と限界について確認する。

第10回目

経済に関する国際協力（開発援助）

事前学習：世界の貧困国と先進工業国家の経済力の違いの概要をまとめておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。貧困問題が国際社会に及ぼす影響について確認する。

第11回目

経済に関する国際協力（開発援助）

事前学習：代表的な難民問題を2つ調べ、その実態（実数、分布、背景）をまとめておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。難民問題と移民問題の現状を説明できるようにする。

第12回目

テロ問題

事前学習：テロリズムの定義と歴史を簡単にまとめておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。現代社会におけるテロの背景と現状について確認する。

第13回目

環境・資源問題

事前学習：気候変動に関する京都議定書の内容と、2016 年の COP の内容と課題を整理しておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。世界の資源問題・環境問題を具体的にあげられるか確認する。

第14回目

新しい協力と対立の可能性

事前学習：これまでに学習したこと以外に、国際社会で求められる協力には何があるか考えておく。

事後学習：配布資料の内容の確認と復習をする。

第15回目

まとめ

事前学習：日本の世界とのかかわり方（援助、軍事協力）で何が近年問題になっているかを考えておく。

事後学習：これまで配布された資料の内容の確認と復習をする。国際社会の現状について振り返り、日本の課題を自分なりに指摘できるようにする。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講師が一方向的に受講生に対してレクチャーする方式ではなく、学生のグループ別のディスカッションも行う、アクティブ・ラーニングの方式をとります。課題やレポートについては授業時にコメント・解説します。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

下の具体的なテーマについて、講師による講義のあと、いくつかのグループに分かれてグループ学習をし、その成果を発表してもらいます。この他に、毎回、コメント・質問票にを授業の終わるときに全員が提出します。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価の対象となるのは、(1) グループ学習のプレゼンテーション、(2) 毎回提出するコメント・質問票です。(3) レポート

点数の配分は、授業への参加度 20%、テーマに関する課題ワークシート(各人が毎回提出) 30%、レポート 50%。

留意事項 (Other Information)

授業テーマに関する準備が前提になるので、かならず準備して授業に臨むように心がけてください。また、新聞の国際記事のタイトルだけでも、見るように習慣づけてください。最近の出来事を学習する中で、関心のあるテーマを見つけ、最終レポートとしてまとめてもらう予定です。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

全体を通じてのテキストはありません。資料のプリントを適宜配布します。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『新版・国際政治学をつかむ』/村田晃嗣他/有斐閣/2015/9.784641177222E12

『国際理解のために』/高橋和夫/放送大学教育振興会/2013/9.784595314261E12

全体を通じての参考書は上の 2 冊だけです。

個別テーマごとに、教室で紹介します。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSA1252N1J
科目名	現代ジャーナリズム入門
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	荻原 靖史（おぎわら やすし）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）
学年	1年次、2年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	定員 60 人（うち心理定員 15 人）
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

ニュースを通して身の回りの日常と激動する世界を知ることができます。だから「見る目」は欠かせません。18歳から選挙権のあるいまは国政、経済、社会の仕組みを知る必要があり、社会人としての良識を養う第一歩はニュースを正しく理解することです。将来に生かせる報道の読み方とテーマ設定の初歩を、この講義で学ぶことができます。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1 様々なメディアのニュース報道やその解説、社論などを読み比べてみる
- 2 時事問題の基本的な意味を知り、その都度必要になるキーワードを数多く蓄える
- 3 自分たちの身近な社会に、日本という国に、広く世界に関心をもつ
- 4 わかりやすく、読みたくなる文章を心がけ、実際に書いてみる
- 5 新聞、電波媒体、雑誌、とりわけネットのニュースについてメディアリテラシーを鍛える

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

この講義で何を学ぶのか 講義進行の説明とジャーナリズム、ニュース報道や各メディアの基本的なこと。

第 2 回目

何を読むか・どう読むか 新聞、テレビ、ネット報道を読んでみる。取材から紙面化までの流れについて。

第 3 回目

自らの考えを述べてみる 気になるニュースについて語り合う。何をテーマにするのか、何を知りたいか。

第 4 回目

経済面を読む ニュースの読み方 1：会社とは、お金とは。経済報道が映す日本と世界の動き。

第 5 回目

国際面を読む ニュースの読み方 2：国際報道で世界のいまと日本の関係を知る

第 6 回目

政治面を読む ニュースの読み方 3：国政とは、財政とは、地方自治とは、選挙とは。

第 7 回目

社会面を読む ニュースの読み方 4：事件とは何か、社会的な問題と報道内容、報道姿勢の現在

第 8 回目

科学面とは ニュースの読み方 5：科学報道で最先端の技術やその課題と未来をのぞいてみる。

第 9 回目

文化面とは ニュースの読み方 6：知的好奇心や体験につなぐ文化・エンタメ報道のこと。

第 10 回目

地方面とは ニュースの読み方 7 : 地方面などで知る地域の人の動き、身近なとりくみなど。

第 11 回目

運動面とは ニュースの読み方 8 : 東京五輪関連の報道を中心に、その質と量について。

第 12 回目

社説面とは ニュースの読み方 9 : 各紙により異なる社説やコラム、オピニオンが伝えること。

第 13 回目

この 1 年を回顧する 復習と議論 : 今年を振り返り、ニュースを語り合い、来年への課題を探る。

第 14 回目

伝わる文章とは なにを、どう書くのか。校閲された表現も紹介しながら、わかりやすい文章術を。

第 15 回目

ジャーナリズムとは まとめと議論 : 再びジャーナリズムの未来について考える

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポート提出を課題とします。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- 1 活字メディア、電波・ネットメディアのニュースを読む・見る
- 2 問題意識をもつ。いま気になるテーマを選んで関連資料を読む、記録する
- 3 日常を細やかに観察し、「聞く・見る・話す・書く」を常に意識する
- 4 とりわけ「書く」ことで理解が深まります。書くことを目標にしたネタ収集
- 5 1～4 については講義中での質疑応答や意見の交換、各回提出レポートに対する講義内の講評などで確認しながら進める

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

受講者は毎回、(当日、そして最近の) 新聞を読んでから (紙媒体でもネットでも) のぞんでください。ニュースを自分なりの問題意識をもって読むことが準備学習です。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

成績は授業参加度 (30%) (※出席と発言の積極性など) と 3 回のレポート (70%) (※配点の重点は 2 回目と 3 回目) の総合評価です。1 回目はそれぞれのメディア受容の方法について、2 回目は日常に取材した文章を書き、3 回目は時事問題を短く論じていただきます。

留意事項 (Other Information)

毎年のことですがニュースは社会、国際情勢に対応してその都度決めていきます。従って毎回のテーマも飽くまで予定です。予測不能な「変わり続ける現代、動き続ける世界」を講義の中で実感してください。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

テキストは新聞各紙が中心です。加えて、テレビ、ネットなどのニュース報道や、時事問題を扱う雑誌、書物など。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

読んでおきたい図書 (ジャーナリズム関連本やノンフィクションなど) や雑誌、映像メディアなどは講義の内容に合わせて紹介します。

参考 URL(URL for Reference)

新聞各紙のニュースサイトが中心です。このほか各分野の時事問題を解説するニュースサイトなどは講義の中で紹介します。

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

新聞社 (全国紙) で編集業務全般 (取材記者・編集企画・デスク業務など) や、特集・コラム (編集委員) などを担当してきました。

講義コード	CSA1454N1J
科目名	博物館情報・メディア論
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	山下 晃平（やました こうへい）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	1 年次、2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。VR や AR 等、メディアの発展に伴って、今日の博物館を取り巻く環境は急速に変化しつつある。そのような動向を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、思考・活用するための基礎的な能力を養う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・博物館の役割や活動においてどのような「情報」があるのかを理解する。
- ・メディアの発達と博物館運営がどのように関わっているのかを知る。
- ・具体的な作品あるいは表現方法とメディアとの関わりを知り、自身の専門領域において応用し得る知を身につける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	情報やメディアの特性を理解できない	博物館における「情報」「メディア」の機能について理解できる	デジタル技術の発展と博物館運営の関わりについて理解できる	「情報・メディア」の多様さを知り、それを応用するための思考を身につける
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	情報やメディアの特性を理解し、その活用について考える	デジタル技術の発展と社会との関わりについて考えを深めようとする	現代社会とコミュニケーションの将来的な可能性について創造的に考える

③④授業計画

第 1 回目

プロローグ—博物館における情報・メディアの意義

第 2 回目

情報・メディアを活用する 1—展覧会におけるメディアの活用

第 3 回目

情報・メディアを活用する 2—データベースの構築

第 4 回目

情報・メディアを活用する 3—標本のデジタル化

第 5 回目

情報・メディアを活用する 4—インターネットの活用

第 6 回目

芸術とメディア 1—写真・映像

第 7 回目

芸術とメディア 2—空間・環境

第 8 回目

芸術とメディア 3—情報・デザイン

第 9 回目

メディアの発展と博物館運営 1—「アーカイブ」をめぐる今日の諸相

第 10 回目

メディアの発展と博物館運営 2—デジタル・アーカイブの現状と課題

第 11 回目

メディアの発展と博物館運営 3—バーチャルリアリティの活用

第 12 回目

博物館運営と情報発信 1—多様化するメディアの活用

第 13 回目

博物館運営と情報発信 2—体験の場としてのミュージアム

第 14 回目

メディアコンテンツの諸問題—知的財産、著作権について

第 15 回目

エビローク—インタラクティブ・メディアとしての博物館

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法 (Course Methods)

視聴覚機器 (プロジェクター、DVD、PPT) を用いて、可能な限り具体的な事例を紹介しながら、博物館における情報とメディアとの関わりについて講義を中心に進める。また各回のコメントを参照しつつ、関連事項を取り上げたり補足を行う。本講義を導入として考え、自分なりの発想や応用を意識して授業に臨んで欲しい。授業中の発問と中間小レポートに対しては、適宜口頭でフィードバックする。また期末課題 (レポート) に対しては、manaba を通じて講評と解説を行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義への参加だけではなく、自ら積極的に博物館を見学またはイベントに参加し、「情報」をどのように扱っているのかを客観的に見て、分析してみる。また本講義で紹介する参考文献、Web サイトやイベントを通して、現代社会の様々な「情報」のネットワークを知る、体験すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30%)、授業時の課題 (20%)、課題に対するレポート (50%) に基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

内容や進行状況に応じて各回の内容は変わります。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

テキストは使用せず、講義毎に適宜資料を配布します。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『博物館情報・メディア論』/日本教育メディア学会/編 ぎょうせい/2013/4324095841

『変貌するミュージアムコミュニケーション』/光岡寿郎/せりか書房/2017/4796703659

『知覚を刺激するミュージアム: 見て、触って、感じる博物館のつくりかた』/平井康之、藤智亮、野林厚志、真鍋徹、川窪伸光、三島美佐子/学芸出版社/2014/4761525681

参考 URL(URL for Reference)

・六本木未来会議 (<https://6mirai.tokyo-midtown.com>) 様々な分野で活躍するクリエイターを紹介している Web マガジン形式のサイト。思考・視点の手がかりになります。

・文化遺産オンライン (<http://bunka.nii.ac.jp/>) デジタル・アーカイブに基づく文化遺産の高品質な画像や情報を掲載する Web サイト。

・美術館・アート情報 artsacpe (<http://artscape.jp>) 今日の国内外の美術動向や批評を配信している Web サイト。

実務経験のある教員による実践的科目

該当なし

講義コード	CSA2259N1J
科目名	インターネット社会論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

インターネットは 1990 年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。この科目ではまず、LINE、twitter、facebook に代表される SNS(Social Networking System)の発展を可能にしたテクノロジーの歴史を整理する。そして、インターネットの発展に寄与しているオープンソース・ソフトウェアに関して、ビジネスモデルやその意味と可能性を理解する。最後に、SNS がもたらすこれからの社会に関して、インターネット環境を利用したエンパワーメントというキーワードを軸に考察する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

以下の内容を理解する。

- ・ silent majority（静かなる大衆）が手に入れた SNS
- ・ 各種 SNS が作りだすネット空間
- ・ SNS の発展を可能にした各種のテクノロジー
- ・ インターネットの発展とオープンソースの関係
- ・ SNS がもたらすエンパワーメント

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
SNS の理解	SNS （ Social Networking System ）が何かを知らない	LINE、twitter、facebook が SNS に含まれることを知っている	SNS の発展を可能にしたテクノロジーや社会的な意味を理解している	SNS のテクノロジーを理解し、自分のエンパワーメントにどう活用できるかを考えることができる
オープンソース・ソフトウェアの理解	オープンソース・ソフトウェアについて知らない	Linux に代表されるオープンソース・ソフトウェアやオープンソース現象を知っている	インターネットの発展におけるオープンソースの役割を理解している	インターネットの発展におけるオープンソースの役割を理解し、オープンソースのコミュニティへの自分の貢献分野を模索している

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス 授業概要、コンピュータとインターネットの発展（人物に注目して考察）

第 2 回目

SNS が作りだすネット空間 「第五の権力」とは？ silent majority（静かなる大衆）が手にした SNS(Social Networking System)

第 3 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(1) 各種 SNS が作りだすネット空間、コンピュータの小型化（トランジスターとは？）

第 4 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(2) コンピュータ、ネットワーク環境の発展

第 5 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(3) 日本の携帯電話事情（ガラケーからスマホへ）

第 6 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(4) iPhone と Android のビジネスモデル（iOS は Apple 社の商品、Android はオー

ブンソースである)

第7回目

インターネットの発達とオープンソース(1) オープンソース・ソフトウェアとは? オープンソース現象とは?

第8回目

インターネットの発達とオープンソース(2) オープンソースのネット発展への貢献

第9回目

SNS がもたらすもの(1) インターネットがお金を生み出すしくみ、広告とコミュニケーション

第10回目

SNS がもたらすもの(2) ビッグデータとデータサイエンティスト

第11回目

SNS がもたらすもの(3) SNS がもたらすエンパワーメント

第12回目

ネット時代に関する考察(1) 各自のレポートのテーマ決定

第13回目

ネット時代に関する考察(2) 各自のレポートの情報収集と構成の確認

第14回目

ネット時代に関する考察(3) 「ネット時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有

第15回目

まとめ 確認テストの実施と解説。解答例や講評は manaba でも公開する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義中心で行う。さらに、各自が作成した「ネット時代に関する考察」をテーマとしたレポートの作成、発表も行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、レポート (35%)、まとめテスト (35%) の総合点で評価する

留意事項 (Other Information)

外部講師を招いて特別授業を実施することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『SNS って面白いの?』/草野真一/講談社/2015/9.784062579261E12/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『図解でわかる 14 歳から知っておきたい AI』/インフォビジュアル研究所/太田出版/2018/

『オープンソースの逆襲』/吉田智子/出版文化社/2007/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GES1251N0J
科目名	暮らしの経済学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	百木 漠（ももき ばく）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

社会人として企業などで活躍するためには、経済に関する知識が不可欠である。本講義では、経済学の基本的な考え方を分かりやすく解説し、社会情勢や経済ニュースを深く理解できる「力」を習得することを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・経済学の考え方の基礎を学ぶ
- ・日本経済と世界経済の情勢を理解する力を身につける

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション——経済学とは

第 2 回目

日本経済の現状——失われた 30 年？

第 3 回目

景気循環——好景気・不景気とは

第 4 回目

需要と供給——市場の原理

第 5 回目

インフレとデフレ

第 6 回目

バブル経済

第 7 回目

円高と円安——為替相場

第 8 回目

アベノミクスの仕組み（1） 金融政策

第 9 回目

アベノミクスの仕組み（2） 財政政策

第 10 回目

アベノミクスの仕組み（3） 成長戦略

第 11 回目

経済学の歴史——スミス、マルクス、ケインズ

第 12 回目

戦後国際経済の歩み

第 13 回目

これまでの振り返りとまとめ（1）

第 14 回目

これまでの振り返りとまとめ（2）

第 15 回目

試験と解説

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない（15 回目の授業に確認テストを行う）

②教育・学習の方法（Course Methods）

講義は基本的にレジュメ中心で行う予定であるが、必要に応じて参考文献を紹介する。難しい数学を用いず、分かりやすさ第一で講義する。試験後はその内容についての解説を行い、質問などを受けつける。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

授業は、前回までの授業内容を理解しているという前提で行われるため復習を心がけること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

出席アンケート（平常点：30%） 期末のまとめの確認テスト（平常点：70%）

留意事項（Other Information）

- ・授業中は周りの人に迷惑をかける行為をしないようにすること。
- ・授業予定については、進行の度合いにより変更される可能性がある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

必要な文献は授業中で適宜指示する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GES1202N0J
科目名	社会学概論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	翁 和美（おう かずみ）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

「社会とは何か」と問われれば、多くの人、答えに窮するだろう。それは、自らが生まれ育ち所属する社会が私たちに
 にとって自明であり、その自明性を問いかけることがないほど私たちが社会化されているからである。程度の差はあれ、私
 たちは誰しもが社会的存在である。この講義では、社会的存在である人間を理解することを第一の目的にする。先人がい
 かに社会を明らかにし、それと向き合ってきたのかをたどるとともに、私たちが生きている現代社会の具体的な状況・文
 脈を取り上げて「社会とは何か」を考えていく。とにかく受講生は深く思考することが求められる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

社会的存在である人間を理解するための補助線となる社会学的用語や概念をあつかうことができるようになる。同時に、
 積極的な study（＝語源はラテン語で「熱意を持って追求する」が原義）の意識を身につけるようになる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

社会と社会学 社会学の講義全体の目的と目標を知る。

第 2 回目

産業社会とその組織 近代化の経緯とともに、産業社会の特徴について考える。

第 3 回目

ジェンダー 社会行為の根拠に潜む社会的・文化的性差について見出す。

第 4 回目

教育と学校制度 教育と学校の社会的機能の違いをとらえる。

第 5 回目

近代国民国家と民族 近代国民国家の特徴から民族紛争の根本原因を探る。

第 6 回目

家族 都市化に着目しながら、核家族化と少子化現象について検討する。

第 7 回目

大衆社会論 ナチスドイツの台頭を事例に大衆の特徴について学ぶ。

第 8 回目

逸脱－選別と排除のメカニズム 逸脱が生じるメカニズムから社会学的発想を身に付ける。

第 9 回目

文化と貧困 植民を事例に環境保全ボランティアの落とし穴について発見する。

第 10 回目

応用 1：自己決定・自己責任論 現代社会の強力なイデオロギーを脱構築する。

第 11 回目

応用 2：介入と他者関係性 安楽死・尊厳死を事例に公的領域と私的領域の関係性における課題を追究する。

第 12 回目

応用 3：私的領域の社会化 私的領域の課題解決の糸口を見出す。

第 13 回目

実践 1：精神医学と精神医療（1） 教材を視聴し病院や施設の雰囲気を感じるとともに人間関係について観察する。

第 14 回目

実践 2：精神医学と精神医療（2） 教材の読解を行ないながら、医療社会学の知見を習得する。

第 15 回目

実践 3：認知症患者と福祉の場 参与観察のデータを元に、社会学的視座の魅力と構想力を確認する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する。ただし、何を実施するのかについては、授業における学生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決める。

②教育・学習の方法（Course Methods）

基本的に対話形式で解説を行なう。また、授業中に学生が意見を提示し合う機会やディスカッションをする機会を設ける。したがって、受講生は積極的に発言する必要がある。講義後、受講生は、リアクション・ペーパーの作成を求められることがあるが、そこに他受講生の意見やディスカッションを通じて深めた自身の考えを表明するとともに不明な点について質問をするようにする。コメントを入れたリアクション・ペーパーについては、適宜、氏名を公表せずに授業で共有する。定期試験に替わるレポートを実施する場合は合評会を行なう。それを受講生は次の study に結び付ける。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

準備学習は必要ない代わりに、しっかり復習をするようにする。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

リアクション・ペーパー（配分: 30%）と最終課題（配分: 70%）で総合的に評価する。リアクション・ペーパーに関しては、回を重ねるにしたがって配点を高くする。最終課題は、授業内での受講生の発言内容とリアクション・ペーパーの内容に応じて決定する。なお、欠席回数による失格条件は設定しないが、リアクション・ペーパーの提出が評価に反映する一方、講義内容を反映していない最終課題は無効となるので、欠席は失格につながる。

留意事項（Other Information）

講義内容は受講生のカラーやニーズに応じて変更する。とりわけ、応用編と実践編は、受講生の授業内での発言内容とリアクション・ペーパーの内容に対応して決定する。実習や就職活動などで長期に欠席する場合は単位修得に影響するので事前に相談するようにする。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

必要に応じて資料を配布する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

適宜指示する。

参考 URL(URL for Reference)

なし

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL1450A0J
科目名	文章表現法A・B
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	田丸 歩実（タマル アユミ）
科目区分	共通教育科目
学年	1年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	定員 50 人
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

大学の授業で課されるレポート・論文とは何かを知り、よりよいレポートが書けるようになることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、文章を書く自信をつける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1) レポートを書く上で必要な言語能力（語彙力、文章構成力など）を養う
- 2) 他者の文章の論点を理解し、自分の言葉で要約できるようになる
- 3) 無断引用をしてはいけないことを理解し、文献を適切な形で参照・引用できるようになる
- 4) 自分の考えを発展させ、適切に表現する力を身につける

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
言語力	レポートにふさわしい表現を用いることができない	正しい書き言葉を用いることができる	文と文の論理関係を明確にし、文章全体の構造を意識しながら書ける	論文やプレゼンテーションなど様々な文章表現に構造があることを理解し、実践できる
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	論理的文章を読み、著者の論点を理解できる	著者の主張と根拠を理解し、それに対して自分なりの考えをもつことができる	他者の文章を批評的に読み、適切な問いを立てることで自らの考えを発展させることができる
共生・協働する力	他者の主張を無断引用する	他者の主張と自らの意見を区別できる	他者の主張やデータを、ルールに則った形で引用できる	他者の主張を適切に引用し、自らの主張を効果的に論じることができる
創造・発信力	体裁や書式のルールを守ることができない	体裁や書式のルールがあることを理解し、それに従おうとする	体裁や書式がきちんと整った文書を作成できる	場面に応じて必要な体裁や書式を選択でき、読み手や聞き手を意識したフォーマットで文書を作成できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス 授業の目的について説明。簡単なゲームを通して他人にわかりやすく伝えることを考える。

第 2 回目

読み手のことを考える 読み手を意識するとはどういうことかを考え、相手が知らないことを前提に文章を書いてみる。

第 3 回目

言いたいことを整理する レポートと作文の違いを解説。どうしたらすっきりとした構造になるかを考える。

第 4 回目

事実と考えの違い 事実と考えはどのように違うのかを解説する。客観的記述はありえるのかを考える。

第 5 回目

きちんとつなげる 話し言葉と書き言葉の違いを検討する。文と文の関係を見抜き、適切な接続表現を入れる練習をする。

第 6 回目

要約する 文章の構成要素を解説する。要約するときにどれを切り落とし、どれを残すかを判断する練習をする。

第7回目

主張と根拠 中心的主張と根拠とは何かを示す。より実践的な要約課題に取り組む。

第8回目

批判的に読む 文献の読み方、メモの取り方を解説する。

第9回目

引用する 剽窃とは何か、文献を適切に引用する方法を示す。様々な方法で実際に引用してみる。

第10回目

メタ的な視点を取る 文献の中で著者が何をしているかを分析し、適切に表現してみる。

第11回目

疑問を持つ 文献に対して、疑問をもつ練習をする。

第12回目

反論する 文献に対して、反論してみる。

第13回目

考えをまとめる マインドマップの作り方、アウトラインの書き方を解説する。最終レポートに向けて、実際に自分の考えをまとめてみる。

第14回目

資料を探す 図書館や文献検索エンジンの使い方を示す。

第15回目

推敲と体裁の確認 ピアレビューを通し最終レポートの推敲をする。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法 (Course Methods)

【今年はオンラインで開講し、Zoom を用いたリアルタイムでの講義を行う。】本科目では、レポートを書く上で知っておくべきことを解説するとともに、実際に「読む」「書く」トレーニングを行う。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけてもらいたいので、授業時間外にも課題に取り組んでもらうことになる。課題に関しては必ずフィードバックをする。最終試験として予定しているブックレポートでは、講義内容を活用して論理的文章が書けているかをみる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

積極性 (30%)、課題などの提出物 (40%)、期末レポート (30%) から評価を算出する。全授業回数の 2/3 以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。

留意事項 (Other Information)

- 1)ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること
- 2)manaba のコースコンテンツ内に授業資料をアップロードするので、授業が始まるまでにプリントアウトしておくこと
- 3)授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがある

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ 21 のワーク』/ 桑田てるみ (編) / 実教出版 / 2015 / 9784407336146

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『大人のための国語ゼミ』/ 野矢茂樹 / 山川出版社 / 2017 / 978-4634151215

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSB1500N0J
科目名	日本語コミュニケーション I
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	河野 有時（この ありとき）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修 文章表現を含む。
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

私たちは毎日、日本語によるコミュニケーションを行っているが、思いを伝える場における表情やジェスチャーの役割を考えれば、言語による伝達には知識や工夫が求められることが分かるだろう。この授業では、日本語によるコミュニケーションのための基礎知識や基本的な方法を身に付けることを目標とする。また、コミュニケーション活動を客観的に捉え、他者を理解し、互いに協力する関係をつくり上げていこうとする態度を養うことを目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解する。
2. コミュニケーションの場における具体的な表現方法を習得する。
3. 相手に思いを伝える文章の表現方法を習得する。
4. 演習やグループワークを通して、協働作業を経験する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み、課題を発展的に考察することができる。
日本語コミュニケーションの関する知識・理解力	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解していない。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解している。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解しながら、コミュニケーションを行うことができる。	日本語コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解しながら、コミュニケーションを工夫することができる。
コミュニケーションの場に即した表現をする力	コミュニケーションの場に応じた表現ができない。	コミュニケーションの場に応じた表現をすることができる。	言葉や表現を工夫して、コミュニケーションの場に応じた表現ができる。	受信者を意識した言葉や表現を工夫して、コミュニケーションの場に応じた表現ができる。
共生・協働する力	グループでの作業に参加しようとすることがない。	グループでの作業に参加することができる。	グループでの作業に積極的に参加することができる。	グループでの作業に積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション

第 3 回目

日本語のコミュニケーション

第 4 回目

対人関係の言葉（1）—謝罪・釈明の談話

第 5 回目

対人関係の言葉（２）―謝罪・釈明の文章

第 6 回目

対人関係の言葉（３）―依頼・勧誘の対話

第 7 回目

対人関係の言葉（４）―依頼・勧誘の文章

第 8 回目

対人関係の言葉（５）―応諾・断りの対話

第 9 回目

対人関係の言葉（６）―応諾・断りの文章

第 10 回目

対人関係の言葉（７）―感謝を表す

第 11 回目

対人関係の言葉（８）―褒める

第 12 回目

レトリックによる表現

第 13 回目

敬語による表現

第 14 回目

手紙の書き方

第 15 回目

まとめと今後の課題

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポートを実施する。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 受講生（グループ）は授業中に与えられた課題やテーマに取り組む。
3. 課題の内容について他の受講者（グループ）とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
5. 次回の授業で前回の課題に対するフィードバックを行う。
6. 最終授業では全体に対するフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 気になる日本語の言葉や表現について調べてみる。
2. 日本語コミュニケーションに関する参考文献や資料を読む。
3. 前回の課題に取り組んだときに注意すべきだった点についてまとめておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度（４０％）とレポート（６０％）とに基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
プリントを配付する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSB1550A0J・CSB1550A0J
科目名	日本語コミュニケーションⅡA・B
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	平野 美保（ひらの みほ）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）
学年	1年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修 文章表現を含む。
曜日時限	金曜・2限

①科目の教育目標（Course Description）

苦手意識を克服し、口頭表現に関する基礎技法を習得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・人前で話すことに慣れる。
- ・口頭表現に関する基礎技法を習得する。
- ・よりよいコミュニケーションについて考え、普段の生活に活かす。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題を認識し授業内で改善に努めている。	自己課題を認識し、授業内だけでなく、授業外でも活かしている。	自己課題を的確に認識し、授業外だけでなく、授業外でも高度なレベルで活かしている。
共生・協働する力	討議等で意見等を述べない。	討議等で意見等を述べる。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに貢献している。	討議等で、傾聴や思いやり等をもって、積極的に参加しチームに高度なレベルで貢献している。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

日本語コミュニケーション学習の必要性

第3回目

音声表現の基礎

第4回目

わかりやすく話すということ

第5回目

ものの言い方と心の姿勢

第6回目

コンセンサス

第7回目

プロジェクト

企画

第8回目

プロジェクト 台本作り、視覚資料準備、練習

第9回目

プロジェクト 準備、練習、リハーサル①

第10回目

プロジェクト 練習、リハーサル②

第 11 回目

プロジェクト 最終調整、リハーサル③

第 12 回目

プロジェクト 本番と振り返り

第 13 回目

コミュニケーション

第 14 回目

スピーチ 準備、練習

第 15 回目

スピーチ 本番（技能テスト）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

- ・理解するだけでなく、練習を通して、その基礎技法を習得する。
- ・学習してきたことについてグループで討議を行い、全体で発表する。
- ・人前で話すための練習をする。
- ・毎回、一週間のコミュニケーションに関する自己の振り返り、毎回の授業の自己目標、自己課題、学習内容、意見、感想について記述し、知識や技能の向上に努める。
- ・発表等に対して、随時フィードバックがある。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

- ・次回の課題の準備・練習をする。
- ・自己課題について、普段の生活でも改善に努める。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

評価は、発表（30%）、授業参加度（40%）、ノート（30%）に基づいて、総合的に行う。

留意事項（Other Information）

- ・ゲスト講師等を迎える可能性がある。
- ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容・方法を変更する場合がある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『声のトレーニング』/福島英/岩波ジュニア新書/2005/4005005209

『テレビの日本語』/加藤昌男/岩波新書/2012/4004313783

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》司会、ナレーター、ラジオパーソナリティ、社会人に対するセミナー講師（コミュニケーション）の経験あり

講義コード	CSB2500N0J
科目名	日本語コミュニケーションⅢ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	堀 勝博（ほり かつひろ）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	2年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修 文章表現を含む。
曜日時限	月曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

現代日本人は、歌を忘れたカナリヤのように、対人コミュニケーションが苦手である。ケータイやパソコンは駆使できても、挨拶ができない、敬語は使えない、手紙も書けない、漢字もあやふや、ビジネス・マナーを知らない……。こんなことでよいのだろうか。この科目の最大の目的は、「徳と知」を兼備した大人にふさわしい高いコミュニケーション能力を養うことである。とくに、この「Ⅲ」の授業では、日本語検定3級、漢字検定2級程度の国語力習得を目標とともに、就職活動や社会に出た時にきっと役立つであろう、さまざまな文書の書き方、美しい文字を書くためのペン習字など、具体的に、実践的なトレーニングを行い、国語力にいつそうの磨きをかける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. コミュニケーションやマナーに関するさまざまな考え方や知識について学ぶ
2. レポート作成により、文章表現力を錬磨する
3. 漢字検定2級程度の漢字能力を養成する
4. 日本語検定準2級程度の日本語能力を養成する
5. 手紙、履歴書、ビジネス文書など、さまざまなスタイルの文章表現を演習する
6. 敬語を使えるようにする
7. ペン習字などさまざまな書写課題にとりくみ、字を書くことの楽しさを味わう
8. ゲスト・スピーカーを招き、キャリアに特化した内容の授業を行う

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コミュニケーションやビジネスマナーに関する知識・理解	コミュニケーションやビジネスマナーについて、まったく理解せず、知識をもたない	コミュニケーションやビジネスマナーについて、ある程度理解し、知識をもっている	コミュニケーションやビジネスマナーについて、かなり理解し、知識をもっている	コミュニケーションやビジネスマナーについて、よく理解し、深い知識をもっている
漢字・語彙の知識	漢字・語彙の知識が乏しく、運用能力も低い	漢字・語彙の知識がある程度あり、高卒レベルの運用能力をもつ	漢字・語彙の知識がかなりあり、運用能力も相当もっている	漢字・語彙の知識が深く、運用能力もきわめて高い
文字の書写	文字を正確に書くことができない	文字をある程度正確に書くことができる	文字をかなり正確に書くことができる	文字を正確に美しく書くことができる
文章やレポートの作成	自分で文章をまとめることができず、正しい形式に則ったレポートを書くことができない	自分である程度文章をまとめることができ、ほぼ正しい形式に従ってレポートを書くことができる	自分ですべて工夫して文章をまとめることができ、正しい形式でレポートを書くことができる	自分で構想して、きわめて独創的な文章をまとめることができ、形式面でも注や参考文献など遺漏なくレポートを書くことができる

③④授業計画

第1回目

導入授業 ―コミュニケーションとは何か

第2回目

文字を書く

第3回目

漢字検定、日本語検定に合格するために

第4回目

就職活動に必要なコミュニケーション力

第5回目

文章表現力をつける

第6回目

語彙力をつける

第7回目

レポートや論文の書き方再説

第8回目

添え状の書き方

第9回目

履歴書の書き方

第10回目

手紙の書き方

第11回目

ビジネス文書の書き方 ―案内状や通知文

第12回目

メールの書き方、マナー

第13回目

ビジネスマナーを身につける

第14回目

方言と標準語

第15回目

まとめと解説

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

テキストにより、毎回範囲を決めて、漢字小テストを実施する。その他、日本語検定準2級程度の演習問題、視聴解問題、書写練習等、さまざまな学習課題に取り組む。小テストの成績は次回授業で返却し、正解について解説するとともに、書写その他の課題に関しては、実際の記入例をパワーポイント等で見せながら、解説する。manaba もフルに活用したい。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 課題テストの出題範囲を学習しておくこと
2. 事前に指示されたレポートや文章作成課題に取り組むこと

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業に取り組む意欲・態度の評価点40%、レポート点30%、小テストの評点10%、最終試験20%で評価する。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『ことばの常識問題 1849』//日栄社//9784625234033/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『日本語検定公式2級過去・練習問題集』//東京書籍// 『日本語検定公式3級過去・練習問題集』//東京書籍//

『漢字検定過去問題集2級』//漢字能力検定協会// 『問題な日本語』/北原保雄編/大修館書店//

参考 URL(URL for Reference)

授業内で適宜紹介する

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGL2400N1J
科目名	ことばとコミュニケーション
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山 哲春（こやま てつはる）
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

本講義では、コミュニケーションの中心となる『ことば（象徴記号）』の側面からコミュニケーションにアプローチし、そのメカニズムと現象の多様性を考察していく。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 言語コミュニケーションの基本的メカニズムを考察し、様々な形態のコミュニケーションの成り立ちとダイナミズムを理解する。
2. 言語コミュニケーション成立における「ことば」の果たす役割を考察し、人が言語メッセージを理解し解釈するプロセスを理解する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

コミュニケーションの定義

第2回目

コミュニケーションの起源

第3回目

コミュニケーションと記号（1）： 言語記号の性質と役割

第4回目

コミュニケーションと記号（2）： 動物のコミュニケーション（比較文化論）

第5回目

社会におけることばの意味の生成（1）： 象徴的相互作用論 前編

第6回目

社会におけることばの意味の生成（2）： 象徴的相互作用論 後編

第7回目

ことばの意味の伝達（1）： 発話行為論

第8回目

ことばの意味の伝達（2）： 協調の原則と会話の含意

第9回目

ことばの意味の伝達(2)： 関連性理論

第10回目

ことばの意味の伝達（4）： 社会的認知（「心の理論」）と発話理解

第11回目

メッセージの効果（1）： 構築主義コミュニケーション論と他者視点取得

第 12 回目

言語メッセージの効果（2）： Message Design Logic

第 13 回目

言語コミュニケーション現象（1）： ポライトネス

第 14 回目

言語コミュニケーション現象（2）： 嘘と欺瞞

第 15 回目

言語コミュニケーション能力について（総括）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

テキスト、参考文献に基づいた講義を行い、質疑応答、指定課題の理解を前提としたディスカッション等を行っていく。

その他、授業内容の理解に関する試験、およびレポートの提出。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

Web 上に掲載する講義ノート（PowerPoint スライド）をダウンロードして予習を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（20%）、個別課題（20%）、試験（40%）、論文（20%）に基づいて総合的に行う。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『A first look at communication』/Griffin, E./McGraw Hill/2006/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA2205N1J
科目名	知覚・認知心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	森下 正修（もりした まさなお）
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	2 年次、3 年次
開講学期	集中
⑤単位	2

①科目の教育目標 (Course Description)

「知覚」「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。外界の情報を見たり聞いたりすること。顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。推理をしたり判断をしたりすること。それらを感情との関わりで理解すること。学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになります。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 上記のような人の知覚・認知に関わる心理学理論を理解すること
2. 知覚・認知的な実験課題やデモに触れ、理論に対する具体的なイメージをもつこと
3. 日常の行動と、知覚・認知心理学的な説明を対応づけること
4. 脳研究や症例研究をもとに、人の知覚・認知の機序と障害について理解すること

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
感覚・知覚への理解	人の感覚や知覚の機能についてよくわからない	感覚や知覚がどういった機能であるかある程度知っている	感覚や知覚に関する心理学的な研究をよく理解している	感覚や知覚に関する研究の知見を現実場面に当てはめられる
認知への理解	人の認知の機能についてよくわからない	認知がどういった機能であるかある程度知っている	認知に関する心理学的な研究をよく理解している	認知に関する研究の知見を現実場面に当てはめられる
コミュニケーションの基礎となる人間への理解	コミュニケーションに関わる、人の知覚・認知の特徴がわからない	コミュニケーションに関わる、人の知覚・認知についてある程度知っている	知覚・認知についての研究知見をコミュニケーションと結びつけて考えられる	自己や他者の知覚・認知の特徴を理解し、適切なコミュニケーションができる
現実問題への思考・解決力	現実に関わる諸問題に関わる、人の知覚・認知の特徴がわからない	現実の諸問題に関わる、人の知覚・認知についてある程度知っている	知覚・認知についての研究知見を現実の問題と結びつけて考えられる	知覚・認知の特性を踏まえて、現実の諸問題の解決に取り組むことができる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス、イントロダクション 本講義の進め方、評価方法と、知覚・認知とな何かについて説明します

第 2 回目

感覚、知覚の一般的特性 関や順応、経験・先天的障害の影響など、感覚・知覚一般にみられる特性について説明します

第 3 回目

明るさの知覚、形の知覚① 知覚における明暗の知覚と、形の知覚の基礎について説明します

第 4 回目

形の知覚② 錯覚などをまじえて、形の知覚の不思議な特性を取り上げます

第 5 回目

奥行き知覚 三次元世界を見るための奥行きの手がかりについて説明します

第 6 回目

運動の知覚 動きのある世界を見るための知覚の特徴について説明します

第7回目

色の知覚 カラーの世界を見るための知覚の仕組みについて説明します。

第8回目

顔、物体の知覚 人の顔やそれ以外の物体の知覚処理の特徴について説明します

第9回目

注意①選択的注意 外界を見聞きするときに重要な役割を果たす「注意」について、その機能と障害について説明します

第10回目

注意②注意資源、アクションスリップ 人が行動する際に必要となる心的資源としての「注意」と、それに関連する行動のし間違いについて説明します

第11回目

記憶① 記憶の意味、3つの記憶 なぜ記憶はあるのか、記憶はどのように分類されそれぞれどういった特徴をもつのかについて、記憶障害と関連させて説明します

第12回目

記憶② 日常記憶 日常生活に密接に関わる記憶についての研究を取り上げます

第13回目

問題解決、推論 さまざま問題について解決を探ったり、今ある情報をもとに推論をはたらかせたりする心の機能を解説します

第14回目

認知地図 われわれが心の中に形成する地図の特性について説明します

第15回目

認知と感情 認知が感情に与える影響と、感情が認知に与える影響について説明します

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

集中講義の最終日、第15回の講義の後で実施します。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPointによるスライドで講義を進めます。予習として、上記の知覚・認知活動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます。
- ・試験に対するフィードバック：試験終了後に解説を配布しますので、参考にしてください

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

参考文献に挙げた認知心理学の概論書を読んだり、人の心・行動に関する科学ニュースをチェックしたりしておくと、講義が理解しやすくなると思います。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%) と最終テスト (70%) により総合的に評価します。授業参加度は、講義中に出されるさまざまな質問に対し回答紙に記入された内容をもとに判断します。最終テストは、授業で配布した資料のみ持ち込み可で記述式の問題に答えてもらいます。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『感覚知覚心理学』/菊池正/朝倉書店/2008/9784254526660

『知覚と感性の心理学』/三浦佳世/岩波書店/2007/9784000281119

『対話で学ぶ認知心理学』/塩見邦雄/ナカニシヤ出版/2006/9784888488762

『日常認知の心理学』/井上毅・佐藤浩一/北大路書房/2002/9784762822426

『認知心理学』/箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋/有斐閣/2010/9784641053748

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA2500N1J
科目名	対人関係論
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	後藤 伸彦（ごとう のぶひこ）
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	2 年次、3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	定員 150 人
曜日時限	木曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。家族、恋愛、友人関係など、様々な対人関係における事象や研究事例を学び、その背後にあるメカニズムについて考察する。具体的には、なぜ人は他者を愛したり、助けたり、傷つけたりするのかについての社会心理学的、進化心理学的説明を学び、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 親子関係、恋愛関係、友人関係の違いについて理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 人を批判したりゆるしたりする心理について理解する。
5. 他者から援助を受けたり他者に援助を与える際に伴う困難さについて理解する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	対人関係論の諸概念について理解していない	対人関係論の諸概念について少し理解している	対人関係論の諸概念について十分理解している	対人関係論の諸概念について理解し、世の中の問題や、社会・集団心理学で学んだ概念と関連付けられる

③④授業計画

第 1 回目

対人関係と人間関係

第 2 回目

対人認知（1）印象形成

第 3 回目

対人認知（2）対人情報処理

第 4 回目

対人魅力

第 5 回目

対人コミュニケーション

第 6 回目

親子関係

第 7 回目

友人関係

第 8 回目

恋愛関係

第 9 回目

原因帰属と感情

第 10 回目

加害と謝罪

第 11 回目

対人関係における自己（1）自己とは、自己概念

第 12 回目

対人関係における自己（2）自己評価

第 13 回目

援助行動

第 14 回目

対人ストレス

第 15 回目

試験とまとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 積極的な発言、質問を求める。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。
4. 適宜、レスポンスなどを通じて質問できる機会を作り、口頭で質問に回答する。またオフィスアワーなどを利用してわからない所があれば解決できるように積極的に学習に励むこと。
5. 期末テストの答えは授業内、またはオンライン上で一定期間公開する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

試験（100％）によって評価する。

留意事項（Other Information）

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SWR2203N1J
科目名	精神疾患とその治療 I
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	河瀬 雅紀（かわせ まさとし）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神医学 I では、統合失調症、躁うつ病、不安障害（パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害）、摂食障害、心身症など代表的な精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解していくことを目的とする。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者と家族の支援のあり方について説明することができる

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 統合失調症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. 躁病・うつ病の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 不安障害（パニック障害、恐怖性障害、社交不安障害、解離性障害）の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. 心身症について説明できる
5. 摂食障害の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
6. 向精神薬の特徴と作用について説明できる
7. 医療が必要な状態について説明できる

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の原因について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的な治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的な治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
医療等が必要	精神症状の把握と対	精神症状の把握	精神症状の把握と対応に	精神症状を把握した時に、その状

な状態について	応について、知識を持っていない	握と対応について、理解している	について、講義資料等を用いて説明できる	況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況に関心がない	精神障がい者と家族がおかれている状況を理解している	得られた理解をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて気づくことができる	気づいたギャップについて、学んだ知識をもとに情報を収集し、課題を見出すことができる

③④授業計画

第1回目

精神医学概論（精神保健・福祉の歴史を含む）

第2回目

統合失調症とは（1）概論（精神保健・福祉の歴史を含む）

第3回目

統合失調症とは（2）幻覚・妄想など

第4回目

統合失調症とは（3）自我障害、陰性症状など

第5回目

統合失調症とは（4）治療など

第6回目

躁うつ病概論・うつ病（精神保健・福祉の歴史を含む）

第7回目

うつ病および躁病（1）症状・診断について

第8回目

うつ病および躁病（2）治療・対応について

第9回目

不安障害（1）概論

第10回目

不安障害（2）パニック障害・広場恐怖などについて

第11回目

不安障害（3）社交不安障害などについて

第12回目

不安障害（4）強迫性障害などについて

第13回目

不安障害（5）転換性障害、解離性障害などについて

心身症について

第14回目

摂食障害（1）病態について

第15回目

摂食障害（2）合併症・治療について

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法（Course Methods）

講義形式で、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する

毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする

定期試験については、試験終了後に解説を manaba 等で公開する

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

該当箇所をテキストで予習する

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

40

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度・授業態度（15%）と試験（85%）により総合判断する。

留意事項（Other Information）

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント（レジュメ）を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『精神疾患とその治療 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会（編集）/中央法規/2016//学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『精神医学—精神疾患とその治療（改訂新版）』/日本精神保健福祉士養成精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学—精神疾患とその治療（改訂新版精神医学（MINOR TEXTBOOK）』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

講義コード	SWR2454N1J
科目名	精神疾患とその治療Ⅱ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	河瀬 雅紀（かわせ まさとし）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	2年次
開講学期	後期
⑤単位	2
前提科目	精神疾患とその治療Ⅰ
曜日時限	火曜・1限

①科目の教育目標（Course Description）

精神的健康の保持や増進のため、また心理に関する支援を要する者等を対象とした心理的支援や精神保健福祉などを学習する上で必要となる精神医学の基礎知識の習得をめざす。精神疾患とその治療Ⅱでは、PTSD、適応障害、パーソナリティ障害、発達障害、アルコール・薬物依存、睡眠障害、認知症、てんかんなど各種精神障害の説明を通して、精神医学の考え方、精神障害の成因、症状、診断方法、治療法、経過、本人や家族への支援などを体系的に理解し、また向精神薬の作用についても理解していく。さらに、医療機関との連携や地域精神保健の展開についても理解を深めていく。これらの理解のうえに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について分析する力をつける。本科目では、以下のことを目的とする。

1. 精神障害に関する基礎的用語を使うことができる
2. 精神障害の分類と診断方法について説明することができる
3. 代表的な精神障害について、原因、症状、治療方法を説明することができる
4. 精神障害者・家族の支援のあり方について説明することができる
5. 精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について、分析し説明することができる

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. PTSD、適応障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
2. パーソナリティ障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
3. 発達障害のの成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
4. アルコール依存・薬物依存の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
5. 主な睡眠障害の症状・診断について説明できる
6. てんかんの症状・診断法・治療法・支援の方法について説明できる
7. 主な認知症の成因・症状・診断法・治療法・経過・支援の方法について説明できる
8. 地域で暮らす精神障害者の支援とその課題について具体的に述べるができる
9. 医療が必要な状態について説明できる
10. 向精神薬の特徴と作用について説明できる
11. 精神疾患とその治療Ⅰ・Ⅱで学んだ精神障害に関する知識をもとに、精神障害に関する現代社会のさまざまな課題について説明できる

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
精神障害の分類と診断方法について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の分類と診断方法について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の分類と診断方法について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の原因と症状について	知識を持っていない	知識を持っている	資精神障害の原因と症状について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の原因と症状について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる

本科目で学ぶ精神障害の薬物療法や専門的治療について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の薬物療法や専門的治療について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の薬物療法や専門的治療について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
本科目で学ぶ精神障害の当事者や家族の支援について	知識を持っていない	知識を持っている	精神障害の当事者や家族の支援について、講義資料等を用いて、説明できる	精神障害の当事者や家族の支援について、授業内容をもとに自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる
精神医療・精神保健福祉に関連する法律について	知識を持っていない	知識を持っている	講義資料等を用いて、説明できる	精神医療・精神保健福祉に関連する法律の課題について議論することが出来る
医療等が必要な状態について	精神症状の把握と対応について、知識を持っていない	精神症状の把握と対応について、理解している	精神症状の把握と対応について、講義資料等を用いて、説明できる	精神症状を把握した時に、その状況を整理し、対応について優先順位をつけることができる
共生社会について	精神障がい者と家族がおかれている状況に関心がない	精神障がい者と家族がおかれている状況を理解している	得られた理解をもとに、私たちが住んでいる社会の現状と望ましい共生社会のギャップについて情報を収集し、分析することができる	分析により見出した課題を整理し、解決に向けて自らの行動について優先順位をつけることが出来る

③④授業計画

第1回目

ストレス関連障害（1）－PTSD 概論－

第2回目

ストレス関連障害（2）－PTSD 各論、適応障害など－

第3回目

ストレス関連障害（2）－急性ストレス障害、適応障害など－

第4回目

パーソナリティ障害（1）概論

第5回目

パーソナリティ障害（2）各論

第6回目

確認テスト／発達障害（1）概論、学習障害など

第7回目

発達障害（2）ADHD など

第8回目

発達障害（3）自閉スペクトラム症

第9回目

アルコール依存

第10回目

薬物依存

第11回目

確認テスト／睡眠障害／てんかん（1）－概論

第12回目

てんかん（2）－診断・症状・治療・対応について

第13回目

認知症について－概論・アルツハイマー病

第 14 回目

その他の主な認知症について

第 15 回目

確認テスト／精神保健福祉法、地域精神医療について

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義形式を中心とし、配付資料およびスライド・視聴覚教材を使用する。

毎回の講義後、配布資料およびテキスト・参考図書などにより復習をする。

確認試験に対するフィードバックは、試験結果の返却時に講評・解説を口頭で行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストで、該当箇所を読んでおくこと

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

討議を含む授業参加度・授業態度 (15%)、確認テスト (85%) による総合評価。

留意事項 (Other Information)

- ・他の受講生の迷惑となる私語、携帯電話等によるメールの送受信、摂食は禁止します。
- ・授業に欠席した場合、その授業中に配布したプリント (レジュメ) を、授業担当者は保管しないため、出席者からコピーさせてもらうこと。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『精神疾患とその治療 第2版』/日本精神保健福祉士養成校協会 (編集)/中央法規/2016//学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『精神医学—精神疾患とその治療 (改訂新版)』/精神保健福祉士養成セミナー/へるす出版//

『精神医学 (MINOR TEXTBOOK)』/加藤伸勝/金芳堂//

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

講義コード	EGS3500B0J
科目名	英語英文学演習 I
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山 哲春（こやま てつはる）
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目（ゼミ）は、我々が毎日当たり前に行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論の基盤を学び、自身に関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する初歩的な技術を習得する。「研究方法論」で習得した方法論の基礎的知識をさらに深め、実践的な技術へと発展させることが最終目的となる。また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

<1> 理論習得（コミュニケーション分析のための基礎理論を概観する。）

<2> 方法論習得（コミュニケーションを観察（データ収集）、分析するための具体的方法論を習得する）：

- 言語理論による分析（前期の主要課題となる）
- 質問紙調査（アンケート）法
- 実験デザイン
- フィールドワーク（参与者観察）法

<3> 分析演習（上記で学習した分析方法論を用いて実際にコミュニケーション現象を分析し、これを発表する。）

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

Introduction to Communication Studies（概論）

第 2 回目

方法論 1：コミュニケーション研究方法論 概説

第 3 回目

方法論 2：構成概念計測法 Revisited

第 4 回目

方法論 3：質問紙調査法（On-line Survey を含む）Revisited

第 5 回目

方法論 4：実験法 Revisited

第 6 回目

方法論 5：フィールドワーク法 Revisited

第7回目

方法論6：会話分析法 Revisited

第8回目

言語理論による分析演習1：発話行為論 (Speech Acts)

第9回目

言語理論による分析演習2：会話の含意 (Conversational Implicature)

第10回目

言語理論による分析演習3：表意と推意 (Explicature & Implicature)

第11回目

言語理論による分析演習4：比喩 (Metaphor)

第12回目

言語理論による分析演習5：皮肉 (Irony)

第13回目

言語理論による分析演習6：欺瞞 (Deception)

第14回目

卒業研究 Proposal 中間発表 Day 1 (学籍番号順 前半)

第15回目

卒業研究 Proposal 中間発表 Day 2 (学籍番号順 後半)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

授業：本ゼミは、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表：研究方法論およびコミュニケーションに関する学術論文についての口頭発表を行う。

卒業研究 Proposal 作成：前期の間に複数のトピックを選んで簡単な分析演習を行い、後期にかけてこれを絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」へ落とし込むため、適宜 Proposal の執筆と相談を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表1 (方法論・理論のサマリー発表) 25%

発表2 (言語理論による分析演習) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

卒業研究 Proposal Draft 30%

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード

EGS3500C0J

科目名

英語英文学演習 I

ND6

DP5：共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名	須川 いずみ (すがわ いずみ)
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画鑑賞をし、作品分析方法をいくつか習得する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究方法の習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

映画の構造

第 3 回目

ジョイスの"The Dead"の前から 3 分の 1 を読む

第 4 回目

ジョイスの"The Dead"の 3 分の 2 まで読む

第 5 回目

ジョイスの"The Dead"の最後の 3 分の 1 を読む

第 6 回目

ジョン・ヒューストンの『ザ・デッド』を考える

第 7 回目

エピファニーを読む

第 8 回目

原作と映画比較と作品分析

第 9 回目

ヒューストン映画のアイランド的要素

第 10 回目

ヒッチコックの『サイコ』を考える

第 11 回目

『サイコ』の精神分析的読解

第 12 回目

ヒッチコックの『めまい』を考える

第13回目

『めまい』の深層構造

第14回目

ハリウッド映画を考える

第15回目

フィードバックと発表

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業方法

(1) 個々の作品及びスクリプトの精読

(2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)

(3) 個人発表

(4) ディスカッション

(5) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

(1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。

質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるのでその準備が必要である。

(2) 指定された映画は観なければならない。

(3) 個々の作品についてレポートを提出する。

(4) 発表の時間がある。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこななければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、提出レポート 60%

クラス・レスポンス 40%

留意事項 (Other Information)

チームワークを考えて行動できるように、課外活動も計画あり。定期試験はしないので、積極的授業への取り組みが不可欠である。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
プリント

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3500D0J
科目名	英語英文学演習 I
ND6	DP5 : 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	田口 茂樹 (たぐち しげき)
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標 (Course Description)

本科目では、生成文法理論に基づき、日・英語の構文分析を行います。前半は、今年度休講となった「ことばのしくみ」の要点をまとめ、生成文法理論における統語論（いわゆる文法）の基本的な考え方と仕組みを理解します。後半は、前半で学んだ方法論を応用し、より広い範囲の文法現象を取り上げます。なぜ、そしてどのように日・英語の違いが生み出されているのかを検証していきます。最終的な目標は、学生がみずから新しいデータを発見し、それらを理論的に分析するための準備を行います。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 生成統語論の基本的な考え方と仕組みを理解する。
2. 生成統語論を応用して、英語がどのように分析されてきたかを理解する。
3. 生成統語論を応用して、日本語がどのように分析されてきたかを理解する。
4. 上記を通して日・英語の共通点について考える。
5. 上記を通して日・英語の相違点について考える。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない。	先行研究をもとに観た映画について考えようとする。	考えた結果をゼミ生と共有し、自分の意見を深めることができる。	お互いの情報を交換しながら、より深い知識を手に入れ分析能力を上げることができる。

③④授業計画**第1回目**

言語学のいろいろ：生成文法理論を中心に

- ・授業について説明します。
- ・言語学のさまざまな分野、生成文法の歴史と考え方を学びます。
- ・テキストの第1章を読んでおくとよいでしょう。

第2回目

句の構造とXバー理論

- ・「構成素」とは何かを学びます。
- ・構成素をつくる「句」について、学校文法と比較しながら考えていきます。
- ・句を一つの形にまとめたXバー理論について説明します。
- ・テキストの第2章を読んでおきましょう。

第3回目

語彙と文

- ・句の中心となる「語」について学びます。
- ・語の性質について説明します。
- ・「文」の成り立ちについて理解を深め、演習1の準備をします。
- ・テキストの第2章、第3章を読んでおきましょう。

第4回目

演習1：構造

- ・さまざまな文を、「樹形図」で表す練習をします。

第5回目

時制文と非時制文

- ・「定時制」をもつ文と「非時制」の違いについて考えます。
- ・時制と「名詞句」との関係を説明します。
- ・時制と名詞句の格について説明します。
- ・テキストの第5章を読んでおきましょう。

第6回目

さまざまな移動と派生

- ・文をつくり出すための「移動」、「派生」という考え方を学びます。
- ・移動の種類について簡単に説明します。
- ・名詞句の移動とその「痕跡」を中心に具体例をみていきます。

- ・テキストの第 6 章を読んでおきましょう。

第 7 回目

主要部の移動

- ・文法の中でもっとも小さい単位である「主要部」の移動について学びます。
- ・主要部の移動と名詞句の移動との違いについて説明します。
- ・テキストの第 7 章を読んでおきましょう。

第 8 回目

疑問文の作り方

- ・「疑問詞」の移動とその他の移動について説明します。
- ・疑問詞の移動にかかわる性質について考えます。
- ・疑問詞の移動先について説明します。
- ・さまざまな移動に関するおさらいをし、演習 2 の準備をします。
- ・テキストの第 8 章を読んでおきましょう。

第 9 回目

演習 2：派生

- ・さまざまな移動を用いて、文の「派生」を図示する練習をします。

第 10 回目

there 構文

- ・いわゆる「there 構文」の性質をおさらいします。
- ・there 構文の性質が、文法上どのように表されるか考えます。
- ・テキストの第 9 章を読んでおきましょう。

第 11 回目

代名詞の種類

- ・さまざまな名詞や「代名詞」の性質について学びます。
- ・名詞や代名詞の性質が、文法上どのように表せるか考えます。
- ・テキストの第 10 章を読んでおきましょう。

第 12 回目

生成文法による日・英語の対照分析 1

- ・英語と日本語の「態」と格について学びます。
- ・格と意味の解釈について説明します。
- ・教材については第 11 回の授業で指示します。

第 13 回目

生成文法による日・英語の対照分析 2

- ・英語と日本語の移動について学びます。
- ・移動と意味の解釈について説明します。
- ・教材については第 12 回の授業で指示します。

第 14 回目

まとめとディスカッション

- ・授業の内容をまとめ、質問やディスカッションを行います。
- ・第 15 回に行う発表の準備をします。

第 15 回目

研究発表

- ・自分が興味を持った文法現象について分析を行い、発表してもらいます。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

- ・レポートを提出してもらいます。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・テキストをきちんと読んで、分かりにくいところはメール等で質問して下さい。
- ・一度欠席すると行けなくなるので、きちんと授業に参加して下さい。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・テキストや授業で紹介する教材をきちんと理解する必要があります。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

- ・60 時間

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

- ・授業参加：20%
- ・課題：30%
- ・発表：20%
- ・レポート：30%

留意事項 (Other Information)

- ・e-learning による授業が含まれます。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『現代の英文法』/齋藤興雄、佐藤寧、佐藤裕美/金星堂/2007 年 (重版) /978-4-7647-3720-4/学内販売有

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

- ・学生の進捗をみて、必要に応じて指示します。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード EGS3500E0J

科目名 英語英文学演習 I

ND6 DP5：共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 York Weatherford (よーく うえざふおーど)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

備考 集中

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

The purpose of this course is to introduce students to the major topics in sociolinguistics, the study of the relationship between language and society. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

Introduction to sociolinguistics

第 2 回目

Sociolinguistic terminology

第 3 回目

Historical changes

第 4 回目

Modern studies and sociolinguistic fieldwork

第 5 回目

Variation as a symbol of regional group identity

第 6 回目

Variation as a symbol of social class

第 7 回目

Borrowing and language change

第 8 回目

Attitudes toward language varieties

第 9 回目

Social prejudice and low-status varieties

第 10 回目

Discourse analysis

第 11 回目

Prescriptivism and descriptivism

第 12 回目

Language planning

第 13 回目

Language ecology

第 14 回目

Review and discussion

第 15 回目

Presentations

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will also provide regular feedback on all written assignments.

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』/Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller/Wiley-Blackwell/2014/

『An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition』/Janet Holmes/Routledge/2017/3-978-1138845015

『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』/John Edwards/Oxford University Press/2013/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3500H0J
科目名	英語英文学演習 I
ND6	DP5 : 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	Steven Herder (すていーぶん はーだー)
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

This course will explore the field of leadership studies with three clear outcomes in mind: 1) Students will be able to understand and explain both a general overview of leadership studies, and furthermore, discuss their own specialized area of this field; 2) Students will identify and nurture their own natural leadership abilities, while at the same time focus on and develop areas of leadership that they deem necessary for their own future; and finally, 3) Students will collaborate on developing their dissertation topic, narrow down a research question or thesis statement, propose a plan for primary research, and complete a detailed initial outline of their working plan.

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

This course aims to meet the following objectives: 1) Build a learning community, 2) Create a study system using online tools for research (Evernote, Google Drive, Google Scholar, etc), 3) Start building an online annotated bibliography, and 4) Complete a detailed outline for a successful dissertation

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力 Expectations: Understand lesson contents; Identify personal interests; Choose areas to research;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力 Expectations: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to become a semi-expert in some area	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

③④授業計画

第 1 回目

Introduction to Leadership Studies
Building a learning community
Implementing communication networks

第 2 回目

Definitions of leadership
Looking through the literature to see what we already know
Reading, summary, discussion preparation

第 3 回目

The Changing Nature of Leadership

第 4 回目

Oral Presentations 1 - "What I learned abroad"
How can I identify, nurture and improve my own leadership skills?

第 5 回目

Research on Leadership - The Relational Leader Model

第 6 回目

Leadership Styles for Men and Women

第 7 回目

Understanding Soft Skills of Leadership

第 8 回目

Annotated Bibliography Oral Report

第 9 回目

Emotional Intelligence

Social and emotional learning (SEL)

第 10 回目

Self-awareness

Self-control

第 11 回目

Social Awareness

Relationship Management

第 12 回目

Global Human Resources (グローバル人材) and its relation to your future

第 13 回目

Study Abroad Impact on Development of Skills and Changes in Beliefs

第 14 回目

Understanding Change and Strategies for Change

第 15 回目

Final Oral Report - "My specialization: what, why, and how"

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

Seminar - Each class will be comprised of a short lecture and a discussion of the assigned readings. All members of the learning community will take turns leading discussions. Students will complete two Oral Reports.

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to be prepared for discussions in two ways: 1) they must have read and understood the assigned readings, and 2) they must prepare questions and offer opinions in order to create lively and meaningful discussions.

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

Participation 40%

Annotated Bibliography Oral Report 30%

Final Oral Report 30%

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード EGS3500A0J

科目名 英語英文学演習 I

ND6 DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 90

⑥担当教員名 大川 淳 (おおかわ じゅん)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年 3 年次

開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3限

①科目の教育目標 (Course Description)

本講義では 19 世紀中期に活躍した作家 Herman Melville の短編を精読する。また 19 世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを一語一句意味を味わいながら読むことを目指す。これらの目標を超え、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得してもらいたい。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

Introduction

第 2 回目

“The Piazza” Presentation 1 と Comments (p.1~p.2 2 段落目)

第 3 回目

“The Piazza” Presentation 2 と Comments (~p.3 5 段落目)

第 4 回目

“The Piazza” Presentation 3 と Comments (~p.4 3 段落目)

第 5 回目

“The Piazza” Presentation 4 と Comments (~p.5 3 段落目)

第 6 回目

“The Piazza” Presentation 5 と Comments (~p.6 2 段落目)

第 7 回目

“The Piazza” Presentation 6 と Comments (~p.7 2 段落目)

第 8 回目

“The Piazza” Presentation 7 と Comments (~p.8 3 段落目)

第 9 回目

“The Piazza” Presentation 8 と Comments (~p.9 6 段落目)

第 10 回目

“The Piazza” Presentation 9 と Comments (~p.10 2 段落目)

第 11 回目

“The Piazza” Presentation 10 と Comments (~p.11 3 段落目)

第 12 回目

“The Piazza” Presentation 11 と Comments (~p.12 1 段落目)

第 13 回目

“The Piazza” Presentation 12 と Comments (p.12 最後まで)

第 14 回目

“The Piazza” と個々の分析の Presentation

第 15 回目

“The Piazza” と先行研究分析

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

本講義で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語 (文法) レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 30% 授業態度、ゼミへの貢献度。

課題 40% Presentation、予習

Final paper 30%

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『The Piazza Tales』/Herman Melville/Northwestern University Press/1987/810114674/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード EGS3500F0J

科目名 英語英文学演習 I

ND6 DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 90

⑥担当教員名 東郷 多津 (とうごう たづ)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

備考 集中

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

グローバル人材育成が求められる中、学校現場においても、「自律・協同・創造」の理念のもと、生涯学び続けられる学習者を育成できるよう、教師主導型から学習者主体への転換が強く求められています。その理念のもと、主体的・対話的な深い学びを伴う学習方法が試行錯誤されています。本科目では、社会で求められている能力とその学習方法について知識・理解を深めたうえで、学習者の状況や能力に応じた英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. アクティブ・ラーニングの理論について基本的な知識を得る
2. 社会で求められる能力 (英語力を含む) に関する情報を収集する
3. 学びに役立つ学習方法について実践検証する

4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる
知識・理解力	英語教育学の分野に関する課題について何も語れない	英語教育学の分野に関する課題について読んだことがある	英語教育学の分野に関する課題についていくつか内容を知っている	幅広く、英語教育学分野の課題について知っており、それを第三者にわかりやすく説明できる
創造・発信力	英語教育学の分野について関心がない	英語教育学の分野について、第三者の指定した課題について調べることができる	英語教育学の分野について、第三者の助言を受けて、課題をみつけ、それについて調べることができる	英語教育学の分野について、自分で課題をみつけ、それについて調べることができる

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

第1章 アクティブラーニングとは ① 第1節 アクティブラーニング研究・実践の隆盛

第3回目

第1章 アクティブラーニングとは ② 第2節 アクティブラーニングの定義

第4回目

第2章 なぜアクティブラーニングか ① 第1節 教授学習パラダイムの転換

第5回目

第2章 なぜアクティブラーニングか ② 第2節 社会の変化に対応して

第6回目

第3章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ① 第1節 アクティブラーニング型授業の技法と戦略

第7回目

第3章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ② 第2節 アクティブラーニング型授業の実践

第8回目

第3章 さまざまなアクティブラーニング型授業 ③ 第3節 近接概念の相違

第9回目

卒業研究のための発表 ① 関連論文の発表

第10回目

第4章 アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫 ① 第1節 学習内容の深い理解を目指す

第11回目

第4章 アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫 ② 第3節 逆引き設計とアセスメント

第12回目

第4章 アクティブラーニング型授業の質を高めるための工夫 ③ 第5節 反転授業をおこなう

第13回目

第5章 揺れる教授学習観 ① 知識の定着とラーニングピラミッド

第14回目

第5章 揺れる教授学習観 ② プロジェクト学習

第15回目

卒業研究のための中間発表とまとめ 学生によるプレゼンテーション 学習課題の組み立て方

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

学びの質を転換するために、理論部分は反転授業形式で行い、授業では主に理論部分に関するディスカッションを行う。
また、具体的な技法については、実践演習を多く取り入れる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業に臨む際には以下が求められます。

- ・授業中のディスカッションに参加できるよう、必ずテキストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べておくこと。
- ・自分の担当箇所については A4-2 枚以上の文書にまとめること。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までに A4-1 枚程度に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表 30%

授業参加度 30%

レポート 40%

留意事項 (Other Information)

- ・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。
- ・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。
- ・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』 / 溝上慎一 / 東信堂 / 2014 / 9784798912462 / 学内販売有

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

人間科学研究法ハンドブック / 高橋 順一 (著), 大淵 憲一 (著), 渡辺 文夫 (著) / ナカニシヤ出版 第2版 / 2011 / 978-4779504198

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3500K0J
科目名	英語英文学演習 I
ND6	DP5 : 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山 哲春 (こやま てつはる)、York Weatherford (よーく うえざふおーど)、木島 菜菜子 (このしま ななこ)、Lyle De Souza (らいる で すーざ)
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	月曜・5 限

①科目の教育目標 (Course Description)

英語と日本語は言語距離の観点からは非常に離れた 2 言語であり、その意味では日本語母語話者が英語を習得することは至難の業であると言っても過言ではありません。それ故にこれまでも英語教育の現場では様々な教授法・指導法が試され、理論と実践の両面からその是非について議論されてきました。当ゼミでは、日本語を母語とする生徒たちが英語力をつけていくにはどのような学習法を取り、教師はどう指導するべきなのかを、応用言語学の知見を生かして、考えていきます。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 日本語との対比においての英語に関する諸般の知識の習得及び英語力の向上
2. 英語教育現場における諸問題と現状に関する知識

3. 4 技能の具体的教授法に関する知識
4. 応用言語学の知識の教育現場への応用
5. 論文作成にあたっての資料収集及び論文執筆の方法
6. 統計処理と科学的なアプローチ方法についての基礎知識

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

卒業研究とは何か

第 3 回目

問題発見の仕方・テーマの絞り込み

第 4 回目

英語と日本語の言語距離にまつわる諸問題

第 5 回目

母語と第 2 言語習得に関する問題

第 6 回目

ESL 環境と EFL 環境の違い

第 7 回目

諸英語教授法のプラス点とマイナス点

第 8 回目

現在の英語教育・政策と英語教科書

第 9 回目

4 技能の指導・インプットとアウトプット

第 10 回目

音声言語認知と文字言語認知の差異

第 11 回目

早期英語教育の是非

第 12 回目

文献の集め方・検索方法

第 13 回目

研究の進め方・研究計画書について

第 14 回目

卒業研究・プロポーザル中間発表とディスカッション Day 1 (学籍番号前半)

第 15 回目

卒業研究・プロポーザル中間発表とディスカッション Day 2 (学籍番号後半)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

授業では、文献の収集方法をはじめ、論文執筆に必要な諸知識からまず学んでもらいます。その後、応用言語学・英語教育関連の文献・学術論文などを紹介し、輪読形式でグループごとに担当箇所を決め、内容に関してのプレゼンテーションを行った後、全員でディスカッションを行います。授業の中心は担当教員の講義と学生の発表・ディスカッションを中心

とする演習形式で行われ、それに対して、教員からのフィードバックが与えられます。個々の学習は、授業で与えられるテキスト・配布文献・学術論文の精読と内容理解、発表の準備が中心となります。前期は、テキストを中心に研究方法論について学び、後期には、種々の文献・学術論文の購読を通じて、各自の卒業研究に向けてのトピックの絞り込みを行い、卒業研究のテーマについて、プロポーザルを作成してもらいます。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 指定されたテキスト・文献を事前に読み内容の理解と、疑問点の整理に努める。
2. 発表に当たっては、十分な事前準備と内容の精査を行うこと。
3. 他の学生・グループの発表に対して、積極的に質問・コメントを提示し、ディスカッションの際には、批判的な論議ができるよう、関連知識について理解を深めておくこと。
4. 理論や過去の実践から学ぶと共に、今まで自分が受けてきた英語教育と学習方法の問題点・課題を見つけること。
5. ゼミのディスカッションを通じて、それら個別の問題意識を問い直し、深めることで「卒業研究計画 (プロポーザル)」へとつなげること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表 40%、授業参加及びディスカッションへの貢献度 30%、Proposal Draft (中間発表) 30%

留意事項 (Other Information)

応用言語学の授業での使用テキスト『ことばの力学—応用言語学への招待—』(白井恭弘著/岩波書店/2013/9784004314196) についても各自必ず熟読のこと

10 分を超える遅刻は欠席とします

常に問題意識を持って授業に参加し、積極的に発言すること

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『言語教育学入門—応用言語学を言語教育に活かす—』/山内進 (編著) /大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り

『よくわかる卒論の書き方・第2版』/白井利明・高橋一郎/ミネルヴァ書房/2013/9784623065721/学内販売有り

テーマごとに必要に応じてプリント配布

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『ことばの力学—応用言語学への招待—』/白井恭弘/岩波書店/2013/9784004314196

『改訂版・英語教育用語辞典』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2011/9784469245394

『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics』/Jack C. Richards・Richard Schmidt/Routledge/2013/9781408204603

『社会言語学への招待』/田中春美・田中幸子/ミネルヴァ書房/1996/9784623026296

参考 URL(URL for Reference)

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は manaba のコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3550B0J
科目名	英語英文学演習Ⅱ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山 哲春（こやま てつはる）
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本ゼミは、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。「研究方法論」「英語英文学演習Ⅰ」で習得したコミュニケーション研究方法論に基づき、自身が興味を持つコミュニケーション現象を実際に研究し、これを論文として執筆するための研究技術を習得する。また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

<1> 方法論のさらなる理解（コミュニケーションを観察（データ収集）、分析するための具体的方法論をさらに向上させる）：理論的分析（言語理論による分析） 質問紙調査（アンケート）法 実験デザイン フィールドワーク（参与者観察）法

<2> 論文作成法習得（演習を通じて卒業研究のテーマを模索し、これを研究論文へと発展させる方法（文献研究、データ収集、分析、説明）について学習する。「コミュニケーション概論」「対人コミュニケーション」「異文化間コミュニケーション／Global English Lecture IC」「ことばとコミュニケーション」といった関連科目で扱われたトピックの中から、自分の関心に従って具体的なコミュニケーション現象を卒業研究のテーマとして選定し、明確な研究課題を設定して研究を開始する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

研究計画と論文執筆概説

第2回目

学術論文講読演習1：発話行為論

第3回目

学術論文講読演習2：語用論（会話の含意）

第4回目

学術論文講読演習3：語用論（一般的含意）

第5回目

学術論文講読演習4：語用論（関連性理論）

第6回目

学術論文講読演習5：Message Effect（擬似実験デザイン）

第7回目

学術論文講読演習 6 : Message Effect (相互作用分析)

第 8 回目

研究方法論 1 : Proposal 作成の基礎

第 9 回目

研究方法論 2 : 記述統計学

第 10 回目

研究方法論 3 : 推論統計学

第 11 回目

研究プロジェクト演習 1 : グループ発表とディスカッション (第 1 日 : 研究グループ 1、2)

第 12 回目

研究プロジェクト演習 2 : グループ発表とディスカッション (第 2 日 : 研究グループ 3、4)

第 13 回目

卒業研究 Proposal 発表 Day 1 (学籍番号順 前半)

第 14 回目

卒業研究 Proposal 発表 Day 2 (学籍番号順 後半)

第 15 回目

Course Review と卒業論文執筆要領

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

授業 : 本ゼミは、担当教員の講義、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表 : 学術論文 (後期) についての発表、および、自らが選んだトピック (コミュニケーション現象) を実際に分析した結果を口頭発表する。

卒業研究 Proposal 作成 : 前期の間に選択した複数のトピックから絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む
- (2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。
- (3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」に反映させるため、適宜 Proposal の執筆と相談を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表 1 (講読演習) 25%

発表 2 (グループ研究発表) 25%

ディスカッションへの貢献度 20%

Final Paper (卒業研究 Proposal) 30%

留意事項 (Other Information)

- (1) Final Paper の提出は 4 年次「卒業研究」の履修条件となります。
- (2) この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は manaba のコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版./2011//学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『コミュニケーション学 : その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード

EGS3550C0J

科目名

英語英文学演習 II

ND6

DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 須川 いずみ (すがわ いずみ)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

備考 集中

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

本コースは、今まで見てきた映画を、映像をメディアとした一つの芸術様式として読み直す場を提供する。その導入のために映像芸術を文学の一つの解釈として扱うことから始める。まず、小説の読解をした上で映画観賞をし、映像芸術の読み方を学び、やがて作品分析方法をいくつか習得する。次にそこに描かれている人間、文化、世界観について考える。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 映像芸術の基本的知識の把握
2. 個別作品の深い理解
3. 映画を読む
4. 作品及び映画作家の研究方法的習得
5. 論文作成のための作品選択と資料収集

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

卒業論文を考える 各自の卒業論文テーマの発表

第 2 回目

ヴィスコンティを学ぶ① ヴィスコンティの『ベニスに死す』と原作トーマス・マンとの比較を試みる。また、ターナーの絵画の海等ヴィスコンティの映像美について考察する。

第 3 回目

ヴィスコンティを学ぶ② ヴィスコンティの『家族の肖像』を読む。

第 4 回目

ヴィスコンティを学ぶ③ ヴィスコンティの作品と死のイメージ

第 5 回目

日本映画を学ぶ① 小津安二郎の『東京物語』

第 6 回目

日本映画を学ぶ② 『東京物語』と家族のかたち

第 7 回目

日本映画を学ぶ③ 小津安二郎のヨーロッパ映画への影響力

第 8 回目

日本映画を学ぶ④ 黒澤明の『乱』を考える

第 9 回目

日本映画を学ぶ⑤ 『乱』の映像メッセージ

第 10 回目

日本映画を学ぶ⑥ 黒澤明『蜘蛛の巣城』を考える

第 11 回目

比較論 クロサワとシェイクスピア

第 12 回目

映画で論文を書く① 論文書き方指導

第 13 回目

映画で論文を書く② 卒業論文テーマの個人発表

第 14 回目

映画で論文を書く③ アウトライン作成

第 15 回目

映画で論文を書く④ 総括とその他

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業方法

(1) 個々の作品及びスクリプトの精読

(2) 映画観賞 (前もってクラスで観る場合と課題の場合がある。)

(3) 個人発表

(4) ディスカッション

(5) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

2. 学習方法

(1) 授業で扱う作品は前もって配布するので、予め読んでおく。

質問に答えられるようにしておくこと。必ず作品について意見を求めるのでその準備が必要である。

(2) 指定された映画は観なければならない。

(3) 個々の作品についてレポートを提出する。

(4) 発表の時間がある。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

観た映画に関して、しっかりと自分の意見が言えるように準備してこなければならない。レポートの提出を求める。グループディスカッションと発表の時間がある。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、クラス・レスポンス 40%

Final Paper 60%

留意事項 (Other Information)

卒業論文を成功させるには、いち早く自分に合ったテーマを決めることなので、多くの映画作品を提供するつもりである。また、課外活動も活発に参加してもらいたい。尚、Final Paper の提出は4年次「卒業研究」の履修条件になる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

プリント

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード EGS3550D0J

科目名 英語英文学演習Ⅱ

ND6 DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 田口 茂樹 (たぐち しげき)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

英語英文学演習Ⅰで学んだ内容を、より深く掘り下げて、日・英語の構文研究を行います。学生はテキストからそれぞれトピックを選び、授業で発表します。卒業論文のアウトライン及び計画書を提出することが目標であるため、後半は自分が選んだトピックに関する発表をしてもらいます。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テキストの中から興味を持ったトピックを選び、口頭発表する。
2. データの収集と一般化を行う。
3. 一般化から、帰結を導き出す。
4. 口頭発表・論文作成についての方法論について学ぶ。
5. 卒業論文の提案書を作成・提出する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない。	先行研究をもとに多少考えることができる。	他者と意見交換をし、自分の意見を深めることができる。	深めた意見をみんなでまとめ、発信することができる。

③④授業計画

第 1 回目

ミニマリストプログラムの基礎 1

- ・テキスト第 1 章：1.1、1.2
- ・担当教員が説明します。
- ・論文の読み方について説明します。
- ・口頭発表についての注意点（ハンドアウトの作り方、参考文献の提示方法など）を伝えます。

第 2 回目

ミニマリストプログラムの基礎 2

- ・テキスト第 1 章：1.3、1.4
- ・学生 1 名が発表します。

第 3 回目

束縛関係

- ・テキスト第 2 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 4 回目

かき混ぜ変形

- ・テキスト第 3 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 5 回目

使役文

- ・テキスト第 4 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 6 回目

受動文

- ・テキスト第 5 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 7 回目

主要部内在型関係節

- ・テキスト第 6 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 8 回目

主格目的語構文

- ・テキスト第 7 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 9 回目

二重目的語構文

- ・テキスト第 8 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 10 回目

主語?目的語繰り上げ構文

- ・テキスト第 9 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 11 回目

分裂文

- ・テキスト第 10 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 12 回目

二重対格制約と格

- ・テキスト第 11 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 13 回目

主格／属格交替構文

- ・テキスト第 2 章
- ・学生 1 名が発表します。

第 14 回目

学生による口頭発表 1

- ・1 人 30 分（発表 20 分、質疑応答 10 分）

第 15 回目

学生による口頭発表 2

- ・1 人 30 分（発表 20 分、質疑応答 10 分）

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

- ・卒業論文の提案書

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・口頭発表とディスカッションを中心とした演習形式とします。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・並行して「研究方法論」と「英語英文学演習 I」の復習をしましょう。
- ・自分の担当箇所に限らず、全ての章をきちんと読んで、質疑応答できるようにしておきましょう。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

- ・口頭発表：40%
- ・卒業論文の提案書：60%

留意事項 (Other Information)

- ・卒業論文の提案書は 4 年次の授業の履修条件となります。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『新日本語の統語構造』/三原健一、平岩健(著)/松柏社/2006 年/4-7754-0124-6/学内販売有

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

- ・それぞれのトピックに関する文献を授業で紹介します。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3550E0J
科目名	英語英文学演習Ⅱ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	York Weatherford（よーく うえざふおーど）
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

The purpose of this course is to further students' understanding of the major topics in sociolinguistics. Students will gain an understanding of the field of sociolinguistics and become familiar with sociolinguistic theory and methods. Students will also learn about field methods, data gathering, and analysis. In addition, students will learn how to apply sociolinguistic concepts to critical approaches to language teaching.

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

The course will cover a wide variety of topics in the field of sociolinguistics, which may include: regional and social language variation; language and identity, power, ethnicity, gender, sexuality, and social contexts; language attitudes, language contact, and multilingualism.

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

Review of sociolinguistics

第2回目

Dominant and minority languages

第3回目

Linguistic imperialism

第4回目

English as an international language

第5回目

Language loyalty

第6回目

Language decline

第7回目

Language maintenance and revival

第8回目

Bilingualism and multilingualism

第9回目

Cognitive effects of bilingualism

第10回目

Pidgins and creoles

第 11 回目

Invented languages

第 12 回目

Language and religion

第 13 回目

Language and gender

第 14 回目

Presentations

第 15 回目

Presentations; Final Paper Due

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

All assigned readings and classroom discussions will be in English. This is not a lecture course, and students are expected to play an active role in all classroom activities. Class activities will include discussions, presentations, and project work.

Feedback methods:

Students will receive feedback on all in-class activities during each class. The instructor will also provide regular feedback on all written assignments.

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students are expected to do the assigned reading and prepare their answers to the discussion questions before each class.

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

In-class participation: 40%

Presentations: 20%

Project work: 10%

Final paper: 30%

留意事項 (Other Information)

Final Paper の提出は 4 年次「卒業研究」の履修条件となります。

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は manaba のコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

This course will be a blended course in the fall of 2020. This means some classes will be face-to-face and some classes will be asynchronous (manaba assignments). Therefore, you must look carefully on manaba each week in the Course News for specific instructions.

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『An Introduction to Sociolinguistics, Seventh Edition』/Ronald Wardhaugh and Janet M. Fuller/Wiley-Blackwell/2014/

『An Introduction to Sociolinguistics, Fifth Edition』/Janet Holmes/Routledge/2017/3/978-1138845015

『Sociolinguistics: A Very Short Introduction』/John Edwards/Oxford University Press/2013/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード EGS3550A0J

科目名 英語英文学演習Ⅱ

ND6 DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 90

⑥担当教員名 大川 淳 (おおかわ じゅん)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年 3 年次

開講学期

後期

⑤単位

2

備考

集中

曜日時限

水曜・3限

①科目の教育目標 (Course Description)

本科目では 19 世紀中期に活躍した作家 Herman Melville の短編を精読する。また 19 世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。

また、文学批評に関する知識を深め、独創的な観点から批評する力を養成することを目的とする。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テキストを精読する。(Close Reading)
2. 批評的視点を習得する。
3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。
4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチをおこなう。
5. 独創的な観点から文学作品を分析する力を養成する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

Introduction

第 2 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation1 と Comments (p.13~P.16 5 段落目)

第 3 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation2 と Comments (~p. 19 2 段落目)

第 4 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation3 と Comments (~p.22 4 段落目)

第 5 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation4 と Comments (~p.25 下から 3 段落目)

第 6 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation5 と Comments (~p.28 1 段落目)

第 7 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation6 と Comments (~p. 30 下から 4 段落目)

第 8 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation7 と Comments (~p.33 1 段落目)

第 9 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation8 と Comments (~p.35 2 段落目)

第 10 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation9 と Comments (~p.37 3 段落目)

第 11 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation10 と Comments (~p.40 7 段落目)

第 12 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation11 と Comments (~p.43 6 段落目)

第 13 回目

"Bartleby, the Scrivener" Presentation12 と Comments (~p.45 最後まで)

第 14 回目

“Bartleby” Presentation (個々の分析)

第 15 回目

“Bartleby” 先行研究分析

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

本科目で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語 (文法) レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。授業の進め方と学習の方法としては前期と同様であるが、より精緻な分析と考察を求めることになるので、事前学習では十分にテキストを分析しておくこと。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。

プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

平常点 30% 授業態度、ゼミへの貢献度。

課題 30% Presentation、予習

レポート 30% Critical Paper about “Bartleby”

Final Paper 10% 卒業論文の Proposal

留意事項 (Other Information)

Final Paper の提出は 4 年次「卒業研究」の履修条件となります。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『The Piazza Tales』/Herman Melville/Northwestern University Press/1987/810114674/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード EGS3550F0J

科目名 英語英文学演習Ⅱ

ND6 DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学習時間 90

⑥担当教員名 東郷 多津 (とうごう たづ)

科目区分 国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

備考 集中

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

前期に引き続き、生涯学習社会を見据えて、自分に合った英語の学びを選択できるよう、人間が学ぶこと、また学び方など、学びのしくみについて考えていくこととします。後期は、より幅広い意味での学習に着目し、自ら英語を勉強するために提供されている様々なプログラムおよび、オンラインサイトやスマホなどで提供されているソフトやアプリを、実践的に検証します。また、演習を通じて、学びのしくみについて理解し、説明できるようになること、その結果として、目的に合った英語カリキュラムを提案できるようになることを目指します。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

上記目標のために以下の達成を目指します。

1. 国内外の学びについて幅広い知識を身につける
2. キャリアに求められる英語力に関する情報を収集する。
3. 学びに役立つ検定とその向上プログラムを実践検証する。
4. 発表した内容をレポートとしてまとめる方法を学ぶ
5. 論文作成のための資料収集と論文作成の方法について学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	指示があっても動かない	指示された内容は実行できる	指示された内容を少し広げて実行できる	指示された内容から、自身の興味関心に結び付けて行動することができる
知識・理解力	英語教育学の分野に関する課題について何も語れない	英語教育学の分野に関する課題について読んだことがある	英語教育学の分野に関する課題についていくつか内容を知っている	幅広く、英語教育学分野の課題について知っており、それを第三者にわかりやすく説明できる
創造・発信力	英語教育学の分野について関心がない	英語教育学の分野について、第三者の指定した課題について調べることができる	英語教育学の分野について、第三者の助言を受けて、課題をみつけ、それについて調べることができる	英語教育学の分野について、自分で課題をみつけ、それについて調べることができる

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

01 The relevance of global skills

第 3 回目

02-1 Global skills and English language teaching (ppp.10-12)

第 4 回目

02-2 Global skills and English language teaching (pp.13-17)

第 5 回目

03 Assessing global skills in the ELT classroom (pp.18-21)

第 6 回目

卒業研究のための発表 ① Group A の学生によるプレゼンテーション

第 7 回目

卒業研究のための発表 ② Group B の学生によるプレゼンテーション

第 8 回目

04 Creating a global skills learning environment

第 9 回目

Conclusion

第 10 回目

Teaching activities for global skills 1 Shorter learning activities の紹介

第 11 回目

Teaching activities for global skills 2 Longer learning activities or project work の紹介

第 12 回目

Examples of classroom assessment

第 13 回目

Glossary

第 14 回目

卒業研究概要に関する発表とディスカッション (2) Group A によるプレゼンテーションとディスカッション

第 15 回目

卒業研究概要に関する発表とディスカッション (2) Group B によるプレゼンテーションとディスカッション

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

生涯教育の観点から、様々な学びに関する知識を習得するとともに、発表と英語検定、および、その向上プログラムやソフトを、お互いに紹介しながら、自分の目的に合う英語学習プログラムを構築する。同時に、社会で求められる英語力と紹介した検定、およびその向上プログラムやソフトに関連づけた目的別英語カリキュラムを提案する。授業終了時に振り返りシートを記入するとともに、発表時には、各自コメントシートを記入し、発表者へフィードバックする。

Final Paper の提出は4年次「卒業研究」の履修条件となります。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業に臨む際には以下が求められます。

- ・授業中のディスカッションに参加できるよう、必ずテキストを精読し、不明な用語は参考文献や辞書等で調べておくこと。
- ・自分の担当箇所については A4-2 枚以上の文書にまとめること。
- ・自分の担当箇所以外については、翌週までに A4-1 枚程度に、理解できなかった箇所や自分の意見を含めてまとめること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

成績は以下を参考に総合的に評価します。

発表 30%

授業参加度 30%

レポート 40%

留意事項 (Other Information)

- ・発表担当者の無断欠席は授業の進行の妨げとなるため、大きく減点されます。
- ・授業中は積極的な参加が求められます。全員に意見を求めますので、発表担当者だけではなく、全員必ず指定された箇所の予習を行って、授業に臨んでください。
- ・実習や就活等でやむを得ず欠席する場合は、欠席した箇所のテキストや提出されたクラスメートのレポートを参考に、出席時と同様にレポートを提出してください。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

Our experts advise on Global Skills: Creating Empowered 21st Century Citizens/ Oxford University Press/ 2019/

各自以下の URL からダウンロードして持参すること

file:///C:/Users/kndutg/Downloads/oup-expert-global-skills.pdf

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

大学英語教育学-その方向性と諸分野 (英語教育学体系 第1巻) / 森住衛他編/ 大修館書店/ 2010

ビジネスミーティング英語力/ 大学英語教育学会 EBP 調査研究特別委員会・国際ビジネスコミュニケーション協会/ 朝日出版社/ 2015

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3550H0J
科目名	英語英文学演習Ⅱ
ND6	DP5 : 共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	90
⑥担当教員名	Steven Herder (すていーぶん はーだー)
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標 (Course Description)

This course aims to continue exploring leadership in a systematic and thought-provoking way. Using an experiential approach, known in the literature as a cycle of experience, reflection, generalization, and application. Our learning community will pursue a deeper understanding of leadership, specifically within the construct of application. Students will be expected to narrow down this vast field into one specific and pertinent area that can form the basis of an original piece of either quantitative or qualitative research by the end of the course.

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. We will continue to explore current issues and concepts in the field of leadership through readings, discussions and student presentations.
2. We will also focus on how to research and write a graduation thesis.

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解 力 Expectations: Understand lesson contents; Identify personal interests; Choose areas to research;	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力: Expectations: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to become a semi-expert in some area	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

③④授業計画

第1回目

Leadership skills assessment

Academic Research and Writing Workshop

第2回目

Seeing others perspectives

Academic Research and Writing Workshop

第3回目

Gender & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第4回目

Culture & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第5回目

Communication & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第6回目

Ethics & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第7回目

Assumptions & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第8回目

Oral Report on Personal Research Topic

第9回目

Decision making & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第 10 回目

Community & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第 11 回目

Community building & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第 12 回目

Group dynamics & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第 13 回目

Conflict & leadership

Academic Research and Writing Workshop

第 14 回目

Final Oral Report I

第 15 回目

Final Oral Report II

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

Students will need to come to class prepared to be active learners. This means not only reading and understanding a text, but also preparing questions and opinions about the text. Students will be assigned leadership roles as facilitators, active listeners, and group reporters. Students will do two Oral Reports on their intended graduation thesis research.

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

Students will be led through the essentials of researching and writing an academic graduation thesis. Students will need to demonstrate their understanding of concepts through peer teaching and oral presentations.

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

Participation 40%

Oral Report on Personal Research Topic 30%

Final Oral Report 30%

留意事項 (Other Information)

This course will be a blended course in the Fall of 2020. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

Final Paper の提出は 4 年次「卒業研究」の履修条件となります。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

Handouts

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

To be announced in class

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード

EGS3550K0J

科目名

英語英文学演習 II

ND6

DP5 : 共生・協働する力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名

小山 哲春 (こやま てつはる)、York Weatherford (よーく うえざふおーど)、木島 菜菜子 (このしま ななこ)、Lyle De Souza (らいる で すーざ)

科目区分

国際言語文化学部 > 英語英文学科

学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	月曜・5 限

①科目の教育目標 (Course Description)

英語と日本語は言語距離の観点からは非常に離れた 2 言語であり、その意味では日本語母語話者が英語を習得することは至難の業であると言っても過言ではありません。それ故にこれまでも英語教育の現場では様々な教授法・指導法が試され、理論と実践の両面からその是非について議論されてきました。当ゼミでは、日本語を母語とする生徒たちが英語力をつけていくにはどのような学習法を取り、教師はどう指導するべきなのかを、応用言語学の知見を生かして、考えていきます。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 日本語との対比においての英語に関する諸般の知識の習得及び英語力の向上
2. 英語教育現場における諸問題と現状に関する知識
3. 4 技能の具体的教授法に関する知識
4. 応用言語学の知識の教育現場への応用
5. 論文作成にあたっての資料収集及び論文執筆の方法
6. 統計処理と科学的なアプローチ方法についての基礎知識

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

研究計画と論文執筆の進め方

第 2 回目

文献の引用方法

第 3 回目

実際の論文の書き方

第 4 回目

先行研究の読み方

第 5 回目

英語による文献の読み方

第 6 回目

学術論文輪読演習 1 (言語習得)

第 7 回目

学術論文輪読演習 2 (教授法)

第 8 回目

学術論文輪読演習 3 (英語教材)

第 9 回目

学術論文輪読演習 4 (4 技能)

第 10 回目

学術論文輪読演習 5 (音声認知)

第 11 回目

グループ別プレゼンテーションとディスカッション Group A

第 12 回目

グループ別プレゼンテーションとディスカッション Group B

第 13 回目

卒業研究・プロポーザル発表とディスカッション Day 1 (学籍番号前半)

第 14 回目

卒業研究・プロポーザル発表とディスカッション Day 2 (学籍番号後半)

第 15 回目

Course Review と卒業論文について

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

授業では、文献の収集方法をはじめ、論文執筆に必要な諸知識からまず学んでもらいます。その後、応用言語学・英語教育関連の文献・学術論文などを紹介し、輪読形式でグループごとに担当箇所を決め、内容に関してのプレゼンテーションを行った後、全員でディスカッションを行います。授業の中心は担当教員の講義と学生の発表・ディスカッションを中心とする演習形式で行われ、それに対して、教員からのフィードバックが与えられます。個々の学習は、授業で与えられるテキスト・配布文献・学術論文の精読と内容理解、発表の準備が中心となります。前期は、テキストを中心に研究方法論について学び、後期には、種々の文献・学術論文の購読を通じて、各自の卒業研究に向けてのトピックの絞り込みを行い、卒業研究のテーマについて、プロポーザルを作成してもらいます。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 指定されたテキスト・文献を事前に読み内容の理解と、疑問点の整理に努める。
2. 発表に当たっては、十分な事前準備と内容の精査を行うこと。
3. 他の学生・グループの発表に対して、積極的に質問・コメントを提示し、ディスカッションの際には、批判的な論議ができるよう、関連知識について理解を深めておくこと。
4. 理論や過去の実践から学ぶと共に、今まで自分が受けてきた英語教育と学習方法の問題点・課題を見つけること。
5. ゼミのディスカッションを通じて、それら個別の問題意識を問い直し、深めることで「卒業研究計画 (プロポーザル)」へとつなげること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

発表 40%、授業参加及びディスカッションへの貢献度 30%、Final Paper (プロポーザル) 30%

留意事項 (Other Information)

この授業は対面とオンラインによるブレンド型授業です。授業の指示は manaba のコースニュースによって行います。したがって、すべての受講生は毎回、必ずコースニュースを確認して授業に臨んでください。

応用言語学の授業での使用テキスト『ことばの力学—応用言語学への招待—』(白井恭弘著/岩波書店/2013/9784004314196) についても各自必ず熟読のこと

10 分を超える遅刻は欠席とします

常に問題意識を持って授業に参加し、積極的に発言すること

Final Paper の提出は 4 年次「卒業研究」の履修条件となります

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『言語教育学入門—応用言語学を言語教育に活かす—』/山内進 (編著) /大修館書店/2003/9784469244892/学内販売有り

『よくわかる卒論の書き方・第 2 版』/白井利明・高橋一郎/ミネルヴァ書房/2013/9784623065721/学内販売有り

テーマごとに必要に応じてプリント配布

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『ことばの力学—応用言語学への招待—』/白井恭弘/岩波書店/2013/9784004314196

『改訂版・英語教育用語辞典』/白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則/大修館書店/2011/9784469245394

『Longman Dictionary of Language Teaching & Applied Linguistics』/Jack C. Richards・Richard Schmidt/Routledge/2013/9781408204603

『社会言語学への招待』/田中春美・田中幸子/ミネルヴァ書房/1996/9784623026296

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3600A0J
科目名	専門演習 I
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	岩崎 れい (いわさき れい)
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係など、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 各自が関心のあるテーマを探し、それについて学ぶと同時に、研究対象とするために明確な問題意識を持つ。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。
 - 1) 卒業論文の作成プロセスを学ぶと共に、文献探索法を身につける。
 - 2) 各自の研究テーマに基づき、研究計画を立てる。
 - 3) 各自のテーマに沿って、調査・研究を進める中で、情報の収集だけでなく、その選択・利用の方法を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

論文執筆のプロセス

第 3 回目

卒業論文テーマの探し方

第 4 回目

卒論のための図書館利用と文献探索の基礎

第 5 回目

テーマ探索のための解説と討議

第 6 回目

テーマ (1) 例) 図書館における子どもへのサービス

第 7 回目

テーマ (2) 例) 子どもの発達と遊び

第 8 回目

テーマ (3) 例) 子どもの絵本の選び方

第9回目

卒論のための図書館利用と文献探索の応用（1）

第10回目

卒論テーマ探しのプロセス発表（ゼミ発表）

第11回目

文献読解と発表

第12回目

フィールドワーク（1）

第13回目

文献読解と発表

第14回目

研究方法の模索（ゼミ発表）

第15回目

夏休みに向けての課題（ゼミ発表）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 子どもの文化、といっても幅が広いので、具体的な内容は受講生の関心に合わせて調整する。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する基本的な知識や現状、他者の考え方を把握する。
4. 3をもとに、ゼミの中で討論することで、他の学生の考え方を知り、自分の考察を深めていく。
5. フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 文献読解では担当する文献を事前に読み、その要約に考察を加えたレジュメを作成する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物 70%、授業参加度 30%とし、総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。ゲスト講師による授業を行うこともある。

必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合、交通費が必要となる場合もある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
プリント配布

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3600B0J
科目名	専門演習 I
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	久野 将健（くの まさたけ）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主体的な研究を尊重しながら進めていきたい。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める
2. 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

導入（ゼミの進め方について）

第 2 回目

クリティカル・リーディング（どうやって本を読むか？）

第 3 回目

クリティカル・リーディング（問いを立てる）

第 4 回目

クリティカル・リーディング（論理の構造）

第 5 回目

クリティカル・リーディング（問いの発展）

第 6 回目

資料検索（その実際）

第 7 回目

資料検索（統計情報の種類と入手方法）

第 8 回目

データ収集・分析（データ分析とはどういうことか？）

第 9 回目

データ収集・分析（データの種類について）

第 10 回目

データ収集・分析（データ分析を伴う研究のポイント）

第 11 回目

グループ学習（そのポイントと効果）

第 12 回目

グループ学習と IT 利用

第 13 回目

ディベート

第 14 回目

成果発表

第 15 回目

まとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野（音楽史、音楽文化、音楽表現等）の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (30 点)、課題等 (70 点) に基づいて総合的に行う。欠席回数が 1/3 を超過した場合 (6 回以上の欠席) は、原則として単位を与えられないので注意すること。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『マンガで教養 CD 付 はじめてのクラシック』/飯尾洋一/朝日新聞出版/2017 年/402333183X/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『決定版 はじめての音楽史: 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』/片桐功他/音楽之友社/2017 年/427611019X

『詳説総合音楽史年表—音楽を世界の歴史からグローバルにとらえる』/皆川達夫/倉田喜弘監修/教育芸術社/2004 年/487788212X 適宜紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3600C0J
科目名	専門演習 I
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	鎌田 均 (かまだ ひとし)
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

出版、活字文化、そして、それと密接に関わってきた図書館は長い歴史を経て発展してきたが、現在のインターネットを中心とした情報化社会においてそれらは大きく変わりつつある。このゼミでは、出版、図書館を含むが、それに捉われず情報、メディア全般をテーマとする。様々な情報メディアを取り扱い、情報を探す、利用する、保存する、発信する、また提供する、といった点における諸問題や過去から現在への変遷について考える。さらに現代社会における情報にかかわる諸問題、また文化と情報との関係、文化を発信する力といった面もと取りあげる。そして、書物からインターネットまで、過去から現在に至る多様なメディアを読みとって、なにかを発見したり、検証する能力を身につける。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 出版、情報メディアの歴史、諸問題について理解を深める。
2. 情報を探索し、分析、または繋げて行くことで研究テーマを見つける。
3. 調査、研究、論文、プレゼンテーション等での発表の方法を習得する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
----	--------------	-------	-------	-------

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	自身の関心あるテーマについて考えたり調べたりすることがほとんどなく、それについての説明も不適切かつ不十分	自身の関心あるテーマに関する考えることや調べることが十分ではなく、それについての説明も不足している	自身の関心あるテーマに関して考え、調べ、その内容について説明することができる	自身の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる

③④授業計画

第1回目

ガイダンス（ゼミの進め方、各自の興味のあるテーマについてなど）

第2回目

情報をどのように理解し、利用するか

第3回目

フィールドワーク

第4回目

論文講読、発表の準備

第5回目

発表とディスカッション（出版、インターネットなどのメディア）

第6回目

発表とディスカッション（情報、メディアを扱う機関）

第7回目

発表とディスカッション（情報の利用）

第8回目

発表とディスカッション（情報発信）

第9回目

研究テーマ探求のための情報収集

第10回目

調査、研究方法

第11回目

論文の構成と各項目の役割

第12回目

各自の興味あるテーマに関しての発表

第13回目

各自の興味あるテーマに関しての発表（発表に関連するディスカッション、補足）

第14回目

各自の興味あるテーマに関しての発表（レポート作成作業）

第15回目

まとめ：学習内容の確認と課題についての講評

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

受講者全員がその日に学ぶ部分のテキストや論文を読んできたことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表を行う。授業中に発表についてフィードバックをする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

事前に指定された、または自身で選択した文献を読み、その内容についてまとめ、発表の準備をする。調査、情報収集が必要な課題については、図書館、インターネット等で調べてくる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業内活動への参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

関連するテーマについてゲスト講師による授業、学外見学を行うこともある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3600D0J

科目名 専門演習 I

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 朱 鳳 (しゅ ほう)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

< 共通目標 >

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

< 個別クラスのねらい >

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。
2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な文章力、資料調査方法を身につける。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究 (西洋言語からの翻訳語、日本との共有)。
3. 現代日中ことばの交流 (漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有)
4. 東西およびアジアの多文化交流 (文学、民俗、言語、人物などなど)。
5. 授業の最終回において、提出されたレポートを返却し、振り返り学習をする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
思考・解決力	文献講読に全く興味がない。ゼミ発表も全く参加しない。	文献講読内容をあまり理解できていない。ゼミ発表も欠席がある。	文献講読内容がある程度理解できている。ゼミ発表も欠席せずに参加する。	文献講読内容をほぼ理解できている。ゼミ発表も積極的に参加し、自分の意見をしっかりと述べる。
創造・発信力	卒業研究のテーマ、形式について全く考えていない。	卒業研究のテーマ、形式について少し考えている。	卒業研究のテーマ、形式についてある程度考えて、文献資料を少し用意出来ている。	卒業研究のテーマ、形式について積極的に考え、文献資料もほぼ用意できている。

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第2回目

各自の研究題目について議論する

第3回目

レジュメ及び参考文献リストの作成方法

第4回目

中国語と日本語の漢字語彙について

第5回目

近代日中ことばの交流（明治時代を中心に）に関する論文を読む（1）経済用語を中心に

第6回目

近代日中ことばの交流（明治時代を中心に）に関する論文を読む（2）法律用語を中心に

第7回目

フィールドワーク（1） 京都の街にある漢字語彙を探そう（1）一案内標示を中心に

第8回目

発表（1） 日中の共通語彙について

第9回目

現代日中ことばの交流に関する論文を読む（1） 漫画用語を中心に

第10回目

現代日中ことばの交流に関する論文を読む（2） 飲食用語を中心に

第11回目

フィールドワーク（2） 京都の街にある漢字語彙を探そう（2）一暖簾を中心に

第12回目

発表（2） 京都の街にある漢字語彙について

第13回目

卒業論文の資料について 図書館での研究関連資料の探し方

第14回目

卒業論文について 卒業論文題目と章立てを考える、レポート提出

第15回目

まとめ レポート返却、振り返り学習

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

- 1.文献、研究論文を読む。
- 2.それぞれの興味のあるテーマを見つける。
- 3.自分のテーマに関係のある参考書を調べ、文献リストを作る。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

上記の作業を繰り返し行い、参考文献の調査方法、参考書、研究論文の読み方を覚えてもらう。また前期では2回発表を行い、レジュメの作り方、図書の調べ方なども身につけてもらう。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

10

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

評価は授業参加度 30 点、発表内容及び課題提出 70 点による総合評価である。欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合は、原則として単位を与えない。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師によるスペシャル授業を行うこともある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

適時にプリントを配布する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

科目名	専門演習 I
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	鷲見 朗子 (すみ あきこ)
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

アラブと魔法の文化ゼミ (担当者: 鷲見朗子)

1. このゼミでは大きく分けて2つの異なる分野を扱い、ゼミ生はいずれの分野からテーマを選んでもよい。
1つ目はアラブ・中東・イスラームの分野で、それらについての文学、歴史、宗教、政治、女性学、社会学、芸術等を調査し、明らかにする。中東の映画作品を扱ってもよい。
- 2つ目は魔法を含めたファンタジーの分野で、この分野は時代、地域の枠にとらわれず、幅広いファンタジー作品を対象にする。ファンタジーとは、魔法を含む超自然的、幻想的、空想的事物をテーマやストーリーの主要要素におき、それらの不可思議さに作品の魅力を求めたものを指す。
2. 各自が上の分野から卒業研究テーマを見つけるために、関心のある事柄について学術論文及び本を読む。
3. 論文を書くための基礎となる文献の探し方・読み方と論文の書き方や記述表現なども学んでいく。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. アラブ・中東・イスラームの分野についての調査
2. ファンタジー分野についての調査
3. 文献調査・文献収集
4. 文献の読解・映画の分析
5. 論文の書き方

ループリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上で、応用につなげる
思考・解決力	宿題、課題に取り組む	宿題、課題に積極的に取り組む	できなかった課題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやる	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす

③④授業計画

第1回目

イントロダクション

第2回目

テーマの選び方

第3回目

アラブ

第4回目

中東

第5回目

イスラーム

第6回目

文献精読とパラフレーズ

第7回目

ファンタジー（定義）

第8回目

ファンタジー（種類）

第9回目

ファンタジー（日本・西洋）

第10回目

論文の書き方

第11回目

文献調査法

第12回目

文献収集法

第13回目

発表の仕方

第14回目

発表資料の作り方

第15回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

卒業研究テーマを選ぶために、テキストを含めたさまざまな作品や文献を読む。文献読解によって、知識を深めるとともに、学生が自分自身で問題提起を行い、論理的に主張を組み立て、まとめる力を培う。また、論文を作成するのに必要な文献収集法および発表に必要な発表資料の作り方や発表の仕方などのスキルも学んでいく。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 課題作品・文献や自分の興味のあるテーマに関する文献を読む。
2. 読んだ作品・文献についてほかのゼミ生と意見交換を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加態度 50%、発表・レポート 50%によって評価する。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師による授業を行うこともある。また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3600G0J

科目名 専門演習 I

ND6 DP6：創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 中里 郁子（なかざと いুকこ）

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのおねらい＞聖書およびキリスト教関連の文献の研究を通してキリスト教の思想と文化について理解を深めることを目的とする。文献の研究や討論や発表を通して、聖書における世界観、人間観、キリスト教思想を理解し、卒業論文作成に向けてテーマを見出すことができる。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。3 発表の仕方を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
キリスト教に関する文献を精読し、解釈する方法を学ぶ	キリスト教関連文書を読み、理解しようとする	キリスト教関連文書を読むための基礎知識があり、おおむね解釈することができる。	キリスト教関連文書を読解するための基礎知識と批判的に理解する力があり、独創的な視点から解釈することができる。	キリスト教関連文書を読解するための基礎知識と批判的に理解する力があり、独創的な視点から解釈し、討議し、小論文にまとめることができる。
討議し、プレゼンテーションする力を身に着ける	グループで自分のテーマについてプレゼンテーションしようとする	グループで自分のテーマについて概ね的確にプレゼンテーションすることができる	グループで自分のテーマについての的確にプレゼンテーションすることができ、さらに他者と討議することができる	グループで自分のテーマについてプレゼンテーションすることができ、さらに他者と討議して、他者との意見交換によって理解を深めることができる

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

卒業論文のテーマの選び方

第 3 回目

論文作成の方法

第 4 回目

研究のための図書館での文献探索

第 5 回目

聖書釈義の方法

第 6 回目

キリスト教関連文書を読解の基礎

第 7 回目

フィールドワーク (キリスト教と芸術)

第 8 回目

卒論テーマ探索に関する解説とディスカッション

第 9 回目

文献の解説と討論 (例：聖書に登場する女性)

第 10 回目

文献の解説と討論 (例：キリスト教と美術)

第 11 回目

文献の解説と討論 (例：キリスト教の祝祭)

第 12 回目

発表資料の作成方法

第 13 回目

フィールドワーク（キリスト教と食文化）

第 14 回目

文献読解と発表

第 15 回目

後期に向けて

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

- 1 自分が掘り下げようとするテーマを発見し、卒業論文への方向付けを行う準備をする
- 2 受講生の関心に合わせて聖書やキリスト教関連の文書を選定し、その研究方法を学び文献や資料を読んで知識を深める。
- 3 フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、キリスト教文化の理解を深める
- 4 上記の研究をもとに、ゼミの中で討論を行い、自分の考えを発表し、他の受講者との意見交換を行う。
- 5 自分の研究をレポートにまとめる。
- 6 授業内で、発表およびレポートの講評を行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

- 1 文献の読解では担当する箇所と参考文献を事前に読み、発表するためのレジメを用意する。
- 2 フィールドワークに参加して、文献で学んだことを、異なった角度から学ぶよう努める。
- 3 卒業論文のテーマを見つけるために多様な文献に触れ、多面からそのテーマに関する理解を深めるようつとめる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（30%）、発表・レポート（70%）に基づいて総合的に行う。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師による授業を行うこともある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009/9.78820212713E11/学内販売をしない予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3600H0J

科目名 専門演習 I

ND6 DP6：創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 河野 有時（この ありとき）

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞テーマ作品（「秒速5センチメートル」）を対象として、各自の興味により、様々な角度や方法で作品世界を論じていく。その過程により、作品を分析する方法について自覚的になる。また、発表とディスカッションにより、コミュニケーション能力を養う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 自らテーマと方法を選択する。
2. 参考文献、資料を収集し整理する。
3. 口頭発表の準備をし、口頭発表を行う。
4. 「専門演習Ⅱ」のテーマについて考える。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている術語について理解できていない。	授業の内容や用いられている術語について、理解している。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を把握することができない。	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法により解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	議論や意見交換に参加しようとすることができない。	議論や意見交換に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加し、異なる考え方を尊重できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法によって表現することができる。

③④授業計画

第1回目

イントロダクション

第2回目

アカデミック・ライティングにむけて

第3回目

対象作品の論じ方（1）―物語の内容について

第4回目

対象作品の論じ方（2）―物語の方法について

第5回目

資料と参考文献について

第6回目

研究文献を読む（1）―研究史を整理する

第7回目

研究文献を読む（2）―先行研究を分析し批評する

第8回目

受講生による発表とディスカッション（1）

第9回目

受講生による発表とディスカッション（2）

第 10 回目

受講生による発表とディスカッション (3)

第 11 回目

受講生による発表とディスカッション (4)

第 12 回目

受講生による発表とディスカッション (5)

第 13 回目

受講生による発表とディスカッション (6)

第 14 回目

発表とディスカッションをふり返って

第 15 回目

専門演習Ⅱにむけて

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 担当者は自分で選択したテーマと方法に基づき資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. ディスカッションによって明らかになった課題については次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. テーマ作品を鑑賞して、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、先行研究と自分の考えを対比させてみる。
3. 自分の考えたことがどのように表現できるか、検討する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (40%) と発表内容 (60%) とに基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。ゲスト講師による授業を行うこともある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
プリントを配付する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3600I0J
科目名	専門演習 I
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学習時間	60
⑥担当教員名	平野 美保 (ひらの みほ)
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科 (実践的科目)
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

< 共通目標 > 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野

ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>学習や実践を通して、話しことばに関する自己の興味・関心を見つけ、卒業研究に向けての「問い」を考える。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

(1) 話しことばに関する基礎知識を深めるとともに、技能向上に努めることで、「話しことば」について考察し、卒業研究のテーマを検討する。

(2) 研究方法の基礎を習得する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自己課題を認識していない。	自己課題を認識している。	自己課題を適切に認識し、改善している。	自己課題を適切に認識し、高度な技能等を獲得している。
知識・理解力	放送など公的場面で話す意味を理解していない。	放送など公的場面で話す意味を理解している。	放送などで話すための、その望ましい在り方を理解している。	放送など話すことについて理解し、創意工夫に努めている。

③④授業計画

第1回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ番組の企画

第2回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ①、企画

第3回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ②、準備

第4回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ③、準備、資料収集

第5回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ④、内容・方法の検討

第6回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ⑤、準備・練習

第7回目

話しことばに関する研究・制作 準備・練習

第8回目

話しことばに関する研究・制作 リハーサル①

第9回目

話しことばに関する研究・制作 リハーサル②

第10回目

話しことばに関する研究・制作 実践①（フィールドワーク等）

第11回目

話しことばに関する研究・制作 実践②（フィールドワーク等）

第12回目

話しことばに関する研究・制作 振り返り

第13回目

一斉授業（実施回未定）

第14回目

卒業研究・制作 卒業研究・制作に関する概要

第15回目

卒業研究・制作 論文の書き方、各人の研究・制作の検討

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

(1) 各人のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。

(2) 研究に必要な方法について実践的に取り組み、卒業研究に活かせるようにする。

(3) 「話しことば」に関する技能を向上させる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・課題について、発表等の準備をする。
- ・研究に関連する文献を収集し、内容を把握する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

50

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

- ・ゲスト講師による授業を行うことがある。
- ・学外授業を行うため、交通費などが必要である。
- ・さらにプロジェクトを実施する場合がある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 ラジオパーソナリティの経験あり

講義コード CSS3600K0J

科目名 専門演習 I

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 吉田 朋子 (よしだ ともこ)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

自分の関心のあるテーマについて、情報収集し、考察を深め、発信する技術を身につける。担当教員の専門は 17 世紀末～19 世紀初めの西洋美術史だが、卒論のテーマについてはなるべく希望に沿うように柔軟に対応する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

関心のあるテーマについて学術的に調査し、得られた情報と考察を、分かりやすく発信するパンフレットと制作意図を解説する企画書を作成する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組めていない	課題に主体的に取り組んでいる	自分で進行管理しながら期限までに課題を仕上げている	目指す水準を自分で設定し、それに向けて努力できる
知識・理解力	自分の関心対象についてあいまいな知識しかない	自分の関心対象について基本的な知識がある	自分の関心対象についてどのような調査をすればよいか理解している	自分の関心対象について可能な限り情報を収集している

言語力	自分の関心対象についてうまく説明できない	自分の関心対象について基本的な情報を明確にまとめている	自分の関心対象について詳しい情報と魅力を分かりやすく伝えることが出来る	自分の関心対象について、図解や図版を巧みに併用して分かりやすく伝えられる
思考・解決力	自分の関心対象について深く考えたことがない	自分の関心対象について様々な角度から検討している	自分の関心対象について自分なりの問いを見つけられている	自分なりの問いを明らかにしようとして取り組んでいる
創造・発信力	効果的な表現について考えたことがない	様々な実例を見て、効果的な表現を指摘できる	自分なりに試行錯誤して効果的な表現を目指している	状況や受け手のことを考えて表現の手法を選択できている

③④授業計画

第1回目

イントロダクション イン트로ダクション

第2回目

発表 仮テーマについて

第3回目

辞典・事典の活用 自分のテーマに関わる事項

第4回目

図書館の活用 自分のテーマに関わる様々な文献資料

第5回目

インターネットの活用 画像データベース・博物館ホームページなどの活用

第6回目

パンフレット制作 全体の構成の計画

第7回目

パンフレット制作 図版とキャプション

第8回目

パンフレット制作 解説文の検討

第9回目

パンフレット制作 実例（雑誌特集記事など）の研究

第10回目

パンフレット制作 途中経過の発表

第11回目

パンフレット制作 参考文献リスト

第12回目

フィールドワーク 博物館（実施回未定）

第13回目

フィールドワーク 展覧会鑑賞（実施回未定）

第14回目

フィールドワーク 京都の文化財（実施回未定）

第15回目

まとめの発表 制作したパンフレットの発表

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 各自の関心を持つテーマについて調査する。
 2. 調査結果を発表し、議論を通じて考察を深める。
 3. 情報と考察を発信するパンフレット・制作意図を解説する企画書を制作する。
- ・manabaで提出された企画書へのコメントを本人に公開してフィードバックとする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 必要な調査を行い、発表できる形にしていく。
2. パンフレットと企画書の制作に向け、必要な作業を行う。

3. 日頃から、展覧会や寺社仏閣などで美術作品に触れる機会をつくる。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 50%、制作物 (パンフレット) と企画書の成績 50%で評価を行う。

留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。フィールドワークに関して、費用負担が発生することがあり、授業講時以外への振り替えの可能性がある。フィールドワークの目的地については、変更する可能性がある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

適宜配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『イメージ (上)』/前田茂・要真理子/ナカニシヤ出版/2011/9784779505546

『イメージ (下)』/前田茂・要真理子/ナカニシヤ出版/2012/9784779505553

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会/専修大学出版局/2006/4881251740

そのほか、適宜紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3600L0J

科目名 専門演習 I

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 石川 裕之 (いしかわ ひろゆき)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 前期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 他者に対する捉え方や理解のあり方は自らを映す鏡でもある。わが国に最も近い隣国であり、歴史的に深い関係を持ってきた韓国の社会と文化について、多様な視点から考察することを通じ、韓国という国やそこで暮らす人々についての理解を深める。さらに、韓国を合わせ鏡とすることで、日本という国や日本で暮らす人々について再考することを目指す。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- 1) 卒業論文とは何かについて理解している。
- 2) 韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけている。
- 3) 他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えることができる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
卒業論文とは何かについての理解	卒業論文とは何かについて理解していない	卒業論文とは何かについて理解している		
韓国の社会と文化に関する基礎的な知識	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけていない	韓国の社会と文化に関する基礎的な知識を身につけている		
他国と自国の社会・文化についての比較	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えるこ	他国の社会と文化を通じて自国の社会と文化について考えることができる		

考察	とができない			
----	--------	--	--	--

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

卒業論文とレポートの違い

第3回目

図書館の利用法と文献検索の方法

第4回目

基礎文献読解①ーソウルの現在ー

第5回目

基礎文献読解②ー朝鮮と韓国ー

第6回目

基礎文献読解③ー日常の心得ー

第7回目

基礎文献読解④ー街角の言語ー

第8回目

基礎文献読解⑤ー食事に見る世界観ー

第9回目

基礎文献読解⑥ー女たちの世界、化粧と美容整形ー

第10回目

基礎文献読解⑦ー男たちの世界、徴兵制ー

第11回目

基礎文献読解⑧ー映画の新しい波ー

第12回目

基礎文献読解⑨ー日本観の変化ー

第13回目

基礎文献読解⑩ーソウルの食べ物日記ー

第14回目

基礎文献読解⑪ー韓国の色彩ー

第15回目

基礎文献読解⑫ーウリと他者ー

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポート

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・ 検討対象となる文献を精読し、その内容を正確に理解する。
- ・ 文献の内容について、その背景や関連する情報について調べ、理解をさらに深める。
- ・ 理解したことを参加者間で共有し、それらについてディスカッションをおこなう。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

事前に配布する文献や資料を各自しっかりと読んでくること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業内容の理解度 40%

授業参加度 40% (ディスカッションへの貢献度など)

レポート 20%

留意事項 (Other Information)

- ・ 各回の授業テーマについて主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。
- ・ ゲスト講師による授業をおこなうことがある。
- ・ フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

四方田犬彦『NHK 人間講座 大好きな韓国』日本放送出版協会、2002年、ISBN : 978-4141890676、学内販売無(絶版)

のため購入不可、授業内で資料を配布する)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業内で紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3650A0J

科目名 専門演習Ⅱ

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 岩崎 れい (いわさき れい)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。
2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。(専門演習Ⅰの1)～3)から続く。)
- 4) 研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。
- 5) 論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。
3. 卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。

③④授業計画

第 1 回目

前期及び夏休みの成果発表 (ゼミ発表)

第 2 回目

テーマについての合議

第 3 回目

テーマ 1 についての講義・討論 例) 子どものための図書館・博物館

第 4 回目

テーマ 2 についての講義・討論 例) 児童文学と子どもの発達

第5回目

フィールドワーク（1）

第6回目

テーマ3についての講義・討論 例) 子どものメディア利用とその課題

第7回目

卒論のための図書館利用と文献探索の応用

第8回目

卒論テーマの明確化と問いの探求（ゼミ発表）

第9回目

テーマ1に関する発表・討論 例) 子どものための図書館・博物館

第10回目

テーマ2に関する発表・討論 例) 児童文学と子どもの発達

第11回目

テーマ3に関する発表・討論 例) 子どものメディア利用とその課題

第12回目

フィールドワーク（2）

第13回目

ゼミ発表及び研究方法についての討論

第14回目

卒業研究に向けての情報の整理と利用

第15回目

4年次に向けての準備

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。
2. 各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。
3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。
4. 3をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。
5. フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。
2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。
3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物 70%、授業参加度 30%とし、総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師による授業を行うこともある。テーマは学生の関心に応じて変更することもある。

必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合交通費等がかかることもある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

プリント配布

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード

CSS3650B0J

科目名

専門演習Ⅱ

ND6

DP6：創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 久野 将健 (くの まさたけ)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主体的な研究を尊重しながら進めていきたい。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める
2. 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

導入 (後期ゼミの進め方について)

第 2 回目

卒業論文作成の方法 1 (はじめに)

第 3 回目

卒業論文作成の方法 2 (テーマを決める)

第 4 回目

卒業論文作成の方法 3 (参考文献を調べる)

第 5 回目

卒業論文作成の方法 4 (目次を立てる)

第 6 回目

資料検索 (その実際)

第 7 回目

資料検索 (統計情報の種類と入手方法)

第 8 回目

データ収集・分析 (データ分析とはどういうことか?)

第 9 回目

データ収集・分析 (データの種類について)

第 10 回目

データ収集・分析 (データ分析を伴う研究のポイント)

第 11 回目

卒業論文構想 1 (内容検討)

第 12 回目

卒業論文構想2（文章表現）

第13回目

ディベート

第14回目

成果発表

第15回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野（音楽史、音楽文化、音楽表現等）の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

評価は、授業参加度（30点）、課題等（70点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合（6回以上の欠席）は、原則として単位を与えられないので注意すること。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『西洋音楽史（放送大学教材）』/岡田暁生/放送大学教育振興会/2013年/4595314116/学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

適宜紹介する。

参考URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3650C0J

科目名 専門演習Ⅱ

ND6 DP6：創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 鎌田 均（かまだ ひとし）

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2限

①科目の教育目標（Course Description）

<共通目標>

国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

専門演習Ⅰの内容に基づいて、関連する分野で自分の興味のある研究テーマを見つけ、それを研究課題として完成させ、研究計画を作成する方法、研究を進めるに必要な技術を学ぶ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 発表、ディスカッションを通して、各自が関心のあるテーマから論文として完成可能な課題を見つける。
2. 論文作成の手順、技術またそれに必要な調査、研究方法を習得する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	自身の関心あるテーマについて考えたり調べたりすることがほとんどなく、それについての説明も不適切かつ不十分	自身の関心あるテーマに関する考えることや調べることが十分ではなく、それについての説明も不足している	自身の関心あるテーマに関して考え、調べ、その内容について説明することができる	自身の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる

③④授業計画

第1回目

テーマを研究課題にする

第2回目

テーマを研究課題とするための調査、情報収集

第3回目

課題の設定と解決方法：必要な調査、情報の同定

第4回目

課題解決までのステップ：論文アウトライン

第5回目

情報の入手、分析、課題解決への利用

第6回目

課題の再確認：先行研究の確認と達成可能性のチェック

第7回目

情報の利用、論文作成のルール

第8回目

議論、論述の方法と研究、分析の方法

第9回目

実際の論文、論文報告から学ぶ

第10回目

タスクマネジメント：作業、スケジュールの管理

第11回目

フィールドワーク

第12回目

各自の卒業研究に関する発表

第13回目

各自の卒業研究に関する発表（今後の課題の同定）

第14回目

論文の序章の提出とディスカッション

第15回目

まとめ（各自の卒業論文完成へのスケジュール管理についての確認）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

受講者全員が指示された事前学習を行ったことを前提に、ディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。授業の内容によっては、各自が発表し、内容についてフィードバックをする。授業の内容に即した学外見学を随時行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

授業で指示した資料を読み、また授業で提示された課題について図書館、インターネット等を利用して事前に調べてくる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業内活動への参加 (40%)、授業ごとの諸課題のレポート、クラス発表などによる評価 (60%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業、学外見学、フィールドワークを行うこともある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3650D0J

科目名 専門演習Ⅱ

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 朱 鳳 (しゅ ほう)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標>

国際日本学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

このクラスでは二つのねらいがある。

1. 日中におけることばの共有の歴史に関する基本知識を学ぶ。
2. 卒業論文或いは卒業制作をまとめるに必要な文章力、資料調査方法を身につける。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

ゼミ生の卒業論文テーマによって、学習課題を微調整するが、主に次の課題を取り扱う。

1. 資料の探し方、論文作成に必要な文献リストの作り方。
2. 明治以降のことば研究 (西洋言語からの翻訳語、日本との共有)。
3. 現代日中ことばの交流 (漫画、ドラマ、貿易などによる新しいことばの共有)
4. 東西およびアジアの多文化交流 (文学、民俗、言語、人物などなど)。
5. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
思考・解決力	文献講読に全く興味がない。ゼミ発表も全く参加しない。	文献講読内容をあまり理解できていない。ゼミ発表も欠席がある。	文献講読内容をある程度理解できている。ゼミ発表も欠席せずに参加する。	文献講読内容をほぼ理解できている。ゼミ発表も積極的に参加し、自分の意見をしっかり述べる。
創造・発信力	卒業研究のテーマ、形式について全く考えていない。	卒業研究のテーマ、形式について少し考えている。	卒業研究のテーマ、形式についてある程度考えて、文献資料を少し用意出来ている。	卒業研究のテーマ、形式について積極的に考え、文献資料もほぼ用意できている。

③④授業計画

第 1 回目

卒業論文と卒業制作の構成について

第2回目

多文化交流（文学1） 小説に関する論文を読む

第3回目

多文化交流（文学2） 詩に関する論文を読む

第4回目

多文化交流（民俗1） 自然観に関する論文を読む

第5回目

多文化交流（民俗2） 審美観に関する論文を読む

第6回目

フィールドワーク（1） 京都の街にある多文化事象を探そう（1）一看板を中心に

第7回目

発表(1) 多文化交流について

第8回目

多文化交流（人物1） 宣教師の文化活動に関する論文を読む

第9回目

多文化交流（人物2） 外国訪問使節団に関する論文を読む

第10回目

多文化交流（出版物1） 近代翻訳書に関する論文を読む

第11回目

多文化交流（出版物2） 近代外国語学習辞書に関する論文を読む

第12回目

発表（2） 近代化における宣教師の役割について

第13回目

フィールドワーク2 京都の街にある多文化事象を探そう（2）一建築物を中心に

第14回目

卒業論文について 卒業論文、卒業制作に関する Q&A、レポート提出

第15回目

まとめ レポート返却、振り返り学習

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1.参考書及び関連論文を読み、自分のテーマに関するレポートを提出し、授業で発表する。 2.クラス全員でお互い発表したテーマについて議論する。 3.卒業論文のテーマを決める。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

発表と議論を通して、研究論文の構成及び書き方の基本を身につけること。後半では卒業論文の章立てを構成し、4 年次の卒業論文作成の基礎をつくる。前期と同様に2回の発表も予定している。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

10

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

評価は授業参加度 30 点、発表内容及び課題提出 70 点による総合評価である。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を与えない。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師による授業を行うこともある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

適時にプリントを配布する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

科目名	専門演習Ⅱ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	鷲見 朗子（すみ あきこ）
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

＜共通目標＞国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞ アラブと魔法の文化ゼミ（担当者：鷲見朗子）

「専門演習Ⅰ」で培った基本的知識と方法論を土台に、卒業研究テーマを絞っていく。アラブ・中東・イスラームの分野かファンタジーの分野から関心のある事柄について学術論文及び本を読み、その内容を報告・発表する。各発表では意見交換を行い、知識を共有することをめざす。また、それぞれにふさわしい方法論を選択し、それらに関する見解を深めていく。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. テーマの選択
2. 発表の実践
3. 引用の仕方・参考文献の書き方

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	授業に出席する	授業に主体的に参加する	授業で学習したことを基盤に自ら関連テーマに関心を抱く	授業で学習したこと以外に自ら関連テーマについて調べる
知識・理解力	学習したことを理解しようとする	学習したことを理解し、覚えようとする	学習したことを理解し、覚えていく	学習したことを理解し覚えた上で、応用につなげる
思考・解決力	宿題、課題に取り組む	宿題、課題に積極的に取り組む	できなかった問題を再度やってみる	自ら課題を考え解決する
共生・協働する力	グループを組んでグループワークをやろうとする	グループを組んでグループワークを行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行う	誰とでもグループを組んでグループワークを積極的に行うことで、他のメンバーを伸ばす

③④授業計画

第 1 回目

おおまかなテーマの発表

第 2 回目

アラブ・中東分野の文献調査

第 3 回目

アラブ・イスラーム分野の文献読解

第 4 回目

ゼミ生による発表と討論①アラブ

第 5 回目

ゼミ生による発表と討論②中東

第 6 回目

ゼミ生による発表と討論③イスラーム

第7回目

ファンタジー分野の文献調査

第8回目

ファンタジー分野の文献読解

第9回目

ゼミ生による発表と討論④魔法

第10回目

ゼミ生による発表と討論⑤想像上の生き物

第11回目

ゼミ生による発表と討論⑥ファンタジー映画

第12回目

引用の仕方

第13回目

参考文献リストの作成

第14回目

テーマまたは題目の確定と発表

第15回目

まとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

本授業では各自が選んだテーマにそって、関連文献を読み、それについて発表を行うことで、知識を深めるとともに卒業論文を書く準備を整える。論文作成に不可欠となる引用方法や参考文献の明記法もさらに実践を通して習得していく。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

選んだテーマに関連する文献を読んで、発表の準備をする。その際、発表資料も作成する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加態度 50%、発表・レポート 50%によって評価する。

留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。また、授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3650G0J

科目名 専門演習Ⅱ

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 中里 郁子 (なかざと いくこ)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>専門演習Ⅰ 参照

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- 1 各自が卒業論文のテーマを見出すために、専門分野の知識を深め、研究方法を学ぶ。
- 2 論文作成のための文献収集法を学び研究の計画を立てる。
- 3 発表の仕方を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
聖書を釈義するための方法に関する知識と理解力を養う	聖書の方法を知ろうとする	聖書を読解し解釈する方法に関する知識がある	聖書を読解し解釈する方法に関する知識があり、それを応用して実践的に聖書釈義を行うことができる	聖書を読解し解釈する方法に関する知識があり、それを応用して実践的に聖書釈義を行う理解力があり、キリスト教に関する文書の文化的・社会的背景を概ね理解し、発展的な研究を行うことができる
創造的に研究し発信する力を高める	研究を発表しようとする	研究テーマに関する文献を理解し、クラスで発表することができる	研究テーマに関する文献を理解し、クラスで発表し、討議を通じて研究を発展させることができる	研究テーマに関する文献を理解し、要点を抑えて発表することができ、また高度なレベルで討議する力があり、研究を創造的に独自の視点から発展させ、深めることができる

③④授業計画

第1回目

イントロダクション

第2回目

テーマの発表

第3回目

論文の方法について

第4回目

聖書学関連の文献調査

第5回目

聖書に題材とした詩画についての討論

第6回目

聖書を題材とした美術についての討論

第7回目

キリスト教の祝祭についての討論

第8回目

キリスト教の文化受肉についての討論

第9回目

フィールドワーク

第10回目

聖書に題材とした詩画についての発表

第11回目

聖書を題材とした美術についての発表

第12回目

キリスト教の祝祭についての発表

第13回目

キリスト教の文化受肉についての発表

第14回目

参考文献リストの作成と題目の発表

第15回目

まとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- 1 文化的背景を考慮しつつ聖書を解釈するためのさまざまな方法を学んで聖書のテキストを釈義する。
- 2 福音書やキリスト教に関する書籍を読み、文化的・社会的背景を研究しつつ釈義し、発表してレポートにまとめる
- 3 フィールドワークを実施し、聖書の背景となる文化やキリスト教に関連する芸術作品等の展示を見学して、聖書の理解を深める
- 4 授業内で発表およびレポートについての講評を行う

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各自がテーマを選び、そのテーマに従って関連する論文や書籍を読んで発表を行う。専門分野の知識を深め、論文作成のための方法を実践的に学ぶ。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、発表・レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

ゲスト講師による授業を行うこともある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『聖書 旧約聖書続編つき』//日本聖書協会/2009//学内販売をしない予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考文献は授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3650H0J
科目名	専門演習Ⅱ
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	河野 有時 (この ありとき)
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 「専門演習Ⅰ」では、テーマ作品に対する発表とディスカッションを通して、作品を論じる方法について学んできた。「専門演習Ⅱ」では、自分のテーマや作品や方法を模索し、卒業研究・卒業制作に着実に取り組めるような準備を行う。また、発表とディスカッションにより、コミュニケーション能力を養う。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 自ら作品やテーマ、方法を選択する。
2. 作品やテーマ、方法に即した参考文献、資料を収集し整理する。
3. 口頭発表の準備をし、口頭発表を行う。
4. 卒業論文・卒業制作のテーマを考える。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとしていない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。

知識・理解力	授業の内容や用いられている術語について理解できていない。	授業の内容や用いられている術語について、理解している。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	授業の内容や用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
言語力	自分の考えを言語を用いて表現できない。	自分の考えを言語を用いて表現できる。	自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を把握することができない。	課題の問題点を把握し、解決するための手法を検討することができる。	課題の問題点を明らかにし、検討した手法により解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	議論や意見交換に参加しようとすることがない。	議論や意見交換に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加することができる。	議論や意見交換に積極的に参加し、異なる考え方を尊重できる。
創造・発信力	自分の考えを表現できない。	自分の考えを表現することができる。	自分の考えを効果的な手段によって表現することができる。	自分の考えを効果的な手段と手法とによって表現することができる。

③④授業計画

第1回目

イントロダクション

第2回目

卒業論文・卒業制作にむけて（1）―卒業論文・卒業制作とは何か―

第3回目

卒業論文・卒業制作にむけて（2）―本文と資料―

第4回目

卒業論文・卒業制作にむけて（3）―研究史との対話―

第5回目

卒業論文・卒業制作のブレ構想検討会

第6回目

受講生による発表とディスカッション（1）―日本近代小説―

第7回目

受講生による発表とディスカッション（2）―日本現代小説―

第8回目

受講生による発表とディスカッション（3）―日本近代詩歌―

第9回目

受講生による発表とディスカッション（4）―日本現代詩歌―

第10回目

受講生による発表とディスカッション（5）―表象文化（漫画・アニメ・映画）―

第11回目

受講生による発表とディスカッション（6）―表象文化（漫画・アニメ・映画）―

第12回目

発表とディスカッションをふり返って

第13回目

卒業論文（卒業制作）の構想発表

第14回目

卒業制作（卒業論文）の構想発表

第15回目

卒業論文・卒業制作の計画と準備

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート
実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業は主として演習形式で行う。
2. 担当者は自分で選択したテーマと方法に基づき資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者とディスカッションを行い、考察を深める。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. ディスカッションによって明らかになった課題については次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 作品を読んで、自分の感じたことをまとめておく。
2. 参考文献や資料を読み、先行研究と自分の考えを対比させてみる。
3. 自分の考えたことがどのように表現できるか、検討する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (40%) と発表内容 (60%) とに基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。ゲスト講師による授業を行うこともある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
プリントを配付する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3650I0J

科目名 専門演習Ⅱ

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 平野 美保 (ひらの みほ)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>

- (1) 各自のテーマ決定に向けて、関連の内容を学習する。
- (2) 卒業論文作成のための方法を身につける。
- (3) 話しことばに関する技能向上に努めることによって、各人のテーマを深める。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 各自のテーマに関する知識を増やし、多様な視点から考察する。
- (2) 各自の興味・関心によるテーマについて発表し、討議する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
----	--------------	-------	-------	-------

自分を育てる力	自己管理ができない。	自己課題等を認識している。	主体的に授業内容について準備を進めている。	主体的に高度なレベルで準備を進めている。
卒業論文・制作	卒業論文・制作の方法を理解していない。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集することができる。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集し要約等を行うことができる。	卒業論文・制作の方法を理解し、文献を収集し、論述等を行うことができる。
言語力	自己の卒業論文・制作について説明できない。	自己の論文・制作について説明できる。	自己の論文・制作とともに他者の研究等について、意見等を述べることができる。	自己の論文・制作について端的に述べることも、他者の研究についても的確に意見等を述べることもできる。

③④授業計画

第1回目

イントロダクション

第2回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ、企画

第3回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ、企画、資料収集

第4回目

話しことばに関する研究・制作 ラジオ（公的場面）で話すということ、台本作成

第5回目

話しことばに関する研究・制作 練習、提出資料作成

第6回目

話しことばに関する研究・制作 練習、提出資料修正

第7回目

話しことばに関する研究・制作 キューシート作成、リハーサル

第8回目

話しことばに関する研究・制作 キューシート修正、リハーサル

第9回目

話しことばに関する研究・制作 本番

第10回目

卒業研究 研究計画報告

第11回目

卒業研究 研究計画書検討 A（背景、目的、章立て、文献）

第12回目

卒業研究 研究計画書検討 B（背景、目的、章立て、文献）

第13回目

卒業研究 修正版 卒業研究検討 A

第14回目

一斉授業（実施回未定）

第15回目

卒業研究 修正版 卒業研究検討 B

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

- （1）論文作成のための内容・方法の基礎を把握する。
 - （2）各自の興味・関心によるテーマについて発表し、ゼミで討議する。
- ・課題に対して、随時フィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各自のテーマについて調査し、まとめ、発表の準備をする。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、発表 (50%) に基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

- ・ゲスト講師による授業を行うことがある。
- ・フィールドワークに行く場合、交通費などが必要である。
- ・授業内で資料を配付する。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『レポート・論文・プレゼン スキルズ』/石坂春秋/くろしお出版/2003/4874242731

『論文ワークブック』/浜尾麻里他/くろしお出版/1997/4874241271

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード CSS3650K0J

科目名 専門演習Ⅱ

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 60

⑥担当教員名 吉田 朋子 (よしだ ともこ)

科目区分 国際言語文化学部 > 国際日本文化学科

学年 3 年次

開講学期 後期

⑤単位 2

曜日時限 水曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい> 1. 専門演習Ⅰで学んだ知識を実践しながら、調査研究を進める。2. 発表と討論の中で、自分の考えを明確にする。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 学術的な論文の構成を理解し、実践する。2. 作品情報、参考文献の入手方法を学ぶ。3. 卒業研究に関する発表と討論を通じて、自分の目標を明確にする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組めない。	課題に主体的に取り組んでいる。	自分で課題の計画を立てて進行管理ができる。	自分で目指す目標を設定して努力できる。
知識・理解力	学術論文の組み立てや作法を理解していない	学術論文の組み立てを理解し、自分のアウトラインを作成している	卒業論文・卒業制作の執筆を一部開始している	自分の研究を先行研究の文脈に位置づけて取り組んでいる
言語力	学術論文を読んだことがない	学術論文を読み、適切なレジュメを作成できる	アウトラインを作成して、文章を設計できる。	論文に適した文章スタイルを用いて、論理的な文章を書くことができる。
思考・解決力	自分のテーマを明確にできていない。	自分のテーマを絞り込んでいる。	テーマへのアプローチ方法を検討し、準備を始めている。	様々なアプローチの中で、自分が選んだものの良さと限界を説明できる。

③④授業計画

第1回目

イントロダクション 仮テーマ確認と論文講読について

第2回目

論文講読 西洋美術史（ルネサンス） ※変更の可能性はある

第3回目

論文講読 西洋美術史（バロック） ※変更の可能性はある

第4回目

論文講読 西洋美術史（18～19世紀） ※変更の可能性はある

第5回目

論文講読 西洋美術史（現代） ※変更の可能性はある

第6回目

論文講読 日本美術史 ※変更の可能性はある

第7回目

論文の構成 学術論文の構成

第8回目

文献リスト 文献リストの実例を検討する

第9回目

先行研究 各自のテーマに関する先行研究

第10回目

アウトライン アウトラインとは何か

第11回目

発表 仮アウトラインの発表

第12回目

フィールドワーク 卒論テーマに関連する施設へのフィールドワーク（実施回未定）

第13回目

フィールドワーク 美術館へのフィールドワーク（実施回未定）

第14回目

フィールドワーク 資料収集のフィールドワーク（実施回未定）

第15回目

まとめ 総括、卒論仮テーマに関するレポート提出

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 学術的な論文を読み、レジュメを作成することをとおして、論文の構成を理解する。卒業研究テーマについて、口頭発表を行い、議論する。

2. 情報検索のしかた、参考文献の探し方について指導する。

3. 卒業研究テーマをほぼ決定し、レポートを書いて提出する。

・manabaで提出されたレポートへのコメントを本人に公開してフィードバックとする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 講読する論文は全員が読んでくる。担当者はレジュメを作成する。

2. 文献収集などの課題を確実にやり、発表できる形にしてくる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

45

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度 50%、発表やレポートの成績 50%で評価を行う。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師による授業を行うこともある。フィールドワークに関して、費用負担が発生することがあり、授業講時以外への振り替えの可能性はある。フィールドワークの目的地については、変更する可能性がある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
プリント配布。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『はじめての美術史』/マルシア・ポイントン 木下哲夫訳/スカイドア/1995/4915879259

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3650L0J
科目名	専門演習Ⅱ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	石川 裕之（いしかわ ひろゆき）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4 年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

<個別クラスのねらい>専門演習Ⅰでの学びをふまえ、卒業研究・卒業制作へとつながる各自の関心テーマについて関連文献・資料を探し、精読し、その内容を整理し、発表する。さらに、発表内容について全員でディスカッションをおこなう。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけている。
- ・自らの問題関心を明らかにし、それを適切な方法で他者へ伝えることができる。
- ・関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけていない	卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識・技能を身につけている		
自らの問題関心についての他者への伝達	自らの問題関心を適切な方法で他者へ伝えることができない	自らの問題関心を適切な方法で他者へ伝えることができる		
関心テーマについて「問い」と学術的論文の作成	関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができない	関心テーマについて「問い」を立て、それを学術的論文の作成につなげることができる		

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

関心テーマの絞り方―ブレインストーミングと KJ 法―

第 3 回目

リサーチクエスションの立て方―素朴な疑問を学術的「問い」へと導く―

第 4 回目

論文の基本的な構成

第 5 回目

研究調査の方法

第 6 回目

論文作成に関する基本的なルールと注意点

第7回目

論理的思考の仕方と論理的な文章の書き方

第8回目

卒業論文の目次（仮）を立ててみる①－何を問題とするか－

第9回目

卒業論文の目次（仮）を立ててみる②－問題を解くためにどんな情報が必要か－

第10回目

卒業論文の目次（仮）を立ててみる③－どんな手順で問題を解いていくか－

第11回目

各自の関心テーマについての発表①－例）大学入試制度の特徴と課題－

第12回目

各自の関心テーマについての発表②－例）家族のあり方の変化とその背景－

第13回目

各自の関心テーマについての発表③－例）日韓交流の歴史と現在－

第14回目

各自の関心テーマについての発表④－例）食文化の日韓比較－

第15回目

各自の関心テーマについての発表⑤－例）韓流ドラマにみる国際政治戦略－

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

・これまであいまいな状態にあった自らの問題関心について見つめ直し、それを意識化・言語化することで、卒業研究・卒業制作へとつながる明確な「問い」を立てる。

・自らの関心テーマについて調べて理解したことを客観的かつ論理的なかたちで他者へ伝えるための方法と技術を学ぶ。同時に、自らの理解したことを他者へ正確に伝えることの難しさや、自らの意見や主張について他者を説得することの難しさについても学ぶ。

・各自が自らの関心テーマに取り組むとともに、他のメンバーの関心テーマについても学び、考え、議論していく。

・4年次になってスムーズに卒業研究・卒業制作をスタートできるよう準備をおこなう。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

卒業研究・卒業制作の成否は、関心テーマについての「問い」の立て方のよしあしにかかっているといっても過言ではないので、しっかりと取り組むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業内容の理解度 20%

発表 40%

授業参加度 40%（ディスカッションへの貢献度など）

留意事項（Other Information）

- ・各回の授業テーマや発表内容について主体的・能動的に考察し、ディスカッション等に積極的に参加すること。
- ・ゲスト講師による授業をおこなうことがある。
- ・フィールドワークに行くことがある。その場合、交通費などの実費がかかる。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

なし。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業内で紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSA2453N1J
科目名	情報科学演習
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤 泰子（いとう やすこ）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科 > 国際日本文化学科（実践的科目）
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「IT パスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT（information technology：情報技術）人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があり、それをどのように活用すべきかを学習していく。現在のネットワーク社会において必要不可欠なデータベース、ネットワーク、セキュリティなどの技術・知識も習得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・コンピュータの基礎理論
- ・コンピュータシステムのしくみ
- ・ソフトウェアとハードウェア
- ・インターフェイスとマルチメディア
- ・データベース
- ・ネットワーク
- ・セキュリティ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

コンピュータの基礎理論

第 3 回目

アルゴリズムとプログラム

第 4 回目

コンピュータシステムのしくみ

第 5 回目

ハードウェア

第 6 回目

インターフェイス

第 7 回目

ソフトウェア

第 8 回目

マルチメディア

第 9 回目

データベースの基礎知識

第 10 回目

データベースの応用技術

第 11 回目

ネットワークの基礎知識

第 12 回目

ネットワークの応用技術

第 13 回目

セキュリティ

第 14 回目

暗号化技術

第 15 回目

試験とまとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。
- ・定期的に小テストを行う。

フィードバックとして、テスト実施後に解答の解説を行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (40%)、テスト (60%)

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『よくわかるマスター IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集』/富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM 出版)/FOM 出版/

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード	GCP2650A0J
科目名	インターンシップA
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	濱中 倫秀（はまなか りんしゅう）
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
学年	2年次、3年次、4年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

就業体験を通して、自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、主体的な職業選択が出来るようになる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。
- ・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。
- ・就業体験を通して学び得た事と、今後の行動計画をまとめ、ポスターセッション形式で発表する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

事前研修① インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明

第2回目

事前研修②実習先の研究成果についての発表・目標立案

第3回目

実習① 実習先での就業体験

第4回目

実習② 実習先での就業体験

第5回目

実習③ 実習先での就業体験

第6回目

実習④ 実習先での就業体験

第7回目

実習⑤ 実習先での就業体験

第8回目

実習⑥ 実習先での就業体験

第9回目

実習⑦ 実習先での就業体験

第10回目

実習⑧ 実習先での就業体験

第11回目

実習⑨ 実習先での就業体験

第 12 回目

実習⑩ 実習先での就業体験

第 13 回目

事後研修① 実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明

第 14 回目

事後研修② 実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備

第 15 回目

成果発表会 学び得たことと今後の行動計画の発表

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。(事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する)

提出するレポートは下記の通り。いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。

1.実習前／実習先についての事前レポート

2.実習中／毎日記入する実習日誌

3.実習後／事後レポート

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。
- ・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。
- ・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。
- ・夏休みの暑い時期にあたるので、水分補給や十分な睡眠等、体調管理を万全にすること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業態度 85% (実習先の評価 60%、事前・事後研修および成果発表会の評価 25%)

レポート 15% (未提出者は評価対象外) で評価する。

※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。

留意事項 (Other Information)

- ・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。
- ・キャリアセンターからの連絡、指示は掲示によることが多いので、各自で掲示板を確認し、把握しておくこと。
- ・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。
- ・遅刻、欠席厳禁

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

中小企業での採用人事経験あり。

講義コード GCP2650B0J

科目名 インターンシップB

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 30

⑥担当教員名 須川 いずみ (すがわ いずみ)

科目区分 共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)

学年 2 年次、3 年次、4 年次

開講学期 集中

⑤単位 2

①科目の教育目標 (Course Description)

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（コーオブ教育）は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。本プログラムは、キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムである。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

プロジェクトを通して、様々な角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることが目標である。受入先が提示したプロジェクトのテーマに沿って成果重視の活動を行うプログラムとなっており、受入先にとってもメリットとなっている。そのため専門性や独創性および協調性が求められている。講義では、具体的にプロジェクトを推進しながら目標を修正し、そのつど受入先とすりあわせながら検討を重ねていく。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

<プロジェクトの導入>

第1講、第2講 6/11 (木) オリエンテーション、プロジェクトのテーマの共有とチーム形成

<プロジェクトの形成>

第3講、第4講 6/18 (木) コミュニケーショントレーニング、プロジェクトの形成
(ワークシートの進め方、ワークシート①)

第5講、第6講 6/25 (木) プレゼンテーショントレーニング

第7講、第8講 7/2 (木) プロジェクトの形成 (ワークシート②③)

第9講、第10講 7/9 (木) プロジェクト・マネジメント (今後の活動確認、意見交換など)

第11講～第13講 9/3 (木) サマーセッション・プロジェクト・マネジメント (夏期活動中間報告)、サマーセッション

夏季休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行う。

<プロジェクトの振り返り>

第14講、第15講 10/1 (木) プロジェクト・マネジメント (夏期活動最終報告)

第16講、第17講 10/8 (木) プロジェクト・マネジメント (評価方法の概要、ワークシート④)

第18講、第19講 10/22 (木) プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備)

<プロジェクト報告・評価>

第20講～第23講 11/7 (土) 10:40～19:00 プロジェクト・マネジメント (自己評価)、プレゼンテーション、修了式、懇親会

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

6月～11月の約5ヵ月間、企業・行政機関・非営利組織（NPO・NGO等）が提示したテーマに沿ってプロジェクト型のインターンシップを行う。

・授業予定については、「インターンシップ・プログラム2020年度募集ガイド」で確認すること。授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をすること
- ・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。
- ・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。

・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

① 講義の受講状況 20%

② 学習レポートの内容 20%

③ 実習の参加状況 (受入先実習状況報告書の評価を参考) 50%

④ 全体を通じて成長が見られるか 10%

合計 100%

留意事項 (Other Information)

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、長期プロジェクトコースと受入先を選択し、事前にweb申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要がある。

①説明・相談会：

2020年4月18日(土) プログラム事前説明会・相談会

2020年4月23日(木) 長期プロジェクトコース説明会・相談会

②出願・面接日：2020年5月15日(金)、5月16日(土)

③Web申込期間：2020年4月17日(金)～5月13日(水)

詳細は、大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせること。なお、学内説明会は4月に実施予定である。

・インターンシップB(長期プロジェクトコース)は3年次生推奨である。

・別途、受講料が必要である。

・会場はすべて、キャンパスプラザ京都となる。

・学習レポートおよびプロジェクト報告書提出期間は、11月12日(木) 15:00～19:00 である(提出場所はキャンパスプラザ京都)。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

<http://www.consortium.or.jp/project/intern>

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

講義コード	GCP2650C0J
科目名	インターンシップC
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学習時間	30
⑥担当教員名	須川 いずみ (すがわ いずみ)
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)
学年	2年次、3年次、4年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標 (Course Description)

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム(コオプ教育)は、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラムである。本プログラムは、キャリア教育プログラムとしての側面も有し、単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、「社会人基礎力の育成」をも目的とした教育プログラムである。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

事前学習から実習、続いて事後学習という体系化された学習プログラムを通じて、実社会への理解を深め、社会性や職業観を身につけるとともに、実習後の学生生活における課題の整理と目標を明らかにすることを目指す。

事前学習・事後学習では、業界・業種別、或いは行政・非営利組織(NPO・NGO等)別にクラスを編成し、他大学の学生

と共に業界研究やディスカッション等を行うことで、目標を達成させる。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

<事前学習>

第 1 講～第 5 講 6/13 (土) 10:00～18:10 オリエンテーション①、リスクマネジメント講習①、クラスの相互理解、実習に向けた仮説と目標の設定、コミュニケーショントレーニング

原則、6/18～7/3 に実習先を訪問し、実習内容・期間の確認などの指導を受ける。

第 6 講～第 9 講 6/27 (土) 10:00～16:50 業界と社会に対する学習①②、スキルアップトレーニング

第 10 講～第 13 講 7/4 (土) 10:00～17:30 実習に向けた仮説と目標の設定①②③、リスクマネジメント講習②、オリエンテーション②

<実習>

原則、8/1～9/18 に実習を実施する。期間中に担当コーディネーターによる中間指導がある。

<事後学習>

第 14 講～第 18 講 9/19 (土) 10:00～17:40 実習経験の共有①②③、実習経験交流会、実習経験の振り返り／全体講評／修了式

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

8 月上旬～9 月中旬に、企業・行政機関・非営利組織 (NPO・NGO 等) において、2 週間～1 ヶ月程度の実習を行う。

・授業予定については、「インターンシップ・プログラム 2020 年度募集ガイド」で確認すること。

・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・インターンシップ実習先に関しては、HP 等で十分に企業研究をすること
- ・実習に行く前に指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考えること。
- ・現場で働く社会人に質問できる内容を考えておくこと。
- ・夏休みの暑い時期にあたるので体調管理を万全に整えること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

① 事前学習および事後学習の受講状況 40%

② 事前学習レポートおよび事後学習レポートの内容 20%

③ 実習の参加状況 (受入先実習状況報告書の評価を参考) 30%

④ 全体を通じて成長が見られるか 10%

合計 100%

留意事項 (Other Information)

大学での履修登録以外に、大学コンソーシアム京都でのインターンシップ・プログラムの受講には、ビジネス・パブリックコースと受入先を選択し、事前に web 申し込みを行い、完了を知らせるメールをプリントアウトの上、別途作成した出願票とともに持参し、以下の日程で出願、面接を受け受講許可となる必要がある。

①説明・相談会：

2020 年 4 月 18 日 (土) プログラム事前説明会・相談会

②出願・面接日：2020 年 5 月 15 日 (金)、5 月 16 日 (土)

③Web 申込期間：2020 年 4 月 17 日 (金) ～5 月 13 日 (水)

詳細は、大学の窓口もしくは大学コンソーシアム京都に問い合わせること。なお、学内説明会は4月に実施予定である。

- ・インターンシップC（ビジネス・パブリックコース）は2年次生推奨である。
- ・別途、受講料が必要である。
- ・事前学習、事後学習の会場は原則、龍谷大学深草キャンパスとなる。
- ・事前学習レポートの提出期間は、7月17日（金）、18日（土）10:00～17:00 である（提出場所はキャンパスプラザ京都）。
- ・事後学習レポートの提出期間は、10月2日（金）、3日（土）10:00～17:00 である（提出場所はキャンパスプラザ京都）。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

<http://www.consortium.or.jp/project/intern>

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

講義コード	LDA3250N1J
科目名	衣生活情報論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	牛田 好美（うしだ よしみ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

衣服は人間の身体の一部としての機能を持つものであり、衣服を着用することは人間のみに与えられた生活行為である。そして、人間はこの行為を自己表現の手段として用いる。すなわち、人間は自分で衣服を選択し、着装して外観的な面だけではなく、内面的な人間性までも表現する。現在はほとんど既製服が着用されているので、衣服の選択は購買行動である。衣服は素材・色柄・形の三要素によって構成され、それらの表現性を利用して商品はディスプレイされる。また情報技術の進化に伴い、衣服はアパレル CAD というコンピュータにより製作され、着装感や着装状態は CG によって表現されるようになった。このように衣生活には情報という要素が深く関わるようになってきている。そこで、服飾環境を形成する要素と衣生活に関わる情報技術について、理解を深め、衣生活をよりよく整え営むことができる能力を養うことを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 衣服と人間
2. 衣服と社会
3. 衣生活と文化
4. 衣生活と情報

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	ファッションに興味・関心がみられない。	ファッションビジネスやファッションコーディネートに興味・関心があり、知識や情報の収集に積極的である。	ファッションに関する知識や情報を自ら収集・整理し、日常の生活に活用できる。	ファッションに関する知識や情報から、現代の衣生活の問題点を見つけ、解決策を提案できる。
創造・発信力	ファッションにおける創造・発信に興味・関心がみられない。	ファッションにおける創造・発信に興味・関心がある。	ファッションにおける創造・発信に積極的である。	ファッションにおける創造・発信を行い、今後も継続する可能性が大きい。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション 衣生活と情報について

第2回目

ファッションビジネスについて ファッションビジネスの基礎

第3回目

ファッション業界の仕事 ファッション業界の職種とその内容

第4回目

ファッション雑誌の創られ方 DVD を視聴して、自分の考えをまとめる

第5回目

ファッション雑誌を創る 情報を収集し、読み手に届く内容を考える

第6回目

ファッションマーチャンダイジング① ファッションマーチャンダイジング演習①ーブランド企画ー

第7回目

ファッションマーチャンダイジング② ファッションマーチャンダイジング演習②ーショップ企画ー

第 8 回目

ファッションマーケティング マーケティングとは何か

第 9 回目

ファッションコーディネートとは 場面に応じたファッションコーディネート

第 10 回目

ファッションコーディネート① ファッションコーディネート演習①ー小物・アクセサリー

第 11 回目

ファッションコーディネート② ファッションコーディネート演習②ー色の使い方

第 12 回目

ファッションコーディネート③ ファッションコーディネート演習③ー全体のバランス

第 13 回目

グループワーク ネット販売について考える。

第 14 回目

課題、授業内試験 授業内試験を行い、課題作品を提出する。

第 15 回目

まとめ 試験返却、課題作品合評を行う。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義形式で授業を進める。授業はビデオやスライドを用いてできるだけ、具体的なデザインの要素や情報環境が理解できるようにする。必要に応じて資料を配布する。第 15 回授業で、試験の返却および解説、課題の合評を行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新聞、雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。ファッションとは何かを意識し、市場に出回っているものを、機会あるごとに多く見ること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度(30%) 課題 (50%) 授業への意欲・積極性(20%)を総合して評価する。欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合は原則として単位を与えない。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDA1250N1J
科目名	家庭電気・機械及び情報処理
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	藪 哲郎（やぶ てつろう）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	1 年次
開講学期	後期集中
⑤単位	2

①科目の教育目標 (Course Description)

家庭には様々な家電製品やガス器具・機械・情報機器がある。電気に関する基礎知識を身につけ、家電製品の仕組みを知ること、これらの機器を適切に扱えるようにする。家庭における機械・ガスについても基礎知識を身につける。家庭科教師として身につけておくべきパソコン技術を習得する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 電気の基礎知識を学ぶ。2. 送電、配電についての基礎知識を身につける。3. 家電製品のしくみを理解し、適切な使用方法を知る。4. 家庭における情報機器の基礎知識を身につける。5. ガスについての基礎知識を学ぶ。6. 家庭機械の基礎知識を学ぶ。7. 家庭科教師として必要な情報技術を身につける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

電気の基礎（電圧・電流・電力）

第 2 回目

電気の計算

第 3 回目

電気と磁気の基本法則

第 4 回目

ガスについて

第 5 回目

送電・配電

第 6 回目

感電・漏電

第 7 回目

白物家電（エアコン・インバータ・冷蔵庫・洗濯機）

第 8 回目

白物家電（掃除機・電子レンジ・IH 調理器）

第 9 回目

照明

第 10 回目

情報家電

第 11 回目

家庭における機械

第 12 回目

家庭情報処理 (型紙の作成・ベジエ曲線 1)

第 13 回目

家庭情報処理 (型紙の作成・ベジエ曲線 2)

第 14 回目

家庭情報処理 (型紙の作成・ガイド 1)

第 15 回目

家庭情報処理 (型紙の作成・ガイド 2)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法 (Course Methods)

電気・機械の分野については講義を行う。復習をすること。情報分野については演習を行う。欠席せずに、課題の提出期限を守ること。授業中の質問に関しては、適宜口頭でフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指示された予習事項がある場合は、予習してくること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

電気・機械分野のテスト 60%、電気分野のレポート 10%、情報分野の課題 30%の割合で評価する。

留意事項 (Other Information)

新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、オンライン講義となることもある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
オリジナルのテキストを配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『電気のすべてがわかる本』/谷腰欣司/ナツメ社/2009/

『電気のことがわかる事典』/戸谷次延/西東社/2015/

『電気が一番わかる』/福田京平/技術評論社/2009/

『図解入門よくわかる最新電気の基本としくみ』/藤澤和弘/秀和システム/2012/

『電気の基本としくみがよくわかる本』/福田務/ナツメ社/2011/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLF1300A0J・SLF1300E0J
科目名	福祉生活デザイン基礎演習ⅠA～E
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	竹原 広実（たけはら ひろみ）、三好 明夫（みよし あきお）、酒井 久美子（さかい くみこ）、加藤 佐千子（かとう さちこ）、青木 加奈子（あおき かなこ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修 クラス指定
曜日時限	金曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、本学での学習に必要な基礎的技能を修得するとともに、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは福祉生活デザイン基礎演習Ⅱの評価に加える。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
本を読んで要約する力	要約することができない	本を読んで指定された箇所を要約できる	著者の意図を踏まえて適切に要約できる	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら著者の意図を踏まえて適切に要約できる
ディスカッションをする力	資料を準備してディスカッションに参加できない	資料を準備してディスカッションに参加する	メンバーの議論を踏まえてさらにディスカッションを深めることができる	メンバーの議論を踏まえてディスカッションをする中で新しい見方や考え方を創造できる
要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成する力	レポートを作成できない	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえて、さらに文献を調べ内容を深めたレポートを作成できる	要約とディスカッションを踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる

③④授業計画

第1回目

ガイダンス キャリア自己形成システムの確認

第2回目

ノートのとり方

第3回目

テキストの読み方

第4回目

テキスト1：「要約」 要約の仕方

第5回目

テキスト1：「意見」 意見の書き方

第6回目

テキスト1：「ディスカッション」 ディスカッション、議事録の書き方

第7回目

テキスト1：「レポート」 レポートの書き方

第8回目

テキスト2：「要約」

第9回目

テキスト2：「意見」

第10回目

テキスト2：「ディスカッション」

第11回目

テキスト2：「レポート」

第12回目

テキスト3：「要約、意見」

第13回目

テキスト3：「ディスカッション」

第14回目

テキスト3：「レポート」

第15回目

全体の振り返り

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- 1) 10 数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。
- 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。
- 3) 毎週出される課題は必ず行うこと。
- 4) 課題は、教員に提出する前に受講生同士でまわし読みを行う。ほかの受講生の成果物を参考に、言葉の選び方や表現の仕方等を学ぶこと。また翌週には教員が添削をして返却するので、指摘された箇所を次の課題では修正できるように復習に努めること。
- 5) テキスト：別途購入を指示する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

原則全出席とする。授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

留意事項 (Other Information)

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第1回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『知へのステップ 改訂版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2016/4874246508/学内販売予定

その他は別途案内する

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GCP1101A0J・GCP1101B0J
科目名	女性とライフキャリアA・B
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	青木 加奈子（あおき かなこ）
科目区分	共通教育科目
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

学生生活を終えた後の長い人生を「いかに生きるか」を考えるために必要な知識を得るとともに、女性の特性を認識しながら自己のキャリアデザインを考えることを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

自分の人生を主体的・自律的に生きるために必要な知識を身に付け、考える力を養成する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	出席はしているが、寝ていたり授業と関係ないことをしている	女性のライフキャリアの特性を理解しようとする	今後の人生で起こりうるリスクを、生き方別に想定することができる	レベル 3 に加えて、リスクが生じたときの対処と、リスクが生じないような予防を想定し、行動することができる
主体的に行動する力	教員の指示通りに行うあるいは常に指示待ちである	教員の指示を聞きながら、自分でもやってみる。	教員の指示以外にも、関連情報を自主的に文献やインターネットから集めて、学習できる	学修目標を理解した上で、文献やインターネットから情報を集めるだけでなく、関連する人に話を聞き、学びを深める
コミュニケーションする力	人から尋ねられても答えない分からないことがあっても誰にも尋ねない	知らない受講生とも課題について相談できる	より高いレベルの回答を目指して、受講生同士で課題を相談する	より高いレベルの回答を目指して、相談した内容を互いに評価する
思考・解決力	レポートや授業中の課題の設問に対して、適切な回答がなされていない	設問に対する回答が適切になされている	資料からの裏付けをもとに設問に答えている	レベル 3 に加えて、批判的・論理的な意見が言える
共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにするまたは人の意見を受け入れない	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる	グループワークで各自の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる
創造・発信力	レポートや課題を提出しない提出されても、誤字や脱字が多かったり、漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある	多少の誤字はあるものの、見られる／評価されることを意識して、課題に取り組む努力をする	成果物が、見られる／評価されることを意識したものになっている	見られる／評価されることを意識した成果物を作成するだけでなく、簡潔かつ適切な表現が使われている

③④授業計画

第1回目

イントロダクション：「ライフキャリア」とはなにか？

第2回目

ライフキャリアに「主体性」が求められる背景（わけ）

第3回目

日本女性の生き方の変化

第4回目

女性の「労働」を考える

第5回目

グループワークへ向けての問題提起

第6回目

グループワーク①：正規雇用者としてのライフキャリアの利点／問題点

第7回目

グループワーク②：グループ作業

第8回目

グループワーク③：グループ発表

第9回目

グループワーク④：グループワーク総括・女性が参加するさまざまな社会活動

第10回目

マネープランニングと女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）

第11回目

ケアと女性のライフキャリア

第12回目

女性の貧困問題

第13回目

父子世帯の父の視点から考える女性のライフキャリア（ゲストスピーカーの予定）

第14回目

デンマーク女性のライフキャリア戦略

第15回目

グローバル化と女性のライフキャリア

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する（期末レポート）

②教育・学習の方法（Course Methods）

<教育・学習の方法>

- ・ライフキャリアの多様性を理解する（講義）。
- ・それぞれのライフキャリアの利点や課題をグループで考え発表する（グループワーク）。
- ・人生の局面で遭遇する課題を理解したうえで、自己のライフキャリアについて考える（個人ワーク）。

<課題（レポート）のフィードバック方法>

課題（レポート）は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する（場合によっては、manaba で公開する）。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

<復習>

・授業で投影したスライドは、授業終了後の一両日中に manaba へアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

<予習>

- ・授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。
- ・次回の受講生用レジュメは、授業の3日前までに manaba へアップする。内容を確認し、分からないところは事前に調べたり、関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

期末レポート 50%、授業中の課題 40%、受講態度 10%

留意事項（Other Information）

- ・女性とライフキャリア「A」と「B」は同じ内容である。前期では「A」が、後期では「B」が開講となる。

・受講生の人数やゲストスピーカーの都合により、授業予定が変更になる場合がある。事前に授業内で連絡するので、しっかり聞いておくこと。また、時事問題を多く扱うため、学期開始後に授業内容を一部変更することもある（事前告知はする）。

・レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。

・グループディスカッションのグループ分けは、学年別のシャッフルとする。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
特になし。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『女性とライフキャリア』/矢澤澄子・岡村清子（編）/勁草書房/2009/9784326653515

『大学生のためのキャリアデザイン入門』/岩上真珠・大槻奈巳（編）/有斐閣/2014/9784641174009

『国際比較 若者のキャリア』/岩上真珠（編）/新曜社/2015/9784788513464

『キャリア開発論』/武石恵美子/中央経済社/2016/9784502198410

『女性のためのライフプランニング [第2版]』/田和真希/大学教育出版/2016/9784864293921

そのほか、講義内で紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GES1250N0J
科目名	憲法と人権
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	宮村 教平（みやむら きょうへい）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

「憲法」は国の基本法です。その国の仕組みや、どのような価値が人権として保障されるかが書かれている法律文書です。皆さんのこの授業での目的は、このような「憲法」の全体像をつかむとともに、その本質にどのような考え方があるのかを学ぶことにあります。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

①憲法とは何か ②権力分立の意義 ③人権保障の意義 ④人権保障における現代的な問題（具体的な事例から人権を考えます）

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

講義ガイダンス（授業の進め方等の説明、法学の入門的な話）

第 2 回目

憲法とは何か？

第 3 回目

国民主権とは何か

第 4 回目

国会の仕組み

第 5 回目

議院内閣制

第 6 回目

裁判所

第 7 回目

基本的人権の意味

第 8 回目

思想・良心の自由、信教の自由

第 9 回目

表現の自由

第 10 回目

職業選択の自由

第 11 回目

生存権

第 12 回目

教育を受ける権利

第 13 回目

法の下での平等

第 14 回目

新しい人権

第 15 回目

まとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

定期試験期間中に筆記試験を実施します。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

※法律学は言葉の学問であり、論理の学問です。まず、「(指定)教科書を読む」ということが大事です。授業は講義ですが、教科書を中心に、そこに書かれている内容の難しいところや、具体例が必要なところなどをより詳しく説明していきます (別途、講師の作成したレジュメを利用する予定。初回講義の際に指示します。)

※また、法律学は社会を対象とする学問です。新聞記事などを活用して授業内容に関連する素材を提示しますが、受講者も主体的にニュースを見て、最近の問題に注意を向けてください。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

指定教科書の毎回の該当箇所を、まずは各自で読むことが大切です。「今日は何をするんだろう?」という気持ちで授業に臨むのと、「今日は、こういう話を聴けるんだ」という予測のもとに授業に臨むのでは、同じ授業でも内容の吸収率が違います。難しいことはしなくて構いませんので、教科書だけは目をとおしてきてください。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

7.5

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

定期試験やレポートで評価します。テストは文章で聞かれて文章で説明するものです。(*成績評価の方法は、開講後、履修登録者の人数によっては変更されることもあります。)

留意事項 (Other Information)

※授業予定や成績評価方法は、開講後、変更することがあります。この変更については、講義内で適宜、指示します。受講する人は、必ず、初回講義に出席し、授業のやり方や成績評価についての説明をきいてください。(それをきかなかつたための不利益は、各自の責任です。)

※留学生・帰国子女の学生へ: この授業の単位をとるためには、標準的な日本語の読解力・記述力が必要です。

Attention: In order to take credit in this class, standard Japanese ability (reading & writing) is required.

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『スタディ憲法』/曾我部真裕・横山真紀 共編/法律文化社/2018//学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GES1201N0J
科目名	国際関係論入門
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	北澤 義之（きたざわ よしゆき）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

国際関係論では、学際的な手法を用いることにより、1 国家の安全と発展に関する役割、2 国際社会における協力の模索、3 新しい国際的課題の確認を行うことです。その学習を通して、自分の経験を国際関係論の知識と結びつけて説明できるようになることです。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

国際関係論入門では、国際社会を理解するために 1 戦争と平和の問題の理解、2 貧困・環境問題に対する理解、3 国際社会における日本の位置づけに関する理解、4 国際協力における NGO や女性の役割の理解を深めていきます。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	国際関係について知ろうとする。	国際関係の理論を理解しようとする。	国際関係の理論をもとに考えを深めようとする。	グローバル化の進展とその影響を理解する。
知識・理解力	国際社会の現状について知ろうとする。	国際社会の現状の背景を理解しようとする。	国際社会の問題を論理的に理解しようとする。	国際関係の理論と国際社会の現実を比較して議論できるようにする。
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする。	友人たちと一緒に学ぼうとする。	課題と一緒に解決しようとする。	友人とともに国際社会へのかかわり方を考える。

③④授業計画

第 1 回目

世界の今 授業の進め方についてのガイダンス。世界の直面している諸問題について概説します。推奨するインターネットサイトの紹介。

第 2 回目

国際社会とは？ 「国際社会」の成立について学びます。とくに国際関係の発展と国際社会の関係について解説します。

第 3 回目

国際社会における日本 近代の日本がどのように国際社会との関係を構築していったかを学びます。

第 4 回目

日本の中の国際社会 グローバル化による日本社会の変化について学習します。日本人とは何かを改めて考えます。

第 5 回目

国際関係とジェンダー 国際関係の変化と女性の地位の問題を考えます。

第 6 回目

安全保障について 国家の安全と対立の問題を考えます。

第 7 回目

戦争と平和 第一次世界大戦、第二次世界大戦、冷戦の経験を通して、戦争と平和の問題を考えます。

第 8 回目

日本と戦争 日本の戦争経験をもとに、市民や女性と戦争について考察します。

第 9 回目

日本の対外政策について 第二次大戦後の日本の外交と平和主義について考えます。

第 10 回目

冷戦後の世界 冷戦後の対立、テロなどの実態やそれへの対応の問題点について考えます。

第 11 回目

SDGs をめぐって 1 民主主義や人権と国際関係について考察します。

第 12 回目

SDGs をめぐって 2 貧困とは何か、貧困の背景や対応について考察します。

第 13 回目

SDGs をめぐって 3 難民問題と移民問題についてその背景と対応について考察します。

第 14 回目

SDGs をめぐって 4 環境問題の概容について理解を図ります。

第 15 回目

21 世紀の国際関係 人類の直面する今後の課題を整理し、日本の役割などについて考えます。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しません。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

授業は講義形式で行われますが、アクティブラーニングの要素も取り入れます。レポートや課題については教室で授業時にコメントします。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

manaba を用いて、事前に目を通すべき資料や情報を発信します。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業への参加度 (20%)、小テスト・質問票へのコメントなど (30%)、レポート (50%)

留意事項 (Other Information)

欠席、遅刻についてのルールは、最初の授業の時に伝えます。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

全体を通じてのテキストはありません。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

教室で紹介します。

参考 URL(URL for Reference)

外務省 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

国連広報センター <http://www.unic.or.jp/>

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GES1500N0J
科目名	ボランティア概論
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	志藤 修史（しどう しゅうし）
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
学年	1年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・2限

①科目の教育目標（Course Description）

社会にとってボランティアはどのような意味があるのでしょうか。なぜ、ボランティアをする人がいるのでしょうか。この講義ではボランティアの実際を見る中で、ボランティアとボランティアをめぐる私たちの社会との関係について基本的な内容を理解をすることを狙いとしています。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. ボランティアの理念とは何かを理解する。
2. 共に生きる心を理解する。
3. ボランティア活動の多様性を知る。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

今日のボランティアの状況 オリエンテーション。ボランティアをめぐる今日的状況。

第2回目

ボランティアの考え方 ボランティアをめぐる言葉の使われ方と意味

第3回目

ボランティアの現状と課題 ボランティアの現状と理解の視点

第4回目

福祉に関するボランティア 福祉に関するボランティアの現状

第5回目

福祉に関するボランティアの課題 福祉に関するボランティアの課題と方向

第6回目

ボランティアと地域社会 ボランティアと地域社会との関わり

第7回目

災害とボランティア 災害とボランティアの今日的状況

第8回目

災害とボランティアを巡る課題 災害とボランティアにおける課題と展望

第9回目

ボランティアの概念と原理 ボランティアの基本原則を問い直す視点

第10回目

ボランティアコーディネーター ボランティアの支援とコーディネーター

第11回目

ボランティアを巡る考え方と人 ボランティアとボランティアをめぐる人々

第 12 回目

ボランティア活動の内容を再考する ボランティアの活動内容にある隘路

第 13 回目

現代社会とボランティア 社会とボランティア

第 14 回目

私たちの生活とボランティア くらしとボランティア

第 15 回目

ふりかえり まとめとふりかえり

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポート試験を実施。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業方法 講義形式とする。

2. 学習方法

(1) 現実に行っていることを予断なく受け止める。

(2) 講義内容を知識として留めるだけでなく、活動に参加してみようと考えてみる。

(3) 最終のレポートの課題の内容については、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

3. 参考文献

参考文献もなるべく目を通し、自分自身の意見をまとめておくこと。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

① 配布した資料を事前に読み、理解しておくこと。

② 日頃から社会の様々な出来事に関心を持つこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は毎回の授業時に行う小レポート (50%)、最終レポート (40%)、クラス・レスポンス (10%) に基づいて行う。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

講義中に資料を配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『ボランティアという病』/丸山千夏/宝島新書/2016/

『地域福祉の今を学ぶ』/妻鹿ふみ子/ミネルヴァ書房/2010/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

社会福祉士の資格を有し、社会福祉協議会にて勤務の経験あり。

講義コード	GCP1500A0J～GCP1500C0J
科目名	ホスピタリティ入門A～C
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	岩田 真理子（いわた まりこ）
科目区分	共通教育科目 ＞ 共通教育科目（実践的科目）
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	英語英文学科はCクラスを履修すること
曜日時限	水曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

「ホスピタリティ」という概念について多角的に探究する。「ホスピタリティ」を受ける側の視点について主に取り上げ、理解を深める。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・「ホスピタリティ」を考察する中で、人として大切なことについても学ぶ。
- ・文字面だけで理解するのではなく、授業態度も含め、日常生活でのホスピタリティを体得する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ホスピタリティについて知ろうとする	ホスピタリティを理解しようとする	ホスピタリティの考えを深めようとする	
共生・協働する力	教員と一緒に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	意識すれば行動化できる	相手の立場に立って行動することができる
コミュニケーションする力	人に迷惑をかけないようにする	知っている人にあいさつする習慣をつける	友人はもとより、担当以外の先生、職員にもあいさつする	すれ違った人には、誰に対しても、自分からあいさつが自然にできる
創造・発信する力	小レポートを毎回記入する	小レポートのテーマに対して創造性を加え作成できる	小レポートのテーマを熟考し自身の意見を述べることができる	小レポートの記入内容を日常生活でも発信できる
思考・解決する力	テストに解答する	テストを積極的に受ける	出来なかった問題を振り返り、理解を深める	自ら課題を考え、自ら解決していく
主体的に行動する力	教員の指示通りに行う	教員の指示を聞きながら自ら行動してみる	出来なかった問題を振り返り、理解を深める	自ら課題を考え、自ら解決していく

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション ホスピタリティへのアプローチ ホスピタリティの概念を理解する。本講座で取り上げるホスピタリティへのアプローチの方法を理解する。

第2回目

ホスピタリティとは 言葉からのアプローチ 「ホスピタリティ」の語源からアプローチする。ホスピタリティの定義とはどのようなものであるのかを考察する。

第3回目

ホスピタリティと人間 人間の感情とホスピタリティー ホスピタリティを提供する動物としての人間の存在からホスピタリティを紐解いていく試みをする。

第4回目

ホスピタリティと文化① 文化・感情表現・地域のおもてなしー ホスピタリティの表出の仕方、感じ方などに文化や時代による違いなど、地域や文化・文明による差異を考察してみる。

第5回目

ホスピタリティと文化② 歴史とホスピタリティー ホスピタリティの歴史を考察する。時代の変遷と社会の変遷において

なにか変わりがあるのかないのかを考察する。

第6回目

ホスピタリティと産業① 産業構造の変化とホスピタリティの重要性ー サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。

第7回目

ホスピタリティと産業② 産業・社会の変化とホスピタリティを考えるー ホスピタリティ産業の変化を予測し、社会の変化にともなうホスピタリティ産業というものの変化を推測してみる。

第8回目

ホスピタリティと産業③ エアラインにおけるホスピタリティーー 航空機を運航する商品とはどのような特徴があるのかを考える。実際のエアライン (ANA) をモデルとして考えてみる。

第9回目

ホスピタリティとチームワーク 企業や地域社会などでチームワークがなぜ必要なのかを理解する。・チームでホスピタリティを相手に伝えるにはどのような連携が必要なのかを理解する。

第10回目

ホスピタリティとコミュニケーションⅠ ホスピタリティとコミュニケーションの関係を理解する。相手に与える印象はどのような要素で決まるのかを理解する。

第11回目

ホスピタリティとコミュニケーションⅡ ホスピタリティを相手に伝えるための具体的なコミュニケーション方法について解説する。

第12回目

ホスピタリティと観光産業① 観光産業で発揮されるホスピタリティの重要性を考える。

第13回目

ホスピタリティと観光産業② 旅行者の満足とはどのようなものかを考える

第14回目

ホスピタリティと観光産業③ 観光および航空輸送に焦点をあてて演習を組み込みながら観光客に対するホスピタリティを考える。

第15回目

まとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

パワーポイントを使用し、主に講義主体で進める。テーマに沿ったディスカッション・発表など随時取り入れる。毎回、小レポートによりホスピタリティを考察する。授業中の発問と学生の解答に対して、適宜高等でフィードバックする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業で配布される資料をよく理解し、次週のテーマに関連性を持たせ考察してくる。日常生活でホスピタリティを出来るだけ実践する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業態度 (30%)、小レポート (20%)、確認テスト (50%) に基づいて総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

テキストは使用しない。都度、資料を配布しながらすすめる。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

別途指示

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》ANA客室乗務員として1万時間の飛行時間を有す。教育訓練の教官としても5年半勤務経験あり。その後、外部への接遇講師として5年間の経験を有す。

講義コード	GCP3500N0J
科目名	ホスピタリティ京都
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	吉澤 健吉（よしざわ けんきち）、笹岡 隆甫（ささおか りゅうほ）
科目区分	共通教育科目
学年	2年次、3年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2限

①科目の教育目標（Course Description）

京都のもてなしの文化について考えるオムニバス形式の授業である。京都を中心に活躍するゲスト講師の方々をお迎えして話をうかがい、日本の伝統文化、および接遇の文化に対する理解を深める。華道・茶道など日本の伝統文化を継承する方、旅館・土産物・老舗料理屋・ホテル業界など現代の京都で活躍する方たちの貴重な話をうかがい、京都とホスピタリティ（もてなし）に関わる理念と実践について、映像を活用しながら多角的また具体的に学ぶことが目標となる。特に、日本の伝統文化を伝えてきた京都の、国内および国際的交流の歴史をふまえ、京都に受け継がれる、コミュニケーションの方法としての「もてなし」の独自性について考察し、理解を深める。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・京都を中心とした日本文化とホスピタリティの関わりを知る。
- ・ホスピタリティ実践のために必要な心構えを知る。
- ・人の関わりと文化について自分なりの考えを持つことができる。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

ホスピタリティとは何か 京都産業大学文化学部京都文化学科の吉澤健吉教授が、ホスピタリティという言葉のもつ意味を解説。各回のゲスト講師についてプロフィールを紹介する。

第2回目

茶の湯のおもてなし 表千家堀内長生庵の堀内紀彦宗匠（前ノートルダム小学校同窓会長）が、茶の湯のおもてなしについて講義する。

第3回目

華道ともてなし① 華道の基礎知識 本学客員教授で、ノートルダム小学校 OB（元同窓会長）の華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道の基礎知識について講義する。

第4回目

華道ともてなし② 華道の精神 華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道の精神について講義する。

第5回目

華道ともてなし③ 華道と人の関わり 華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道と人との関わりについて講義する。

第6回目

老舗旅館のおもてなし 本学の小学校から女子大までの OG で、京都を代表する老舗旅館女将の西村明美氏が、旅館経営を通じた伝統と革新について講義する。

第7回目

和菓子とおもてなし 本学 OG で、聖護院ハツ橋総本店専務の鈴鹿可奈子氏が、伝統のハツ橋と新商品 nikiniki を例に伝統

と革新について講義する。

第8回目

華道ともてなし④ 華道と社会 華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道と現代社会の関わりについて講義する。

第9回目

華道ともてなし⑤ 華道と京都の環境 華道末生流笹岡の笹岡隆甫家元が、華道と京都の環境について講義する。

第10回目

京の食文化～私のこだわり テレビでも知られる南禅寺畔の老舗懷石料理屋、瓢亭主人の高橋英一氏がだしのとり方に始まる懷石料理の極意を講義する。

第11回目

花街のおもてなし 京都最大の花街、祇園甲部のお茶屋「美の八重」社長の坂田憲治氏が、本物の芸妓さんとともに花街のおもてなしについて講義する。

第12回目

老舗ホテルのおもてなし 京都最古の老舗ホテル、ウェスティン都ホテル京都客室支配人の大西正夫氏が、外資や東京のホテルとは違う、京都の老舗ホテルのおもてなしについて講義する。

第13回目

清水寺とおもてなし ノートルダム小学校 OB で、京都を代表する観光寺院、清水寺執事補の大西英玄氏が、清水寺でのおもてなしについて講義する。

第14回目

京都のおもてなし総論 京都産業大学文化学部吉澤健吉教授が、世界でもトップクラスの京都のおもてなしの特徴について講義する。

第15回目

まとめ 京都産業大学文化学部吉澤健吉教授が、この講座のまとめと現代におけるホスピタリティの意義について講義する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポートを実施する。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・講義を通して、多様なもてなしの理念や実践を知り、京都文化の理解を深める。
- ・考えをまとめる力を養うために、毎時間、講義の内容に対する意見をまとめる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・授業で紹介した参考文献などを実際に自分で読んでおく。
- ・紹介した参考文献以外にも読書体験を広げ、京都の文化について考えを深める。
- ・授業で紹介された京都の地を実際に自分で歩いてみる。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、平常点 (授業への参加度合いなど 40%)、学期末のレポート (60%) により総合的に行う。出席率が学期全体の3分の2に満たない者は評価の対象としない。

留意事項 (Other Information)

- ・定期試験に代わり、レポートを提出する。
- ・レポートを書く際に、他人の書いた文章をコピーペーストしたものは認めない。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

プリント配布

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『いけばな—知性で愛でる日本の美』/笹岡隆甫/新潮新書/2012/9784106104428

『百花の教え』/笹岡隆甫/ぶんか社/2010/9784821142972

『美的生活のヒント』/笹岡隆甫/マガジンハウス/2007/9784838717811

『京都・瓢亭 四季の日本料理』/高橋英一/NHK 出版/2014/9784140332863

『おこしやす 京のおかみさん』京都新聞社編/京都新聞出版センター/2001/4763804995

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

実務経験等：あり 担当の吉澤健吉京都産業大学教授はジャーナリストとして長年新聞社で実務経験あり。ゲスト講師も各分野における実務経験のある第一人者を招いている。

講義コード	SLF1250A0J～SLF1250E0J
科目名	福祉生活デザイン基礎演習Ⅱ A～E
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	竹原 広実（たけはら ひろみ）、三好 明夫（みよし あきお）、酒井 久美子（さかい くみこ）、加藤 佐千子（かとう さちこ）、青木 加奈子（あおき かなこ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修 クラス指定
曜日時限	金曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

4 つのテーマワークでの体験から広く福祉生活デザインの基礎を学び、2 年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
生活と福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	生活と福祉に関わる知識を説明できない	生活と福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	生活と福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる

③④授業計画

第1回目

ガイダンス キャリア形成カルテの確認

第2回目

テーマワーク①ー1「食べる」（日常の食事）

第3回目

テーマワーク①ー2「食べる」（ティータイムのもてなし）

第4回目

テーマワーク②ー1「装う」（衣服素材の理解）

第5回目

テーマワーク②ー2「装う」（身体形態の理解とデザイン実習）

第6回目

テーマワーク①②のふりかえり・学びの共有（基礎演習Ⅱのクラス別授業）

第7回目

テーマワーク③ー1「住まう」（光について学ぶ）

第8回目

テーマワーク③ー2「住まう」（スケール感覚を養う）

第9回目

テーマワーク④ー1「支える」（傾聴）

第10回目

テーマワーク④ー2「支える」（マネープランニング）

第11回目

テーマワーク⑤ー1「支える」（車いす体験）

第 12 回目

テーマワーク⑤ー 2 「支える」(要介護者の食事と援助方法)

第 13 回目

テーマワーク③④⑤のふりかえり・学びの共有(基礎演習Ⅱのクラス別授業)

第 14 回目

福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業

第 15 回目

全体のふりかえり キャリア形成カルテの確認

定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1) 福祉生活デザイン基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。

この各クラス内で 2~3 人程度の小グループを構成し、小グループごとに 4 つのテーマワークに取り組む。

2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。

3) 4 つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活と福祉の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した 1 年次研究レポートを作成する。

4) 各担当教員へ提出された課題は、担任を通して返却される。指摘されている部分は復習をし、次の課題を作成するさいに修正できるように努めること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

(1) 授業参加度(テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート): 50%

(2) レポート: 50% (開講前課題も含む)

留意事項 (Other Information)

「食べる」「装う」「住まう」「支える」の各テーマワークを小グループごとに 2 回ずつ体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。

テーマワークの担当者(予定)

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 中村久美、竹原広実

「支える」: 三好明夫、酒井久美子、青木加奈子

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
別途案内する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLF2100A0J～SLF2100E0J
科目名	福祉生活デザイン基礎演習ⅢA～E
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	牛田 好美（うしだ よしみ）、佐藤 純（さとう あつし）、藤原 智子（ふじわら ともこ）、矢島 雅子（やじま まさこ）、安川 涼子（やすかわ りょうこ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	必修 クラス指定 全 7.5 コマ
曜日時限	金曜・3 限 金曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習は、福祉生活デザイン基礎演習Ⅰによって修得した「学ぶ力」、同演習Ⅱによる「装う」「食べる」「住まう」「支える」という4つのテーマに関する体験的な学びを踏まえて、学外でフィールドワークに取り組む。これらのフィールドワークを通して、衣食住に関わる日本の豊かな生活文化の諸相とそれをふまえた生活産業の最前線（の現状）への理解を深めるとともに、研究技術に関する最新の知見を得る。また、福祉現場を肌で感じ、援助の体験を通して福祉の実情や福祉職への理解を深める。これらの体験学習を通して、「生活者を支援する人材」としての意欲、態度を養うとともに、キャリア形成への意欲を高めることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

フィールドワークを通して、生活科学、社会福祉学といった実践の場に身を置く体験をする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
フィールドワークのための準備と課題設定	訪問先について事前に認知していないし、参加もしていない	「事前学習」で説明された情報を理解して参加している	自らフィールド先の情報を集め、理解を深めて参加している	フィールド先での体験を生かして、社会で働くことへの関心と就労へのイメージをもつことができる
フィールドワークでの学び	フィールドワークでの学びがない	フィールドワークの中で何かしらの学びを実感できている	フィールドワークの学びを生かして課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる	レベル3に加えて、フィールドワークの現場で新たな課題を見つけ、取り組むことができる
体験を言語化すること	フィールドワークの体験を言語化していない	フィールドワークを通して得た知識を基に、レポート作成ができる	フィールドでの学びに加えて、文献を用いて学びを深め、言語化できる	レベル3に加えて、自らのキャリア形成についても言及できる

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション：授業のすすめ方の説明、フィールドワーク先の提示

第2回目

フィールドワーク1「装う」「食べる」「住まう」の事前学習：課題意識の醸成

第3回目

フィールドワーク1の実施①：実践現場の理解

第4回目

フィールドワーク1の実施②：実習実施

第5回目

フィールドワーク2「支える」の事前学習：課題意識の醸成

第6回目

フィールドワーク2の実施①：実践現場の理解

第7回目

フィールドワーク2の実施②：実習実施

第8回目

全体のふりかえり

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- (1) 2回のフィールドワークを中心として学びを深めていく。
- (2) フィールドワークの体験をふりかえり、言語化していく。
- (3) レポート課題に関して教員のコメントを記したレポートを返却し、学生にフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

実習先に関する情報を収集するなどして、その施設の社会的意義や役割、活動内容を把握するといった事前学習をしていくことが必要である。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

10

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

- (1) 授業参加度：50%
- (2) フィールドワークレポート 50%

留意事項 (Other Information)

- (1) 学生によってフィールドワーク 1 と 2 の順序が入れ替わる場合がある。まだ第3回と第4回、第5回と第6回は同日の3講時、4講時の連続授業である。具体的な開講日程は別途周知する。
- (2) フィールドワークの内容と順番は、受講生の希望により異なる。
- (3) 学外活動のため、学研災付帯賠償責任保険に未加入の場合は加入すること。見学に必要な交通費は自己負担とする。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

佐藤 純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子：企業における工学系開発業務

講義コード	SLF2650A0J～SLF2650E0J
科目名	福祉生活デザイン基礎演習ⅣA～E
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	牛田 好美（うしだ よしみ）、佐藤 純（さとう あつし）、藤原 智子（ふじわら ともこ）、矢島 雅子（やじま まさこ）、安川 涼子（やすかわ りょうこ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	1
備考	必修 クラス指定 全 7.5 コマ
曜日時限	金曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢを通して得た学びを踏まえて、自らの関心に応じて調査テーマを選択・決定し、グループで「調査」「議論」「集約」「発表」を行う。文献調査の裏付けによって理解を深めるとともに、グループ学習を通して、コミュニケーション能力や協働力を身につける。発表を通してプレゼンテーション力も高める。これらの学習によって人間の生活に基づいた実践活動についての理解を深め、「望ましい生活とそれを支える地域社会の創造を支える人材」としての意欲、態度を養い、自己のキャリア形成や進路の追求につなげる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1) 福祉生活デザイン基礎演習ⅠからⅢまでの学びを土台としたディスカッションをすることにより、問題提起、自らの力でそれを解決する能力と考察力を養う。
- 2) 発表を通してプレゼンテーション能力を身につける。
- 3) グループワークを通して協調性を身につける。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
解決力・考察力	解決もできないし、考えようもしない	書く・読む・要約する技能を生かして自分の考えを発信しようとしている	課題解決に向けて、他者と意見を交わし、自らも努力しようとしている	新たな課題を見つけ自ら深く考え、解決することができる
協調性	グループワークに参加しない	自分の意見と他者の意見の違いが分かり、協力しようとしている	自らアイディアや意見を出すなど、積極的にグループワークに参加している	他者と協力・協働ができ新たな課題に取り組んでいる
プレゼンテーション能力	プレゼンテーションの作成に参加していない	最低限必要な情報を入れたプレゼンテーションを作成することができる	適宜、イラストやアニメーションを入れながらプレゼンすることができる	レベル3に加えて、オーディエンスの反応を見ながら、元気に、はっきりとした声でプレゼンができる

③④授業計画

第1回目

ガイダンス

第2回目

研究課題の設定①：課題決定のための情報収集などの準備

第3回目

研究課題の設定②：課題決定

第4回目

研究課題への取り組み①：発表内容の整理、グループディスカッション

第5回目

研究課題への取り組み②：発表レジュメの作成

第 6 回目

研究課題への取り組み③：プレゼンテーション内容の確認

第 7 回目

プレゼンテーション

第 8 回目

全体のふりかえり

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- 1) 基礎演習ⅠからⅢと同一のクラス編成のなかで、2 グループに分かれて作業を進めていく。
- 2) 毎回の授業までに必要な資料を揃え、状況に応じて自主的にグループで作業を進めておく。
- 3) プレゼン、レポート課題に対し、学生相互、教員からのフィードバックを随時行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

自ら取り組む課題について、文献その他の資料の収集など、発表のための準備作業などに丹念に取り組むこと。また、グループメンバー同士の情報共有や共同作業を意識して取り組むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業態度、課題への取り組み、実施した調査のレポートに対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

留意事項 (Other Information)

第 7 回目のプレゼンテーションは 1 年次生の基礎演習Ⅱと合同授業とする。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『知へのステップ』/学習技術出版会編/くろしお出版///学内販売をしない予定

基礎演習Ⅰで使用したテキストを随時使う。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

佐藤 純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子：企業における工学系開発業務

講義コード	LDA2250N1J
科目名	服飾心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	牛田 好美（うしだ よしみ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

被服の社会・心理的機能には3つあるとされる。第1は「自己の確認・強化・変容」機能、第2は「情報伝達機能」、第3は「社会的相互作用の促進・抑制」機能である。それらの機能を理解し、日常生活をよりよく営める能力を養う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

次の3つの社会・心理的機能に着目し、被服に関する人間の行動を解明する。

1. 自己の確認・強化・変容機能
2. 情報伝達機能
3. 社会的相互作用の促進・抑制機能

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
授業での発言	・発言しない	・好き嫌いで意見や単なる感想にとどまる。	・他者の意見への賛成や反対を表明し、自分の意見を発言する。	・根拠を示して説得的な意見を述べたり、新た。
レポートおよびプレゼンテーション 課題選択・設定	・選択・設定されない	・特に理由なく選択・設定する。	・単なる興味・関心のから選択・設定にとどまる。	・課題と自己との関係を説明・課題と社会との関係を説明できる。
引用した資料や文献の理解度	・コピー・アンド・ペースト	・不適切な引用や誤読・引用と意見の混在している。	・内容の一部のみ説明・恣意的な引用と説明がみられる。	・引用した資料や文献の枠組みに沿って、客観的に記述が説明されている。
自分自身の意見	・コピー・アンド・ペースト	・好き嫌いで意見や単なる感想にとどまる。	・引用した資料や文献と関係のない意見・第三者の意見の引用がみられる。	・根拠を示して、論理的に資料や文献の内容に対する意見が述べられている。

③④授業計画

第1回目

イントロダクション 授業の進め方の説明、被服や身体装飾への社会心理学アプローチについて

第2回目

被服と自己意識(1) (1) ボディイメージとは

第3回目

被服と自己意識(2) (2)社会で形成されるボディイメージ

第4回目

被対と服人認知(1) (1)印象管理

第5回目

被服と対人認知(2) (2)自己管理、自己呈示、役割理論

第6回目

被服と非言語コミュニケーション 被服が伝えるもの

第7回目

被服と対人行動 被服が他者に与える影響

第8回目

被服と集合行動 制服について考える

第 9 回目

被服とジェンダー ジェンダーと被服行動

第 10 回目

流行 流行の普及と採用

第 11 回目

グループディスカッション 興味のあるテーマについて、話し合う

第 12 回目

個人発表(第 1 グループ) 各自テーマを設定し、プレゼンテーション

第 13 回目

個人発表(第 2 グループ) 各自テーマを設定し、プレゼンテーション

第 14 回目

課題、授業内試験 授業の質疑応答および試験、レポート提出

第 15 回目

まとめ レポート課題、試験返却および解説

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

主に、講義形式で行うが、DVD 視聴、グループディスカッション、個人発表などを取り入れながら授業を進める。

課題および授業内試験については、第 15 週授業で返却し、解説を行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

ほぼ、毎回の授業で小課題をだすので、普段から新聞や雑誌などを読み、社会情勢に敏感になっておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度(30%)、試験(30%)、レポートおよび発表 (40%) で総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合がある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『21 世紀の社会心理学シリーズ 8 被服構想の社会心理学』/高木修(監修) /北大路書房/1999/4-7628-2161-6

『被服と化粧の社会心理学』/高木修(監修) /北大路書房/1996/4-7628-2058-X

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLB1202N0J
科目名	福祉生活デザイン概論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	加藤 佐千子（かとう さちこ）、中村 久美（なかむら くみ）、酒井 久美子（さかい くみこ）、竹原 広実（たけはら ひろみ）、佐藤 純（さとう あつし）、三好 明夫（みよし あきお）、牛田 好美（うしだ よしみ）、矢島 雅子（やじま まさこ）、藤原 智子（ふじわら ともこ）、青木 加奈子（あおき かなこ）、安川 涼子（やすかわ りょうこ）、室田 保夫（むろた やすお）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科 ＞ 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	金曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

QOL とは何か、また、人々の QOL を向上するためには何が必要なのであろうか。本講義では衣・食・住・家族・福祉等の領域から、人々の QOL について言及するとともに、福祉生活デザイン学科専門科目の入門として位置付ける。講義を通して現代生活に関心を持ち、課題を見出し、自身や他者の生活を質的に向上することに対する知識や理解力を身につける。これらの学びを通して、4 年間の自身の成長を見据え、4 年後にどのような社会人になって巣立とうとするのかを自覚し、その目標を明確にする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1) QOL を理解する
- 2) 現代社会や現代生活における課題を見出す
- 3) 自身や他者の QOL 向上に必要な知識や技術について理解する
- 4) 1) から 3) をベースに、4 年後の成長した自分を創造し、4 年後の目標を立てる

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	各領域のどの内容にも関心がない	生活と福祉の内容に興味を持てる	自分の興味のある専門領域がわかる	興味のある領域を決定し、進むべきコースを決定できる
知識・理解力	福祉生活デザイン概論の内容構成を理解できない	福祉生活デザイン概論の内容構成を理解できている	各論の一部を取り挙げ、他者に説明ができる	身についた知識をもとに発展学習ができる
言語力	ワークシートへの記述がされていない	自分の言葉で、ワークシートに記載ができる	各担当者の求めに応じてレポートが書ける	自分の考えについて他者に話せ、適切な言語・表現で記載もきる
共生・協働する力	グループワークに参加しない	グループワークに参加し、協働しようと努力している	他者に対して自分の意見を発信し、他者の意見も傾聴できる	相手の意見を尊重し、共に協働できる

③④授業計画

第 1 回目

講義の概要、評価の仕方、超高齢社会の現状等の説明、および老年学の立場からウェルビーイングの条件と生活の質（QOL）の考え方とその背景、生活の質に関わる 4 つのポイントを説明する。また、高齢者の食と生活機能、健康観、精神的健康度の関係を例に挙げて、生活の質を追求する上での食生活の重要性について概説する。（加藤佐千子）

第 2 回目

社会福祉学の立場から、QOL の捉え方、解釈について概説する。人は、機能低下がみられても支援の活用によって生活の質（QOL）が保たれることについて高齢者を例に挙げて説明する。（三好明夫）

第 3 回目

生活学の立場から、生活基盤としての住まいの持つ根源的な意味を考え、生活の質（QOL）を追求する上での居住環境の重要性について概説する。（中村久美）

第4回目

家族の発達段階で直面する生活課題と、世話を必要とする子どもがいる家族にとっての生活の質（QOL）をワークライフバランスとジェンダーの視点から考える。（青木加奈子）

第5回目

子どもと若者の食と健康について、現在のみならず将来にわたって QOL の向上に資する食生活のあり方を概説する。（藤原智子）

第6回目

持続可能な衣生活のために、環境に配慮した衣服材料や衣生活の現状と課題について概説する。（安川涼子）

第7回目

住環境要素が人に与える影響について人間工学の観点から概説し、人の特性を組み込んだ住環境のあり方を考察する。（竹原広実）

第8回目

人はなぜ服を着るのか。ファッションや装いについて心理的な観点から概説する。（牛田好美）

第9回目

人の暮らしや QOL に大きな影響を与えるものの、見過ごされがちな「こころの健康」や「精神疾患・精神障害」について、正しい理解を進める。（佐藤 純）

第10回目

人は誰とどんな場所でどのようなコミュニティを形成して暮らしていけばよいか、住生活基本法をとりあげながら、あるべき住生活の姿について概説する。（中村久美）

第11回目

地域福祉の現状と課題について概説し、地域住民の主体的な取り組みによって地域住民のよりよい生活に向けて相互に支え合うことの重要性を説明する。（酒井久美子）

第12回目

日本における福祉の歴史的展開を概説するとともに「福祉とは何か」を説明する。（室田保夫）

第13回目

高齢者福祉の現状と課題について概説し、人生の最期まで生活の質を低下させずに過ごす支援方法について説明する。（三好明夫）

第14回目

障害者福祉の現状と課題について概説し、障害があっても生活のしづらさを解決できることを説明する。（矢島雅子）

第15回目

これまでの講義をもとに、自分と他者の生活の質についてグループで議論させ、生活の質を高めるには何が必要かを考えさせる。また、今後4年間に行うべきこと、めざす資格について自身の考えをまとめさせる。（加藤佐千子）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

- ・授業は、講義、アクティブ・ラーニングで行う。授業内容に応じて、DVD、OHC、スライドを用いる。
- ・最終回で全体の学びをグループディスカッションにより振り返り、知識の定着を図る。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

福祉生活デザインワークブックをよく読み、疑問点を明確にして、授業に臨むこと。

日常生活に関心を持ち、新聞やニュースを見る習慣をつける。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

- 1) 小レポート 12 本の提出(1 本 5 点～9 点で採点し加算する)
- 2) 小レポートの本数が 8 本以下の場合は、原則として 1) の算定を適用できない。

留意事項（Other Information）

- ・講義の順を変更することがある。
- ・「福祉生活デザインワークブック」を自分で印刷して必ず持参すること。
- ・オムニバス科目のため、授業を欠席した場合は、授業担当教員に措置を尋ねること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

manaba コンテンツに資料を掲載するのでダウンロード(印刷して)して授業に臨むこと

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

三好明夫：社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験

特定非営利活動法人理事長として NPO 法人団体経営の実務経験

佐藤 純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

安川涼子：企業における工学系開発業務

講義コード	SLB1450N0J
科目名	現代社会と家庭経営
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	青木 加奈子（あおき かなこ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

長引く経済の低迷や少子高齢化の進展によって、日本社会は、既存の社会システムからの大転換期を迎えている。このような混沌とした社会においては、「生きる力」を養い主体的な生活を営むための知識の習得が求められている。この授業では、生活の基本単位である家族がより良い生活を送るための家庭経営の知識を身につける。前半は、家族形態と機能が変化しつつあるなかで、現代の家族が抱える問題を学ぶ。中盤では、主体的に生きる消費者としての知識を習得してもらう。具体的には、生涯を見通した家計の管理ができるようになることと、現代の消費者問題について考える。後半は、地域社会における家族の役割や環境に配慮した家庭経営とはどのようなものかを検討する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 現代の家族が抱える問題を社会の変化と結びつけて理解することができる。
2. 家庭経済という視点から、より良い家庭生活を営んでいくうえでの課題やリスクを学び、問題解決のための方法を自ら考えることができる。
3. 生活を見直し、社会の一員として、持続可能な社会を形成していくために自分自身や家族ができることを考え行動することができる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	家庭経営に関する知識を習得しない理解しようとししない	家族経営に関する最低限の知識を習得している	家庭経営に関する基本的な知識全般を習得している	基本的な知識の習得に加えて、応用力も身につけている
言語力	設問に対する回答がなされていない誤字や脱字が多いあるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が5ヶ所以上ある	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、設問に対して適切に回答している	適切な表現を用いながら、簡潔に回答している	レベル3に加えて、批判的・論理的に回答している
思考・解決力	家庭経営で生じる生活課題を思考できない他人任せにして自ら解決しようとししない	家庭経営で生じる生活課題を考えてみる解決に向けて取り組もうとする	ほかの受講生の意見も取り入れながら、さまざまな角度から生活課題を想定し、状況に合った解決策を考えることができる	社会の変化やライフステージに応じた生活課題を想定し、自らの生活に適した解決策を考え、行動することができる
創造・発信力	指名されても発言しない課題を提出しない	指名されたら、自分の意見を言える課題を提出する	自発的に発言するあるいは「見られる」「評価される」ことを意識した提出物を作成している	レベル3に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている

③④授業計画

第1回目

（対面）家族の発達と現代の家族をめぐる問題

第2回目

(対面) 家族のかたち・機能の変化

第3回目

(対面) 生活の変化

第4回目

(オンライン) 生活時間の男女差

第5回目

(オンライン) 家庭経済における5つの活動と家計

第6回目

(対面) 日本の財政と税金についての講義 (ゲストスピーカー)

第7回目

(対面) 「消費」・「浪費」・「投資」とはなにか?

第8回目

(オンライン) 家計に影響を与える要因とお金の価値

第9回目

(オンライン) 長期的な生活設計と家計管理

第10回目

(オンライン) 家庭経営におけるリスクと予測の事態への備え

第11回目

(対面) 賢い消費者であるために①: 通信販売の利点と問題点

第12回目

(オンライン) 賢い消費者であるために②: 多重債務問題

第13回目

(オンライン) さまざまな消費者問題と消費者政策

第14回目

(オンライン) 地域社会のなかの家庭生活

第15回目

(対面) まとめ: 持続可能なライフスタイルをめざして

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート
レポート

②教育・学習の方法 (Course Methods)

<教育・学習の方法>

講義が中心であるが、与えられた課題について受講生自身の考えを出してもらう機会を多く設ける。そのため、受講生には積極的な授業の参加を求める。出席しているにもかかわらず、指名しても発言がない場合は、欠席とみなす。

<課題 (レポート) のフィードバック方法>

課題 (レポート) は授業中に受講生自ら発言する機会を設ける。または次回の授業で返却後、いくつかの回答については紹介し、受講生の間で共有する (場合によっては、manaba で公開する)。

[追記] 2020 年度は、対面とオンラインの両方で授業を進めていく。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

<復習>

対面授業: 授業で投影したスライドは、授業終了後の一両日中に manaba へアップする。授業中に聞き逃したことや分からなかった所は復習をして、必要に応じて担当教員に尋ねること。

オンライン授業: 授業開始時間に合わせて音声つきスライドを公開する。期末まで公開とするので、わからない部分は何度も繰り返し視聴すること。

<予習>

- ・授業中に次回までの課題を出す。必ず完成させて授業に臨むこと。
- ・関連しそうな新聞記事やインターネットの情報に目を通しておくことが望ましい。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

期末レポート 40%、授業中の課題 40%、受講態度 20%

留意事項 (Other Information)

- ・ゲストスピーカーの予定や受講者数や受講生の関心によって、順番を入れ替えたり、授業の一部を変更したりする場合

がある。

- ・「受講態度」には出席回数は含まない。
- ・欠席した回の「授業中の課題」の評価は「0点」となるので注意すること。
- ・対面授業の場合、レジュメは授業の3日前までに「manaba」に公開する。必要であれば、プリントするなど各自で準備をすること。

〔追記〕第1回目の授業は、必ず出席すること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

テキストは使用しない。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『家族生活研究』/宮本みち子・清水新二（編著）/放送大学出版協会/2009/9784595139000

『生活経営学』/赤星礼子・奥村美代子（編）/九州大学出版会/2013/9784798501055

『ジェンダーで学ぶ生活経済論[第2版]』/伊藤純・斎藤悦子（編者）/ミネルヴァ書房/2015/9784623073542

そのほか、授業中に適宜紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDA2254N1J
科目名	京都生活論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	鳥居本 幸代（とりいもと ゆきよ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

京都は平安京遷都以来、文化の発信地となり、現在に至っている。京都の気候風土にあった衣生活、食生活、住生活のルーツを探りながら変遷を知ることによって、今日の京都独自の生活文化を探究する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 京都の衣生活としては、キモノの基礎知識から地場産業として発展した西陣織のルーツ、友禅染の発生などについて述べる。
2. 京都の食生活としては、京料理の概要、京都で発展した魚料理、京野菜、茶の湯と京菓子などについて述べる。
3. 京都の住生活としては、寝殿造から京町家にいたる経緯、伝統建築などについて述べるとともに、現存する建築物の紹介を行う。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

キモノを知る

第 2 回目

京の着倒れ

第 3 回目

キモノの色と友禅染

第 4 回目

キモノの模様と西陣織

第 5 回目

キモノの付属アイテム

第 6 回目

京料理とは

第 7 回目

京都の魚料理

第 8 回目

京野菜を味わう

第 9 回目

茶の湯と京菓子

第 10 回目

京都人の食へのこだわり

第 11 回目

平安京を取り巻く自然と都市計画

第 12 回目

変貌する平安の都

第 13 回目

京町家の工夫

第 14 回目

京都を逍遥する

第 15 回目

京都の伝統文化を知る

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義形式をとり、パワーポイントや DVD を使用して視覚的理解を促す。講義終了後に、毎回、まとめの小テストを実施する。小テストは次回の講義前に返却し、フィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

第 1 回の授業以降、次回の授業内容に相応するテキストの箇所を指定し、読んでおくこと。その結果確認のため、講義の終わりに小テストを行う。

第 1 回 P66～73、P82～85

第 2 回 P74～81、P98～101

第 3 回 P90～93、P102～105

第 4 回 P94～97、P106～110

第 5 回 P110～125

第 6 回 P4～7、P24～27

第 7 回 P8～19

第 8 回 P28～40

第 9 回 P48～55

第 10 回 P20～23、P40～47、P56～63

第 11 回 P148～152、P176～179

第 12 回 P132～135、P140～147、P184～187

第 13 回 P160～167

第 14 回 P128～131、P136～140、P180～183

第 15 回 P152～159、P168～175

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は授業参加度 (30%)、小テスト (20%)、確認テスト (50%) にもとづいて、総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

遅刻は 15 分以内とする。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『京都人のたしなみ』/鳥居本幸代/春秋社/2019/学内販売

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『和食に恋して』/鳥居本 幸代/春秋社/2015 年

『平安京のくらし』/鳥居本 幸代/春秋社/2014 年/978-4-393-48226-1

『平安朝のファッション文化』/鳥居本幸代/春秋社/2003 年/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDA3450N1J
科目名	家族社会学
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	青木 加奈子（あおき かなこ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目の目標は、「家族を通して社会を考えること」である。客観的・批判的な見方を培うために、時代や世代、文化等による比較の視点を取り入れて授業を進める。扱うテーマは、ケアを中心に、家族規範（恋愛観・家族観・子ども観）や性の多様性、労働問題である。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 授業で扱う家族や社会の現象は単独で発生しているのではなく、社会システムや規範の変化のなかで生じていることを理解する。
2. 時代や世代、文化等の比較を通して、日本社会が抱える問題の特異性を理解する。
3. 1 と 2 を身につけたうえで、日本社会の持続可能性を議論する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	新しい知識や考え方がわからない理解しようとしな	時代差や世代差、文化差を理解できる	現代の家族や社会に関するさまざまな現象の特異性を、時代や世代、文化の比較から理解できる	レベル 3 に加えて、批判的・客観的な議論ができる
言語力	提出された課題に、誤字や脱字が多いあるいは漢字で書くべき語句をひらがなで書いている箇所が 5 ヶ所以上ある	多少の誤字はあるものの、主語と述語がクリアで、設問に対して適切に回答している	適切な表現を使いながら、簡潔に回答している	レベル 3 に加えて、批判的・論理的に回答している
思考・解決力	主観的な考え方しかない新しい知識や考え方を受け入れようとしな	新しい知識や考え方を受け入れつつ、自分の考えを持つことができる	レベル 2 に加えて、ほかの受講生の意見も取り入れながら、自分の考えを組み立てることができる	レベル 3 に加えて、現在、多くの問題を抱える日本社会が、どうしたら持続可能な社会になるかという課題に取り組むことができる
共生・協働する力	グループワークのときに、作業をせず人任せにするまたは人の意見を受け入れない	グループワークのときに、メンバーと役割を決めて、課題に取り組む	グループワークで、各自が作った成果物を持ち寄り、より良いものになるように全員で協力して課題を完成させる	グループワークで各自の役割を全うするだけでなく、メンバーの成果物を評価し、より良いものをつくり上げることができる
創造・発信力	指名されても発言しない課題を提出しない	指名されたら、自分の意見を言える課題を提出する	自発的に発言するあるいは提出物が「見られる」「評価される」ことを意識して作成する	レベル 3 に加えて、発言も提出物も、主観だけでなく資料からの裏づけをもとに行っている

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

近代社会の恋愛観・結婚観

第3回目

見える身体：「買う」性・「買われる」性

第4回目

子どもを持つ「選択」①：法制度と「家族」

第5回目

子どもを持つ「選択」②：生殖医療の課題と可能性

第6回目

LGBT+と社会

第7回目

ケアの社会学①：問題提起

第8回目

ケアの社会学②：デンマークのケア事情

第9回目

ケアの社会学③：グループ報告に向けた準備・ディスカッション

第10回目

ケアの社会学④：グループ報告

第11回目

ケアの社会学⑤：福祉レジーム論からみるケアの主体

第12回目

ケアの社会学⑥：国境を越えるケア労働者

第13回目

「ジェネレーションギャップ」と社会

第14回目

「利便性」の追求と労働問題

第15回目

授業のまとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する (期末レポート)

②教育・学習の方法 (Course Methods)

[教育・学習の方法]

・教員による講義が中心であるが、頻繁に受講生に意見を求める。

・「ケアの社会学」では、小グループごとに担当の国 (地域) を決め、その国 (地域) のケア事情について調べて報告をしてもらう。

[課題 (レポート) のフィードバック方法]

・課題のフィードバックは、原則授業内で行う。manaba も活用し、受講生全員で共有できるようにする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に次回までの課題を指示する。必ず準備して授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

期末レポート 50%、授業中の課題 35%、受講態度 15%

留意事項 (Other Information)

- ・受講生の人数や関心によって授業予定が変更になる場合がある。事前に授業内で連絡するのでしっかり聞いておくこと。
- ・かなりの量の文献・資料を読んでもらう。授業までに必ず理解して、授業に臨むこと。
- ・作業やディスカッションでは積極的に参加すること。
- ・『家族関係』を受講していない者で今後も受講する予定がない者は、必ず、事前に落合恵美子 (著) 『21 世紀家族へ』を読み、「近代家族」や「近代社会」について理解をしておくこと。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

21 世紀家族へ - 家族の戦後体制の見かた・超えかた [第4 版] /落合恵美子 (著) /有斐閣選書/2019 年/978-4641281462

※その他の文献は授業内で紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLB1100N0J
科目名	現代社会と福祉Ⅰ
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	室田 保夫（むろた やすお）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	福祉生活デザイン学科必修
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

社会福祉に関する基本的な考え方を学ぶ。そのために社会福祉の歴史や思想・哲学・価値といった基本的な事項を学び、現代社会にとって社会福祉の必要性を理解する。現代社会に於ける基本的な福祉課題の理解を目標とする。社会福祉の理論的な位置づけと社会福祉学についての入門的な性格ももっている。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

現代に於ける内外の社会福祉を理解するために、その歴史的展開を学び、今日に至った経緯を理解する。社会に於ける福祉政策やサービスが展開されていく基礎を理解する。福祉はしばしば実践といわれるが、その実践の思想や哲学を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

本講義のオリエンテーション

第 2 回目

現代社会とは何か、社会問題と生活問題

第 3 回目

西洋の福祉の歴史（1）－イギリスを中心に

第 4 回目

西洋の福祉の歴史（2）－アメリカを中心に

第 5 回目

福祉の思想と哲学(1) －石井十次

第 6 回目

福祉の思想と哲学(2) －留岡幸助

第 7 回目

福祉の思想と哲学(3) －山室軍平

第 8 回目

福祉の思想と哲学(4) －石井筆子

第 9 回目

福祉の思想と哲学(5) －林歌子

第 10 回目

福祉の思想と哲学(6) －井深八重

第 11 回目

福祉の思想と哲学(7) ー岩橋武夫

第 12 回目

ゲストスピーカーによる講演

第 13 回目

福祉の思想と哲学(8) ー糸賀一雄

第 14 回目

まとめ ー今後の社会福祉の課題

第 15 回目

テストと解説

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じてグループ討議も行う。プリントを配付する。毎回授業中に提出してもらったコメントについて、次期の授業時に口頭にてフィードバックする。適宜授業中に参考文献については指示する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義の終了時に次回のことについてふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) とする。「授業参加度」とは主体的に授業や課題に対して取り組んでいるかを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

講義の都合上、シラバスの一部変更もありうる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

授業ごとにプリントを配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『日本社会福祉の歴史 改訂版』/室田保夫・菊池正治他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623067961

『人物でよむ社会福祉の思想と理論』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2010/9784623055159

『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2013/9784623066247

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SWA1250N1J
科目名	現代社会と福祉Ⅱ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	室田 保夫（むろた やすお）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

「現代社会と福祉 1」で基本的な福祉と社会福祉に関する理解を踏まえて、この講義は社会福祉の主な理論や各領域での政策を学ぶ。そして福祉ニーズと資源、主な社会福祉領域についての理解、ソーシャルワークの基本的な働きや相談援助活動を学ぶ。この講義をとおして専門科目理解の基礎を確立する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

社会福祉学についての主だった理論を学ぶ、社会福祉の各領域についての政策や支援 方法等について学ぶ。ソーシャルワークの基本的な役割と方法について学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

本講義のオリエンテーション

第 2 回目

社会福祉学とは何か

第 3 回目

社会事業理論 一生江孝之と田子一民

第 4 回目

社会福祉理論（1）－孝橋理論を中心に

第 5 回目

社会福祉理論（2）－岡村理論を中心に

第 6 回目

社会福祉理論（3）－嶋田理論と現代の主な理論を中心に

第 7 回目

ニーズと資源

第 8 回目

児童の福祉

第 9 回目

高齢者の福祉

第 10 回目

障害者の福祉

第 11 回目

地域の福祉

第 12 回目

ゲストスピーカーによる講演

第 13 回目

ソーシャルワークの機能と援助活動

第 14 回目

現代の課題－貧困問題と福祉

第 15 回目

テストと解説

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義が中心であるが、関連する視聴覚教材をも取り入れる。ときに応じて、グループ学習、グループ討議を取り入れる。プリントの配付。適宜授業中に参考文献を指示する。毎回、授業中に提出するコメントに対して、適宜口頭でフィードバックする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

講義の終わりに次回のこともふれるので、それに基づき準備し臨むようにする。新聞記事や報道等を通じて、常に福祉問題について関心をもつこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (15%)、小テスト (15%)、テスト (70%) とする。「授業参加度」とは主体的に授業や課題に対して取り組んでいるかを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

講義の都合上、シラバスを一部変更する場合もある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

特になし。毎回、プリントを配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『日本社会福祉の歴史 改訂版』/室田保夫・菊池正治他編/ミネルヴァ書房/2014/9784623067961

『人物でよむ日本社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2006/9784623045198

『人物でよむ社会福祉の思想と理論』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2010/9784623055159

『人物でよむ西洋社会福祉のあゆみ』/室田保夫編/ミネルヴァ書房/2013/9784623066247

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDA3400N1J
科目名	消費者教育
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	鬼頭 弥生（きとう やよい）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

私たちの生活は商品やサービスを消費することで成り立っている。2004年の消費者基本法では、消費者の権利を尊重すると共に、消費者の自立を支援することが定められている。しかしその後も、消費者被害は後を絶たない。消費者を取り巻く環境は大きく変化しており、消費者被害の対象は広範囲に及び、問題の内容も複雑化・多様化している。また、社会問題や環境問題の深化から、消費者の責任がますます求められるようになっている。本講義では、こうした社会背景をとらえ、情報の理解力や、適切な「選ぶ目、決める力」を身につけることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・消費者問題の歴史と消費者を取り巻く新たな環境
- ・製品や取引をめぐる様々な消費者被害の実態
- ・消費者行政の仕組み
- ・消費者の意思決定プロセス
- ・消費行動が社会にもたらす影響
- ・消費者に求められる行動

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自身や周囲の人の消費行動について疑問をもたない	自身や周囲の人の消費行動を客観的にとらえてみようとする	自身や周囲の人の消費行動を客観的にとらえ、その特徴や問題点を見出そうとする	自身や周囲の人の消費行動を分析的にとらえ、そのあり方や教育について考える
知識・理解力	消費行動や消費者問題について関心がない	消費行動や消費者問題の概要について理解する	消費行動や消費者問題について、理論と具体例を関連付けて理解する	消費行動や消費者問題について深く理解し、授業の内容をもとに、自身のことばで説明できる
言語力	消費行動や消費者問題について説明ができない	消費行動や消費者問題のキーワードについて、授業の内容に即して説明ができる	消費行動や消費者問題について、授業の内容に即して説明ができる	消費行動や消費者問題について、自身のことばで説明できる
思考・解決力	「消費者」について興味がない	「消費者」や「消費」について客観的に考えようとする	「消費者問題」や「消費行動の影響」について積極的に考える	自ら「消費者問題」や「消費行動の影響」に関する課題を見出し、その対策や教育方法について積極的に考える
共生・協働する力	他者（友人など）の考えに関心がない	他者（友人など）の考えに関心をもち、意見をきこうとする	意見の交換を積極的に行い、他者（友人など）の考えを踏まえて考えようとする	意見の交換を積極的に行い、他者（友人など）の考えと自身の考えを統合しながら議論する
創造・発信力	自身の考えに自信がも	レポート課題などにお	レポート課題などにお	レポート課題などにお

	てず、自身の考えを示すことができない	いて、自身の意見を整理して示すことができる	いて、他者の考えと区別しながら、自身の考えを示すことができる	いて、他者の考えと区別しながら、自身の創造性に富んだ考えを示すことができる
--	--------------------	-----------------------	--------------------------------	---------------------------------------

③④授業計画

第1回目

ガイダンス

消費者問題とは何か、消費者教育がなぜ必要かについて解説する。

第2回目

消費者を知る：消費者の認知プロセス

消費者がものごとを認知する際のバイアスや、情報処理の特徴を学ぶ。

第3回目

消費者を知る：消費者の意思決定プロセス

商品・サービスを購入する際に、どのように情報を処理し、決定しているのかについて説明する。

第4回目

消費者問題の歴史

戦後から現在に至るまで、日本ではどのような消費者被害が発生し、問題はどのように変わってきたのかについて説明する。

第5回目

消費者被害の実際：悪質商法による被害

様々な悪質商法による被害の実際とその対策について概説する。

第6回目

消費者被害の実際：生活用品に関する被害

生活用品に関する消費者被害の実際とその対策について概説する。

第7回目

消費者被害の実際：インターネット普及に伴う問題

インターネットの普及に伴う消費者心理の変化と、インターネット普及を背景に生み出された新たな消費者問題の実際とその対策について概説する。

第8回目

消費者被害の実際：個人情報をめぐる問題

情報化社会のなかで生み出された新たな消費者問題として、個人情報保護の問題とその対策について概説する。

第9回目

消費者行政・制度

消費者行政の仕組みや法律、消費者被害の救済制度について概説する。

第10回目

食品安全確保のための制度

消費者の健康保護のための制度として、食品の安全確保の国際レベル・国レベル・企業レベルの枠組みや考え方を説明する。

第11回目

消費行動の影響：倫理的消費

私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例をもとに考える。人や社会、環境に配慮した「倫理的消費」や公正な貿易のしくみである「フェアトレード」についてとりあげる。

第12回目

消費行動の影響：どのような働きかけが必要か

私たちの消費行動が社会にどのような影響を与えているか、具体的な事例を踏まえて考える。映像教材も交えながら、よりよい社会を生み出すためには私たちはどのように行動すべきか、消費者に対してどのような働きかけが必要かを考える。

第13回目

企業と消費者の倫理と社会的責任

私たちの消費行動だけでなく、企業の経営行動が社会にもたらす影響を考慮し、その倫理と社会的責任について考える。

第14回目

消費行動のあり方を考えるワークショップ

消費者個人の行動が社会にもたらす影響を考え、よりよい行動につなげるにあたっては、どのような方法をとることが有

効なのか、「ゲームストーミング」という手法を用いたグループワークを通して考える。

第 15 回目

消費者に必要とされること

これまでの内容を踏まえて、これから消費者に必要とされること、身につけておくべきことは何かを考える。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法 (Course Methods)

テキストは使用せず、毎回資料を配布する。スライドや映像教材を活用する。授業時に提出してもらう感想や、授業時に提出してもらう課題 (小レポート) に対しては、授業内で適宜、口頭または配布資料でフィードバックを行う。

また、定期試験の内容の復習を促すため、定期試験終了後に、解答のポイントについて manaba において講評を行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

日常的に消費者問題に関心を持ち、新聞やニュース等で情報を収集しておくこと。授業後に課題を提示するので、次回の授業時に提出すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度と授業態度、課題 (40%)、試験 (60%) で評価する。毎回、授業後に感想を提出してもらう。

留意事項 (Other Information)

授業内で資料を配布する。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『新版 生涯消費者教育論—地域消費者力を育むために—』/谷村賢治・小川直樹編/晃洋書房/2007/9784771018570

『新しい消費者教育』/神山久美・中村年春・細川幸一編著/慶應義塾大学出版会/2016/9784766423075

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR3203N1J
科目名	マーケティング論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村 佳史 (にいむら よしふみ)
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

「映画が好き、食べることが好き、音楽が好き、彼氏も好き」・・・好き、という言葉は何にでも使えますよね？でも、「好き」の中身は微妙に異なるはずです。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化する、というのが現在の「マーケティング」です。数字で語ることができる、数字を読むことができる基礎を学ぶ授業です。また、数字を使うための上手な調査—アンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数学が苦手でも、数字の面白さがわかるように進めていきます。これからの時代を上手に生きていくために必要な力を身につけてください。特に、大事なお金の使い方については丁寧に指導していきます。広告にだまされない知恵を身につけましょう。良い生活者となるための授業です。数学が苦手な人でも大丈夫ですよ。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

・データの読み方、集め方 ・企業の商品開発の進め方 ・集めたデータから何を取り出すか ・イメージの数値化 ・好き、嫌いの感覚を分析する手法 ・自分がビジネスをしたら ・ビジネスチャンスデータをデータから発見する ・調査票を作る ・データは取り方で変化する ・調査結果を加工、報告する ・これからの時代のお金の運用 ・大事なお金を減らさないために

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	数字を見るのもいや	数字が示す「意味」に関心を持つ	自分の数値化を面白くできる	自分の目標を数字を用いて具体的に構築できる
知識・理解力	データに関心がない	基本的なグラフ（正規分布）の意味を理解する	データの中で自分の位置が見つけられるようになる	組織、そして社会での一般モデルの意味を理解できる
言語力	好き、の段階的区別ができない	対立概念を言葉で表現できる	アンケートの「流れ」、作り方を意識で器用になる	結論を意識した質問票の作成を行える
思考・解決力	ふだんの購買行動に疑問を持たない	価格以外の価値についてまず考えるようになる	購買行動のための情報収集に積極的になる	自分の意見で情報の取捨ができる
共生・協働する力	他者の興味に関心を持たない	他者が「好き」な理由を肯定的に受け入れられる	新しいこと、未知のものへの関心を持てるようになる	社会の中の自分の位置を「好み」の自己分析を遠い手確立する
創造・発信力	自分に自信を持ってない	他者に認めてもらう喜びを体験する	他者に自分の好みを伝えるためにデータを活用できるようになる	今の時代の「次」について積極的に考える姿勢を持つ

③④授業計画

第 1 回目

なんで私はこれが好き？ 自分たちの「好み」とその形成をふりかえって 好きになるって何？

第 2 回目

みんなに買ってもらうために 企業が「好み」をつかまえる技術・・・マーケティングの考え方と流行の誕生

第 3 回目

知るから、買うまでの段階 ニーズから行動へ 購買行動を考える・・・あなたの買い方はみんなと同じですか？

第4回目

流行は誰が作る リーダーはどこにいる イノベーターという考え方

第5回目

細分化されるターゲット テレビ番組やコマーシャルのターゲットは誰でしょう・・・万人向けから、個性的なターゲットへ マスメディアから SNS へ

第6回目

アンケートで作られる「今の時代」 質問紙作成のテクニック 調査は『聞き方』で決まる

第7回目

聞きたいことを聞いてみる グループで調査計画、質問紙を作成してみよう

第8回目

聞いた結果をどう見せる？ 調査結果の上手な報告の仕方について

第9回目

上手な発表の仕方 グループごとに調査結果を報告してみよう

第10回目

あなたは買い物上手ですか？ 消費者集団とはなにか 自分ははたして「普通」だろうか

第11回目

これからの時代に求められるセンスとは 差別化戦略とその具体的な方法論

第12回目

流行に負けないために マーケティングはどんな業種で求められているのか、そしてみなさんをどう巻き込もうとしているのか

第13回目

お金はどう使うのが良いのだろうか これからの経済と、お金の守り方について

第14回目

持ち込み可 試験（1時間）これからのマーケティングの課題

第15回目

添削して返却します 試験解説、総論、まとめ、および今からの資産運用について

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

基本的には自分の好みをなんとか数字にして、データを個々で蓄積していきます。また簡単なアンケート票の作成、発表をグループ単位で実施。実践的な演習を行ないます。各自の趣味、関心について「自分がなぜそれを好きになったのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略についても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待しています。グループでの共同作業が多くなりますので、積極的に授業にかかわってください。発表についてはその際に問題点の指摘など細かくフィードバックを行います。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

自分が好きなこと（音楽、ファッション等なんでもいいです）の理由をいつも考えておいてください。あなたはなぜ、それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを重視します。その良さを上手に他人に伝えましょう。きっと、友達が増えますよ。毎回みなさんに質問を投げかけていきます。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業に対する積極的な参加姿勢（30％）。授業内での課題への評価（30％）。授業期間内での試験（40％）。授業中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価します。

試験については最後の授業で詳しく解説を行うほか、添削を加えて各自に返却します。

留意事項（Other Information）

グループ作業が多い授業です、積極的に人と話すことが求められます。グループの仲間に迷惑をかけないように、きちんと出席してくださいね。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

特定のテキストは使用しません。毎回プリントを準備します。プリントはみなさんが各自保存し、毎時持参してください。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR3253N0J
科目名	ソーシャルマーケティング論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村 佳史 (にいむら よしふみ)
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

この科目は、従来の企業活動では見落とされがちだった社会福祉に関わる仕事の「価値」について考え、改めて仕事の意義を問い直そうというものです。福祉や保育系に進もうという人だけでなく、民間企業や公務員で働こうという人にもぜひ受けてほしい、現代社会の問題点について考えていく授業です。これからの企業は、儲かればいいだけではだめです。社会の幸福にどう貢献するか、それがソーシャルマーケティングの考え方の 1 つです。思いがけない就職先が見つかるかもしれませんよ。ソーシャルマーケティングという概念自体が新しいものですが、数学的な理論学習よりも、今の社会を知り、どんな課題がみなさんにかせられているのかをしっかりと考えます。海外に関心のある人にも楽しい授業ですよ。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

今の社会について知る 企業の存在意義とは何か 社会保障制度の必要性
 国や公共事業体ができること 企業ではない「法人」について知ろう
 世界の社会保障制度とその歴史 日本の問題点
 社会が幸福になる企業活動とは 介護や保育に求められるマーケティングとは

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

なぜ世界に恵まれない人がいるのか？ 数字の見方に慣れていこう、世界の幸福度

第 2 回目

資本主義社会の利点と弱点 私たちが生きている「今」の世界について知ろう

第 3 回目

企業の論理は勝者の論理 マーケティングを駆使するグローバル企業と、社会的弱者の関係

第 4 回目

国や自治体のできること マーケティング戦略の取れない公務の弱点

第 5 回目

法人って、何？ 国と企業の上に立つ様々な法人について知ろう

第 6 回目

公益事業の民営化って？ 少子高齢化にどう対応するか

第 7 回目

企業の社会貢献ー1 利益を社会に還元する企業の在り方とは？ コトラーに学ぶ

第 8 回目

企業の社会貢献ー2 消費者保護、そして環境対策

第 9 回目

週休4日制? オランダに学ぶ生き方・・ソーシャルマーケティングの視点から見たワークシェア

第10回目

効率の良い福祉や保育は可能か? 法人へのマーケティング技術の導入

第11回目

世界のソーシャルマーケティングの実践例 アフリカを救うためにミュージシャンが行ったこと

第12回目

私たちにできること-1 ここまでの学習を通してのグループディスカッション

第13回目

私たちにできること-2 ディスカッションの報告

第14回目

持ち込み可の試験 60分で試験を実施します。その後に簡単な解説を行います

第15回目

未来について考えよう 試験を返却します。また、保育や介護などの仕事がこれからどうなるか、可能性を探ります

定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート

行いません

②教育・学習の方法 (Course Methods)

世界でおきていることを「自分の問題」として考えるのがソーシャルマーケティングの第1歩です。覚えるよりも考える、発表することを重視します。発表内容については授業時間内に講評を行います。「気づき」を高く評価します。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

この分野はどんどん変化しています。まず毎日のニュースに気を配ることを心がけてください。難民問題や医療問題など、その時々々のニュースの解説も行います。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

期間内試験 50% ディスカッションの参加・発表 25% 普段の授業態度

25% 社会への関心の高さをを見せてください。試験については問題の狙いについて詳しく解説し、最終授業の際に添削を加えて返却します。

留意事項 (Other Information)

毎回、プリントを配布します。そこに講義中のメモを書き込み、自分だけのテキストを完成させてください。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

使用しない予定です(毎回プリントを配布します)。ただし、講義前に良い本が出た場合は、最初の授業で購入を指示します。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

最初の授業に指示します。またディスカッションの場合、グループごとに参考資料を貸与します。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLS3400A0J～SLS3400F0J、SLS3400H0J～SLS3400K0J
科目名	福祉生活デザイン特論
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	120

⑥担当教員名

青木 加奈子 (あおき かなこ)、牛田 好美 (うしだ よしみ)、加藤 佐千子 (かとう さちこ)、酒井 久美子 (さかい くみこ)、佐藤 純 (さとう あつし)、竹原 広実 (たけはら ひろみ)、藤原 智子 (ふじわら ともこ)、三好 明夫 (みよし あきお)、矢島 雅子 (やじま まさこ)、安川 涼子 (やすかわ りょうこ)

科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- (1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。
- (2) 各専門分野における研究動向を理解する。
- (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。
- (4) (1) ～(3) までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
分野に応じた基礎文献の探索力	文献収集する方法を知らない	インターネットを活用して文献収集することができる	図書館を活用して文献収集することができる	収集した文献を整理することができる
分野に応じた基礎文献の理解力	収集した文献を読み、要約することができない	収集した文献を要約し、内容を理解する	収集した文献の内容を発表できる	収集した文献の内容を理解し、考察することができる
分野に応じた研究動向の理解力	研究動向を調べることができない	研究動向を調べ、時系列で考えることができる	研究動向を調べ、現代社会の動向を理解できる	研究動向を理解し、今後の課題を考えることができる
研究方法の理解力	多様な研究方法について理解することができない	量的研究について理解できる	質的研究について理解できる	研究内容に応じた研究方法を考え、理解することができる

③④授業計画

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- (1) 各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。
- (2) 各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。
- (3) 各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

*後期には、合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に1回実施する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

講義コード	GCP3650A0J
科目名	海外インターンシップA
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

- (1)海外の職場で実際に英語を使って仕事することを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける。
- (2)ニュージーランドの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。
- (3)ニュージーランド人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力（TOEIC）の目安は以下のとおりである。

- (1)一般企業 <TOEIC 470～730 以上>（一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等）
- (2)観光関連企業 <TOEIC 730 以上>（旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシスト、観光局での事務アシスタント等）
- (3)幼児教育機関 <英語力問わず>（保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等）
- (4)福祉施設 <TOEIC 550 以上>（高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務）
- (5)ボランティア団体 <TOEIC 550 以上>（各種ボランティア団体での活動や事務アシスタント等）
- (6)学校（中高）日本語教育 <英語力問わず>（中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等）

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

- (1)海外研修日程（予定）
夏期または春期のいずれかを選択する。
- ①夏期開講 2020 年 8 月 22 日（土）～9 月 13 日（日）23 日間
- ②春期開講 2021 年 2 月 13 日（土）～3 月 7 日（日）23 日間
- (2)研修（インターンシップ）先
オークランド市内の企業、団体等
- (3)研修計画
1 日平均 7 時間×約 3 週間
- 定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法（Course Methods）

- ① インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。
- ② インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。
- ③ インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- (1) ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。
- (2) 旅行書やインターネットでニュージーランドの事前知識を得ること（地理、大まかな歴史、文化など）。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時に OKC より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

留意事項 (Other Information)

- (1) 参加費用を含む研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、学期登録時に配布する募集要項ならびに 4 月に開催する募集説明会において知らせる。
- (2) 受講申込時に TOEIC 成績通知書を提出すること。
- (3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。
- (4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計 2 回（夏期の場合 第 1 回目：2020 年 6 月 19 日（金）、第 2 回目：2020 年 7 月 17 日（金）、春期の場合 第 1 回目：2020 年 12 月 4 日（金）、第 2 回目：2021 年 1 月 15 日（金）予定）に必ず出席すること。
- (5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、OKC オークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

講義コード	GCP3650B0J
科目名	海外インターンシップB
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標 (Course Description)

- (1) 海外の職場で実際に英語を使って仕事をするを体験することにより、英語応用力を習得するとともに、国際性とコミュニケーション能力を涵養し、積極性や責任感、キャリア意識を身に付ける。
- (2) オーストラリアの生活、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して異文化を理解する積極性と国際的な視野を身に付ける。
- (3) オーストラリア人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。主な業務内容と必要とされる英語力（TOEIC）の目安は以下のとおりである。

- (1) 一般企業 <TOEIC 470～730 以上>（一般事務の補助業務、大学や専門学校等での学校事務等）

- (2)観光関連企業 <TOEIC 730 以上> (ホテルや旅行会社の補助業務、ガイドアシスタント、空港アシスト、観光局での事務アシスタント等)
- (3)幼児教育機関 <英語力問わず> (保育園や幼稚園で先生の補助業務、子供の出席管理、遊び相手、食事補助等)
- (4)福祉施設 <TOEIC 550 以上> (高齢者福祉施設での介護補助、食事手伝い、ベッドメイキング、話し相手等、介護のアシスタント業務)
- (5)ボランティア団体 <TOEIC 550 以上> (各種ボランティア団体での活動や事務アシスタント等)
- (6)学校 (小中高) 日本語教育 <英語力問わず> (小・中・高校等で日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、ゲーム、会話補助等)

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

(1)海外研修日程 (予定) 夏期または春期のいずれかを選択する。

①夏期開講 2020 年 8 月 22 日 (土) ~ 9 月 13 日 (日) 23 日間

②春期開講 2021 年 2 月 13 日 (土) ~ 3 月 7 日 (日) 23 日間

(2)研修 (インターンシップ) 先 プリズベン市内の企業、団体等

(3)研修計画 1 日平均 7 時間×約 3 週間

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

①インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションや現地でのインターンシップ事後指導に必ず出席すること。

②インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

(1) ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2) 旅行書やインターネットでオーストラリアの事前知識を得ること (地理、大まかな歴史、文化など)。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時に OKC より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

留意事項 (Other Information)

(1)参加費用を含む研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、学期登録時に配布する募集要項ならびに 4 月に開催する募集説明会において知らせる。

(2) 受講申込時に TOEIC 成績通知書を提出すること。

(3) 研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計 2 回 (夏期の場合 第 1 回目: 2020 年 6 月 19 日 (金)、第 2 回目: 2020 年 7 月 17 日 (金)、春期の場合 第 1 回目: 2020 年 12 月 4 日 (金)、第 2 回目: 2021 年 1 月 15 日 (金) 予定) に必ず出席すること。

(5) 本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、OKC オークランド事務所の日本人担当者が現地での対応にあたる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
 参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)
 参考 URL(URL for Reference)
 実務経験のある教員による実践的科目
 ≪実践的科目≫

講義コード	GCP3650C0J
科目名	海外インターンシップC
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	吉田 智子 (よしだ ともこ)
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目 (実践的科目)
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標 (Course Description)

- (1)アメリカのシリコンバレーにある米国企業・団体、日系企業等で実践的な就業体験を行うことにより、グローバルな視点と国際性、コミュニケーション能力、積極性や責任感、キャリア意識を身につける。
- (2)アメリカの生活、経済、文化、社会事情等への理解を深め、海外生活を通して多様な価値観や考え方を学ぶ。
- (3)アメリカ人家庭でのホームステイを通して、英語による日常生活を体験する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

各自の英語力に応じて、インターンシップ先となる企業、学校、団体等が決まる。英語の語学力が高い場合は、アメリカ人指導員のもとで英語による実務研修を行う。英語の語学力が低い場合は、日系企業で日本人指導員のもとで実務研修を行う。主な業務内容と必要とされる英語力の目安は以下のとおりである。

- (1)米国企業・団体 <TOEIC 730 以上が望ましい> (マーケティングリサーチ、企画プランニング、在庫管理、営業補佐等の実務を体験する。米国企業・団体の種類とは、次の通り。ソフトウェア・WEB 開発、機械開発、貿易商社、通販会社、流通、出版・メディア、食品開発・販売、デザイン会社、美容関連、会計事務所、幼児教育施設、福祉事務所等)
- (2)日系企業 <日常会話程度> (企画プランニング、リサーチ等のサポート業務を体験する)
- (3)旅行会社 <日常会話程度> (カスタマーサポート、企画、マーケティング、WEB サポート)
- (4)食品製造 <英語力問わず> (食品分析、マーケティング)
- (5)アパレル貿易 <英語力問わず> (営業管理、WEB 制作、在庫管理)
- (6)教育関係 <日常会話程度> (日本語教師のアシスタント、日本文化紹介、発音指導、会話補助等)

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

- (1)海外研修日程 (予定)

夏期または春期のいずれかを選択する。

① 夏期開講 2020 年 8 月 23 日 (日) ～9 月 13 日 (日) 22 日間

② 春期開講 2021 年 2 月 14 日 (日) ～3 月 7 日 (日) 22 日間

- (2)研修 (インターンシップ) 先

アメリカ・カリフォルニア州シリコンバレーに所在する企業等

(3)研修計画

1 日平均 7 時間×約 3 週間

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

①インターンシップに際して事前に行われるオリエンテーションに必ず出席すること。また、現地で行われるビジネス講座、実習課題のプレゼンテーションに参加すること。

②インターンシップ研修中は、遅刻、欠席をしない。仕事に対する責任感と研修生としての自覚をもち、研修先で与えられた仕事に意欲的に取り組む。

③インターンシップについて研修後レポートを提出すること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

(1)ビジネス英語に関する語彙や文書に触れておく。

(2)旅行書やインターネットで渡航先地域の事前知識を得ること (地理、歴史、文化など)。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

研修参加度・態度、課題、研修先機関からの評価、レポート等に基づいて総合的に評価を行う。研修終了時に OKC より授与される修了証書を確認し、帰国後に単位を与える。

留意事項 (Other Information)

(1)研修プログラムの詳細や受講申込方法などについては、新学期登録時に配布する募集要項ならびに 4 月に開催する募集説明会において知らせる。

(2)申込時に、TOEIC 成績通知書の提出を求めることがある。また、受け入れ企業・団体の担当者によるスカイプでの面接を行う。面接の結果、不採用となる場合もある。

(3)研修先の情勢により研修の実施を取り止める場合がある。また、下記スケジュールは、交通機関などの都合により変更になることがある。

(4) 研修参加決定者は、渡航前オリエンテーション計 2 回 (夏期の場合 第 1 回目 : 2020 年 6 月 19 日 (金)、第 2 回目 : 2020 年 7 月 17 日 (金)、春期の場合 第 1 回目 : 2020 年 12 月 4 日 (金)、第 2 回目 : 2021 年 1 月 15 日 (金) 予定) に必ず出席すること。

(5)本研修は、個別参加の形態をとるため、引率は同行しないが、インターンシップやホームステイ等については、OKC のカリフォルニア在住日本人アドバイザーが現地での対応にあたる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

講義コード	CHS1552N0J
科目名	病児の発達と支援
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60

⑥担当教員名

萩原 暢子（はぎわら のぶこ）、伊藤 一美（いとう かずみ）、岩崎 れい（いわさき れい）、河瀬 雅紀（かわせ まさとし）、薦田 未央（こもだ みお）、畠山 寛（はたけやま ひろし）、石井 浩子（いしい ひろこ）、植田 恵理子（うえた えりこ）、太田 容次（おおた ひろつぐ）、江川 正一（えがわ まさかず）

科目区分	現代人間学部 > 現代人間学部共通科目 > 現代人間学部共通科目（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	後期集中
⑤単位	2
備考	定員 40 人 集中

①科目の教育目標（Course Description）

病気を抱える子どもたちの苦しみを理解し、発達を支援する方法を学ぶ。すなわち、小児科病棟でのボランティア活動をモデルに、病気の子どものサポートのあり方を理解していく。そこで、小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師などの立場から概説する。次に、子どもたちが直面する疾患の基本的な知識や心のケアについて学ぶ。また、子どもたちをサポートするための発達に沿った遊びの役割や、手技などの実践を学習する。この際、グループ単位の演習形式を取り入れ、それぞれの意見を取り入れながら、一つのを完成させることで、協働について学ぶ。院内学級での支援についても、現場を見学し院内学級を担当している講師からその実際を学ぶ。さらに、ボランティアをする学生自身のケアについても学ぶ。最終的に学生が小児医療ボランティアに精通し、実践できるようになる。（オムニバス式/全 15 回）

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 小児科病棟が求めるボランティアについて、医師や看護師の立場から学ぶ。
2. 小児の疾患について、基礎的な知識や心のケアを学ぶ。
3. 子どもたちの発達に沿った遊びについて学ぶ。その際、グループ作業によって、協働する力を養う。
4. 院内学級での学び支援について学ぶ。
5. ボランティアをする学生自身のケアについて学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	小児に対するボランティア活動の意義が分からない	小児に対するボランティア活動の意義を理解できる	小児に対するボランティア活動の意義をより深く理解できる	小児に対するボランティア活動の意義を周囲の人たちにも理解してもらえるように働きかける
知識・理解力	小児医療ボランティア活動の意味が理解できない	小児医療ボランティア活動の意味が理解できる	小児医療ボランティア活動の意味をより深く追求する	小児医療ボランティア活動をより子どもたちに喜ばれるように内容を深めて追求する
言語力	小児医療ボランティアで使用される言葉の意味が分からない	小児医療ボランティアで使用される言葉の意味が理解できる	小児医療ボランティアのより高度な内容について使用言語を理解できる	小児医療ボランティアのより高度な内容に関して周りの人たちへも言語の意味を指導できる
思考・解決力	小児医療ボランティアについて教えられたこと以外は考えようとしていない	小児医療ボランティアでの課題を解決しようとする	小児医療ボランティアにおける課題を解決できる。	小児医療ボランティアにおける課題を解決でき次のステップに進める
共生・協働する力	小児医療ボランティアに関して他者の意見を	小児医療ボランティアについて他者の意見を	小児医療ボランティアにおける課題を他者と	レベル 3 に加えて考えた結果を周囲の人たち

	参考にしない	しっかり聞いて考える	協働して解決できる。	と共有しさらに自分の考えを深めようとする
創造・発信力	小児医療ボランティアについて自分の勝手な考えを発信する	小児医療ボランティアについて自ら周りの状況を踏まえて自分の考えを発信する	小児医療ボランティアについてより高度な内容を自ら考えだして周囲の状況を踏まえて発信できる	レベル 3 に加えてさらに情報モラルも加味しながら自分の考えを発信できる

③④授業計画

第 1 回目

(オリエンテーション) 講座の説明と府立医大小児医療センター見学を行う。(担当：全員)(府立医大での学習)

第 2 回目

(ボランティア 1) ボランティアへの期待について、府立医大の小児科医と看護師長からの講義を聞く。(担当：小児科医師、センター看護師長、萩原、河瀬)(府立医大での学習)

第 3 回目

(グリーフの理解) 小児医療ボランティアに当たり、病気の子供達との関わり方について緩和ケアの看護師長から講義を聞く。(担当：府立医大看護師長、萩原、河瀬)(府立医大での学習)

第 4 回目

(小児医療概論 1 子供の病気について①) 子供の健康状態のみかたと、主に感染症について述べる。(担当：萩原)(府立医大での学習)

第 5 回目

(ボランティア 2) 小児ボランティアの必要性和その難しさについて、YMCA より講師を招いてボランティアの実際の状況について学ぶ。(担当：YMCA より派遣講師)

第 6 回目

(小児医療概論 2 子供の病気について②) 子供がかかりやすい病気や、府立医大に入院している子供たちがかかるような病気について、症状や原因、治療について述べる。(担当：萩原)

第 7 回目

(小児医療概論 3 子供の病気とこころ) 病気の子供のこころの状態について、物語を通して学ぶ。(担当：河瀬)

第 8 回目

(子供の発達と遊び 1) 子供の年齢段階による発達の特徴とそれに沿った遊びやかかわり、ボランティアの意義、その上で入院児における遊びの留意点を学ぶ。(担当：畠山、薦田、伊藤)

第 9 回目

(子供の発達と遊び 2) 絵本の読み聞かせについて、さまざまな絵本の種類と年齢や入院生活を考慮した選書について学び、演習を交えて基本的なスキルを学ぶ。(担当：岩崎、石井、植田、畠山、薦田、伊藤)

第 10 回目

(子供の発達と遊び 3) 小児医療現場での遊びを想定し、また、実際のボランティア活動「ND シアター」の活動内容へのつながりを考え、プレイルームでの手遊びやペープサートなど、交流を含めた遊びを紹介する。(担当：石井、植田、畠山、薦田、伊藤)

第 11 回目

(子供の発達と遊び 4) 絵本の読み聞かせで取り上げた作品を素材に、グループごとにペープサートの演習を行う。(担当：石井、植田、畠山、薦田、伊藤)

第 12 回目

(子供の学び 1) 桃陽総合支援学校府立医大分教室での取り組みについて詳述する。(担当：江川、太田)

第 13 回目

(子供の学び 2) 長期入院・短期入院の児童生徒の学習の実態と問題点について学ぶ。(担当：江川、太田)(桃陽総合支援学校での見学実習①)

第 14 回目

(子供の学び 3) 桃陽総合支援学校の取り組みなどについて学ぶ。(担当：江川、太田)(桃陽総合支援学校での見学実習②)

第 15 回目

(総括) 各自で講座全体の振り返りを行い、グループで話し合ったことを発表する。(担当：全員)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 授業方式

講義形式を中心に、グループに分かれて演習形式や、現場への見学実習が含まれる。

2. 学習方法

(1) プリントに沿って行う。

(2) パワーポイントを用いて、イメージを作っていく。

(3) グループに分かれた演習はディスカッションや、「子どもの遊び」ではロールプレイ、や共同制作などの方法で行う。

(4) 見学実習では、現場での説明を行う。

3. テキスト・参考文献

(1) テキストは用いない。

(2) 参考文献は、「その日のまえに」(文春文庫)

・最終授業の総括で全体の振り返りをして、フィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

・「ボランティア活動」について、自分で学習し、イメージを作っておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

1. 評価は、授業参加度 (30%)、最終レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

2. 欠席については、詳細を留意事項で示す。

留意事項 (Other Information)

1) 2月中の集中講義となる。京都府立医科大学で実施される授業の日程は、授業の中で説明があるので、集合時間と場所を確認すること。

2) 講義の順番は、府立医大の都合で多少前後することがあるので、配布される授業スケジュールで確認すること。

3) 全授業出席することが、合格の条件となる。ただし、指定の授業以外で4回以内の欠席であれば、当該授業のDVD視聴とレポートにより、担当教員の承認が得られれば出席扱いとなる。

4) 指定の授業(第1回～第3回、第5回、第9回～第11回、第13回、第14回)を1回でも欠席すると、不合格となる。

5) この科目は、府立医科大学附属病院小児医療センターでの実践講座に引き継がれる。実践講座に参加するためには、この科目の修了が必須条件となっている。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『その日のまえに』/重松 清/文春文庫/2012/

授業用に貸し出す。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

医師として病院等での診療経験、教員として特別支援学校・養護学校(知的障害・肢体不自由・病弱虚弱)、小学校(難聴学級担任)での勤務経験、特別支援学校校長としての勤務経験、臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験、有資格者として、学校園での実務経験を有する教員がオムニバスで担当する科目。

講義コード	SWA3200N1J
科目名	地域福祉論 I
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	酒井 久美子（さかい くみこ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

私たちの生活基盤である地域にはさまざまな人々がさまざまな生活問題や社会福祉問題を抱えながら暮らしているのが現状である。それらを解決し、誰もが住みやすく、一人ひとりが安全・安心に暮らしていける地域社会を構築していくためにはどのようなことが必要なのであろうか。このような問題を地域福祉の概念や理論の歴史的展開、社会的背景などを学ぶことを通して考え、地域の現状や課題を理解し、地域に根差した福祉とは何かを理解することをねらいとする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 「地域福祉」とは何か、なぜ「地域福祉」なのか。地域福祉の理念・考え方（概念）・歴史的背景・枠組みから学ぶ。
2. 地域福祉を推進するための課題について学ぶ。
3. 地域福祉の原理・原則を理解し、地域福祉推進のために必要な取り組み、専門機関や各種関連組織等について学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自分の地域や課題について、考えようとすることができない	自分の地域や課題について、情報収集しようとすることができる	自分の地域や課題について、理解することができる	自分の地域や課題について、理解し、そのために何ができるかを考えることができる
知識・理解力	地域や地域福祉について、理解することができない	地域や地域福祉について、理解しようとする努力することができる	地域や地域福祉について、理解し、大切なことが何かを考えることができる	地域や地域福祉について、理解し、課題解決に必要なことを考えることができる
言語力	地域や地域福祉について、説明することができない	地域や地域福祉について、説明しようとする努力することができる	地域や地域福祉について、説明することができる	地域や地域福祉について、説明することができ、他者にも伝えようとするすることができる
思考・解決力	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができない	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決するために何が必要かを考えようとするすることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決に向けて考えることができる	地域や地域福祉について、内容を考え、課題解決することができる
共生・協働する力	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとすることができない	地域や地域福祉について、他者とともに考えようとするこがでる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動しようとするこができる	地域や地域福祉について、他者とともに考え、活動し、解決することができる
創造・発信力	地域や地域福祉について、何ができるかを考えることができない	地域や地域福祉について、何ができるかを考えようとするこができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者に取り組みうと発信するこができる	地域や地域福祉について、何ができるかを考え、他者とともに新たな取り組みができる

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

地域福祉の概念 ①地域とは何か

第3回目

地域福祉の概念 ②地域福祉とは何か

第4回目

地域福祉の形成と歴史的展開 ①地域福祉の源流（欧米の歴史的展開）

第5回目

地域福祉の形成と歴史的展開 ②戦後わが国における地域福祉の形成過程

第6回目

社会福祉法における地域福祉の位置づけ

第7回目

地域福祉の主体と対象

第8回目

地域福祉計画と地域福祉活動計画

第9回目

地域福祉の推進組織・団体 ①社会福祉協議会

第10回目

地域福祉の推進組織・団体 ②民生・児童委員

第11回目

地域福祉の推進組織・団体 ③NPO、ボランティア活動など

第12回目

地域福祉の推進組織・団体 ④各種地域支援組織

第13回目

地域福祉の人材・財源

第14回目

形成テストおよび総括

第15回目

地域福祉推進の課題と展望

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

資料、参考事例の紹介などによって進める。

参考文献については随時紹介する。

復習クイズは、終了直後に回答の確認をし、フィードバックをおこなう。

形成テストは、終了後に回答の確認とフィードバックをおこなう。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

地域福祉に関連する社会福祉法や各種制度とその変革の流れ、参考文献に挙げた報告書などを事前に確認しておくことが望ましい。また、各自が暮らしている地域についても、どのような施策が講じられているのか、またどのような活動が展開されているのか確認し、地域福祉の具体的な取り組みを調べておくことが望ましい。理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習して臨むこと。加えて、事前に **manaba** で配付する毎回の講義資料を必ず各自ダウンロードし予習して授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

評価は、授業態度（30%）、復習クイズ（10%）、形成テスト（60%）に基づいて総合的におこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告 地域福祉における「新たな支え合い」を求めて―住民と行政の協働による新しい福祉―』/全国社会福祉協議会//2008/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

講義コード	SWA3450N1J
科目名	地域福祉論Ⅱ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	酒井 久美子（さかい くみこ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	3年次
開講学期	後期
⑤単位	2
前提科目	地域福祉論Ⅰ
曜日時限	火曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

地域福祉を推進するためには、そこで暮らす地域住民による主体的な取り組みが重要である。地域住民の主体的な取り組みを推し進めていくためには、住民の主体形成、地域の組織化を進めていくことが必要である。そこで、住民主体の原則を再度確認し、なぜ住民が主体なのか、住民の主体的な取り組みの必要性について理解を深め、地域福祉を推進するための方法について考える。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 住民の主体的な取り組みの必要性について考える。
2. 住民が主体的に取り組むために必要な支援について考える。
3. 特に小地域の取り組みについて検討する。
4. 復習クイズ終了直後には、回答の確認をし、フィードバックをおこなう。
5. 形成テストについては、終了後に回答の確認・解説をおこない、フィードバックをおこなう。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	地域福祉を推進するために、何ができるのかを考えようとしな	地域福祉を推進するために、自分のできることを考えようとする	地域福祉を推進するために、自分のできることをイメージすることができる	地域福祉を推進するために、イメージしたことを実践しようとする
知識・理解力	地域福祉推進に必要なことがらを理解することができない	地域福祉推進に必要なことがらを理解しようとする	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える	地域福祉推進に必要なことがらを理解し、具体的な方法を考える取り組みを行う
思考・解決力	地域福祉の課題について、考えることができない	地域福祉の課題について、考えようとすることができる	地域福祉の課題について、考え、対応を考えることができる	地域福祉の課題について、解決策を検討することができる
創造・発信力	地域福祉の課題について、できることを考え、他者に発信することができない	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに共有することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決方法を検討することができる	地域福祉の課題について、できることを考え、他者とともに解決に向けて取り組むことができる

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

地域福祉と福祉教育

第3回目

福祉教育の概念・展開

第4回目

地域福祉と住民参加

第5回目

コミュニティソーシャルワークについて

第6回目

ソーシャルサポートネットワークについて

第7回目

地域の組織化

第8回目

社会資源の活用

第9回目

地域特性の把握について

第10回目

地域における生活問題、課題の把握について

第11回目

地域活動への支援体制について

第12回目

地域における連携・協働とは

第13回目

小地域における住民活動の実践

第14回目

形成テストおよび総括

第15回目

住民主体の地域福祉活動に関する課題と展望

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

資料、参考事例の紹介などによって進める。参考文献については随時紹介する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

各自が暮らしている地域の住民活動について調べておくことが望ましい。

住民活動への支援体制について調べておくことが望ましい。

理解度を促進するため、毎回復習クイズを実施するので、毎回の授業内容についてしっかりと復習をして臨むこと。加えて、事前に manaba で配付する毎回の講義資料を各自必ずダウンロードし予習して授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業態度 (30%)、復習クイズ (10%)、形成テスト (60%) に基づいて総合的におこなう。欠席回数が 3 分の 1 を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

留意事項 (Other Information)

社会福祉士、精神保健福祉士に必要な地域福祉推進にかかわる専門的知識や技術、方法に関する内容が中心となるため、その点を十分考慮したうえで、履修登録すること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『イントロダクションシリーズ10 地域福祉の理論と方法』/成清美治・川島典子編著/学文社/2013/9784762019395/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

講義コード	LDR2201N1J
科目名	ビジネスの基礎 I
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村 佳史 (にいむら よしふみ)
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・1 限

①科目の教育目標 (Course Description)

この授業の目標は、社会人として求められる一般教養、そしてコミュニケーション力を育てよう、というものです。みなさんは「自分が考えていることをきちんと人に伝える」ことができますか？ちょっと苦手、という人はぜひ選択してください。それを楽しく身につけていくために、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つめます。そこから話題を深めていきましょう。考えるための知識をまず身につけていきます。次に、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画作りに入ります。自分の未来を考える力を育てることを目標にしています。書く、考える、話し合う、就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。人と話すことで自分を見つめることができるようになります。この授業で、新たな友人を見つけてもらえれば幸いです。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

・基礎教養の再確認 世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について ・メディアの特質とその個性 新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割 ・社会参加の様々な方法を知ろう ・ビジネスにおける情報の価値を知る ・これから企業や社会はどうか ・コミュニケーション力とはなにか ・相手を知らないとは始まらない ・世代論の基礎 自分たち世代の強み、弱みを知ろう ・企画とはなにか すべては上手な目標設定から ・企画を実際に立ててみよう 上手に自分の考えを伝える手法

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	人の話が聞けない	まず他者の意見を聞く姿勢ができる	自分が興味ないと思っていたものが面白くなる	聞くことで自分の考えを補填、整理できるようになる
知識・理解力	世界や社会に関心がない	自分の好きなものをもっと深く知りたいと思う	知りたい対象がどんどん広がる	1 つのことを多面的にみられるようになる
言語力	形容詞でしか意見が言えない	相手のことを考えた表現を工夫する	自分のことを言いきれ「強い言葉」が使えるようになる	書くこと、話すことの楽しさを理解する
思考・解決力	好きだから好き、といった思考停止に陥る	ささいなことにでも、「なぜ」と自問できるようになる	深く考えるための知識の重要性を認識する	理想形 (理念型) を想像できる思考法をマスターする
共生・協働する力	あいさつができない	話を聞くときにきちんと話す人を見る	話すときに相手を見る余裕を持つ	自分の意見より高次のものを、人と話しながら模索できる
創造・発信力	受け身の行動しかできない	自分が好きなことを理解してほしいと思う	自分が好きなことを客観的に他と比較できるようになる	「人と違う」ことに価値を見出せるようになる

③④授業計画

第 1 回目

メディアとの付き合い方 メディアについて知ろう 日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性

第 2 回目

今の世界を支えているものは？ 世界を知る基礎教養・1 世界のことをもっと知ろう 宗教、民族の基礎

第3回目

世界は楽しい 世界を知る基礎教養・2 面白い現代史 アジアと西洋をつなぐもの

第4回目

インタビュアーになってみる 自分を伝える技術を持とう・1 上手な話の聞き方、まとめかた

第5回目

社会人レベルの文章の書き方 自分を伝える技術を持とう・2 こう書けば、簡単に伝わる文章が書ける

第6回目

聞いて、話して、まとめてみる コミュニケーション力とは何か ディスカッションを楽しもう

第7回目

世代を知ろう 今の20代を大人はどう見ているか知ろう

第8回目

さまざまな人の中での自分の客観化 「私」はどこにいる

第9回目

人と自分は違って当然 ターゲット、という考え方 自分と人とは似ているし、違う

第10回目

相手のために何かを考えてみる 企画力をつける・1 目的の立て方

第11回目

企画の作り方 企画力をつける・2 手順の確認と評価の仕方

第12回目

楽しくアイデアをまとめてみる 企画書を作る・1 グループで考える

第13回目

データを見せてみよう 企画書を作る・2 根拠を示すための数字の使い方

第14回目

プレゼンテーションです 企画書を作る・3 課題に沿って企画書を作る、そして発表する

第15回目

20代の自分の企画は？ これからの時代と自分の役割について考える

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて知り、考えるという作業を行ないます。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をするとともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきつと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。興味を持てる領域が広がり、知識を使いこなして自分の意見を形成でき、発信できる力を身につけてください。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけて置いてください。また海外への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。旅は生きるためのフォーム・・・基礎力を育ててくれます。一人で京都の街を歩く、というのも最高の学習です。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

試験は行ないません。授業中の態度と制作物、小テストで判断します。 授業態度・姿勢 30% 授業での課題（作文など） 30% 最終制作物（企画書） 40% 毎回の課題（作文、アイデア出し、ディベート）授業内にそれぞれの良い点を指摘します。授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いようだと単位の認定は難しくなります。注意してください。また提出物についてはすべて返却します。その際に、個々にあてた評価を添えます。特に、どの点が伸びたかについて詳しく説明します。

留意事項 (Other Information)

みなさんの興味によって授業内容は変わります。自分の関心あることを積極的に発言してください。聞くだけ、座っているだけという受け身の姿勢からは、何も生まれませんよ。毎時、必ずみなさんの意見を求めます。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

テキストは特に使用しません。毎回、みなさんの意見を聞きながらプリントを準備します。プリントは皆さんが各自ファ

イルし、毎時、持参してください。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

世界地図

好きな雑誌

世界について書かれた好きな本

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR2252N1J
科目名	ビジネスの基礎Ⅱ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村 佳史（にいむら よしふみ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
前提科目	ビジネスの基礎Ⅰ
曜日時限	火曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

考える力、そのために必要な知識の組み立て方、話し方、聞き方を総合的に伸ばしていきます。「ビジネスの基礎」の授業をより深めていく（資料を読み込む、より高度な企画書作りに取り組む）授業です。そのため「ビジネスの基礎」受講修了者（過年度でも可）対象者のみの受講となります。読む力、調べる力を身に付け、生涯にわたって学び続けるという基本フォームを形成します。就職試験の対策、就職前のトレーニングとなることも目標とします。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・コミュニケーション力のさらなる上昇 ・知的好奇心の育成 ・資料読解力の育成 ・未来の課題の確認
企画力の充実 ・個々の「幸福感」の形成

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

新聞に慣れよう 世界を知るための方法を考える まず新聞について、ネットニュースとの違いを知る

第 2 回目

本を読むとはどういうことか 未来を考えるための方法を考える 読書の楽しさを再確認

第 3 回目

同じものを読んでも感想は異なるもの 考えたことを話し合ってみる、意見をまとめる

第 4 回目

作文ではなく、論文っぽいものを 論文（報告書）を書いてみる（提出物 1）

第 5 回目

高度なディスカッションのために 自分のことを知る・・・対話を通して自己を確認する

第 6 回目

他者との違いを意識して 自分カタログ作りに挑戦する・・・今の自分、過去の自己の確認

第 7 回目

人に合わせる必要はありません 自分の長所、欠点を再確認し、成長目標を決める

第 8 回目

自分を生かせる場所はどこですか 今後の目標を作り、まとめる（提出物 2）

第 9 回目

企画書作りを思い出しましょう 企画の作り方の再確認

第 10 回目

違う個性が集まって新しいものを作る チームで企画を作ることに挑戦する・・・何が欠けているかを確認、役割を決める

第 11 回目

資料の探し方・スマホをフル活用 企画作りに必要な資料を分担して集め、企画書を作る

第 12 回目

プレゼンテーション 企画書の完成と、グループでのプレゼンテーション（提出物 3）

第 13 回目

少しだけ難しそうな本を読む これからの社会、企業、家庭がどうなるかを考える

第 14 回目

幸福について考える 働き方と、幸福度の関係について考える

第 15 回目

自分の成長を確認しよう 各自が自分の目標について改めて考えてみる、書いてみる、発表する（提出物 4）

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

短時間に資料を読む、まとめる、発表するという授業を基本に、他者とのディスカッション、共同作業を行います。また文章力の育成も重視します。書くこと、話すことの楽しさを感じてもらえるよう、みなさんに応じて工夫していきたいと思っています。期待してくださいね。提出物に関しては簡単な添削を加えてすべて返却します。また、個々の良い点について授業内で指摘します。個々の「伸び」を高く評価します。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

とにかく、何にでも興味を持つこと。毎回「今の私の関心ごと」について細かく聞きます。みなさんが新しいことに挑戦することが、毎回の宿題です。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業態度・授業参加度（50%）、個々の成長度（課題の制作物の内容により判定）（50%）全授業終了後、提出物の返却と同時に個々の評価を添えた文書をお渡しします。

留意事項 (Other Information)

毎回、何らかの課題が出ます（楽しい課題です）。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

特に用いません。ただし、個々に応じて課題図書を貸与します。新書本を指定図書として購入する可能性もあります。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

随時指示します。新聞に目を通す習慣は作ってください。

参考 URL(URL for Reference)

随時指示します。

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SWA2401N1J
科目名	レクリエーション論
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	三好 明夫（みよし あきお）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

外来語である『レクリエーション』の概念は、近年日本の様々な分野で活用されるようになってきている。医療福祉、地域の社会教育、そして個人の日常生活にいたるまで現代社会の中に浸透してきている。それぞれの分野で認識されているレクリエーション概念と実践は、その形態や意味合いに特徴がある。レクリエーションの基本的概念を学習し、様々な分野でのレクリエーション実践やその支援法を知ること目標とする。そして、それらの知識を活用し、レクリエーションプログラムの基本的な企画・運営・管理方法を体験を通して学ぶ。コミュニケーション力、クリティカルシンキング、問題解決能力が身につく。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1.レクリエーション発祥の歴史から基本的概念を学ぶ。 2.様々な分野でのレクリエーション実践例を知り、レクリエーションへの認識を広げる。 3.具体的なレクリエーション活動を体験し、その意義を理解する。 4.レクリエーションプログラムの立案方法を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	レクリエーションを意識できない	レクリエーションの必要について考える	レクリエーションの必要について考える	レクリエーションがもたらす効果について考える
知識・理解力	レクリエーションとアクティビティの整理ができない	レクリエーションの仕組みを理解できる	レクリエーションの仕組みを理解し、各内容を理解できる	レクリエーションの展開での問題点や新たな展開について理解できる
言語力	レクリエーションの専門用語を理解しようとしない	レクリエーションのプログラムを理解できる	簡単なレクリエーションプログラムを実施できる	複雑なレクリエーションプログラムを実施できる
思考・解決力	教えられたこと以外は考えていこうとしない	レクリエーションの応用が生活の中にあることを理解する	レクリエーションの新たなプログラム作成意欲がある	新たなプログラムを活用して自らデモンストレーションできる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献をもとにレクリエーションの在り方を考える	考えた結果を他者と共有し自身の考えを深めていく	レベル 3 に加えてレクリエーションの地域社会浸透の方法を考える
創造・発信力	自分自身の考えだけで発信を行う	周囲の状況を勘案してレクリエーションの在り方を考える	新規レクリエーションの創造を踏まえて意欲的に考える	レクリエーションの創造と実践が地域社会に向けて発信できるように考える

③④授業計画

第 1 回目

レクリエーションとは レクリエーションの基礎理論

第 2 回目

レクリエーションを考える レクリエーション支援の理論

第3回目

レクリエーションの実施場所1 教育現場でのレクリエーション

第4回目

レクリエーションの実施場所2 地域におけるレクリエーション

第5回目

レクリエーションの実施場所3 医療福祉現場のレクリエーション

第6回目

新たなレクリエーション1 セラピューティックレクリエーションの概要

第7回目

新たなレクリエーション2 セラピューティックレクリエーションの実際

第8回目

新たなレクリエーション3 セラピューティックレクリエーションの課題

第9回目

レクリエーションプログラムの実際1 室内レクリエーションの実践

第10回目

レクリエーションプログラムの実際2 対象者と支援の場の想定

第11回目

レクリエーションプログラムの実際3 ニーズの把握と目標設定

第12回目

レクリエーションプログラムの実際4 レクリエーション財の選び方

第13回目

レクリエーションプログラムの実際5 プログラム立案

第14回目

レクリエーションプログラムの実際6 プログラムの実践

第15回目

レクリエーションの総括 レクリエーションの課題と展望

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。レポートを課す

②教育・学習の方法 (Course Methods)

授業の実施方法 1.主に実技形式で行い、適宜資料を配布する。 2.講義の中で課題を提示し、個人もしくはグループで課題に取り組みながら解決していく。 3.具体的なレクリエーション活動を実際に体験し、そのプログラムの意図と効果を理解する。 4.実際の例からレクリエーションプログラムを構成する要素を学び、その立案に必要な知識を獲得する。

学習の方法 1.学習内容についてやグループワークの中での積極的な発言を意識する。 2.本講義で学んだものを自分の日常生活に照らし合わせ、活用できる部分は出来るように意識する。 3.課題を通して、事柄を分析する力、人に伝える力の向上を意識する。小レポート、小テストを実施した場合には次回の授業時にフィードバック説明を行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1.自分の人生の中でレクリエーションに関係する要素を見つけ、振り返ってみる。 2.現代の日常生活に存在するレクリエーションに関する事柄があれば、それを紹介し共有する。 3.講義を通してレクリエーションプログラムの企画・運営に関する課題を提示する(ケーススタディやイベント企画等)。その発表を通して、レクリエーションプログラムを立案する能力と楽しさを知る。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

20

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、グループ課題達成度 (25%)、講義内の小レポート・小テスト (15%)、最終レポート (30%)

留意事項 (Other Information)

プログラム活動を行うことがあるので活動しやすい服装で出席すること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

適宜プリント等を配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『(財) 日本レクリエーション協会編「レクリエーション支援の基礎」』//日本レクリエーション協会/2007/

『レクリエーションの基礎理論』/池田勝 永吉宏英 西野仁 原田宗彦/杏林書院/1989/

『レクリエーション活動援助法』/吉田圭一 茅野宏明/ミネルヴァ書房/2007/

『楽しいをつくる やさしいレクリエーション実践』//日本レクリエーション協会/2000 /

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》実務経験等：福祉レクリエーションワーカーとして高齢者施設での勤務経験あり。

講義コード	SWR2300N0J
科目名	ソーシャルワーク演習 I
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	三好 明夫（みよし あきお）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科 > 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	2 年次
開講学期	通年
⑤単位	2
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習では、相談援助に必要な知識と技術を理解し、それを事例的・体験的に学び、現場で活用できるよう修得することを目的とする。相談援助の知識や技術に関わる他の専門科目とも関連づけ、現場実習の事前授業として位置づける。そのため、本演習では学生は各福祉現場の現状や援助場面を想定しながら、さまざまな社会福祉実践の場で対人援助に従事する専門職としての基礎的な能力を身につけることをめざす。思考力、解決力、共生、協働していくことができる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

相談援助の意味を明確にしつつ、その相談援助に必要な実践能力を身につけることである。そのために相談援助職としての専門的な「自己覚知」「ものの見方と考え方」、「援助者の態度」、「コミュニケーションスキル」、「援助プロセスの実際」を、観察・考察の演習と事例検討を通して学習する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	社会福祉援助技術者を意識できない	社会福祉援助技術者を目標として考える	社会福祉援助技術者になるために必要な力量構築を考える	社会福祉援助技術者として将来、福祉の対象者への援助を行うことを考える
知識・理解力	社会福祉援助技術者が対人援助の専門職であることの理解がない	社会福祉援助技術者の役割、業務について理解できる	社会福祉援助技術者の役割が理解でき領域ごとの業務が理解できる	さまざまな場面での社会福祉援助技術者の援助方法が的確に展開される
言語力	社会福祉援助技術者としての専門用語が理解できない	社会福祉援助技術者として専門用語とその内容について理解する	社会福祉援助技術者として簡易な事例のロールプレイが行える	社会福祉援助技術者として難解な事例のロールプレイが行える
思考・解決力	教わったこと以上は考えようとしていない	社会福祉援助技術者として日常生活での支援活動の必要に思いをはせていく	社会福祉援助技術者として日常生活での支援活動の重要に向けて実践をイメージする	社会福祉援助技術者として必要なコミュニケーション技術に磨きをかけて問題の解決を行うことができる
共生・協働する力	他者の意見や各種文献を参考にしない	各種文献を参考にしながら対人援助の重要ほ考える	考えた結果を他者と共有し、さらに自分の考えを深めていく	レベル 3 に加えて社会福祉援助技術で学んだ知識を技術に活用する
創造・発信力	自分で勝手に判断や想像した内容を発信する	周囲の状況をしっかりと見極めて社会福祉援助技術者として情報収集できる	幅広い社会福祉援助技術を活用しながら福祉課題の解決策を考える	レベル 3 に加えて関連援助技術や介護技術の知識も活用して援助を考える

③④授業計画

第 1 回目

ソーシャルワーク演習 I オリエンテーション、対人援助とは

第 2 回目

対人援助技術者として必要な技術 1 自己理解と自己覚知

第3回目

対人援助技術者として必要な技術 2 他者を理解すること

第4回目

対人援助技術者として必要な技術 3 自他の価値観

第5回目

対人援助技術者として必要な技術 4 専門職としての価値・倫理

第6回目

対人援助技術者として必要な技術 5 ソーシャルワーカーの使命と役割

第7回目

対人援助技術者として必要な技術 6 利用者への姿勢・態度・距離

第8回目

対人援助技術者として必要な技術 7 利用者への視線・表情・反応

第9回目

対人援助技術者として必要な技術 8 相談援助の基本技術①（傾聴、共感）

第10回目

対人援助技術者として必要な技術 9 相談援助の基本技術②（受容的態度など）

第11回目

対人援助技術者として必要な技術 10 面接の基本技術①（反復の方法）

第12回目

対人援助技術者として必要な技術 11 面接の基本技術②（質問の方法）

第13回目

対人援助技術者として必要な技術 12 援助のプロセス①（援助することの意味）

第14回目

対人援助技術者として必要な技術 13 援助のプロセス②（援助の方法）

第15回目

対人援助技術者として必要な技術 14 前期のまとめ、相談、面接

第16回目

対人援助技術者として必要な技術 15 オリエンテーション 対人援助の必要

第17回目

対人援助技術者として必要な技術 16 援助のプロセス①（インテーク）

第18回目

対人援助技術者として必要な技術 17 援助のプロセス②（アセスメント）

第19回目

対人援助技術者として必要な技術 18 援助のプロセス③（計画）

第20回目

対人援助技術者として必要な技術 19 ケースカンファレンスの方法①（情報提供と情報共有）

第21回目

対人援助技術者として必要な技術 20 ケースカンファレンスの方法②（課題分析と整理）

第22回目

対人援助技術者として必要な技術 21 ケースカンファレンスの方法③（援助方法の検討）

第23回目

対人援助技術者として必要な技術 22 援助計画の作成①（児童・高齢者の虐待事例）

第24回目

対人援助技術者として必要な技術 23 援助計画の作成②（障がい児・者と家族の事例）

第25回目

対人援助技術者として必要な技術 24 援助計画の作成③（生活困窮家庭の事例）

第26回目

対人援助技術者として必要な技術 25 援助計画のまとめ、事例の振り返り

第27回目

対人援助技術者として必要な技術 26 観察と記録、事例の振り返り

第28回目

対人援助技術者として必要な技術 27 観察の視点

第 29 回目

対人援助技術者として必要な技術 28 記録の方法、事例の振り返り

第 30 回目

ソーシャルワーク演習Ⅰのまとめ 後期のまとめ振り返り プロセス、プラン、実施、事例の振り返り

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。レポートを課す

②教育・学習の方法 (Course Methods)

前期：相談援助の知識や技術に必要な講義と体験を通じた学び、個別ワークやグループワーク（ディスカッション）、事例を通じた学びを中心に、学生の主体的な参加型授業であり各学生が自分自身で学習し考え、主体的に行動する態度を養う。
後期：「援助プロセスの実際」、「事例検討」をおこなう。この場合も、個別ワーク、グループワーク（ディスカッション）、発表等実践的な授業とする。

前期、後期ともに、グループ課題に取り組み、発表を行う。授業最終に全体に対するフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

グループ課題が出題され場合には、各グループで協働して取り組みを進めておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

20

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加の態度(30%)、グループ課題 (20%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

- ・演習は学生の参加を前提とし、主体的態度をもって臨むこと
- ・グループワークは互いに尊重し、受容的な姿勢で参加すること

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

必要に応じてプリント、参考資料などを配付する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 社会福祉士として高齢者福祉施設での勤務経験あり。

講義コード	SWR3500N0J
科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	矢島 雅子（やじま まさこ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	2
曜日時限	月曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習は、多様な生活課題を抱える人々に寄り添い理解を深め、生活状況やニーズを適切に把握して支援計画を策定する能力を涵養することを目標としている。また、地域の社会資源を活用・調整・開発し、他職種と協働しながらかわる支援者としての対人援助能力を身につけることを目標としている。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

ソーシャルワークの意味と役割を明確にしつつ、現場の実践に活かせる対人援助能力を身につけることである。そのために対人援助技術の基礎的理論を確認しつつ、対人援助専門職としての専門的な〈援助者の態度〉、〈コミュニケーション技術〉、〈援助プロセスの実際〉を、観察・考察する演習と事例研究を通して学習する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	理論や専門用語を調べることができない。	理論や専門用語を調べることができる。	理論や専門用語を調べ、内容を理解している。	理論や専門用語の内容を理解し、どのような場面で活用できるのか説明することはできる。
思考・解決力	ニーズを把握することができない。	ニーズは把握することができる。	ニーズを把握し、解決策を考えることはできる。	ニーズを把握し、具体的な解決策を説明することができる。
表現力・考察力	ニーズの背景を考慮することができない。	ニーズの背景を考慮することはできる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を考慮することはできる。	ニーズの背景を考え、ニーズ充足に必要な支援を具体的に説明することができる。
コミュニケーション力	発言や傾聴をすることができない。	意見を発言することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴することはできる。	意見を発言し、他者の話を傾聴し、意見の共通点や相違点を説明することができる。

③④授業計画

第1回目

ソーシャルワークとは何か

第2回目

ソーシャルワークの意義と方法

第3回目

インテークの実際

第4回目

アセスメントの実際

第5回目

プランニングの実際

第6回目

支援の実際

第7回目

モニタリングの実際

第8回目

効果測定の実際

第9回目

終結とアフターケアの実際

第10回目

アウトリーチの実際

第11回目

チームアプローチの実際

第12回目

ネットワーキングの実際

第13回目

社会資源の活用・調整・開発

第14回目

ケースカンファレンスの実際

第15回目

ソーシャルワーカーの専門性

第16回目

対人援助の本質

第17回目

事例研究の意義

第18回目

事例研究の基本枠組み

第19回目

事例研究の進め方

第20回目

事例のまとめ方

第21回目

事例の分析

第22回目

事例研究 児童と家族の相談援助事例

第23回目

事例研究 障害のある児童と家族の相談援助事例

第24回目

事例研究 身体障害のある人の相談援助事例

第25回目

事例研究 知的障害のある人の相談援助事例

第26回目

事例研究 精神障害のある人の相談援助事例

第27回目

事例研究 在宅要介護高齢者の相談援助事例

第28回目

事例研究 施設要介護高齢者の相談援助事例

第29回目

事例研究 地域包括支援センターにおける相談援助事例

第30回目

事例研究の総括と振り返り

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

定期試験に替わるレポートを実施する。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ソーシャルワークの実際に関する資料／映像の提示

2. ソーシャルワークの視点からの講義と解説

3. ロールプレイ、カンファレンスを含んだ演習、事例研究を行う。

本演習では、各学生が自分自身で学習し、考え、主体的に参加し行動発言することを求める。

4. 各回課題について、次回授業で全体に対してフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

社会福祉実践の現場は常に変化している。日頃からテレビや新聞等で社会福祉関連の話題や記事を見つけて理解を深めておく必要がある。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%) と演習課題レポート (50%) をもって総合評価する。

留意事項 (Other Information)

社会福祉士受験予定者は必ず受講すること。

授業計画は順序の入替え等の変更を行うことがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

授業内で資料を配付する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業内で参考文献一覧を配付する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SWR4600N0J
科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	45
⑥担当教員名	酒井 久美子（さかい くみこ）
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン学科
学年	4 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

相談援助には、個別支援にとどまらず、さまざまな問題を総合的・包括的な視点で捉え、地域支援へと展開することが求められている。また、地域における各種の課題や問題状況を把握、分析したうえで、必要な専門職（他職種含む）や地域住民・組織・団体等との連携・協働を視野に入れながら、解決するための方法を模索することも求められる。そこで本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士（専門職）取得を目指す学生が、必要な専門知識をもとに、実践的な力を習得することを目標とする。特に、地域支援や地域福祉の基盤整備と開発にかかわる実践力の習得をめざす。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 利用者のニーズから地域課題を考える。
2. 地域の現状把握と地域における生活課題、福祉課題を考える。
3. 地域福祉を推進するための情報収集、課題の分析、計画づくりの過程について学ぶ。
4. グループ発表については、発表後に全体でフィードバックをおこなう。
5. 授業最終日に、レポート等に対するフィードバックをおこなう。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	現場実習の内容を振り返り、自分の課題を見つけることができない	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について見つめようとすることができる	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について克服するために何をすべきか理解できる	現場実習の内容を振り返り、自分の課題について克服しようと努力することができる
知識・理解力	ソーシャルワークの地域展開について、理解することができない	ソーシャルワークの地域展開について、理解しようとして、課題に取り組むことができる	ソーシャルワークの地域展開の意味を理解し、地域の課題について考えることができる	ソーシャルワークの地域展開の意味を理解し、地域の課題解決に向けて提案することができる
言語力	グループワークにおいて、意見を述べることができない	グループワークにおいて、意見を述べようと努力することができる	グループワークにおいて、他者の意見を尊重することができる	グループワークにおいて、多様な意見を尊重し、グループとしての意見集約をすることができる
思考・解決力	演習課題やグループワークで、考え、解決することができない	演習課題やグループワークで、考え、解決しようとすることができる	演習課題やグループワークで、考え、解決するために何が必要かを考えることができる	演習課題やグループワークで、考え、解決するために提案することができる
共生・協働する力	グループワークにおいて、互いを尊重して取り組むことができない	グループワークにおいて、互いを尊重して取り組もうとすることができる	グループワークにおいて、互いを尊重して課題解決に向けて取り組もうとすることができる	グループワークにおいて、互いを尊重して課題解決に向けてともに考えることができる
創造・発信力	演習課題やグループワ	演習課題やグループワ	演習課題やグループワ	演習課題やグループワ

	ークにおいて、解決策を提案することができない	ークにおいて、解決策について、考えようとすることができる	ークにおいて、解決策について、他者に発信することができる	ークにおいて、解決策について、他者に発信し、新たな考えを導き出すことができる
--	------------------------	------------------------------	------------------------------	--

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

現場実習の振り返りと総括

第3回目

実習の学びを事例にした演習①（地域連携の実際）

第4回目

実習の学びを事例にした演習②（チームアプローチの可能性）

第5回目

個別支援から地域支援を考える①（ソーシャルワーカーの援助方針と視点）

第6回目

個別支援から地域支援を考える②（地域住民への働きかけ）

第7回目

個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開①（相談への対応）

第8回目

個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開②（情報収集の方法）

第9回目

個別ニーズの具体的事例から地域支援への展開③（ネットワーク形成）

第10回目

地域福祉計画の策定過程について

第11回目

地域の情報収集について

第12回目

地域の課題把握・分析について

第13回目

サービス評価について

第14回目

計画づくりについて

第15回目

グループ発表と総括

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

現場実習で体験した内容や具体的な事例をもとに、個人ワーク、グループワーク、ディスカッション等に取り組む。そのために学生は主体的に参加し、各課題に積極的に取り組む。また、提示する課題に対して、グループワークによる発表、レポート作成に取り組む。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各自の現場実習を振り返り、成果や課題を明確にしておくこと。

地域福祉にかかわる情報や社会資源について情報収集しておくこと。

グループワークによる課題への取り組みに対して、情報収集、情報共有、まとめの作業など、グループによる取り組みを進めておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

評価は、授業態度（30%）、グループ課題発表（20%）、個人レポート課題（50%）で総合的にこなう。欠席回数が3分の1を超過した場合は、原則として単位を認めない。また、受講態度や参加度も考慮しておこなう。

留意事項（Other Information）

社会福祉士、精神保健福祉士受験資格取得を希望する学生は、必ず受講すること。

専門職に必要な演習科目のため、受講者一人ひとりが自主的、積極的に演習に取り組むこと。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

各自の社会福祉援助技術現場実習記録

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 (社会福祉士有資格、自治体、社会福祉協議会等における地域福祉にかかわる委員等の経験あり)

講義コード	SWR3503N0J
科目名	医療ソーシャルワーク演習Ⅰ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	小西 加保留（こにし かほる）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科 ＞ 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	3年次
開講学期	前期
⑤単位	1
曜日時限	火曜・4限

①科目の教育目標（Course Description）

- ①医療ソーシャルワークの根幹をなす価値の課題について自分の言葉で語れるようになる。
- ②病いを得る事の意味について想像力を高め、論じる事ができるようになる。
- ③医療を取り巻く制度の概要を説明できる。
- ④医療ソーシャルワークにおけるアセスメントに基づいた支援や協働の実践について、イメージする事ができる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ①授業で取り上げる多様なテーマについて情報を得て考察する習慣をつけ自分自身の言葉で語るための能力を身につける。
- ②医療ソーシャルワークの実践を体験する前準備として、病いの意味やソーシャルワークの価値について、自分の中でイメージできるようになる。
- ③支援における協働の実践について多角的に考察する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己覚知	自分の思考や感情を認識することが難しい	自分の思考や感情を表現できる	医療ソーシャルワークの現場で起こっていることと自分の感情や思考の違いが分かる	医療ソーシャルワークの現場で起こっていることと自分の感情や思考の違いの背景にある道筋を考えることができる
知識・理解力	医療ソーシャルワークに必要な知識が分からない	医療ソーシャルワークに必要な知識の大枠が理解できる	医療ソーシャルワークに必要な知識の概要を知っている。	医療ソーシャルワークに必要な知識の概要を実際に事例に応用することができる
言語力	医療ソーシャルワークに関する知識・技術・価値について言語化することができない	援助の場面に必要な知識・技術・価値について一部であっても言葉で伝えることができる	援助の場面に必要な知識・技術・価値について表現することができる	援助の場面に必要な知識・技術・価値について、論理展開を明らかにした内容を表現することができる
思考・解決力	自分自身の思考を展開することができない	自分自身の課題として考えることができる	自分の考えと他人の考えの違いを思考することができる	自分の考えと他人の考えの違いの背景にある要素を分析することができる

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション 授業計画について、現場実習の課題となるテーマとも擦り合わせて検討し、予定を組む

第2回目

医療環境に関する復習 現代の医療環境について、医療機関に影響する政策・制度について再度学習する

第3回目

医療制度に関する復習 特に医療保険や関連する福祉制度についての概要を復習する

第4回目

自治体のパンフレットから学ぶ 市役所などに置かれているパンフレットから学ぶ

第5回目

課題図書から学ぶ1 学生1が選択した課題図書の中の一章について発表し、ディスカッションする

第6回目

課題図書から学ぶ2 学生2が選択した課題図書の中の一章について発表し、ディスカッションする

第7回目

医療に関連するニュースについて 関心のある医療に関連するニュースを取り上げ、議論する

第8回目

患者の話を聴くということ1 ソーシャルワーカーとして患者の話を聴くということの意味を体験などから考える

第9回目

患者の話を聴くということ2 ソーシャルワーカーとして患者の話を聴くということの意味を、価値と技術の面から考察する

第10回目

アセスメント1 アセスメントの定義や考え方について学ぶ

第11回目

アセスメント2 アセスメントを構成する要素について学ぶ

第12回目

アセスメント3 アセスメントの実際について事例を使って学ぶ

第13回目

支援計画 支援の一連の流れと支援計画について学ぶ

第14回目

医療制度の再復習 実習に向けて特に必要となる制度を再度復習する

第15回目

全体のふりかえり 実習指導の直前指導として講義全体を振り返る

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポート提出による試験を実施する。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

教員から提示した内容について、学生のプレゼンテーションに基づき、ディスカッションを中心とする。その中で教員からの発問と学生の解答に対して適宜口頭で解説などのフィードバックを行う。

またレポートのまとめ方やプレゼンテーションの仕方なども同時に学習する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

課題図書に目を通し、医療ソーシャルワークに関連するテーマで関心の高い内容を選択する。内容をまとめ、考察を加えて、プレゼンテーションの資料を作成する。病の語りに関する論文や著書を読み、イメージーションを膨らます。医療ソーシャルワークの実際について、保健医療ソーシャルワーク論、医療ソーシャルワーク論で学んだことに照らしながら、考えられるように準備する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業に対する準備状況、当日の発表、ディスカッションの内容 (50%)

最終レポート (50%)

留意事項 (Other Information)

医療機関でソーシャルワーク実習を行う学生が履修することを前提としている。人数や学生の準備状況により、内容に変更を加える場合がある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

特に無し

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

①『患者とともに 寄り添うソーシャルワーク』川村博文/新潮社/2016/9784109100656

②『ルポ 最期をどう迎えるか』共同通信生活報道部/岩波書店/2018/9784000230698

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

講義コード	SWR3650N0J
科目名	医療ソーシャルワーク演習Ⅱ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	小西 加保留（こにし かほる）
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン学科 ＞ 福祉生活デザイン学科（実践的科目）
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	1
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

①医療機関でのソーシャルワーク実習を踏まえた問題意識に対する自分なりの振り返りを行い、言語化出来る。

②援助プロセスの内容について論じることが出来る

③内外連携や地域資源開発の実際と課題を考察し、解決の道筋をイメージすることができる。

④実践上のジレンマを構成する要素について言語化することにより、新たな解決の糸口を考察する力をつける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

医療機関のソーシャルワーク実習において学習した点や疑問に思った点などについて、より一般化した形で医療ソーシャルワークの枠組みや概念に関するイメージを持てるようになる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
制度の理解	MSW に関わる制度についての知識がない	MSW に関わる制度の大枠が分かる	MSW に関わる制度の概要を説明できる	MSW に関わる制度を実際に支援に活かせる
院内外連携・チーム	連携に関する知識を持っていない	連携に関わる知識の大枠のみ知っている	連携やチームに必要な知識を体系化して述べることができる	連携やチームに必要な知識を実際の場面と連動させて述べるができる
地域資源開発	地域資源開発についての方法が全く思いつかない	地域資源開発についてのいくつかの糸口を考えることができる	地域資源開発についての実際の状況に照らして考察できる	地域資源開発についての実際の状況に照らして開発できる
アセスメント	アセスメントに関する知識を持っていない	アセスメントについての断片的な知識がある	アセスメントに関わる知識・技術・価値について検討できる	アセスメントに関わる知識・技術・価値について実際の事例の中で応用できる
支援計画・実践	支援計画を立てることができない	支援計画における目標を考えることができる	支援の目標を立てて計画を作成できる	支援計画を実際の場面で展開することができる
ジレンマ・自己覚知	援助場面におけるジレンマに気が付かない	援助場面におけるジレンマへに気づき、その構造について考察できる	援助場面におけるジレンマへの対応について、いくつかの切り口を示すことができる	援助場面におけるジレンマへの対応について、解決に向けた道筋をイメージすることができる

③④授業計画

学生の実習後の問題意識によって授業を組み立てる。

第1回目の授業で、医療ソーシャルワーク現場実習での気づきを、より一般化した形で理解が深まる事を目指して、授業内容・方法を検討する。

例えば以下のようなテーマ（例）で、実習で学んだ事例を基に検討する。

- 1 実習での経験を分かち合う
- 2 検討したいテーマについてディスカッションし、事業計画を立てる

- 3 事例1に基づくアセスメント
- 4 事例2に基づくアセスメント
- 5 事例3に基づくアセスメント
- 6 院内連携
- 7 院外連携
- 6 地域資源の開発
- 8 支援のプロセス
- 9 事例1に基づく支援計画・実践
- 10 事例2に基づく支援計画・実践
- 12 実践における倫理的ジレンマ
- 13 学生1における自己覚知
- 14 学生2における自己覚知
- 15 全体の振り返り

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

レポートによる試験を実施する。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

医療ソーシャルワーク現場実習で学んだことをふまえて、さらに深く学びたいことを抽出して、学生自らが自主的に授業内容を構成できるように教員がサポートする。

テーマに沿って可能な限り効果的に学習できるような方法を探り、ディスカッションを通じて自分事への理解に繋げる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

医療ソーシャルワーク現場実習で学んだことの中からさらに深く学びたいことを抽出する。

授業の中で検討したい内容について、スケジュールに沿って各回の準備を行う。

実習日誌に書かれたことなどを土台にして準備するなど、できるだけ具体性のある内容にすることが望ましい。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業に対する姿勢や発表、ディスカッションの内容 (50%) 最終レポート (50%)

留意事項 (Other Information)

医療ソーシャルワーク現場実習の履修生の登録を前提としている。

学生の抱える課題によって内容に変更を加える場合がある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

医療機関においてソーシャルワーカーとしての勤務経験あり。

講義コード	PSB3400N0J
科目名	心理学情報処理
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	松島 るみ（まつしま るみ）
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
前提科目	推測統計学Ⅰ、推測統計学Ⅱ
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

情報処理とは入力されたデータに何らかの加工を施して情報をあらわにすることである。したがって、この科目では心理学の実験・調査において得られた数量的・非数量的なデータを、コンピュータを利用して解析することによって、心理学的事実を見つけ出す技法に習熟することを目的とする。統計学の基礎的な知識の上に、統計解析に関わる知識の獲得と統計解析プログラムソフトの活用技法について習得しなければならない。あわせて、データをコンピュータ処理する場合のさまざまな問題点（データ入力でのエラー、処理プログラムの適用エラーなど）について認識を深めることが期待される。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1) 測定及び記述統計学の基礎知識を獲得していること。
- 2) Excel, SPSS の基本操作に習熟すること。
- 3) 統計的検定の基本概念を理解すること。
- 4) 分散分析の概念を理解すること。
- 5) 多変量解析の概要を理解すること。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度を身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	統計的知識や分析方法に関するスキルが身につけていない。	ある程度、統計的知識や分析方法に関するスキルを身につけている。	おおむね統計的知識や分析方法に関するスキルを身につけている。	統計的知識や分析方法について十分なスキルを身につけている。
言語力	分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけていない。	ある程度、分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけている。	おおむね分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が身につけている。	分析結果を理解し、わかりやすく言語化する力が十分身につけている。
思考・解決力	適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につけていない。	ある程度、適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につけている。	おおむね適切な統計的手法を使用して分析を行う力が身につけている。	適切な統計的手法を使用して分析を行う十分な力が身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が身につけている。	学習したことを他者に説明したり、統計的知識を授業外で応用出来る力が十分身につけている。

③④授業計画

第 1 回目

統計学基礎知識の復習

第 2 回目

統計的検定の考え方の復習

第 3 回目

Excel と SPSS の基礎操作の確認

第 4 回目

相関係数の算出と結果の記述

第 5 回目

t 検定の概要と解説

第 6 回目

t 検定の実行と結果の記述

第 7 回目

分散分析の概要と解説

第 8 回目

1 要因分散分析（被験者間要因）の実行と結果の記述

第 9 回目

1 要因分散分析（被験者内要因）の実行と結果の記述

第 10 回目

2 要因分散分析の実行と結果の記述 1 （2 要因被験者間）

第 11 回目

2 要因分散分析の実行と結果の記述 2 （2 要因被験者内）

第 12 回目

2 要因分散分析の実行と結果の記述 3 （2 要因混合計画）

第 13 回目

多変量解析の概要と解説、因子分析の概要の解説

第 14 回目

因子分析の実行と結果の記述

第 15 回目

重回帰分析の概念の解説と実行および結果の記述

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- ・授業は演習室での実習・演習形式で行う。
- ・統計解析について考え方を理解することと適用方法を具体的に把握するために、各自でコンピュータ操作をしなければならない。時には授業時間以外の時間帯にコンピュータ操作が必要となることがある。
- ・授業中の課題は添削して返却することでフィードバックする。
- ・最終課題は、manaba を通してフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「推測統計学Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を常に復習しつつ授業に臨むこと。

各分析ごとの課題は、添削して返却するので、添削された内容をよく読み直しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

各分析ごとの課題提出（各分析法の解説の後、その分析プログラムを実行し、得られた結果をもとに文章化する）(50%) と最終課題の内容 (30%) および授業参加度 (20%) により評価を行う。

留意事項 (Other Information)

受講者の進捗状況によって、授業内容が入れ替わることがあったり、時間的制約のためにある種のプログラムの実行が省略されることがなくはないが、予定している項目は上記の通りである

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB1300N0J
科目名	心理学基礎演習 I
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤 一美 (いとう かずみ)、村松 朋子 (むらまつ ともこ)、空間 美智子 (そらま みちこ)、高井 直美 (たかい なおみ)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標 (Course Description)

共に学ぶ友人や心理学科教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ①アカデミックリテラシーの習得 (大学教育に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎を学ぶ)
- ②人間関係の構築 (学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わり)
- ③社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得 (専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる)

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	心理学の学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	ある程度グループ活動を他者と協力して行うことができる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行う力がかなりある
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある

③④授業計画

第 1 回目

全体オリエンテーション *教員全員担当

第 2 回目

テーマA (大学というフィールドを知ろうー情報収集)

*半数のグループは、テーマBに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 3 回目

テーマA (大学というフィールドを知ろうー発展)

*半数のグループは、テーマBに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第4回目

全体会Ⅰ（キャリア・資格について） *教員全員担当

第5回目

テーマB（確率と仲良くなろうーサイコロでパターンの数を理解しよう）

*半数のグループは、テーマAに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第6回目

テーマB（確率と仲良くなろうープロフィールを当てよう）

*半数のグループは、テーマAに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第7回目

全体会Ⅱ（心理学科のコースについて） *教員全員担当

第8回目

中間オリエンテーション（前半の振り返り） *各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う。

第9回目

テーマC（レポートを作成しようーレポート作成の基礎）

*半数のグループは、テーマDに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第10回目

テーマC（レポートを作成しようー短いレポートの作成）

*半数のグループは、テーマDに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第11回目

テーマC（レポートを作成しようー相互評価）

*半数のグループは、テーマDに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第12回目

テーマD（商品試験をしてみようー商品の評価ポイントを考える）

*半数のグループは、テーマCに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第13回目

テーマD（商品試験をしてみようー実験）

*半数のグループは、テーマCに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第14回目

テーマD（商品試験をしてみようー発展）

*半数のグループは、テーマCに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第15回目

まとめ *各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

グループに分かれて、ローテーション方式で行う。内容は、①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの体験報告会の聴講、本学でのコースでの学びの紹介などを行う予定。また、高校までの学習内容のリマインドのため、各回にウォーミングアップクイズを行う。課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返る。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

40

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度・授業態度 70%、発表・レポート 30%とする。

留意事項（Other Information）

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なる。回によって教室が異なるので、オリエンテーション時の資料に従い、その都度気を付けること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB1350N0J
科目名	心理学基礎演習Ⅱ
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	尾崎 仁美（おさき ひとみ）、三好 智子（みよし ともこ）、向山 泰代（むこやま やすよ）、松島 るみ（まつしま るみ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

友人や心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1.アカデミックリテラシーの構築（読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等）
- 2.人間関係の構築（学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わりを深める）
- 3.専門教育への導入（心理学科の専門教育を受けるための基盤形成）
- 4.社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得（専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる）

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力があある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度である	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことができる程度である	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある

③④授業計画

第 1 回目

全体オリエンテーション

*教員全員担当

第 2 回目

テーマ A（新聞から社会を覗いてみようグループ課題）

*半数のグループは、テーマ B に取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第3回目

テーマA（新聞から社会を覗いてみようー投稿記事の作成）

＊半数のグループは、テーマBに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第4回目

テーマB（グラフを読み取ろうー身近なグラフ探し）

＊半数のグループは、テーマAに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第5回目

テーマB（グラフを読み取ろうーグラフの読み取り）

＊半数のグループは、テーマAに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第6回目

全体会Ⅰ（フィールド研修・インターンシップについて） ＊教員全員担当

第7回目

テーマC（心理学の文献を読もうー文献購読とディスカッション）

＊半数のグループは、テーマDに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第8回目

テーマC（心理学の文献を読もうー発表資料の作成）

＊半数のグループは、テーマDに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第9回目

テーマC（心理学の文献を読もうー発表と振り返り）

＊半数のグループは、テーマDに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第10回目

中間オリエンテーション（前半の振り返り） ＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う

第11回目

テーマD（データ集計を体験しようー質問紙調査のプレ体験）

＊半数のグループは、テーマCに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第12回目

テーマD（データ集計を体験しようー発表資料作成）

＊半数のグループは、テーマCに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第13回目

テーマD（データ集計を体験しようーグループ発表）

＊半数のグループは、テーマCに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第14回目

全体会Ⅱ（就職内定者報告、資格・コース選択説明） ＊教員全員担当

第15回目

まとめ ＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

AからDの各テーマをグループに分かれてローテーション方式で学ぶほか、全体会やグループに分かれての振り返りを行う。具体的な内容としては、

①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの体験報告会の聴講などを行う予定。

課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

心理学基礎演習Ⅰでの学習内容をふり返る。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

40

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度・授業態度 70%、発表・レポート 30%とする。

留意事項（Other Information）

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。テーマAおよびCは三好・松島、テーマBおよびDは

尾崎・向山が担当する。

全体会の内容は、変更される場合もある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB1250N0J
科目名	行動科学概論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	後藤 伸彦（ごとう のぶひこ）
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

行動科学とは、人間や動物の行動を科学的に分析し、行動の諸現象を理解し、行動の諸問題を解決することを目指した科学である。本科目は、人間および動物の行動についての（心理学を含む）様々な分野の研究を紹介し、行動の基礎にある原理の科学的な理解を深めることを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 人や動物は、環境からどのような影響を受けているか。
2. 人や動物は、どのように行動を変化させるのか。
3. 人や動物は、その行動をみればすべて理解できるのか。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力・思考・解決力	行動科学の諸概念について理解していない	行動科学の諸概念について理解している	行動科学の諸概念についての知識を利用して論文を読める	行動科学の諸概念についての知識を利用して行動変容のための介入・実験を考案できる

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

知覚

第 3 回目

認知

第 4 回目

記憶

第 5 回目

動機と行動

第 6 回目

学習

第 7 回目

社会性動物

第 8 回目

比較行動学

第 9 回目

言語

第 10 回目

非言語行動

第 11 回目

対人行動

第 12 回目

うそと見破り

第 13 回目

心的・発達障害

第 14 回目

消費行動

第 15 回目

まとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

PowerPoint や映像資料を使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。学生からの積極的な発言、質問を求める。ミニテストの内容について講義を行い、特に間違えの多かった問題に関しては詳しくフィードバックを行う。最終回の授業で間違えの多かった問題を中心に復習テストを行う。またわからない所があればオフィスアワーなどを利用して解決できるように積極的に学習に取り組むこと。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

次回の資料をよく読み込み、ミニテストに備える。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

毎回の授業の最初にレスポンスによるミニテストを実施する。その結果によって成績評価を行う。ミニテストは各回 1～2 個、各ミニテストは 4 問から 5 問。全部で 20～25 個のミニテストを行う。出題された問題数を 100%として、そのうち何%答えられたかによって成績を判定する。ただし、学生の理解度に応じて授業を進めるので、ミニテストの数は前後する可能性がある。なお復習テストは補修課題として実施するため、ミニテストの正答率にプラスした点数が最終成績となる。

留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA1551N1J
科目名	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会・集団）
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	後藤 伸彦（ごとう のぶひこ）
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

社会で生きていく上で、他者と上手に付き合ったり、仲良くなることは重要なことです。しかし世の中にはさまざまな物の見方（バイアスや偏見）が存在し、それらが他者との関係に悪く影響することはしばしばあります。ではどのような文脈の時に、そういったバイアスや偏見が人の感情や認知や態度、判断や行動に影響するのでしょうか。本科目では、人が様々なバイアスや文脈（社会）からの影響を受けて考え、悩み、ときに間違い、判断し、行動しているかを理解することを目指します。更にそういった人の判断や行動が個人内で完結せず他者や社会に影響を与えていることを理解することを目指します。それによってさまざまな人々と共生・協働する力を身につけることを目指します。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 人の「癖」（認知過程）や「間違い」（バイアスや推論）が態度や対人関係に与える影響を理解する
2. 集団間関係（差別やヘイトスピーチ等）について現実の問題に即して考える
3. 自己の多層性（個人としての自分、友人といるときの自分、日本人としての自分等）について理解する
4. 文化と心理の関係を理解し、異文化のヒトとの共生・協働について考える
5. 社会心理学の応用可能性について考える

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	社会・集団心理学の諸概念について知識がある	社会・集団心理学の諸概念について知識が少しある	社会・集団心理学の諸概念について知識がある	社会・集団心理学の諸概念について知識があり、自らの言葉で説明できる

③④授業計画

第 1 回目

自己認知：自分の心を理解する

第 2 回目

対人認知：人の心は読めるのか

第 3 回目

社会的推論とバイアス

第 4 回目

帰属過程

第 5 回目

ステレオタイプ・差別行動

第 6 回目

態度

第 7 回目

社会的自己の幅広い影響

第 8 回目

中間テスト

各自が自身の学習熟度を理解するために実施する。中間テストで出題された問題から期末テストにも出題される

第 9 回目

感情

第 10 回目

組織

第 11 回目

集団過程

第 12 回目

モチベーション

第 13 回目

健康・幸福

第 14 回目

文化の違いとその影響

第 15 回目

試験とまとめ

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 積極的に質問したり、自身の意見を述べること。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。
4. 適宜、レスポンス等を通じて質問できる機会を作り、それに対するフィードバックを口頭で行う。
5. 中間テストの答えについては授業内で、期末テストの答えは授業内、またはオンライン上で一定期間公開する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。わからないところがあれば、質問できるように準備しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

中間テスト (30%) と期末テスト (70%) によって評価する。

留意事項 (Other Information)

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

図書館に「社会心理学」と名前のつく本が複数有るので適宜参照すること

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

認知、感情、態度などに関わる社会心理学の実験を実施し、複数の国際学術誌に掲載している。

講義コード	PSA2500N1J
科目名	対人関係論
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	後藤 伸彦（ごとう のぶひこ）
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	2 年次、3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	定員 150 人
曜日時限	木曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目では、対人関係、特に自己と他者との二者関係において生じる諸事象を、社会心理学の立場から論じる。家族、恋愛、友人関係など、様々な対人関係における事象や研究事例を学び、その背後にあるメカニズムについて考察する。具体的には、なぜ人は他者を愛したり、助けたり、傷つけたりするのかについての社会心理学的、進化心理学的説明を学び、二者関係における対人行動のメカニズムを理解することを目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 社会的相互作用における対人認知と対人行動のメカニズムを理解する。
2. 親子関係、恋愛関係、友人関係の違いについて理解する。
3. 自己に対する認知と評価のあり方について考える。
4. 人を批判したりゆるしたりする心理について理解する。
5. 他者から援助を受けたり他者に援助を与える際に伴う困難さについて理解する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	対人関係論の諸概念について理解していない	対人関係論の諸概念について少し理解している	対人関係論の諸概念について十分理解している	対人関係論の諸概念について理解し、世の中の問題や、社会・集団心理学で学んだ概念と関連付けられる

③④授業計画

第 1 回目

対人関係と人間関係

第 2 回目

対人認知（1）印象形成

第 3 回目

対人認知（2）対人情報処理

第 4 回目

対人魅力

第 5 回目

対人コミュニケーション

第 6 回目

親子関係

第 7 回目

友人関係

第 8 回目

恋愛関係

第 9 回目

原因帰属と感情

第 10 回目

加害と謝罪

第 11 回目

対人関係における自己（1）自己とは、自己概念

第 12 回目

対人関係における自己（2）自己評価

第 13 回目

援助行動

第 14 回目

対人ストレス

第 15 回目

試験とまとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 主として講義形式による。教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
2. 積極的な発言、質問を求める。
3. ただ講義を聞いて知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深める学習態度が望まれる。
4. 適宜、レスポンスなどを通じて質問できる機会を作り、口頭で質問に回答する。またオフィスアワーなどを利用してわからない所があれば解決できるように積極的に学習に励むこと。
5. 期末テストの答えは授業内、またはオンライン上で一定期間公開する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

前回までの授業内容を十分に復習しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

試験（100％）によって評価する。

留意事項（Other Information）

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA3254N0J
科目名	産業・組織心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	石田 正浩 (いしだ まさひろ)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・5 限

①科目の教育目標 (Course Description)

組織と関わる中で生じる心理・行動上の問題を、心理学の概念を用いて理解し、対処が考えられるようになる。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ・ワークモチベーションの高低が生じる仕組みを理解する。
- ・組織・キャリアへコミットすることの意義を理解する。
- ・集団生産性・リーダーシップの有効性を規定する要因を理解し、集団作業を効率的に進める際の対処の視点を獲得する。
- ・組織ストレスの特徴を理解し、その対処法を考えられるようになる。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4

③④授業計画

第 1 回目

導入：産業心理学とは

第 2 回目

ワークモチベーション 1 基本概念、欲求階層説

第 3 回目

ワークモチベーション 2 内容理論

第 4 回目

ワークモチベーション 3 過程理論

第 5 回目

ワークモチベーション 4 理論と実践 目標と職務設計

第 6 回目

応用行動分析

第 7 回目

組織とキャリアへのコミットメント

第 8 回目

集団生産性 1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響

第 9 回目

集団生産性 2 シュタイナーの課題分類とパフォーマンス

第 10 回目

集団生産性 3 集団意思決定

第 11 回目

リーダーシップ 1 リーダーシップとは、特性論、行動論

第 12 回目

リーダーシップ 2 条件即応理論

第 13 回目

リーダーシップ 3 リーダーシップ研究の展開

第 14 回目

組織ストレス 1 基本的枠組み、ラザルスのストレス理論

第 15 回目

組織ストレス 2 パーンアウト、ストレス管理 総括

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法 (Course Methods)

基本は講義形式だが、毎回、授業時間の最後に授業内容の振り返りの課題を課す。また、質問・コメントを書く。次の授業のはじめに、前回の復習を兼ねて、課題の回答に対するフィードバックを行う。また、質問・コメント内容を紹介し授業内容の理解を確かなものとする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎時間、授業の最後に次回につながる小課題を出す。それを考えることで、次回の授業の予習とする。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、基本概念、理論の正しい理解とそれらの応用力を問う試験(60%)と毎授業時間の最後に行う小課題 (質問・コメントを含む) (40%)に基づいて、総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

授業内容は、授業時間までに新たに学習すべき内容が発生することがあるので、柔軟に変更していく。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

特になし

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『産業・組織心理学エッセンシャルズ第4版』/外島裕監修・田中堅一郎編/ナカニシヤ出版/2019/9784779513855

『新版 組織行動のマネジメント』/スティーブンP. ロビンズ/ダイヤモンド社/2009/9784478004593

他、授業時間中に適宜、紹介する

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

科目名	心理学演習
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	伊藤 一美 (いとう かずみ)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する
6. データ分析の力を身につける。
7. データにもとづき、報告書にまとめる力を身につける。
8. 分析結果を他者に伝える力を身につける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 調査の企画
- 第 3 回 テーマの設定①小テーマ候補の考案
- 第 4 回 テーマの設定②小テーマの決定
- 第 5 回 先行研究・文献の収集、整理
- 第 6 回 仮説の構成
- 第 7 回 質問項目・尺度の資料収集
- 第 8 回 質問項目・尺度の検討
- 第 9 回 質問紙の作成
- 第 1 回 質問紙の完成
- 第 11 回 調査の実施に向けて
- 第 12 回 調査の実施
- 第 13 回 データ入力
- 第 14 回 エディティング

- 第 15 回 中間のまとめ
- 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
- 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
- 第 18 回 相関係数①分析の実施
- 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
- 第 2 回 t 検定①分析の実施
- 第 21 回 t 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 22 回 分散分析①分析の実施
- 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
- 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
- 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
- 第 26 回 仮説の検証
- 第 27 回 成果発表に向けての準備
- 第 28 回 成果発表
- 第 29 回 報告書案の作成
- 第 30 回 報告書の完成

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
4. グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に指示するが、「質問紙調査法」「現代社会調査入門」「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」「推測統計学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600D0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 尾崎 仁美 (おざき ひとみ)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。「大学生の心理に関する調査」「女性の生き方に関する調査」「企業や店舗等と連携して行う調査」いずれかにつ

いて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. Excel や SPSS の操作方法を習得する。
9. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度が身についている	おおむね自律的で積極的な学習態度が身についている	自律的で積極的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	心理学の研究法や統計の知識が身についていない	ある程度、心理学の研究法や統計の知識が身についている	おおむね心理学の研究法や統計の知識が身についている	心理学の研究法や統計の知識が十分身についている
言語力	研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についていない	ある程度、研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についている	おおむね研究結果を言語化したり、人に説明する力が身についている	研究結果を言語化したり、人に説明する力が十分身についている
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についていない	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についている	おおむね心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身についている	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が十分身についている
共生・協働する力	学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についていない	ある程度、学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についている	おおむね学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が身についている	学習者と協力しながら問題解決しようとする意欲が十分身についている
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身についていない	ある程度、研究成果を他者に発信する力が身についている	おおむね研究成果を他者に発信する力が身についている	研究成果を他者に発信する力が十分身についている

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

調査の企画

第 3 回目

テーマの設定①小テーマ候補の考案

第 4 回目

テーマの設定②小テーマの決定

第 5 回目

先行研究・文献の収集、整理

第 6 回目

仮説の構成

第 7 回目

質問項目の資料収集

第 8 回目

質問項目の検討

第 9 回目

予備調査の実施

第 10 回目

予備調査の検討

第 11 回目

本調査の実施に向けて

第 12 回目

本調査の実施

第 13 回目

コーディング

第 14 回目

エディティング

第 15 回目

中間まとめ

第 16 回目

データの基礎集計①度数分布、平均の算出

第 17 回目

データの基礎集計②結果の図表作成と解釈

第 18 回目

相関係数①分析の実施

第 19 回目

相関係数②結果の図表作成と解釈

第 20 回目

t 検定①分析の実施

第 21 回目

t 検定②結果の図表作成と解釈

第 22 回目

分散分析①分析の実施

第 23 回目

分散分析②結果の図表作成と解釈

第 24 回目

χ^2 検定①分析の実施

第 25 回目

χ^2 検定②結果の図表作成と解釈

第 26 回目

仮説の検証

第 27 回目

成果発表に向けての準備

第 28 回目

成果発表

第 29 回目

報告書案の作成

第 30 回目

報告書の完成

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. グループでの演習形式、実習形式で行う。

3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

教員が授業時に指示を行う。課題は必ず期限までに行っておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600E0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 河瀬 雅紀 (かわせ まさとし)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第3回目

各担当教員から個別に指示する。

第4回目

各担当教員から個別に指示する。

第5回目

各担当教員から個別に指示する。

第6回目

各担当教員から個別に指示する。

第7回目

各担当教員から個別に指示する。

第8回目

各担当教員から個別に指示する。

第9回目

各担当教員から個別に指示する。

第10回目

各担当教員から個別に指示する。

第11回目

各担当教員から個別に指示する。

第12回目

各担当教員から個別に指示する。

第13回目

各担当教員から個別に指示する。

第14回目

各担当教員から個別に指示する。

第15回目

各担当教員から個別に指示する。

第16回目

各担当教員から個別に指示する。

第17回目

各担当教員から個別に指示する。

第18回目

各担当教員から個別に指示する。

第19回目

各担当教員から個別に指示する。

第20回目

各担当教員から個別に指示する。

第21回目

各担当教員から個別に指示する。

第22回目

各担当教員から個別に指示する。

第23回目

各担当教員から個別に指示する。

第24回目

各担当教員から個別に指示する。

第25回目

各担当教員から個別に指示する。

第26回目

各担当教員から個別に指示する。

第27回目

各担当教員から個別に指示する。

第28回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600H0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 薦田 未央 (こもだ みお)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
----	--------------	-------	-------	-------

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 3 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 4 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 5 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 6 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 7 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 8 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 9 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 10 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 11 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 12 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 13 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 14 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 15 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 16 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 17 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 18 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 19 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 20 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 21 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 22 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 23 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 24 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSS3600J0J
科目名	心理学演習
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	佐藤 睦子 (さとう むつこ)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究

や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 3 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 4 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 5 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 6 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 7 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 8 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 9 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 10 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 11 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 12 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 13 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 14 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 15 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 16 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 17 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 18 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 19 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 20 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 21 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 22 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 23 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 24 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード

PSS3600L0J

科目名

心理学演習

ND6

DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 空間 美智子 (そらま みちこ)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 3 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 4 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 5 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 6 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 7 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 8 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 9 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 10 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 11 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 12 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 13 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 14 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 15 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 16 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 17 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 18 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 19 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 20 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 21 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 22 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 23 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 24 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSS3600M0J
科目名	心理学演習
ND6	DP6 : 創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	高井 直美 (たかい なおみ)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 3 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 4 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 5 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 6 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 7 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 8 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 9 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 10 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 11 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 12 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 13 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 14 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 15 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 16 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 17 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 18 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 19 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 20 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 21 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 22 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 23 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 24 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600N0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 田中 誉樹 (たなか もとき)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				

共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

各担当教員から個別に指示する。

第2回目

各担当教員から個別に指示する。

第3回目

各担当教員から個別に指示する。

第4回目

各担当教員から個別に指示する。

第5回目

各担当教員から個別に指示する。

第6回目

各担当教員から個別に指示する。

第7回目

各担当教員から個別に指示する。

第8回目

各担当教員から個別に指示する。

第9回目

各担当教員から個別に指示する。

第10回目

各担当教員から個別に指示する。

第11回目

各担当教員から個別に指示する。

第12回目

各担当教員から個別に指示する。

第13回目

各担当教員から個別に指示する。

第14回目

各担当教員から個別に指示する。

第15回目

各担当教員から個別に指示する。

第16回目

各担当教員から個別に指示する。

第17回目

各担当教員から個別に指示する。

第18回目

各担当教員から個別に指示する。

第19回目

各担当教員から個別に指示する。

第20回目

各担当教員から個別に指示する。

第21回目

各担当教員から個別に指示する。

第22回目

各担当教員から個別に指示する。

第23回目

各担当教員から個別に指示する。

第24回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600PJ

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学習時間 120

⑥担当教員名 廣瀬 直哉 (ひろせ なおや)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミで研究法を習得する。本科目では、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。「消費者行動」に関わるテーマについて、グループで小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の設定を行う。そして、調査を実施し、得られたデータを分析し、結果の解釈、仮説の検証、報告書の作成を行う。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。

3. 調査方法に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ集計やデータ処理に関する知識や技術を習得する。
7. 統計的検定の基本概念を理解する。
8. Excel や SPSS の操作方法を習得する。
10. 結果を解釈し、表現する力を身に着ける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したり、分析したりすることができない。	主体的に研究計画を立て、実行し、分析することができる。	レベル 2 に加えて、研究成果をわかりやすく発信することができる。	研究計画の立案・実行・分析・成果発表のすべてが卓越している。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション

第 2 回目

調査の企画

第 3 回目

テーマの設定①小テーマ候補の考案

第 4 回目

テーマの設定②小テーマの決定

第 5 回目

先行研究・文献の収集、整理

第 6 回目

仮説の構成

第 7 回目

質問項目の資料収集

第 8 回目

質問項目の検討

第 9 回目

予備調査の実施

第 10 回目

予備調査の検討

第 11 回目

本調査の実施に向けて

第 12 回目

本調査の実施

第 13 回目

コーディング

第 14 回目

エディティング

第 15 回目

中間まとめ

第 16 回目

データの基礎集計①度数分布、平均の算出

第 17 回目

データの基礎集計②結果の図表作成と解釈

第 18 回目

相関係数①分析の実施

第 19 回目

相関係数②結果の図表作成と解釈

第 20 回目

t 検定①分析の実施

第 21 回目

t 検定②結果の図表作成と解釈

第 22 回目

分散分析①分析の実施

第 23 回目

分散分析②結果の図表作成と解釈

第 24 回目

χ^2 検定①分析の実施

第 25 回目

χ^2 検定②結果の図表作成と解釈

第 26 回目

仮説の検証

第 27 回目

成果発表に向けての準備

第 28 回目

成果発表

第 29 回目

報告書案の作成

第 30 回目

報告書の完成

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
 2. グループで演習形式、実習形式で行う。
 3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
- なお、課題等のフィードバックは manaba もしくは授業時に行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

教員が授業時に指示をおこなう。課題は必ず期限までに行っておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、課題の提出・発表および最終レポート (70%) により、総合的に評価を行う。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600Q0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 松島 るみ (まつしま るみ)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に専門分野の研究法を習得する。具体的には、調査の企画から実施、データの分析、報告書作成までにわたる調査研究の全過程を、実習を通じて体験的に学習することを目的とする。テーマは、①現代社会の諸問題に関する意識調査、②大学生の心理を分析する調査、③一般企業・店舗や組織と連携して進める調査、のいずれかを受講生と相談しながら決定し、一年を通して課題に取り組んでいく。前期は主に、小テーマの設定、既存の調査研究の整理、仮説の設定、質問項目の作成を行う。後期は主に、データ分析や考察、報告書の作成を行う。3年次で身につけた力を4年次の卒業研究や卒業論文で活かすことを目標とする。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. テーマに関わる文献・資料を収集し、既存の調査研究を整理する。
2. 調査仮説の設定と質問項目の作成について学ぶ。
3. 質問紙作成に関する知識や技術を習得する。
4. 調査の実施において留意すべきことを理解する。
5. データの入力方法を習得する。
6. データ分析の力を身につける。
7. データにもとづき、報告書にまとめる力を身につける。
8. 分析結果を他者に伝える力を身につける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自律的で積極的な態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理学の研究法や統計の知識を身につけていない。	ある程度、心理学の研究法や統計の知識を身につけている。	おおむね心理学の研究法や統計の知識を身につけている。	心理学の研究法や統計の知識を十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけている。	おおむね研究結果を言語化したり、人に説明する力が身につけている。	研究結果を言語化したり、人に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が身につけている。	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	学習者と協力しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身につけていない。	ある程度、研究成果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究成果を他者に発信する力を身につけている。	研究成果を他者に発信する力を十分身につけている。

③④授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 調査の企画

第3回 テーマの設定①小テーマ候補の考案

第4回 テーマの設定②小テーマの決定

第5回 先行研究・文献の収集、整理

第6回 仮説の構成

第7回 質問項目・尺度の資料収集

第 8 回 質問項目・尺度の検討
 第 9 回 質問紙の作成
 第 1 回 質問紙の完成
 第 11 回 調査の実施に向けて
 第 12 回 調査の実施
 第 13 回 データ入力
 第 14 回 エディティング
 第 15 回 中間のまとめ
 第 16 回 データの基礎集計①度数分布、平均の算出
 第 17 回 データの基礎集計②結果の図表作成と解釈
 第 18 回 相関係数①分析の実施
 第 19 回 相関係数②結果の図表作成と解釈
 第 2 回 t 検定①分析の実施
 第 21 回 t 検定②結果の図表作成と解釈
 第 22 回 分散分析①分析の実施
 第 23 回 分散分析②結果の図表作成と解釈
 第 24 回 χ^2 検定①分析の実施
 第 25 回 χ^2 検定②結果の図表作成と解釈
 第 26 回 仮説の検証
 第 27 回 成果発表に向けての準備
 第 28 回 成果発表
 第 29 回 報告書案の作成
 第 30 回 報告書の完成

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。
4. グループでの協働作業が中心となるため、積極的な授業参加を心がけること。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

授業中に指示するが、「質問紙調査法」「現代社会調査入門」「心理学統計法 I・II」「推測統計学 I・II」で学んだ内容を復習しながら授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600R0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 三好 智子 (みよし ともこ)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期

通年

⑤単位

4

曜日時限

水曜・3限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 3 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 4 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 5 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 6 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 7 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 8 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 9 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 10 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 11 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 12 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 13 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 14 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 15 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 16 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 17 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 18 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 19 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 20 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 21 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 22 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 23 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 24 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSS3600S0J
科目名	心理学演習
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	向山 泰代（むこやま やすよ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 2 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 3 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 4 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 5 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 6 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 7 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 8 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 9 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 10 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 11 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 12 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 13 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 14 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 15 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 16 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 17 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 18 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 19 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 20 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 21 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 22 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 23 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 24 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 25 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 26 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 27 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに分属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。

3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード PSS3600T0J

科目名 心理学演習

ND6 DP6 : 創造・発信力

授業以外に必要な標準学修時間 120

⑥担当教員名 村松 朋子 (むらまつ ともこ)

科目区分 現代人間学部 > 心理学科

学年 3 年次

開講学期 通年

⑤単位 4

曜日時限 水曜・3 限

①科目の教育目標 (Course Description)

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

1. 研究テーマを設定することができる
2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる
3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。
2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解する。
3. 研究論文の読み方・書き方を習得する。
4. 各自の研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

各担当教員から個別に指示する。

第2回目

各担当教員から個別に指示する。

第3回目

各担当教員から個別に指示する。

第4回目

各担当教員から個別に指示する。

第5回目

各担当教員から個別に指示する。

第6回目

各担当教員から個別に指示する。

第7回目

各担当教員から個別に指示する。

第8回目

各担当教員から個別に指示する。

第9回目

各担当教員から個別に指示する。

第10回目

各担当教員から個別に指示する。

第11回目

各担当教員から個別に指示する。

第12回目

各担当教員から個別に指示する。

第13回目

各担当教員から個別に指示する。

第14回目

各担当教員から個別に指示する。

第15回目

各担当教員から個別に指示する。

第16回目

各担当教員から個別に指示する。

第17回目

各担当教員から個別に指示する。

第18回目

各担当教員から個別に指示する。

第19回目

各担当教員から個別に指示する。

第20回目

各担当教員から個別に指示する。

第21回目

各担当教員から個別に指示する。

第22回目

各担当教員から個別に指示する。

第23回目

各担当教員から個別に指示する。

第24回目

各担当教員から個別に指示する。

第25回目

各担当教員から個別に指示する。

第26回目

各担当教員から個別に指示する。

第27回目

各担当教員から個別に指示する。

第 28 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 29 回目

各担当教員から個別に指示する。

第 30 回目

各担当教員から個別に指示する。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1. ゼミに所属し、ゼミ担当教員 (指導教員) の指導内容を身につけていく。
2. 受講者が発表し互いに討論する演習形式、講義形式、実習形式が含まれる。
3. 自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

1. 発表者は十分な準備をする。
2. 他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

120

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項 (Other Information)

水曜日 3 講時、出席必須

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB1455N0J
科目名	心理学実験演習 I
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	尾崎 仁美 (おざき ひとみ)、高井 直美 (たかい なおみ)、後藤 伸彦 (ごとう のぶひこ)、中村 千珠 (なかむら ちず)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身についていない	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている	実験方法や背景にある理論的知識を十分身につけている
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についていない	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身についている	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身についている
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身につけていない	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身に

	ていない	を身につけている	身につけている	つけている
共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけていない	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身につけている	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が十分身につけている
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけていない	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけている	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身につけている	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身につけている

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション（尾崎）

第2回目

社会的認知（実験）（後藤）

第3回目

社会的認知（分析）（後藤）

第4回目

社会的認知（執筆）（後藤）

第5回目

錯視（実験）（高井）

第6回目

錯視（分析）（高井）

第7回目

錯視（執筆）（高井）

第8回目

語の記銘（実験）（尾崎）

第9回目

語の記銘（分析）（尾崎）

第10回目

語の記銘（執筆）（尾崎）

第11回目

鏡映描写（実験）（中村）

第12回目

鏡映描写（分析）（中村）

第13回目

鏡映描写（執筆）（中村）

第14回目

合同講義（尾崎）

第15回目

まとめと振り返り（尾崎）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 4課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験演習は3週にわたって行うため、担当者と実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 各レポートは授業期間内に添削をしてフィードバックする

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

各実験課題の演習参加度とレポート (25%) × 4 課題分を総合して評価する。

留意事項 (Other Information)

・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。やむを得ず欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

・第 1 回、第 14 回、第 15 回は尾崎が担当する。

・第 2 回～第 13 回については、社会的認知は後藤、錯視は高井、語の記銘は尾崎、鏡映描写は中村が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。

・「初級実験実習Ⅱ (16 以前)」履修者は、一部別実験を行う可能性がある。

＊一部授業はオンラインで実施する場合があります。オンラインで実施する授業については初回授業時に指示をします。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB2405N0J
科目名	心理学実験演習Ⅱ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	松島 るみ (まつしま るみ)、高井 直美 (たかい なおみ)、後藤 伸彦 (ごとう のぶひこ)、中村 千珠 (なかむら ちず)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標 (Course Description)

心理学は、実証科学であり、その研究方法は仮説検証法（仮説を立て、それを観察や実験、調査を通して得た事実に基づいて検証していく）に依っている。この授業は、心理学実験法の初歩的な理論、方法論、原則等を、自らが実験者または被験者となって主体的に参加することによって、経験的に学習することを目的とする。また、実験条件設定の意味やデータ処理の仕方を具体的に学習していく。さらに、実験の実施だけでなく、実験後のレポート作成についても、実験の目的、方法、結果、考察等を明確にし、文章化して、資料を図表にまとめ、適切な様式で報告するための方法論的な基礎を身につけることを目指している。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

1. 心理学実験に関するレポートの書き方を習得する。
2. 実験課題ごとの理論的な背景と実験目的を明確にする。
3. 実験目的および実験仮説を実験方法にどのように反映させるのか、実験の計画・立案の方法を習得する。
4. 実験者と被験者、教示の仕方を学習する。
5. 刺激と反応の関係を理解する。
6. 実験条件、たとえば実験群と統制群の設定の仕方を学習する。
7. 被験者の反応をデータとして収集する方法を学習する。データ集計表の活用を知る。
8. 図表を作成することと、読む人がその内容を理解できるようにわかりやすく文書化する方法を学習していく。
9. 表の書き方として、たとえば条件ごとの平均・標準偏差・被験者数（試行数）の記載方法を習得し、統計に関する基礎的知識を習得する。
10. 簡単な統計の検定法を使って、データ分析の意味を理解する。
11. 図の作成にあたっては、縦軸と横軸の意味を十分に把握できるように心がける。
12. 実験結果は、可能な視点から、様々に考察するように心がける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身につけていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	実験方法や背景にある理論的知識が身につけていない。	ある程度、実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	おおむね実験方法や背景にある理論的知識を身につけている。	実験方法や背景にある理論的知識を十分な身につけている。
言語力	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけていない。	ある程度、実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけている。	おおむね実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が身につけている。	実験の手続きや結果、考察について、自分の言葉で言語化する力が十分身につけている。
思考・解決力	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力が身につけていない。	ある程度、実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	おおむね実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を身につけている。	実験で得られた結果を踏まえて考察し、問題解決する力を十分身につけている。

共生・協働する力	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている。	おおむね学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている。	学習者と協働して実験に取り組み、問題解決しようとする意欲が身についている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が身についている。	学習したことを他者に説明したり、実生活で応用出来る力が十分身につについている。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション（松島）

第2回目

遠近知覚と錯視（実験）（高井）

第3回目

遠近知覚と錯視（分析）（高井）

第4回目

遠近知覚と錯視（執筆）（高井）

第5回目

重さの弁別閾（実験）（松島）

第6回目

重さの弁別閾（分析）（松島）

第7回目

重さの弁別閾（執筆）（松島）

第8回目

潜在的連合テスト（IAT）（実験）（後藤）

第9回目

潜在的連合テスト（IAT）（分析）（後藤）

第10回目

潜在的連合テスト（IAT）（執筆）（後藤）

第11回目

大きさの恒常性（実験）（中村）

第12回目

大きさの恒常性（分析）（中村）

第13回目

大きさの恒常性（執筆）（中村）

第14回目

合同講義（補足実験）（松島）

第15回目

まとめと振り返り（松島）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 4 課題の実験を実施する。
2. 課題ごとの実験実習は3週にわたって行うため、担当者と実験場所が変わるので注意する。
3. レポートは、実験終了後、所定の期日までに学事課に提出する。
4. 各レポートは授業期間内に添削をしてフィードバックする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 各実験課題について、文献などで調べ理解しておくこと。
2. 返却されたレポートを見直し、レポートの書き方を習得しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

各実験のレポート (25%) ×4 回分を総合して評価を行う。

留意事項 (Other Information)

・授業は実験演習という性質から受講生の参加をもって初めて成立するので、やむを得ない事情を除いて、必ず出席すること。また、遅れてくると実験に参加できない場合もあるので、遅刻も厳禁である。欠席した場合は、次回までにしておくべきことを自分で終了し準備しておくこと。

・第1回、第14回、第15回は松島が担当する。

・第2回～第13回については、遠近知覚と錯視は高井、重さの弁別閾は松島、潜在的連合テストは後藤、大きさの恒常性は中村が担当する。実験の順番はグループによって入れ替わる。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『教材心理学』/木下富雄他 (編)/ナカニシヤ出版/1990/4888480125/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB3600N1J
科目名	上級実験演習
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	廣瀬 直哉（ひろせ なおや）、後藤 伸彦（ごとう のぶひこ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
前提科目	心理学実験演習Ⅰ又は心理学実験演習Ⅱ
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

心理学実験演習等で学んだ心理学実験に関する基礎知識をもとに、実験・観察・調査の企画から実施、データ分析、発表・レポートの作成までの一連の研究プロセスを体験的に学習する。受講生はいくつかのグループに分かれ、各グループで研究テーマを設定して、実験計画や刺激素材の作成、実験・観察の設定、質問紙の作成などを主体的に行い、実験法・観察法・調査法によりデータを収集し、分析を行い仮説を検証する。これらの過程を通じて、卒業研究・卒業論文において自ら研究が行えるだけの研究の基礎能力を身につけることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. テーマに関連する文献を収集し、内容を整理する
2. 目的・仮説に沿って、研究計画を立てる
3. 実験・観察・調査を実施し、データを収集する
4. データ分析を行い、考察としてまとめる
5. 研究発表を行う
6. レポートを執筆する

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	主体的に研究計画を立てたり、実行したりすることができない。	主体的に研究計画を立てて実行することができる。	レベル2に加えて、研究成果をまとめて発信することができる。	卒業研究と同等の研究計画の立案・実施・成果発表を行うことができる。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション 担当（廣瀬・後藤）

第2回目

グループ分けと研究の進め方 担当（廣瀬・後藤）

第3回目

研究テーマの選定 担当（廣瀬・後藤）

第4回目

関連文献の収集と整理 担当（廣瀬・後藤）

第5回目

研究計画と仮説の立案 担当（廣瀬・後藤）

第6回目

実験・観察・調査の準備 担当（廣瀬・後藤）

第7回目

中間報告 担当（廣瀬・後藤）

第8回目

実験・観察・調査の実施 担当（廣瀬・後藤）

第9回目

データ入力 担当（廣瀬・後藤）

第10回目

基礎集計 担当（廣瀬・後藤）

第 11 回目

検定と多変量解析 担当（廣瀬・後藤）

第 12 回目

結果の解釈と考察 担当（廣瀬・後藤）

第 13 回目

研究発表の準備 担当（廣瀬・後藤）

第 14 回目

研究発表 担当（廣瀬・後藤）

第 15 回目

レポートの作成 担当（廣瀬・後藤）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法（Course Methods）

演習室において、グループに分かれて実習・演習形式で行う。

グループでの作業が中心となるため、積極的な関与が求められる。

課題等のフィードバックは授業時に行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

教員が授業時に指示を行う他、各グループで決めた課題を期限までに行っておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（20%）、成果発表（50%）、レポート（30%）により、総合的に評価を行う。

留意事項（Other Information）

1,2 回目の授業には必ず出席をすること。連絡なく欠席した場合は研究グループに所属できず、単位の取得ができない場合があるので注意すること。

グループでの活動を行うため、毎回の出席が必須である。どうしても欠席せざるを得ない場合は必ず連絡すること。

必須の履修要件ではないが、推測統計学Ⅰ・Ⅱを習得済みであることが望ましい。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA2600N0J
科目名	社会・ビジネス心理フィールド研修
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	松島 るみ（まつしま るみ）、尾崎 仁美（おざき ひとみ）、廣瀬 直哉（ひろせ なおや）、後藤 伸彦（ごとう のぶひこ）
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	2 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	定員 30 人 集中

①科目の教育目標（Course Description）

社会調査に関する知識を背景に、企業や店舗が行うマーケティング・リサーチや商品企画開発に関する一連の調査過程について体験することを目標とする。企業や店舗の現状を把握した上で、課題設定・調査・分析を行い、最終的には協力企業や店舗に対して、分析結果を踏まえた具体的な提案を行うという一連の過程を学ぶ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ①社会調査の一連の過程（問題の設定・調査の実施及び分析・結果の解釈）を学ぶ。
- ②マーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。
- ③分析結果について発信する力を身につける。
- ④日頃から消費者心理や消費者行動に関心を持ち、課題を設定したり、問題解決する能力を養う。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	問題解決するための力と自律的な学習態度が身についていない。	ある程度、問題解決するための力と自律的な学習態度を身につけている。	おおむね主体的に問題解決するための力と自律的で積極的な学習態度を身につけている。	主体的に問題解決するための十分な力と自律的で積極的な学習態度を身につけている。
知識・理解力	調査や統計，研究法に関する力が身についていない。	ある程度、調査や統計，研究法に関する十分な力を身につけている。	おおむね調査や統計，研究法に関する十分な力を身につけている。	調査や統計，研究法に関する十分な力を身につけている。
言語力	分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力が身についていない。	ある程度、分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	おおむね分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする言語力を身につけている。	分析結果や考察を文章化する力や他者とコミュニケーションする十分な言語力を身につけている。
思考・解決力	与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力が身についていない。	ある程度、与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	おおむね与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する力を身につけている。	与えられた課題について、分析を行い、論理的な思考によって解決する十分な力を身につけている。
共生・協働する力	他者と共生・協働し問題解決する力が身についていない。	ある程度、他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	おおむね他者と共生・協働し問題解決する力を身につけている。	他者と共生・協働し問題解決する力を十分身につけている。
創造・発信力	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力が身についていない。	ある程度、自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	おおむね自らの成果をまとめ、創造的に発信する力を身につけている。	自らの成果をまとめ、創造的に発信する十分な力を身につけている。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーションと心構え（全員）

第2回目

協力企業または協力店舗担当者との打ち合わせ（全員）

第3回目

課題解決に向けての情報収集（全員）

第4回目

仮説の検討（全員）

第5回目

調査項目に関する情報収集（全員）

第6回目

調査項目の検討（全員）

第7回目

調査用紙の作成（全員）

第8回目

調査データの入力（全員）

第9回目

調査データの分析（基礎的統計）（全員）

第10回目

調査データの分析（統計的検定）（全員）

第11回目

調査結果の考察（全員）

第12回目

調査結果を協力企業や店舗でどの様に役立てるかの検討（全員）

第13回目

プレゼンテーション資料の作成（全員）

第14回目

プレゼンテーションの練習（全員）

第15回目

最終報告会（全員）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

①事前指導として、社会調査やマーケティング・リサーチの基礎を学ぶ。

②協力企業や協力店舗に関する情報の共有及び課題の設定を行う。

③調査内容の検討と調査実施、データ分析と結果のまとめを行う。

④協力企業や協力店舗への結果報告会を実施し、調査結果をどの様に活用出来るかの提案を行う。

⑤授業中、ディスカッションを通して、学生の意見や考えに対して適宜フィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」や「現代社会調査入門」を受講していることが望ましい。授業前に出された課題や作業は必ず次の授業までに完成させておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加態度・他者との協働（50%）、結果の分析・プレゼンテーション（50%）

留意事項（Other Information）

時には、授業の時間外にもデータ分析や報告書の作成等を行うことがあるが、本研修では学外の企業や店舗に協力して頂くため、決められた期間内に受講生が協力して作業を行うことが求められる。責任感を持って、最後までやり遂げられる学生の受講を求める。授業日時は不定期となるため、登録前に日程を必ず確認し、登録後は全ての授業・実習に参加すること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA3600N0J
科目名	心理カウンセリングフィールド研修
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60

⑥担当教員名	薦田 未央 (こもだ みお)、向山 泰代 (むこやま やすよ)、高井 直美 (たかい なおみ)、三好 智子 (みよし ともこ)、佐藤 睦子 (さとう むつこ)、空間 美智子 (そらま みちこ)
--------	--

科目区分	現代人間学部 > 心理学科 > 心理学科 (実践的科目)
学年	2 年次
開講学期	集中

⑤単位	2
-----	---

①科目の教育目標 (Course Description)

心理学を基礎とする対人援助の実践現場は、保健医療、福祉、教育、司法、産業など様々な分野に広がっている。本研修では、そのような実践現場の施設見学を通して、心理学が対人援助の現場でどのように役に立っているのかを学ぶことを目標とする。様々な分野における心理学の貢献の実際に広く触れることで、対人援助職の専門性を高めるための基礎とする。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

受講生は、保健医療、福祉、教育、司法など、心理学を基礎とする対人援助の実践現場における研修を必須とする。また、事前事後指導を受け、施設研修の意義を深める。事後指導においては、研修によって得た知識や課題についてレポートを作成し、それをもとに報告会とグループディスカッションを行う。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
対人援助の現場について基本的知識を学び、社会におけるその仕事の意味を理解する	事前事後指導で課された課題を提出しない。	研修で訪問する現場の仕事について基本的な用語を知り、資料に基づいた説明がレポートできる。	研修で訪問する現場の仕事について、資料や研修で学んだ知識を踏まえ、自身の理解に基づきレポートできる。	研修で訪問する現場の仕事について、資料や研修で学んだ知識を踏まえ、その社会的意味や課題についても考察しレポートできる。
研修先の仕事内容や援助を受けている対象者に関する知識の理解	事前事後指導、および現場研修の学習にに参加せず、基本的な用語が理解できていない。	事前事後指導で、および研修先で基本情報について自ら調べたり、基本用語を理解し、その資料を集めることができる。	事前事後指導、および研修先で事前に学習した資料に基づき、他者に説明したり、みずから疑問や質問を考えることができる。	事前事後指導、および研修先で調べた知識と疑問について質問を行い、理解を深め、そのことを他者にわかりやすく説明できる。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション (薦田)

第 2 回目

事前指導 1：研修の概要や心構え (薦田)

第 3 回目

事前指導 2：保健医療分野・司法分野 (高井)

第 4 回目

事前指導 3：教育分野・福祉分野 (向山)

第 5 回目

保健医療分野・司法分野における研修 1 (高井・向山・空間)

第 6 回目

保健医療分野・司法分野における研修 2 (高井・向山・空間)

第 7 回目

保健医療分野・司法分野における研修 3 (高井・向山・空間)

第8回目

保健医療分野・司法分野における研修4（高井・向山・空間）

第9回目

教育分野・福祉分野における研修1（佐藤・三好・薦田）

第10回目

教育分野・福祉分野における研修2（佐藤・三好・薦田）

第11回目

教育分野・福祉分野における研修3（佐藤・三好・薦田）

第12回目

教育分野・福祉分野における研修4（佐藤・三好・薦田）

第13回目

事後指導1：保健医療分野・司法分野のまとめと報告会（空間）

第14回目

事後指導2：教育分野・福祉分野のまとめと報告会（佐藤）

第15回目

事後指導3：研修全体のまとめと振り返り（三好）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

受講者を複数のグループに分け、合同でのオリエンテーションと、ディスカッションを中心とした事前事後指導を行う。心理学の知識や技能を用いて対人援助を行っている機関や施設を訪れ、現場での実践について学ぶ。研修ごとの振り返りレポートをもとに講評を行い、学習成果の定着を図る。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

心理学が、保健医療、福祉、教育、司法などの分野において、どのように活用されているのかを文献を通じて熟知した上で、事前指導に臨んでほしい。充実した施設研修とするためには、幅広い視点から、自分なりの問題意識を明確にして持っておくことが重要である。現場に関する基礎知識が不足した状態で研修を行うことは、研修先に対して失礼となりうることも知っておくべきである。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

10

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

学外研修を含む内容であるため、原則として、全回出席が単位認定の基本条件となる。その上で、研修に取り組む態度、事後指導における学習とディスカッション、および、振り返りレポート内容から総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

本研修は、実際に対象者を受け入れている施設内の見学・研修を含むものである。そのため、事前事後指導、施設内の見学・研修における遅刻や欠席は、社会的常識として許されるものではない。自分の将来を見据えて、真摯に取り組もうとする姿勢が特に必要となる。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

研修分野ごとに、必要に応じて文献等を紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》本科目担当教員は、臨床心理士・臨床発達心理士として医療機関や教育機関等の施設での勤務経験あり。心理学の知識や技能を用いて対人援助を行っている機関や施設を訪れ、現場での実践活動について学ぶ。

講義コード	EDP1200N0J
科目名	こども情報リテラシー
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月 紀輔（こうづき のりすけ）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

近年のこどもの情報機器の扱い方から、情報モラルの在り方や、大人の役割、こどもを指導する教師としての知識などを学び、こどもが情報機器や巷にあふれる情報を学びのために活用できるようにする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

まず学生自身が情報機器を使えるようになること。

ソフトウェアなどの活用をできること。

情報に関する知識を蓄積すること。

危機管理能力を発揮できるようになること。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報を鵜呑みにする	情報を主体的に活用しようとする	苦手な分野でも挑戦しようとする	ルールやマナーを守って情報を扱うようにする
知識・理解力	主体的に学習できない	レポートの書式を理解する	情報の基礎知識を理科する	教員としての情報の活用ができるように知識をつける
言語力	自分から用語を理解しようとしな	大学における授業での用語を理解する	英語での情報の理解の仕方を考える	自分の使う言語に関する知識を増やそうとする
思考・解決力	人に頼って、自分で解決策を考えない	ソフトを使った問題解決に取り組む	インターネットの簡単な仕組みを理解し、問題解決に役立てる	データベースなどをうまく活用し、情報を整理できる
共生・協働する力	人との協力を行わない	友人と協力して問題を解決しようとする	先輩や後輩の意見も聞き、望ましい問題解決方法を考える	教員からも知識を得、自らがチームリーダーとなって、チームで問題の解決に取り組む

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション

第2回目

調査と処理の方法、尺度と質問紙の作成

第3回目

平均、標準偏差と簡単な記述統計

第4回目

統計処理と検定

第5回目

情報活用能力の育成と学習指導要領

第6回目

情報活用の実践力を育てる教材とその活用

第7回目

幼稚園小中学校現場における情報活用の実践力の育成

第8回目

アクティブラーニングと情報活用能力

第9回目

自らの情報活用力を自己評価

第10回目

情報社会に参画する態度

第11回目

ソーシャルメディアによる問題点、スマートフォンとゲーム依存

第12回目

消費者教育からの問題点（外部講師を予定）

第13回目

これからの高度情報化社会

第14回目

理想の情報社会と保護者や教師の役割

第15回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

学習の方法

テキストに沿いながら自学自習で学んでいくことが多くなる。また、疑問点などはグループで解決することが望まれる。主体的に学ぼうとする態度が望まれる。

フィードバック

毎回の授業ではresponを使用し、感想・質問・コメントを教員が読み次の時間にフィードバックする。個別には、オフィスアワーなどで課題等の質問を受け、その場でフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

テキストを読む。期日までに課題は仕上げておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業への参加意欲・態度（40%）、課題やレポートに対する自己評価・相互評価（30%）、期末レポート（30%）を自己評価に重点を置き評価する。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『情報活用力』/Noa 出版/Noa 出版/2014/9784990242046/学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『小学校学習指導要領』/文部科学省/文部科学省//

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》教員として公立学校で経験あり

講義コード	EDB1200N0J
科目名	こども教育基礎演習
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	15

⑥担当教員名

藤本 陽三（ふじもと ようぞう）、畠山 寛（はたけやま ひろし）、石井 浩子（いしい ひろこ）、萩原 暢子（はぎわら のぶこ）、河佐 英俊（かわさ ひでとし）、田中 裕喜（たなか ひろき）、古庵 晶子（こあん あきこ）、神月 紀輔（こうづき のりすけ）、江川 正一（えがわ まさかず）、小川 博士（おがわ ひろし）、太田 容次（おおた ひろつぐ）、大西 慎也（おおにし しんや）、高田 佳孝（たかだ よしたか）、東道 伸二郎（とうどう しんじろう）、植田 恵理子（うえた えりこ）、渡邊 春美（わたなべ はるみ）

科目区分	現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	必修
曜日時限	木曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

保育士及び幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭の仕事を正しく理解するとともに、4 年間の大学生活で必要な基礎知識を身につける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

保育士および幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭になるための基礎的な学習課題を見つけ、今後の学習を進めることができるようにする。大学生としての学び方を学ぶ。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	教育・保育に興味を持っていない。	教員としての力をつけようとする。	自主的に文献を読み、理想の教員の姿を創造できる	積極的に研究会やボランティアに参加し、そのことを生かして、目指すキャリアに近づこうとする。
知識・理解力	教育に関する情報から知識を得ようとしていない。	学習指導要領などを理解し、学校や保育園の現状や実情を知識として持っている。	文部科学省や厚生労働省の Web ページなどから最新の情報を得ようとする。	自ら得た情報に加え、教員や文献を用い、自主的に知識を得ようとする。
言語力	文章表現力に乏しく、外国語に関しても興味がない。	大学生としてのレポート等の書き方がおおむね理解できる。	様々な人とのコミュニケーションをとるために、自主的に言語の学習をしている。	卒業論文程度の文章力を持ち、また、外国語に関してもコミュニケーションの手段として積極的に活用し、外国語の文献を理解しようとする。
思考・解決力	問題の解決を人にゆだねてしまっている。	これまでの学習を生かし、自ら問題を解決しようとする。	これまでの学習や経験を活かし、自ら問題解決を探り、他の学生や教員などとも一緒に解決の道を探る。	先行研究などを生かし、問題に関して熟考し、筋道を立てて問題を解決しようとすることができる。
共生・協働する力	他の学生とのディスカッションを行わない。	他の学生とのディスカッションにより学ぼうとする	学生だけでなく、教員や現職教員からも学ぼうとする。	自らがリーダーになって、積極的にディスカッションを働きかけ、

				自分以外の学生の学びも考える。
創造・発信力	自分の考えを、人にわかる言葉で表現できない。	自分の考えを、序論・本論・結論の形でまとめることができる。	他者の意見を参考にしながら、自分の意見をまとめ、レポートや論述としてまとめることができる。	国内外の事例なども参考にしながら、広い視野で自分の考えをまとめ、プレゼンテーションやWeb ページなどに発信できる。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション（神月，全員）

第2回目

保育士と保育の現状（石井，畠山）

第3回目

保育に関するディスカッション（石井，畠山）

第4回目

小児医療から見た特別支援教育（萩原，東道）

第5回目

特別支援教育とその現状（太田，江川）

第6回目

特別支援教育に関するディスカッション（太田，江川）

第7回目

幼稚園教諭と幼稚園・認定こども園の現状（田中，植田，古庵）

第8回目

幼児教育に関するディスカッション（田中，植田，古庵）

第9回目

小学校教諭と小学校や学校教育の現状（藤本，河佐，大西，小川）

第10回目

学校教育に関するディスカッション（大西，小川）

第11回目

保育・学校見学に関する注意事項（石井，藤本）

第12回目

保育・学校見学後のディスカッション（全員）

第13回目

これからの保育・幼児教育（田中，神月）

第14回目

これからの学校教育（小川，大西，神月）

第15回目

まとめとコース選択（大西，神月，全員）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

グループディスカッションや自学自習を基本とし、経験のある教員からの話を基に、自分の知識を磨いていく。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

出席できるように体調を整えること。

新聞・テレビ・インターネットなどの情報を活用し、保育・教育に対して、積極的に情報を収集しておく。

学びに対して、わからないところを事前に調べたり、教員に質問したりして、自ら積極的に取り組める準備をしておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

10

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業への参加意欲・態度（70%）：将来を見据え、積極的に授業に参加しようとする態度と、知識を得ようとする態度を評

価する。毎回の授業後に振り返りシートを配布し記入していく。

レポート (30%) : 講義による学校園の現状把握と、見学後のまとめレポートを課す。

留意事項 (Other Information)

この授業は、こども教育フィールド研修と連動して行い、学校園への見学が入ることがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

指定しない

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に指示します。

参考 URL(URL for Reference)

授業中に指示します。

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

有資格者として勤務経験あり (石井, 植田)

教員として学校勤務経験あり (藤本, 河佐, 江川, 渡邊, 太田, 大西, 小川, 神月)

医師として病院等での診療経験あり (萩原, 東道)

講義コード	EDB1500N0J
科目名	こども教育フィールド研修
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	藤本 陽三（ふじもと ようぞう）、畠山 寛（はたけやま ひろし）、石井 浩子（いしい ひろこ）、萩原 暢子（はぎわら のぶこ）、河佐 英俊（かわさ ひでとし）、田中 裕喜（たなか ひろき）、古庵 晶子（こあん あきこ）、神月 紀輔（こうづきのりすけ）、江川 正一（えがわ まさかず）、小川 博士（おがわ ひろし）、太田 容次（おおた ひろつぐ）、大西 慎也（おおにし しんや）、高田 佳孝（たかだ よしたか）、東道 伸二郎（とうどう しんじろう）、植田 恵理子（うえた えりこ）、渡邊 春美（わたなべ はるみ）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	必修
曜日時限	木曜・2限

①科目の教育目標（Course Description）

保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の観察実習を行い、自身のコース選択の視点を獲得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ①保育・教育現場での子どもや教師の姿を丁寧に観察することができる。
- ②保育・教育現場での観察実習に相応しい態度、服装などを理解し、実践できる。
- ③保育・教育現場での観察実習を通して、教職を目指すことの責任を理解し、その後のコース選択、講義等に活かすことができる。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
学びに向かう力	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、説明できない。	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、おおまかに説明できる。	これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。	自身のキャリアを見据え、これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。
キャリア選択	自らの考えでコース選択をすることができない。	観察実習を踏まえて、自らの考えでコース選択をすることができる。	観察実習を踏まえたり将来のキャリアを見据えたりして、自らの考えで納得したコース選択をすることができる。	
観察実習に関わる社会人基礎力	観察実習に相応しい態度、服装を実践できない。	観察実習に相応しい態度、服装などについて、教員からの助言に基づいて実践できる。	観察実習に相応しい態度、服装などを十分に理解し、自ら実践できる。	
協働する力	グループで共有したり話し合ったりすることができない。	グループで共有したり話し合ったりするなど、他者と関わるることができる。	グループで共有したり話し合ったりする良さを理解し、積極的に他者と関わるることができる。	レベル3に加え、協働によって、最適解を検討することができる。
知識・理解力(保育・教育現場の観察)	保育・教育現場での子どもや教師の姿について、観察した結果を適切に記録することができない。	保育・教育現場での子どもや教師の姿を観察し、ある程度、記録することができる	保育・教育現場での子どもや教師の姿を観察し、事実と考えを区別して適切に記録することができる	保育・教育現場での子どもや教師の姿を丁寧に観察し、事実と考えを区別して詳細に記録することができる。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション（全員）

第2回目

観察実習の取り組み方（藤本、全員）

第3回目

幼稚園・小学校観察実習事前指導（全員）

第4回目

小学校観察実習（子どもの学びの様子を観察する）（全員）

第5回目

小学校観察実習（教師の指導の様子を観察する）（全員）

第6回目

幼稚園観察実習（園児の様子を観察する）（全員）

第7回目

幼稚園観察実習（幼稚園教諭の園児への支援の様子を観察する）（全員）

第8回目

幼稚園・小学校観察実習事後指導（全員）

第9回目

保育所・特別支援学校観察実習事前指導（全員）

第10回目

特別支援学校観察実習（子どもの学びの様子を観察する）（全員）

第11回目

特別支援学校観察実習（教師の指導の様子を観察する）（全員）

第12回目

保育所観察実習（園児の様子を観察する）（全員）

第13回目

保育所観察実習（保育士の園児への支援の様子を観察する）（全員）

第14回目

保育所・特別支援学校観察実習事後指導（全員）

第15回目

ディスカッション及びコース選択についての説明（全員）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

①教員によるオリエンテーション・事前指導

②保育・教育現場の見学

③見学後の振り返り、レポート作成

なお、レポートについては、教員が添削しフィードバックする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

自分の子どもの頃の学習の記録・学習の作品類を見直し、幼稚園・小学校などのそれぞれの教育現場で、子どもの姿はどのようなものなのか、指導者の言動はどのようなもののかななどの観察の観点を整理しておく。また、観察実習する者としての、態度・服装なども充分考えておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

出席状況・参加態度 80%，レポート 20%

保育・教育現場での観察実習が中心のため、原則、すべて出席すること

留意事項（Other Information）

・訪問する保育・教育現場の事情により、シラバス通りとならない可能性があるため、担当教員のアナウンスを聞き、留意すること。

・保育・教育現場での観察実習であることから、TPO を踏まえた態度、服装を心掛けること。

・実習先までの交通費は自己負担なので、留意すること。

・こども教育基礎演習と連携しながら演習を進める。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
必要に応じて、資料等を配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》有資格者として勤務経験あり（石井）

教員として学校勤務経験あり（藤本，河佐，江川，渡邊，太田，大西，小川，神月）

医師として病院等での診療経験あり（萩原，東道）

講義コード	EDS3600A0J
科目名	こども教育演習
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	150
⑥担当教員名	田中 裕喜（たなか ひろき）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の精読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
創造・発信力	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができていない。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てることができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てて、取り組んでいる。
創造・発信力	自らが選んだ分野の研究法を理解することができていない。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができており、それを用いて研究していこうとしている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができており、それを用いて研究に着手している。

③④授業計画

それぞれのゼミにおいて示される。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各担当教員の指示に従うこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

120

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

水曜 3 限、出席必須。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDB2550N0J
科目名	教育と社会
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	田中 裕喜（たなか ひろき）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	選択必修
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

学校教育のさまざまな自明性を問い直し、学校教育の課題について考察する力を養う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・教育事象を社会的に捉える。
- ・学校教育と社会のつながりを理解する。
- ・学校教育の現代的課題について学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
共生・協働する力	学校教育のさまざまな自明性について省察することができない。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができる。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができるとともに、学校教育の課題について考えることができる。	学校教育のさまざまな自明性について、自分の経験を振り返り、それらと結びつけて省察することができるとともに、学校教育と社会とのつながりを認識しながら、学校教育の課題について考えることができる。

③④授業計画

第 1 回目

学校の社会的考察

第 2 回目

学校文化

第 3 回目

知識基盤社会と学校

第 4 回目

多文化社会と学校

第 5 回目

子どもと情報化社会

第 6 回目

子どもの貧困

第 7 回目

いじめ

第 8 回目

子どもと親子関係

第 9 回目

日本の教育改革の動向

第 10 回目

海外の教育改革の動向

第 11 回目

学校と地域との連携

第 12 回目

地域に開かれた学校づくり

第 13 回目

子どもをめぐる事件と学校の取り組み

第 14 回目

学校安全の課題

第 15 回目

これからの社会と学校

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

定期試験に替わるレポートを提出。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義を中心に行う。話を聴きながら、社会のあり方と学校教育のあり方とを結びつけて考えることに努めてほしい。毎回書いてもらうミニレポートは、次の授業の中でコメントする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- ・新聞を読む習慣をつけること。教育に関する記事を切り抜くとなおよい。
- ・授業の中でよく考えてみてほしいと言った事からについて、自分の問いとして引き受け授業後に深く考えてみてほしい。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

ミニレポートの内容 (50%) と定期試験に替わるレポート (50%) にもとづいて評価する。

留意事項 (Other Information)

授業の状況に応じて、授業計画を変更することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

特になし。適宜資料を配布する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『学校って何だろう』/荻谷剛彦/ちくま文庫/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDN1250N0J
科目名	国語
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	渡邊 春美（わたなべ はるみ）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

小学校国語科の授業内容に基づき、教材研究の方法を学ぶとともに、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力の基礎を身に付けられるようにする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 「国語」学習指導の意義を理解する。
2. 国語科の各領域を指導するための基礎を学ぶ。
3. 国語科授業実践力の基礎を身に付ける。
4. 言語能力向上のために新聞記事の読解と意見の記述を課す。また、朗読を行う。
5. 学習の記録をポートフォリオにまとめる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	講義を理解しようとする姿勢が乏しい。受講生の相互交流においても消極的で、学びの姿勢が乏しい。テキストから学ぼうとする意欲が乏しい。	講義を聞き理解しようとする。受講生との相互交流に参加しようとする。他者を理解し、学ぼうとする。与えられたテキストから学ぼうとする。	理解の深化を心がけている。講義を聴き、疑問点を質問したり、新たな課題を見出したりする。相互交流に積極的に参加し、発言し、他者を理解し、他者から学ぼうとする。テキストのみならず、関連参考書からも学ぼうとする。自らの学びを振り返ろうとする。	理解の深化を求めて意識的に調べ、講義を関連知識と結びつけて理解し、自ら課題を見出し、追求しようとする。受講生の相互交流において他者を理解し、新たに創造的な知見を提供しようとする。テキスト、参考書類からも学び、関連知識を増やそうとしている。自ら学びを振り返り、新たな学びを展開しようとする。
音読・朗読する力	文字を語・句で認識し、スムーズに読むことができない。	技能を意識し、語・句で認識し、朗読できる。	技能を意識し、語・句・文で認識し、解釈を表現に込めて、語りかけるように音読・朗読できる。	技能を意識し、語・句・文で認識し、自らの解釈を表現に込めて、創造的に語りかけるように音読・朗読できる。
教材研究（読む力）	ジャンルに応じた教材研究ができず、教材に教育的価値を見出すことができない。	ジャンルに応じた教材研究を行い、教材に教育的価値を見出すことができる。	ジャンルに応じ、教材の教育的価値を、知識・技能、思考・判断・表現の面を意識して見出すことができる。	ジャンルに応じ、教材の教育的価値を、知識・技能、思考・判断・表現の面から多角的、創造的に見出すことができる。
書く力	課題・自主課題について論点、論旨、構成、表現等が不十分である。	課題、自主課題に応じて、論点を見出し、引用・事例等を用い、構成を整え、適切な言葉を使用し、論旨のわかる文章を書くことができる。	課題、自主課題に応じて、論点に基づき、引用・事例等を用い、構成を整え、適切な言葉を使用し、論旨の一貫した、説得力のある文章を書くことができる。	課題、自主課題に応じて、論点を明確にし、適切な引用・事例等を生かすとともに、緊密に構成し、適切な言葉を使用して説得力のある、論旨の明快な文章を書くことができる。

話す・聞く力	話し聞くことを通した学びを成立させることができない。	要点をとらえて理解し、疑問点を尋ねたり、意見を述べたりして、話を展開することができる。	要点をとらえて理解し、話を吟味しつつ聞くとともに、疑問点を尋ねたり、意見を述べたりして、話を創造的に展開することができる。	要点をとらえ、話し手の真意を理解し、話を吟味しつつ聞くとともに、疑問点を尋ねたり、意見を述べたり、価値ある話題を提供したりし、話を創造的に展開し、話す・聞くことの価値を実感することができる。
--------	----------------------------	---	---	---

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション オリエンテーション 講義：国語科を担当するために

第2回目

「国語」科の必要性 開講スピーチ：私の教師を目指すきっかけ 講義：「国語」科はなぜ必要か

第3回目

小学校国語科教材の音読・朗読 小学校国語科教材の音読・朗読・群読（群読課題の提示）

第4回目

朗読発表 小学校国語科教材の音読・朗読の発表

第5回目

文学作品の教材研究方法 文学作品の教材研究の方法と研究の実際

第6回目

文学教材研究方法の応用 文学作品の教材研究方法の応用

第7回目

説明文教材の研究手法 説明的文章教材の研究の方法と研究の実際

第8回目

説明文教材の研究手法の応用 説明的文章教材研究方法の応用

第9回目

書くことの学習指導 書くことの学習指導

第10回目

書くことの実際（情報収集と発信） 書くことの学習・情報の収集と発信

第11回目

学習指導案の書き方理解 学習指導案の書き方 学習指導要領と学習指導案

第12回目

学習指導案作成の基本の理解 学習指導案の作成（グループによる作成）

第13回目

学習指導案作成の応用 学習指導案の作成（個別作成）

第14回目

群読発表 群読発表グループごとに発表

第15回目

国語科指導法の学びの振り返り 閉講スピーチ：「国語」の授業で学んだこと・レポート提出

授業者による総括（成果と課題）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 講義式
2. 討議
3. 発表
4. レポート
5. 自主課題
6. フィードバック

「3. 発表」については、講評を行う。「4・レポート」・「自主課題」については、全体的に講評を行うとともに、個別にコメントを付して返却する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 教科書教材を中心に、音読・朗読できるように準備する。
2. 群読課題に応じて、グループで群読ができるように準備する。

3. 文学的文章教材・説明的文章教材の教材研究の方法を理解し、教科書教材の教材研究を行う。
4. 情報を収集し、意見文を書けるようにする。
5. テーマに基づき、ディベートができるように準備する。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

話し合い参加と小レポート等提出 (40%)。スピーチ・群読とパフォーマンスの発表 (30%)。まとめのレポート・ポートフォリオ (30%)。

留意事項 (Other Information)

受講者数他の理由によって、授業予定を変更することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)
プリントして配布。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『国語教育の新常識』/森山卓郎・達富洋二/明治図書/2010/9784183011152

『国語科教育総論』/浜本純逸/溪水社/2011/9784863271296

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》

私立・公立高等学校において 24 年間国語科教員として勤務した経験がある。本科目「国語」は小学校国語科の内容が講義内容の中心ではあるが、高等学校の国語科に発展的に繋がっているところも多い。高等学校における実務経験を、学生の教材研究力、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことに関する力を高め、授業実践力の基礎を身に付ける指導に生かすことが可能である。

講義コード	EDC4500N0J
科目名	国際理解教育
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	90
⑥担当教員名	渡辺 智美 (わたなべ ともみ)
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2

①科目の教育目標 (Course Description)

国際理解教育の中で取りあげる人権・多文化・自文化などの内容を、子どもとの関わりから捉える。そして、国際社会の中で多様な価値観があり、それらを認識することを通して、国際理解教育への関心を高め、国際社会の中で共生・協働するための基礎的な素地を養う。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ・多文化社会における文化理解と共生
- ・グローバル社会におけるつながりと相互依存
- ・地球的課題における人権・環境・平和

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	国際理解教育とは何かについて知ろうとする	国際理解教育の背景や意義について理解しようとする	国際理解教育の理論をもとに、考えを深める	国際理解教育と現代社会の結びつきを理解する
知識・理解力	課題の内容を知る	基礎的な知識を身につける	基礎知識をもとに、さらに新しい事柄を理解しようとする	自ら積極的に探究し理解を深める
言語力	人の意見や考えを聞く	自分自身の考えや意見を発表する	意見を交流しあう	交流した内容をさらに議論で深める
思考・解決力	問いを知る	積極的に問いに向き合う	他の人の考えや意見も参考にしながら、多角的に考える	自ら問いや課題を考え、自ら解決していく
共生・協働する力	相手の意見や考えを知ろうとする	相手の意見や考えを理解しようとする	自分と異なる意見であっても、議論を重ねていくことができる	議論を重ねる中で、新しい方向性を見出せる
創造・発信力	課題に対して取り組む	課題に対して、わかりやすく述べる	自らの経験と照らし合ったり、根拠を示したりしながら述べる	適切な情報を用いながら、創意工夫のある発信を行う

③④授業計画

第 1 回目

国際理解教育の意義 国際理解教育の歩みについて

第 2 回目

日本の伝統・文化 日本の伝統・文化について

第 3 回目

国際人としての自己の確立 国際人とは

第 4 回目

異文化やそれをもつ人々との交流と受容 世界の中の多様な文化について

第 5 回目

多文化の中での共生の意義 多文化共生とは

第 6 回目

帰国児童と多国籍の児童の教育 外国にルーツをもつ児童の教育について

第7回目

小学校における国際理解教育の実践 学校現場での実践について

第8回目

アメリカの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 アメリカの取り組みについて

第9回目

イギリスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 イギリスの取り組みについて

第10回目

フランスの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 フランスの取り組みについて

第11回目

ドイツの乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 ドイツの取り組みについて

第12回目

中国の乳幼児教育・初等教育と国際理解教育 中国の取り組みについて

第13回目

ユネスコの国際理解教育 ユネスコを中心とした国際理解教育について

第14回目

国際理解教育と学習モデル 国際理解教育の学習モデルについて

第15回目

これからの国際理解教育・まとめ 国際理解教育の可能性と展望について

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

講義とワークショップ形式の演習を取り入れた授業を行う。課題に対しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

テキストを読んでおくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60 時間

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

評価は、授業参加度 (50%)、授業時の課題 (50%) に基づいて総合的に行う。

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『国際理解教育ハンドブックーグローバル・シティズンシップを育むー』/日本国際理解教育学会/ 明石書店 / 2015年 / 9784750342054 / 学内販売有り

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

教諭として学校教育現場での勤務経験あり。

講義コード	CNS2601N1J
科目名	子供のネット安全教育の理論と実践
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月 紀輔（こうづき のりすけ）、東郷 多津（とうごう たづ）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	通年
⑤単位	2
備考	自由科目
曜日時限	木曜・6 限

①科目の教育目標（Course Description）

子供たちのネット利用において、詐欺にあう、ネットいじめ、個人情報の流出など様々な問題が起きている。本科目では、京都府消費生活安全センターと協力し、特に消費者教育の観点から、子供自らが考えて安心してネットを利用できるよう、小学校等での啓発プログラムを開発し、実践することを目標としている。なお現状から当面は、小学校 4~6 年生程度を対象としたプログラムの開発を行う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・現在起きているネットの安全使用に関する問題を知る。
- ・子供たちにとって危険な状況を知る。
- ・学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発する。
- ・開発したプログラムを実践する。
- ・プログラムの実施に対してその評価を行い改善をする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解	広い範囲から、子供のネット利用に関する情報を収集できず、理解できない。	現在の子供の情報環境やネットの使用状況を理解している。	子供にとっての望ましい情報機器の利用を理解している。	子供のネット利用に関する基礎知識を持ち、行政や教育がどのようにしようとしているか理解している。
実習に対する参加態度	実習に参加できない	子供の現状を踏まえ、実習に参加する	講座の趣旨を理解し、リーダーとして子供の前に立つ	講座の趣旨を理解し、子供を指導し、その評価をし、さらに啓発に努める
協働する力	他の大学生と協力できない。ディスカッションに参加しない。	積極的にディスカッションに参加する。	子供の指導に対して、意見の交換を行い、啓発に役立てる	問題点や改善点を積極的に提言し、次の啓発に生かそうとする

③④授業計画

第 1 回目

43643 本講義を始めるにあたって（神月・東郷・堀出）

第 2 回目

43650 教育社会学から見た子供のネット利用（堀出）

第 3 回目

43657 京都府消費生活安全センターにおける子ども啓発（外部講師）

第 4 回目

43664 子供のへの模擬指導と評価（東郷・堀出・神月）

第 5 回目

8・9 月中（日時未定） 小学校における子供への指導実習（堀出・東郷・神月）

第 6 回目

8・9 月中（日時未定） 児童館における子供への指導実習（堀出・東郷・神月）

第 7 回目

8・9 月中（日時未定） こどもイベントでの指導実習（堀出・東郷・神月）

第 8 回目

43741 小学校児童館等における実習の評価、振り返り（堀出・東郷・神月）

第 9 回目

43748 学校における情報モラル指導（神月）

第 10 回目

43755 京都府消費生活安全センターへの相談の現状（外部講師）

第 11 回目

43762 他の自治体での取り組み（外部講師）

第 12 回目

43769 保護者も含めた指導方法の開発（神月）

第 13 回目

43776 専門家による評価（堀出・外部講師）

第 14 回目

43783 今後の問題点討議（神月・東郷・堀出）

第 15 回目

43790 まとめと自己評価（神月・東郷・堀出）

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

現状の把握や学習理論については、講師やゲストスピーカーから講義を聞き、そこで得た知見をもとに、演習により、子ども向け啓発プログラムを開発する。その際にはグループによるディスカッションなどコミュニケーションが必要である。さらに実際に子どもの前に立ち、実践を行い、実践から得たデータなどをもとに、啓発プログラムの自己評価を行い、議論の中からフィードバックを行う。また改善点を見出し、さらにプログラムをよいものに仕上げ、再生可能なものにする。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新聞やインターネットなどで情報の収集をする。毎回の授業に対して復習を行い、次時への目標を立てる。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

20

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度(50%)、毎時間のコメント(20%)、指導実習内容(30%) により総合的に評価を行う。

留意事項 (Other Information)

この科目はコンソーシアム科目であり、本学ではなくキャンパスプラザ京都で開講する。また履修登録もコンソーシアム京都からも行う必要があり、講義期間もキャンパスプラザ京都の日程に従うので注意すること。実習を伴うこともあるので、就職活動中の学生は単位取得が難しくなることがあることを留意されたい。講義のうち 2 回程度は、講義時間以外の 8 月から 9 月に、京都府内の小学校または児童館などに出かけて実習を行う。この際の交通費は自己負担となる。さらにこの取り組みにかかわりたい場合は、2、3 月や次年度に自主的に啓発活動に取り組むことが可能である。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

指定しない

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

プリントやネットワークを通じて資料を配布する。

参考 URL(URL for Reference)

e 京都 (いーこと) ラーニングシステム <https://el.consortium.or.jp/login.php>

公益財団法人 大学コンソーシアム京都の単位互換履修生及び京 (みやこ) カレッジ生の履修登録・学修支援システムです。

大学コンソーシアム京都 単位互換制度 <http://www.consortium.or.jp/project/tg/details>

出願手続き等の説明はこちらから

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 外部講師は行政機関勤務経験あり

講義コード	EDR3600A0J・EDR3600B0J
科目名	介護等体験A・B
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	太田 容次（おおた ひろつぐ）、矢島 雅子（やじま まさこ）
科目区分	現代人間学部 > こども教育学科 > こども教育学科（実践的科目）
学年	2年次、3年次
開講学期	集中
⑤単位	1
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

特別支援学校や社会福祉施設における介護等の体験を通じて、学生自らが個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質の向上を図ることを目的としている。また、障害のある児童生徒や、支援を必要としている人とのふれあいを通して、お互いを尊重し、思いやりの心を育み、共に生きる社会の原動力になれることを目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- (1) 介護等体験の制度とその趣旨について理解し、手続きを適切に行う。
- (2) 体験にあたっての心構えや体験先でのマナーについて社会人基礎力の観点も踏まえて理解する。
- (3) 特別支援学校における介護等体験の実際について理解する。
- (4) 社会福祉施設における介護等体験の実際について理解する。
- (5) 特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間、介護等の体験を行う。
- (6) 体験を振り返り、教職を目指す者としての自覚を深める。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自分から、もしくは働きかけがあっても、自ら学ぼうとしない。	仲間や教員の働きかけで学ぼうとする。	教職について自ら目的意識を持ち、学ぶことができる。	教職に就くにあたり目的意識を持ち主体的に学び、仲間と協働した学びができる。
知識・理解力	将来教職に就く者として、何が重要な学ぶべき知識なのか理解しようとしなない。	教職に関して学ぶべきことの中で、何が最も重要な事柄なのかわかる。	教職に関して学ぶべき知識等の中で、最も重要なことを複数認識し、そのためのツールを活用できる。	既に学んだ知識を基に、重要なことを発見し、その全体像や関連事項の理解などを自分なりに考えて学ぶことができる。
思考・解決力	講義に出席しているだけで、教職に就く者として、自ら考え学ぼうとする態度が見られない。	教職に関する自分の学びを振り返り、考えることができる。	教職に関して新たな問題を発見した時に、自分のこれまでの学びを足掛かりに考えることができる。	自分の学びを振り返り、自分や仲間の学びを高められるように考え、問題解決に向かうことができる。
共生・協働する力	仲間との協働の場にいるだけで、教職に関する協働の活動等に積極的な参加が見られない。	仲間と協働で意見交換したり、作業したりできる。	グループでの協働の際に、ルールや責任などを考えて学ぶことができる。	仲間と協働する際に、多様な考え方などを尊重し、学びを互いにフィードバックしながら、学ぶことができる。
創造・発信力	学んだことや他者の意見をそのまま発信する。	学んだことを自分なりにレポートにまとめたり、周囲と意見交換したりできる。	自分が学んだことを表現するために、複数のツールを使い表現することができる。	自ら目的意識を持ち、学んだことを発展させた内容を創造し、発信することができる。

③④授業計画

第1回目

事前指導：介護等体験の制度と趣旨、申込手続きについて

第2回目

事前指導：介護等体験にあたっての心構え（上級生の体験発表）

第3回目

事前指導：アイマスクを使った体験、車椅子の介助方法

第4回目

事前指導：体験日誌の記入について

第5回目

事前指導：特別支援学校における介護等体験

第6回目

事前指導：社会福祉施設における介護等体験（ゲストスピーカーによる講義）

第7回目

事前指導のまとめ

第8回目

特別支援学校における介護等体験～1日目

第9回目

特別支援学校における介護等体験～2日目

第10回目

社会福祉施設における介護等体験～1日目

第11回目

社会福祉施設における介護等体験～2日目

第12回目

社会福祉施設における介護等体験～3日目

第13回目

社会福祉施設における介護等体験～4日目

第14回目

社会福祉施設における介護等体験～5日目

第15回目

事後指導：体験の振り返り

各自の体験レポートを小グループで発表し合い、学んだことを共有する。その後、全グループの体験概要を共有することで、教職を目指す者としての自覚を深める。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1. 事前指導は講義を中心とするが、適宜演習等も取り入れる。
2. 事後指導ではグループ討議等を行う。
3. 毎講義後レポート提出を義務づけている。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

- ・事前指導までにテキストを必ず読んで予習しておくこと。
- ・教育現場で必要と思われるルールやマナーを、学生としてではなく将来教職に就く者として、日頃から守るよう心がけること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

学生としてではなく、社会人基礎力を身につけた、将来教職に就く者として、ルーブリックに示す項目から総合的に評価する。

毎回のレポート 40% 個別課題(1)(2)(3)(4)に対応

日誌 20%、報告書 20% 個別課題(3)(4)(5)に対応

グループワークへの参画や発表をルーブリックに示す視点から総合的に評価 20% 個別課題(3)(4)(6)に対応

留意事項（Other Information）

1. 学生便覧の教育職員免許状取得に関するページ（「はじめに」は必読）を熟読しておくこと。
2. 正当な理由なく欠席することは認めない。また、ルーブリックに示したように、出席していても、受講態度等が欠席等と同様と考えられる場合（例：出席しているが席で寝ていて講義・演習等に参加していない。教員の指示がない場面でスマホ等を操作している。離席が多い等）は、欠席等とみなす場合がある。

3. 学生便覧に書かれている通り、卒業後、**教職に就くことを希望する者が教育職員免許状を取得**するのが原則である。そのことを理解していることを前提に、事前指導において申込書・誓約書の提出を求める。
4. 4年次生は、体験時期が2月以降になった場合、単位認定できないことがある。
5. 特別支援学校と社会福祉施設の目的や事業内容について事前学習を行い、体験に向けて目標を設定すること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『介護等体験ガイドブック フィリア [新学習指導要領(平成 29 年公示) 版]』/全国特殊学校長会編/ジアース教育新社/2018/978-4-86371-447-2/学内販売予定

『第5版 よくわかる社会福祉施設 教員免許志願者のためのガイドブック』/増田雅暢/社会福祉法人全国社会福祉協議会/2018/978-4-7935-1277-3/学内販売予定

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『介護等体験マニュアルノート』/東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会/2012/4863530447

『介護等体験の手引き』/徳田克己、名川勝編/協同出版/2002/4319110269

『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』/現代教師養成研究会編/東京大修館書店/2008/9784469266702

参考 URL(URL for Reference)

社会人基礎力 経済産業省 (<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》 特別支援学校（知的障害・肢体不自由・病弱虚弱）において教員として勤務経験あり。

講義コード	GBL1401A0J～GBL1401G0J
科目名	情報演習 I a A～G(2021 年度以降入学者)
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期・後期
⑤単位	1
曜日時限	月曜・5 限

①科目の教育目標（Course Description）

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要不可欠な技能である。学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のための E-Mail の利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などではできているが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる

表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Web による情報収集と蔵書検索システムの利用	Web による情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Web による情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Web による情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

③④授業計画

第1回目

ガイダンス ガイダンス、E-mail の利用、manaba について、印刷の管理、タッチタイピング練習

第2回目

コンピュータ環境の利用 入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索

第3回目

大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用 本学の図書館の活用（OPAC の利用・文献探索・データベース活用方法など）

第4回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(1) 基本的な文書を作成する方法

第5回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(2) 効果的に表を作成する方法

第6回目

表計算ソフトの基本操作(1) 基本操作、数式の入力、表の作成方法

第7回目

表計算ソフトの基本操作(2) 基本的な関数、グラフ作成

第8回目

表計算ソフトの基本操作(3) データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題1：Excel 文書】

第9回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(1) レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など

第10回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 課題説明と情報収集など【課題2：PowerPoint 文書】

第11回目

日本語文書作成ソフトの基本操作 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認

第12回目

日本語文書作成ソフトの応用操作(1) 画像や図形などを使った表現力をアップする機能

第13回目

日本語文書作成ソフトの応用操作(2) レポートや論文の作成に役立つ機能など

第14回目

第 15 回目

実技確認テストとまとめ 実技確認テストとしての【最終課題】の実施、終了後に講評

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

Windows パソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日の授業中に実施される「実技確認テスト」は必ず受けること。なお、プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・授業態度（データの提出、授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、2 つの通常課題（40%）、実技確認テストとしての最終課題（30%）の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

第 3 回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。

P 検（ICT プロフィシエンシー検定）の 3 級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の 2 科目以上（Word ともう 1 科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して 3 年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない）。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

なし。テキストや資料は PDF で授業内で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること（印刷方法は授業の中で指示します）。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019 対応)』/FOM 出版/2020/978-4-86510-418-9

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL1402P0J～GBL1402R0J
科目名	情報演習 I b P～R (2021 年度以降入学者)
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	メディア利用
曜日時限	土曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。なお、このクラスは第 1 回目のみ対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン授業（オンデマンド方式）での授業実施を予定している。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
- ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
- ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
- ・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
- ・研究活動推進のための E-Mail の利用、情報検索の活用
- ・タッチタイピングの習得
- ・論文作成のための日本語文書作成
- ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
- ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
- ・ファイル管理・フォルダの概念の理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などができるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる

表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Web による情報収集と蔵書検索システムの利用	Web による情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Web による情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Web による情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

③④授業計画

第1回目

ガイダンス【対面授業】 ガイダンス、E-mail の利用、manaba について、印刷の管理、タッチタイピング練習

第2回目

コンピュータ環境の利用【第2回目以降、オンライン授業】 入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索

第3回目

大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用 本学の図書館の活用（OPAC の利用・文献探索・データベース活用方法など）

第4回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(1) 基本的な文書を作成する方法

第5回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(2) 効果的に表を作成する方法

第6回目

表計算ソフトの基本操作(1) 基本操作、数式の入力、表の作成方法

第7回目

表計算ソフトの基本操作(2) 基本的な関数、グラフ作成

第8回目

表計算ソフトの基本操作(3) データベース機能、データの分析と考察などのデータサイエンス入門【課題1：Excel 文書】

第9回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(1) レイアウト、デザイン、特殊効果、印刷方法など

第10回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(2) 課題説明と情報収集など【課題2：PowerPoint 文書】

第11回目

日本語文書作成ソフトの基本操作 日本語文書作成ソフト（Word 2019）の基本操作の確認

第12回目

日本語文書作成ソフトの応用操作(1) 画像や図形などを使った表現力をアップする機能

第13回目

日本語文書作成ソフトの応用操作(2) レポートや論文の作成に役立つ機能など

第14回目

第 15 回目

実技確認テストとまとめ 実技確認テストとしての【最終課題】の実施と manaba での提出。終了後に manaba などで講評

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

Windows パソコンでの実習をベースに授業を行う。テキストでは、Windows10/Office2019 をベースに解説しているため、macOS の利用者の場合、テキスト内容が実際の操作と異なる場合がある。このクラスは第 1 回目は対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン (manaba などを利用したオンデマンド方式) での授業実施を予定している。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

復習を兼ねた複数の課題を作成してもらうので、期日までに必ず提出すること。さらに、最終日に実施される「実技確認テスト」は必ず受け、直ちに manaba で提出する必要がある。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

15

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (manaba での提出物) や授業への態度を「30%」、2 つの通常課題の提出を「40%」、実技確認テストとしての最終課題の提出を「30%」とした総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

入学時などの情報スキルチェックテストの結果などに基づいて、この科目の履修者が指定される「選抜者クラス」である。manaba を利用したオンライン (オンデマンド方式) で授業が実施されるため、授業概要、特にどのような提出物をいつ提出する必要があるかを授業開講時に把握しておく必要がある。

オンデマンド方式で実施するため、質問のある学生は「情報アドバイジング」の時間など、対面指導の機会を積極的に利用すること。複数の通常課題 (2 つの予定) に関しては、提出後に各自に講評を戻すので確認し、疑問があれば「情報アドバイジング」の時間を利用するなどして、主体的に学びを進めること。

P 検 (ICT プロフィシエンシー検定) の 3 級以上、もしくは MOS (Microsoft Office Specialist) の 2 科目以上 (Word ともう 1 科目) を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて (こちらでコピーを取って原本は返却します)、期日 (認定を希望する学期の授業最終日) までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して 3 年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる (単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない)。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

なし。テキストや資料は PDF で提供されるので、各自で印刷するなどして利用すること。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019 対応)』/FOM 出版/2020/978-4-86510-418-9

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2250A0J・GBL2250B0J
科目名	情報技術リテラシー A・B(2021 年度以降入学者)
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤 泰子 (いとう やすこ)
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・1 限

①科目の教育目標 (Course Description)

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「IT パスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT (information technology：情報技術) 人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があるか学習し、それをどのように活用すべきかを考えていく。現在のネットワーク社会において必要不可欠なデータベース、ネットワーク、セキュリティなどの知識も習得する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ・コンピュータ基礎理論を理解する
- ・コンピュータシステムを知る
- ・データベースの基礎知識を学ぶ
- ・インターネットのしくみと知識を学ぶ
- ・セキュリティの基礎知識を学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータの基礎理論	記憶容量の最小単位がわからない	bit や Byte、2 進数表記について知っている	基数変換、bit 数による表現範囲がわかる	コンピュータ上の文字表現、色の表現など 2 進数表現を使って説明できる
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムの OS の名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ソフトウェアとハードウェアの理解	ソフトウェアとハードウェアが何かわからない	ソフトウェアとハードウェアを知っている	ソフトウェアとハードウェアの具体例を説明できる	PC の性能表を見ておおよその説明をすることができる
インターネットのしくみの理解	インターネットに興味がない	代表的なプロトコルを知っている	IP アドレスやドメイン名について知っている	IP アドレスのクラスやサブネットマスクを理解できる
セキュリティの知識	セキュリティに興味がない	セキュリティの必要性がわかる	どのようなセキュリティ技術があるか知っている	セキュリティの必要性や技術について、他人に説明できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス 授業概要の説明、IT パスポートの紹介

第 2 回目

情報に関する基礎理論 1 2 進数、基数変換など

第 3 回目

情報に関する基礎理論 2 情報量、A/D 変換、文字の表現など

第 4 回目

コンピュータの基礎知識 1 ハードウェアの種類と役割

第 5 回目

コンピュータの基礎知識 2 インターフェイスの種類と役割

第 6 回目

コンピュータの基礎知識 3 ソフトウェア、OS について

第 7 回目

アルゴリズム アルゴリズムの知識とプログラミング（疑似言語）の解説

第 8 回目

マルチメディア マルチメディア技術やファイル形式について

第 9 回目

データベースの基礎知識 データベースの種類、データベース設計、データ操作など

第 10 回目

ネットワーク 1 ネットワーク方式、プロトコルなど

第 11 回目

ネットワーク 2 インターネットのしくみ、サービスなど

第 12 回目

情報セキュリティ 脅威とその特徴について

第 13 回目

情報セキュリティ対策 1 セキュリティ対策の種類と特徴について

第 14 回目

情報セキュリティ対策 2 暗号化技術について

第 15 回目

まとめテスト、解答・解説

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。

・定期的に小テストを行う。

フィードバックとして、テスト実施後に解答の解説を行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（40%）、テスト（60%）

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『令和 4-5 年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集令和 4-5 年度版/富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM 出版)/FOM 出版/2022/978-4-938927-42-4/学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード	GEN1202N0J
科目名	情報の科学と倫理(2021年度以降入学者)
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月 紀輔（こうづき のりすけ）
科目区分	共通教育科目 > 共通教育科目（実践的科目）
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	メディア利用
曜日時限	土曜・2限

①科目の教育目標（Course Description）

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきた。本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や、人権問題にも目を向け基礎的な情報倫理の知識も知ること目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. コンピュータの構造について学ぶ
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ
3. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がついていない	情報のデジタル化についてその仕組みを理解し、内部構造を理解できる。	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしていない。	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる。
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル4に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う。	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える。	レベル4に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

③④授業計画

第1回目

授業の概要紹介

第2回目

情報理論とデジタル・アナログ

第3回目

ハードウェアとソフトウェア

第4回目

コンピュータの仕組みと OS

第5回目

コンピュータの誕生とその背景

第6回目

コンピュータの発展 小テスト 1 回目と解説

第7回目

情報のデジタル化 数・文字

第8回目

情報のデジタル化 音声・画像

第9回目

問題解決とアルゴリズム

第10回目

プログラミング 小テスト 2 回目と解説

第11回目

情報の信頼性と信憑性

第12回目

知的財産権の保護

第13回目

情報を守るセキュリティの仕組み

第14回目

情報モラルの考え方 小テスト 3 回目と解説

第15回目

全体のまとめ、自己評価

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

⑦教育・学習の方法 (Course Methods)

この講義は、全講義をオンライン学習によって行う。manaba コースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。

講義の流れ

- 1 manaba コースのコースニュースに予定を配信する
- 2 授業時間開始時に、manaba コースのコンテンツに教材を配信する。
- 3 コンテンツの指示に従って学習を進める
- 4 respon で毎回のコメントを提出し、自分の理解度を把握しておく
- 5 1に戻る
- 6 月に1回のペースで小テストを行い、自分で学習の進捗を確かめる

respon を用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・感想などの記入を求め、授業内でフィードバックを行う。

小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするとい。

コンテンツの資料は全講義が終了するまで、復習や抜けた講義のために、いつでも閲覧できるようにしておく。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコナーに配架する予定である。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

30 点満点の小テストを 3 回実施し、授業への参加度 (コメントの入力態度を含む)・毎回の respon への授業コメントおよび自己評価を加えた 10 点を加算し 100 点満点で評価を行う。

3 回的小テストで合計点が 60 点に満たない場合は、補講期間に追試を実施する。

留意事項 (Other Information)

オンラインによる学習のため、動画をみたり、respon の提出ができるように、PC やスマホの準備をしておく。

質問は manaba コースのスレッドで受け付ける。

初回に受講の仕方を説明する。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

配布資料を中心に解説するので教科書は指定しない。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

『情報とコンピューティング』/河村一樹/オーム社/2011/9.78427421086E12

『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進/イーテキスト研究所
/2007/9.784904013007E12

『アルゴリズムの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2003/9.784798104522E12

『パソコンの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2010/9.784798122526E12

『OSの仕組みの絵本』/(株)アंक/翔泳社/2011/9.784798124629E12

上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。

また、これらの参考文献以外にも講義時に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GEN2450A0J・GEN2450B0J
科目名	AIとデータサイエンス入門A・B(2021年度以降入学者)
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	北村 美穂子（キタムラ ミホコ）・金光 安芸子（カナミツ アキコ）
科目区分	共通教育科目
学年	2年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

AI(人工知能)とは何でしょうか？また、AIと聞いて何を思い浮かべるでしょうか？人間のようにおしゃべりするロボットでしょうか？人間の仕事を奪う脅威でしょうか？本科目では、近年、進歩が著しく、ビジネスにも広く活用されつつあるAIと、AI技術に密接に関連するデータサイエンスの基礎について学習します。AIについては、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、特に、コンピュータで言葉を扱う技術、自然言語処理について学びます。また、データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学びます。身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング実習も行います。最後に社会的な問題にも触れ、人間とAIが共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とします。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

データサイエンスの基礎・概要を学ぶ

プログラミング言語を理解・習得する

AIリテラシーを学ぶ

社会におけるAI・データの役割を学ぶ

ループリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
データサイエンスの基礎・概要の理解	データの可視化・分析の方法がわからない	データの可視化・分析の方法を知っている	データを可視化・分析できる	データを可視化・分析して、課題を発見できる
プログラミング言語の理解と習得	プログラミング言語に興味がない	サンプルのプログラムを見ながら自分で書ける	サンプルのプログラムをベースに異なるプログラムを自分で書ける	サンプルのプログラムをベースに、目的に合うプログラムを自分で考えて書ける
AIリテラシーの習得	AIリテラシーに興味がない	AIリテラシーの力として、AIのしくみや原理の理解が必要なことを知っている	AIリテラシーの力としてAIのしくみや原理を理解しようとし、専門知識を学んでいる	AIリテラシー関連の専門知識(機械翻訳など)が豊富で、他人にも説明できる
社会におけるAI・データの役割の理解	社会におけるAI・データの役割に興味がない	社会におけるAI・データの役割をなんとなく理解している	社会におけるAI・データの役割を理解している	社会におけるAI・データの役割を理解し、例をあげて説明することができる

③④授業計画

第1回目

ガイダンス

授業の目的・進め方についての説明、Wolframアカウントの設定

第2回目

AIの背景にある技術とは

コンピュータのしくみ、AIリテラシーとは、社会の変化、身の回りのAI、ビッグデータ、DX、Wolfram言語の基本操作の説明と実習

第3回目

データ活用のための基礎技術

データの種類、コンピュータ内でのデータの扱い(数字、文字、文字コード)、数値や文字に関するプログラミング実習

第4回目

データ活用のための技術（構造化データと非構造化データ）

コンピュータ内でのデータの扱い（画像、音声）、日常社会におけるデータ、画像や音声のデータを扱うプログラミング実習

第5回目

2-4 のまとめ、小テストおよび講評

第6回目

プログラミング言語概論(1)

プログラミングとは、機械が得意なこと・人間が得意なこと、自然言語との違い、アートプログラミング実習

第7回目

プログラミング言語概論(2)

プログラミング言語の歴史、種類とその特徴、アートプログラミングでの作品制作

第8回目

AI の事例(1) 機械翻訳

機械で言葉を扱うには（機械翻訳を例に）、Wolfram|Alpha を用いた実習

第9回目

AI の事例(2) 自然言語処理全般

知識処理、知的情報検索、テキストマイニング、テキスト処理のプログラミング実習

第10回目

6-9 のまとめ、小テストおよび講評

第11回目

データサイエンスの基礎

データサイエンスに必要な数学・統計の基本、データの収集・加工、基本的な統計計算とグラフ表示のプログラミング実習

第12回目

データビジュアライゼーション

日常社会におけるデータ可視化、様々なビッグデータ、データ可視化のプログラミング実習（ワードクラウド、地理データの可視化など）

第13回目

AI の技術（機械学習）

AI と人間の学習の違い、教師あり・教師なし学習、機械学習のプログラミング実習（分類、予測、特徴検出など）

第14回目

AI が社会に与える影響

社会の中の AI、IoT とビッグデータ、データ駆動型社会、身近なデータを用いた AI・データサイエンスの体験実習

第15回目

まとめテストおよび講評と本授業の総括

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法（Course Methods）

毎回、講義とプログラミング実習を交えた授業を行なう。実習では主に Wolfram 言語を使い、講義で学習した内容を実際に体験することで理解を深める。また、必要に応じて作成したプログラムを提出する。授業後は毎回 respon を使って理解度をはかり、コメントを収集する。月に1回程度の小テストを実施し、理解度を確認する。テストの結果を元に講評を行い、必要に応じて再度講義に取り入れるなどして理解の定着を図る。プログラム実習や課題は自宅からオンラインでもできるので、授業で学んだことを復習すること、積極的・主体的に学んでほしい。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

教科書の指定したところや事前に配布する教材（動画の場合あり）で、予習をして授業に参加すること。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。AI・データサイエンス関係の事柄に日頃から興味を持ち、ニュースなどをよく見ておくこと。

前時の内容の復習をしっかりとしておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加 (30%), レポート・課題 (30%), 小テスト・まとめテスト (40%) の総合点で評価する。

留意事項 (Other Information)

プログラミングの知識・経験は問わないが、PC の基本操作やテキスト入力ができることを前提として授業を進める。授業の内容をベースにして、オリジナルのプログラムを作って提出するなど、発展的な取り組みを歓迎する。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

はじめての AI リテラシー (技術評論社) 岡嶋裕史・吉田雅裕 (学内販売)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

Wolfram データサイエンス: <https://www.wolfram.com/featureset/data-science/>

Wolfram|Alpha: <https://www.wolframalpha.com/>

Wolfram Programming Lab : <https://www.wolfram.com/programming-lab/>

実務経験のある教員による実践的科目

現在, 最先端の AI 技術を含むプログラム言語をベースにしたアプリケーションのマーケティングや開発業務に携わっている教員が, その経験を生かし講義を行う。日本の IT 企業にて自然言語処理の研究開発に長年携わる, 現在は Wolfram Alpha LLC コンサルタント。

講義コード	GBL1200A0J～GBL1200D0J
科目名	文章作成法Ⅰ A～D(2021年度以降入学者)
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	金 美仙（きむ みそん）、吉田 智子（よしだ ともこ）
科目区分	共通教育科目
学年	1年次
開講学期	前期前半
⑤単位	1
備考	前半 7.5 コマ
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

学術的な文章作成の基礎を身につけることが最終的な目標である。まずは学術的な文章と近いジャンルの文章を読み込むことによって、文章の特徴を理解する。読み込んだ文章をモデルにし類似した文章が書けるようになる。模範となる多くの文章のインプットによって、自ら書く能力及び指摘された修正理由が理解できる能力を獲得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- (1) 音読トレーニングの方法を用いて、模範となる文章を読み込む。
- (2) 相手に良く意味が伝わる読み方を工夫しながら繰り返し読み込む。
- (3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造など文章の特徴を理解する。
- (4) 読み込んだ模範の文章に倣って、文章を書き点検する。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の意味が一切読み取れない。	読み込んだ文章の意味が理解でき、書き言葉を認識できる。	読み込んだ文章に対して、段落ごとの主題を理解できる。	読み込んだ文章に倣って、言いたいことを書き言葉で書くことができる。
創造・発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉をみつけることができない。	読み込んだ文章の内容を自分のことばで表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容をを自分のことばで説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。

③④授業計画

第1回目

ガイダンス及びグループ作りと課題を決定

なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。グループごとに読む箇所と音読のルールを決めて、シミュレーションをする。

第2回目

「文章1」を読み込み、意見交換

グループ内で数回輪読を行う。聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。反省点を生かして交代で読んでいく。

第3回目

「文章1」の書き取りと文章全体の構造の分析

「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。

書き取った文章の段落構成を行う。

第4回目

「文章2」を読み込み、意見交換

後輩または地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。反省点を生かしてさらに音読する。他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。

第5回目

「文章2」の書き取りと文章全体の構成の分析

「文章2」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。
書き取った文章の段落構成を行う。宿題：自ら模範となる文章をみつけてくる。

第6回目

持ち寄った模範となる文章の検証及び音読

持ち寄った文章（「文章3」と呼ぶ）を数回音読する。選定理由をグループ内で話し合う。選んだ文章と選定理由を書いてみる。

第7回目

前回書いた文章のフィードバック

レポートと学術レポートの違いを理解する。前回書いた文章を学術レポートの基準に照らし点検する。点検の結果を踏まえて書きなおす。

第8回目

書いたレポートの発表会

完成したレポートをグループ内で音読し合う。読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。毎回の授業でグループワークを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。
グループ内での協働を心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

課題（50%）、授業参加度（50%）から評価を算出する。

留意事項（Other Information）

音読は外国語の習得にも役立つので、各自自分の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
プリント配布

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

高校の「情報」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL1201A0J～GBL1201D0J
科目名	文章作成法Ⅱ A～D(2021年度以降入学者)
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	吉田 智子（よしだ ともこ）、金 美仙（きむ みそん）
科目区分	共通教育科目
学年	1年次
開講学期	後期前半
⑤単位	1
備考	後半 7.5 コマ
曜日時限	木曜・3限

①科目の教育目標（Course Description）

学術的な文章作成の基礎を身につけて、自分の考えを書き言葉で論理的に表現できるようになる。模範的な学術文章の読み込みと書きとりを行いながら、学術的な文章の特徴を分析する。その後、学術的な文章の特徴を理解したうえで学術レポートを書く。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- (1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込み、内容の伝わりやすい「音声教材」を作成する。
- (2) 読み込んだ文章の全体の構造及び文体、段落間の論理関係、引用のし方などを分析する。
- (3) 読み込んだ文章を模倣しながら学術レポートを書く。
- (4) 自分が書いた学術レポートを学術的な文章の基準に照らしながら検討し書き直す。

ループリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語・思考力	読み込んだ文章の文体（書き言葉と話し言葉の違い）が理解できない。	読み込んだ文章の全体の構造、文体が理解できる。	一文一義の文が理解できる。	段落間の論理関係が成立するレポートが書ける。
創造・発信力	話し言葉を書き言葉に変えることができない。	読み込んだ文章の文体を変えたり説明することが説明できる。	一文一義の文を理解し、書くことができる。	表現したい内容を構造のある文章に書くためにアウトラインを構成することができる。

③④授業計画

第1回目

ガイダンス及び「音声トレーニング」の実施

グループごとに読む箇所と音読のルールを決める。「文章1」をグループ内で数回輪読を行う。聞き手の立場となって他のグループの音読を聞く。伝わりやすい読み方についてグループ内で意見を交わす。反省点を生かして交代で読んでいく。

第2回目

音声教材作成プロジェクト（1）

「文章1」の書き取りを行い、原文と比較して自己評価する。他人の音読を聞いて概要がわかるタイトルをつけてみる。書き取った文章の段落構成を行う。

第3回目

音声教材作成プロジェクト（2）

「文章2」を地域社会のコミュニティの各種年齢層などを想定して読む。聞き手に合った読み方についてグループ内で意見交換を行う。反省点を生かしてさらに音読する。他のグループの音読を聞いて概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。

第4回目

音声教材作成プロジェクト（3）

「文章1」と「文章2」の構造についてグループ内で話し合う。各自聞き手を想定して、音声教材として仕上げる。メンバーの意見も取り入れながら、注釈などもつけてみる。作成した音声教材を聞いて意見交換する。

第5回目

学術レポート作成プロジェクト（１）

「文章３」として学術レポートを１本読む。グループ内で段落構成及びタイトルなどについて話し合う。

第６回目

学術レポート作成プロジェクト（２）

学術レポートを書く準備をする：グループで話し合いながらテーマを決める。「文章３」の構造に沿ってアイデアを整理する。段落ごとのテーマを考えてみる。

第７回目

学術レポートを書く

各段落のメインセンテンスを意識しながら書いていく。段落間の論理関係を検討する。グループ内で音読し合い意見交換を行う。学術レポートを完成する。

第８回目

書いたレポートの発表会とフィードバック

前回書いた学術レポートを発表し、聞き手の意見を聞く。発表した学術レポートの構造をモデルに、さらに書きたいテーマについてグループ内で話し合う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章または構造と類似した文章を書く。毎回の授業でグループワークを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

日々の生活において、自分の読み聞かせが役に立ちそうな場面を考えてみる。グループ内での協働を心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

課題（50%）、授業参加度（50%）から評価を算出する。

留意事項（Other Information）

「文章作成法Ⅰ」の内容を習熟していることが前提である。

後期の前半 7.5 回の授業なので、後期の 8 回目の前半（45 分間）で終了する。

なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
プリント配布

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

高校の「情報」や「家庭科」の教科書

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL1452N0J
科目名	SNSコミュニケーションスキル(2021年度以降入学者)
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月 紀輔（こうづき のりすけ）
科目区分	共通教育科目
学年	1年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・5限

①科目の教育目標（Course Description）

インターネットやSNS(Social Network Service)の仕組みや内容を概観し、特性を理解しながら望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- ・SNSの特性を知ること
- ・ネット上でのコミュニケーションの方法を考えることができる
- ・ネット上のトラブル回避や、相談期間の使い方を知る
- ・どのような機器になっても、コミュニケーションに必要な事柄を考えることができる

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ネットの特性を理解しようとししない	人の話を聞こうとする	自分以外の人の考えに耳を傾ける	広い視野で物事を判断しようとする
知識・理解力	デジタルの知識を得ようとししない	デジタル技術の仕組みを知ろうとする	デジタル技術の仕組みを理解している	仕組みを理解したうえで、SNSのコミュニケーションの特性を理解している
言語力	わかりにくい言葉で話す	わかりやすい言葉を選ぶことができる	専門的な英語の略語などの意味を理解できている	英語でのメッセージのやり取りの方法を知っている
思考・解決力	トラブルがあっても放置する	コミュニケーションのトラブルについて考える	得られた知識を使いコミュニケーションについて問題を解決しようとする	動画や静止画・スタンプ・絵文字などの特性を理解し、ネットへの投稿ができる。
共生・協働する力	人と一緒に問題解決に当たらない	問題解決を周囲の人と当たろうとする	人の助けになろうとする。	関係機関やネット上の検索なども用いて、周囲の人と一緒に問題解決に当たる
創造・発信力	SNSなどを使つてのネットコミュニケーションに興味がない	自分で考えて発信することができる	周囲の人や通信の相手のことを考えた発信ができる	相手にわかりやすい手段を創造し、よりよいコミュニケーションをすることができる。

③④授業計画

第1回目

オリエンテーション この授業の進め方（対面）

第2回目

現在の青少年のネット利用（オンライン）

第3回目

機器の発達とSNS（オンライン）

第4回目

パソコン通信からインターネットへ（オンライン）

第5回目

SNS の黎明期 電子掲示板 (BBS) (オンライン)

第 6 回目

電子メールと SNS, i-mode (オンライン)

第 7 回目

SNS の躍進 Mixi (オンライン)

第 8 回目

SNS の発展 Facebook Twitter (オンライン)

第 9 回目

LINE Instagram TikTok など (オンライン)

第 10 回目

SNS コミュニケーションの特性 (対面)

第 11 回目

LINE マスターになろう (対面)

第 12 回目

子供たちに指導するには (オンライン)

第 13 回目

トラブルに巻き込まれたら (オンライン)

第 14 回目

未来型 SNS これからの SNS (オンライン)

第 15 回目

まとめと自己評価 (対面)

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

行わない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

身の回りにあるネットコミュニケーションの特性などに興味を持ちながら授業を受け、その内容を基に新たに自分としてどのように SNS やネット上のコミュニケーションを進めればいいのか考える。基本的には復習中心でよいが、既習の内容をどのように生かしていくかの思考力は自分で伸ばす必要がある。授業後は毎回 respon を使って理解度をはかり、コメントを収集する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

日々の情報関係の事柄に興味を持ち、ニュースなどをよく見ておくこと。前時の内容の復習をしっかりとしておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業を受ける態度 (40%) : コメントなどの提出 (内容も含む)。以前の自分と変わったかの自己評価 (40%) : 1 回目と 15 回目にアンケートをとり、それを基に自己評価する。コミュニケーションを取ろうとする態度 (20%) : この授業におけるオンラインでのコミュニケーションに参加しようとする姿勢を評価する

留意事項 (Other Information)

トピックは新しい SNS ができた場合などで変更することがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

使用しない

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2451N0J
科目名	プログラミング演習(2021年度以降入学者)
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤 泰子 (いとう やすこ)
科目区分	共通教育科目
学年	2年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・1限

①科目の教育目標 (Course Description)

プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考、及びプログラミング技術を養うことを目標とする。はじめはビジュアルプログラミングソフト・Scratch を利用し、簡単なブロック操作でプログラムの流れを理解する。次に基本的なアルゴリズムについて学習し、適切な問題解決方法について考える。最後は JavaScript を使い、本格的なコード記述式のプログラムを作成し、実践的なプログラミングスキルを習得する。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- ・基本制御構造を理解
- ・イベントに対応したプログラムの作成
- ・代表的なアルゴリズムの理解と評価
- ・コード記述式のプログラムの作成

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
制御構造の理解	制御構造がわからない	個々の制御構造が理解できる	制御構造を組み合わせてコーディングできる	逐次・選択・反復を適切な順序で組み合わせて、要求に応じたプログラムを完成できる
イベントに対応したプログラム作成	イベントがわからない	イベントの種類がわかる	イベントに対応した処理が実行できる	ユーザーエクスペリエンスを意識したプログラムを作成できる
アルゴリズムの理解	アルゴリズムを知らない	代表的なアルゴリズムを知っている	代表的なアルゴリズムが理解できる	代表的なアルゴリズムをプログラムで表現できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス

- ・授業概要の説明、・Scratch アカウントの作成など

第 2 回目

Scratch の基本

- ・ステージ、スプライト、スクリプトとは、・「動き」「見た目」「音」ブロックの利用

第 3 回目

プログラムの基本 1

- ・「制御」ブロックの利用、・繰り返し処理、分岐処理

第 4 回目

プログラムの基本 2

- ・「変数」ブロックの利用

第 5 回目

イベント処理

- ・「イベント」ブロックの利用

第 6 回目

Scratch の応用

- ・ブロック定義、リストの利用

第 7 回目

アルゴリズム 1

- ・サーチ（線形探索）、最大値最小値

第 8 回目

アルゴリズム 2

- ・ソート（バブルソート、選択ソート、挿入ソート）

第 9 回目

アルゴリズム 3

- ・ソート（シェルソート、クイックソート）、・アルゴリズムの評価

第 10 回目

Web ページ作成技術

- ・HTML と CSS

第 11 回目

JavaScript 1

- ・JavaScript とは

第 12 回目

JavaScript 2

- ・基本制御構造（順次、反復、選択）

第 13 回目

JavaScript 3

- ・イベントを利用したコードプログラミング

第 14 回目

JavaScript 4

- ・さらにイベントを活用したプログラミング作成

第 15 回目

JavaScript 5

- ・JavaScript 課題作成

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度 (30%)、課題 (50%)、テスト (20%)

留意事項 (Other Information)

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

使用しない。適宜、必要資料を配布。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

ウェブプログラミング演習 <http://www.notredame.ac.jp/~yito/js/index.html>

実務経験のある教員による実践的科目

《実践的科目》システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード	EGF1150A0J～EGF1150D0J
科目名	英語英文学基礎演習Ⅱ A～D
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山 哲春（こやま てつはる）、大川 淳（おおかわ じゅん）、田口 茂樹（たぐち しげき）、木島 菜菜子（このしま ななこ）
科目区分	国際言語文化学部 > 英語英文学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目では、前期基礎演習Ⅰで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年度以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよび Academic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年度以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

Orientations / Critical Thinking Revisited

第 2 回目

Argumentation & Debate

第 3 回目

領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）

第 4 回目

領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions（問題・課題の設定）

第 5 回目

領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis（分析の行い方）

第 6 回目

領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision

第 7 回目

領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）

第 8 回目

領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 9 回目

領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 10 回目

領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision

第 11 回目

領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review (文献の批判的レビュー)

第 12 回目

領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions (問題・課題の設定)

第 13 回目

領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis (分析の行い方)

第 14 回目

領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision

第 15 回目

Review & Discussion

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域における Critical Literature Review を行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した 1 領域 (あるいは複合領域) における研究論文を完成させる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

学期を通じ、各領域 (文学、言語学、コミュニケーション学) で研究論文を 1 本ずつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ 4 週間を費やし、4 週間の中で Critical Literature Review、Peer Review、Revision 等の演習を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

45

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

(1) 授業参加 (出席、講義へのリアクション、作業、WS の提出等) 25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) $5 \times 3 = 15 \%$

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper : 試験に相当 : 各領域で解説) $20 \times 3 = 60 \%$

留意事項 (Other Information)

本科目は、4 名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習 (文学、言語学、コミュニケーション学領域) をそれぞれ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSB1650P0J～CSB1650T0J・CSB1650W0J
科目名	基礎演習Ⅱ P～T・W
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	平野 美保（ひらの みほ）、石川 裕之（いしかわ ひろゆき）、朱 鳳（しゅ ほう）、蜂矢 真弓（はちあ まゆみ）、岩崎 れい（いわさき れい）、久野 将健（くの まさたけ）
科目区分	国際言語文化学部 > 国際日本文化学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修 クラス指定
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目指す。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

- 1 資料を読み、書かれた内容を理解する。
- 2 資料に書かれた内容について考察する。
- 3 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する
- 4 人の意見を聞く態度を養う。
- 5 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
- 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。

ループリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンスー授業の位置づけ、進め方、評価について

第 2 回目

文献読解（1）ー内容把握

第 3 回目

文献読解（2）ー内容要約

第 4 回目

文献読解（3）ー要旨作成

第 5 回目

レポート作成（1）ーアウトラインを組み立てる

第 6 回目

レポート作成（2）ー執筆する

第 7 回目

レポート作成（3）ー点検して体裁を整える

第 8 回目

個人面談

第 9 回目

一斉授業

第 10 回目

プレゼンテーションとはなにか

第 11 回目

プレゼンテーション (1) —A グループ

第 12 回目

プレゼンテーション (2) —B グループ

第 13 回目

発展演習との合同授業—1 年プレゼンテーション発表会

第 14 回目

発展演習との合同授業—2 年ディベート大会

第 15 回目

基礎演習後期まとめ 発展演習にむけて

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート
実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- 1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
- 2 文献や資料を読み内容を理解する。
- 3 文献や資料に書かれた内容について考察する。
- 4 自身の考察をレポートにまとめる。
- 5 プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。
- 6 プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。
- 7 プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

- 1 テキストを読んで、内容を理解しておく。
- 2 課題に関連する参考文献や資料を調査する。
- 3 自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

30

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

以下の方法・基準によって評価する。

- (1) 課題への取組姿勢と内容：70%
- (2) 学期末提出レポート：30%

ただし、欠席 5 回以上で、単位の取得は困難となる。

留意事項 (Other Information)

テーマや授業の順序は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』(くろしお出版、2007・4)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLF1301A0J～SLF1301E0J
科目名	生活環境基礎演習Ⅰ A～E(2021年度以降入学者)
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	大風 薫(おおかぜ かおる)、佐藤 純(さとう あつし)、藤原 智子(ふじわら ともこ)、矢島 雅子(やじま まさこ)、安川 涼子(やすかわ りょうこ)
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	1年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・3限

①科目の教育目標 (Course Description)

本演習は社会で話題の「新書」を用いて、「読む」「書く」「発表する」「議論する」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献(引用文献や参考文献)」の適切な引用方法を身につける。また、本学での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉の諸問題について、その社会的、歴史的、思想的な背景を、主体的に考える力を養う。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- 1) 一定期間に書籍を一冊読みきる。
- 2) 要約の方法を身につける。
- 3) レポート作成を通して文章の書き方、文献の調べ方を身につける。
- 4) ディスカッションを通して考える力、発言する力を養う。
- 5) 夏期休暇中に数冊の新書を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

ガイダンス キャリア自己形成システムの確認

第2回目

ノートのとり方

第3回目

テキストの読み方

第4回目

新書1：要約

要約の仕方

第5回目

新書1：意見 意見の書き方

第6回目

新書1：ディスカッション ディスカッション、議事録の書き方

第7回目

新書1：レポート レポートの書き方

第 8 回目

新書 2：要約

第 9 回目

新書 2：意見

第 10 回目

新書 2：ディスカッション

第 11 回目

新書 2：レポート

第 12 回目

新書 3：要約、意見

第 13 回目

新書 3：ディスカッション

第 14 回目

新書 3：レポート

第 15 回目

全体の振り返り

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法 (Course Methods)

1) 10 数名程度の少人数単位のクラスに分かれて実施する。各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週出される課題は必ず行うこと。

4) テキスト：別途購入を指示する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

毎週出される課題については、テキストの該当箇所を熟読して取り組んでいくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

留意事項 (Other Information)

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等を「第 1 回ガイダンス」で説明するので、必ず出席すること。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

『知へのステップ 第 5 版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定

その他は別途案内する。

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

安川涼子：企業における工学系開発業務

佐藤純：精神保健福祉士として行政での勤務経験

講義コード	SLF1251A0J～SLF1251E0J
科目名	生活環境基礎演習Ⅱ A～E(2021年度以降入学者)
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	大風 薫(おおかぜ かおる)、佐藤 純(さとう あつし)、藤原 智子(ふじわら ともこ)、矢島 雅子(やじま まさこ)、安川 涼子(やすかわ りょうこ)
科目区分	現代人間学部 > 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	1年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・3限

①科目の教育目標 (Course Description)

本演習は、生活環境基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識することをねらいとする。

ルーブリック表

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

③④授業計画

第1回目

ガイダンス キャリア形成カルテの確認

第2回目

テーマワーク①ー1「食べる」(日常の食事)

第3回目

テーマワーク①ー2「食べる」(ティータイムのもてなし)

第4回目

テーマワーク①のふりかえり・学びの共有

第5回目

テーマワーク②ー1「装う」(衣服素材の理解)

第6回目

テーマワーク②ー2「装う」(身体形態の理解とデザイン実習)

第7回目

テーマワーク③「住まう」(インテリアコーディネート体験)

第8回目

テーマワーク②③のふりかえり・学びの共有

第9回目

テーマワーク④ー1「営む」(マネープランニング)

第10回目

テーマワーク④ー2「営む」(さまざまな保険と家計)

第 11 回目

テーマワーク⑤ー1「支える」(傾聴)

第 12 回目

テーマワーク⑤ー2「支える」(車いす体験)

第 13 回目

テーマワーク④⑤のふりかえり・学びの共有

第 14 回目

福祉生活デザイン基礎演習Ⅳと合同授業

第 15 回目

全体のふりかえりとキャリア形成カルテの確認

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

- (1) 生活環境基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。この各クラス内で2～3人程度の小グループを構成し、小グループごとに5つのテーマワークに取り組む。
- (2) 各テーマワークによる体験からの学びを各クラスで共有する。
- (3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

それぞれのテーマワークに即した事前の学習が望まれる。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

60

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

- (1) 授業参加度 (テーマワークにおける取り組み・テーマワークレポート) : 50%
- (2) レポート : 50% (開講前課題も含む)

留意事項 (Other Information)

「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」の各テーマワークを小グループごとに体験する。体験学習の順番は、グループにより異なる。テーマワークの内容が一部変更になる可能性がある。第1回目の授業には必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」: 加藤佐千子、藤原智子

「装う」: 牛田好美、安川涼子

「住まう」: 竹原広実

「営む」: 青木加奈子、大風薫

「支える」: 佐藤純、矢島雅子

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

別途案内する

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

安川涼子: 企業における工学系開発業務

佐藤純: 精神保健福祉士として行政での勤務経験

講義コード	PSB1350N0J
科目名	心理学基礎演習Ⅱ(2017年度以降入学者)
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	松島 るみ(まつしま るみ)、尾崎 仁美(おざき ひとみ)、佐藤 睦子(さとう むつこ)、中藤 信哉(なかふじ しんや)
科目区分	現代人間学部 > 心理学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標 (Course Description)

友人や心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

教育・学習の個別課題 (Course Objectives)

- 1.アカデミックリテラシーの構築（読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等）
- 2.人間関係の構築（学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わりを深める）
- 3.専門教育への導入（心理学科の専門教育を受けるための基盤形成）
- 4.社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得（専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる）

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることがかなりできる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことができる程度	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことがかなりできる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

③④授業計画

第 1 回目

全体オリエンテーション *教員全員担当

第 2 回目

テーマ A（新聞から社会を覗いてみようグループ課題） *半数のグループは、テーマBに取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 3 回目

テーマ A (新聞から社会を覗いてみようー投稿記事の作成) *半数のグループは、テーマ B に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 4 回目

テーマ B (グラフを読み取ろうー身近なグラフ探し) *半数のグループは、テーマ A に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 5 回目

テーマ B (グラフを読み取ろうーグラフの読み取り) *半数のグループは、テーマ A に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 6 回目

全体会 I (フィールド研修・インターンシップについて) *教員全員担当

第 7 回目

テーマ C (心理学の文献を読もうー文献講読とディスカッション) *半数のグループは、テーマ D に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 8 回目

テーマ C (心理学の文献を読もうー発表資料の作成) *半数のグループは、テーマ D に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 9 回目

テーマ C (心理学の文献を読もうー発表と振り返り) *半数のグループは、テーマ D に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 10 回目

中間オリエンテーション (前半の振り返り) *各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う

第 11 回目

テーマ D (データ集計を体験しようー質問紙調査のプレ体験) *半数のグループは、テーマ C に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 12 回目

テーマ D (データ集計を体験しようー発表資料作成) *半数のグループは、テーマ C に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 13 回目

テーマ D (データ集計を体験しようーグループ発表) *半数のグループは、テーマ C に取り組む。*教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 14 回目

全体会 II (就職内定者報告、資格・コース選択説明) *教員全員担当

第 15 回目

まとめ *各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法 (Course Methods)

A から D の各テーマをグループに分かれてローテーション方式で学ぶほか、全体会やグループに分かれての振り返りを行う。具体的な内容としては、①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生や OG の体験報告会の聴講などを行う予定。課題に対するフィードバックは、授業中または manaba で行う。

準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)

心理学基礎演習 I での学習内容をふり返る。

準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))

40

⑦評価方法・評価基準 (Evaluation)

授業参加度・授業態度 70%、発表・レポート 30%とする。

留意事項 (Other Information)

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマ A・B・C・D の実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。テーマ A および C は佐藤・松島、テーマ B および D は尾崎・中藤が担当する。全体会の内容は、変更される場合もある。

テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)

参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目